岐阜県文化財保護センター調査報告書　第45集

丸　山　遺　跡

丹生川ダム水没地区（五味原遺跡群）
埋蔵文化財発掘調査報告書　第４集

１９９８

岐　　阜　　県

財団法人　岐阜県文化財保護センター

序

国府・古川盆地へ流れ出す荒城川。その流域には縄文時代の人々の生活の足跡が数多く残されています。丹生川村折敷地五味原に発見された五味原遺跡群はその最上流部に位置します。

丹生川ダム建設に伴う埋蔵文化財の発掘調査は平成５年度から始まりました。西田遺跡、カクシクレ遺跡、牛垣内遺跡の既に知られていた３遺跡に加え、平成６年の試掘調査によって丸山遺跡・たのもと遺跡が発見され、５遺跡の調査を行うことになりました。

丸山遺跡の調査は他の４遺跡同様県土木部河川課宮川上流河川開発工事事務所から岐阜県教育委員会に委託され、財団法人岐阜県文化財保護センターが担当しました。

今回の調査の中で、飛騨地方では産出が確認されてない「琥珀玉製品」が発見されました。縄文時代の琥珀産出の中心は関東・東北地方であるとされ、当時の人々の広い範囲に渡る交流を物語るものであります。飛騨地方の一角に所在する遺跡が遠い地方との繋がりをもっていたことにあらためて驚きの念を抱かされます。

最後になりましたが、発掘調査および出土品の整理・報告書の作成にあたりましては、関係諸機関各位の温かい御理解御協力を賜り感謝申し上げます。

また、現地における調査に際しましては、地元の方々の多大なる御協力を賜り厚くお礼申し上げます。

平成10年３月

財団法人岐阜県文化財保護センター
理事長　篠　田　幸　男

例　　言

1．本書は岐阜県大野郡丹生川村折敷地字丸山に所在する丸山遺跡(08761)の発掘調査報告書である。丸山遺跡は、平成５年度に行われた丹生川ダム水没地内の試掘調査の際に新たに発見された遺跡である。

2．本調査は、丹生川ダム建設に伴うもので、県土木部河川課宮川上流河川開発工事事務所から岐阜県教育委員会を通じて委託を受け、財団法人岐阜県文化財保護センターが実施した。

3．発掘調査は平成８年度に実施し、野村宗作と上出巳吉が担当した。

4．本書に掲載した遺物の実測は、次の者が行った。

土器（拓本を含む）　横井さだ子　畠中裕子　荒井尚子

石器・石製品　　上出巳吉　牛丸富士子

琥珀玉製品　野村宗作

土製品　古田奈緒子

5．遺構図面・遺物実測図トレースは次の者が行った。

中村映子　柚村幸子　脇淵純子

6．遺物の写真撮影は佐藤右文氏に委託して行った。

7．本書の執筆は、第２章第１節は清見村立清見小学校教頭岩田修氏に玉稿を賜った。第１章第２節第３章第２節・第５節および第４章第７節は上出巳吉が執筆した。第３章第３節第４節・第４章第６節は野村宗作が執筆した。第４章第２節１号住居跡出土遺物および第４章第３節Ⅰ群土器・第４章第４節は谷口和人が執筆した。第４章第８節弥生土器は藤田英博が執筆した。他は伊藤秀雄が執筆した。編集は伊藤が行った。

8．事前地形測量は㈱興栄コンサルタントに委託して行った。

9．空中写真撮影は㈱イビソクに委託して行った。

10．琥珀玉製品の保存処理並びに産地同定は元興寺文化財研究所に委託して行った。

11．土壙に残存する脂肪の分析は㈱ズコーシャに委託して行った。

12．発掘調査にあたっては次の方々や諸機関から御助言・御指導・御協力をいただいた。記して感謝の意を表する次第である。(敬称略・順不同)

寺村光晴　藤田富士夫　樋口昇一　上村透　会田進　宮下健司　田代孝　長井正欣　久々忠義

神保孝造　加藤三千雄　光永真穂　山下勝年　森崇史　藤本健三　岩田修　下畑五夫　浅田員由

飛驒考古学会　丹生川村教育委員会　上宝村教育委員会　南知多町教育委員会

13．発掘調査作業員ならびに調査記録及び出土品の整理等には、次の者の参加を得た。

青木茂　石本国夫　岩下てつ　小椋あや子　川合美智子　川浦泉　川上正　倉谷渡　高橋公芳

高橋なよ　高原みか　田口慶子　田邊直子　谷畠喜代三　玉田忠男　中谷義男　西田正三

野中一郎　平野はるえ　坊田洋子　三村昇子　宮ノ脇季信　山本良秋　鷲見博

横井さだ子　畠中裕子　荒井尚子　牛丸富士子　古田奈緒子　中村映子　柚村幸子　脇淵順子

14．遺構記号は次のとおりである。SB：住居跡　SK：土坑　SX：不明遺構　P：ピット

15．土層および遺物の色調観察は、小山正忠・竹原秀雄『新版標準土』(1993) を参照した。

16．調査記録および出土品は、財団法人岐阜県文化財保護センターで保管している。

目　　次

序
例言
第1章　発掘調査の経緯……1
　第1節　調査に至る経緯……1
　第2節　調査の経緯……2
第2章　遺跡の環境……3
　第1節　地形・地質環境……3
　第2節　歴史的環境……5
第3章　遺　構……10
　第1節　概　要……10
　第2節　基本的層序……11
　第3節　竪穴住居跡……17
　第4節　土壙墓……20
　第5節　土坑その他の遺構……20
第4章　遺　物……29
　第1節　遺物の概要と分類……29
　第2節　遺構出土の遺物……31
　第3節　包含層出土の土器……40
　第4節　丸山遺跡の底部……80
　第5節　土製品……82
　第6節　琥珀玉製品……84
　第7節　遺物包含層出土の石器……91
　第8節　弥生土器その他……124
第5章　自然科学的分析……126
　第1節　丸山遺跡出土琥珀分析報告……126
　第2節　丸山遺跡から出土した土壙に残存する脂肪の分析……128
第6章　まとめ……135
引用・参考文献……136

図　版　目　次

図版 1　遺跡遠景・発掘状況・遺構・琥珀玉出土状況
図版 2　遺物包含層出土の縄文土器　Ⅰ群
図版 3　遺物包含層出土の縄文土器　Ⅰ群
図版 4　遺物包含層出土の縄文土器　Ⅰ群
図版 5　遺物包含層出土の縄文土器　Ⅰ群
図版 6　遺構出土の縄文土器
図版 7　遺構出土の縄文土器
図版 8　遺物包含層出土の縄文土器　II群
図版 9　遺物包含層出土の縄文土器　II群
図版10　遺物包含層出土の縄文土器　II群
図版11　遺物包含層出土の縄文土器　II群
図版12　遺物包含層出土の縄文土器　II群
図版13　遺物包含層出土の縄文土器　II群
図版14　遺物包含層出土の縄文土器　II群
図版15　遺物包含層出土の縄文土器　II群
図版16　遺物包含層出土の縄文土器　II群
図版17　遺物包含層出土の縄文土器　II群
図版18　遺物包含層出土の縄文土器　II群
図版19　遺物包含層出土の縄文土器　II群
図版20　遺物包含層出土の縄文土器　II群
図版21　遺物包含層出土の縄文土器　II群
図版22　遺物包含層出土の縄文土器　II群
図版23　琥珀玉製品・土製品
図版24　弥生土器・中近世陶器類
図版25　遺物包含層出土の石器(1)
図版26　遺物包含層出土の石器(2)
図版27　遺物包含層出土の石器(3)
図版28　遺物包含層出土の石器(3)
図版29　遺物包含層出土の石器(4)

挿　図　目　次

第 1 図　丸山遺跡位置図…… 1
第 2 図　遺跡付近の地形区分…… 4
第 3 図　高原川水系の縄文遺跡…… 7
第 4 図　丸山遺跡周辺地形図……10
第 5 図　土層図(1)……12

第６図　土層図(2)……13
第７図　地区設定図……14
第８図　丸山遺跡遺構図……15
第９図　第１号住居跡……17
第10図　第２号住居跡……18
第11図　第３号住居跡……19
第12図　土坑(1)……22
第13図　土坑(2)……23
第14図　土坑(3)……24
第15図　土坑(4)……25
第16図　土坑(5)……26
第17図　土坑(6)……27
第18図　第１号住居跡出土の縄文土器・石器……31
第19図　第２号住居跡出土の縄文土器・石器……33
第20図　第３号住居跡出土の縄文土器……33
第21図　第３号住居跡出土の石器……34
第22図　土坑出土の石器……34
第23図　土坑出土の縄文土器……35
第24図　土坑出土の縄文土器（SK22出土）……36
第25図　遺物包含層出土の縄文土器Ⅰ群１～４ｂ類……41
第26図　遺物包含層出土の縄文土器Ⅰ群４ｂ～５ａ類……43
第27図　遺物包含層出土の縄文土器Ⅰ群５ａ～５ｃ類……45
第28図　遺物包含層出土の縄文土器Ⅰ群５ｃ～５ｄ類……46
第29図　遺物包含層出土の縄文土器Ⅰ群５ｄ～８類……49
第30図　遺物包含層出土の縄文土器Ⅱ群１類……51
第31図　遺物包含層出土の縄文土器Ⅱ群２類……53
第32図　遺物包含層出土の縄文土器Ⅱ群２類……55
第33図　遺物包含層出土の縄文土器Ⅱ群２類……56
第34図　遺物包含層出土の縄文土器Ⅱ群２類……57
第35図　遺物包含層出土の縄文土器Ⅱ群３類……59
第36図　遺物包含層出土の縄文土器Ⅱ群３類……60
第37図　遺物包含層出土の縄文土器Ⅱ群４類……61
第38図　遺物包含層出土の縄文土器Ⅱ群４類……63
第39図　遺物包含層出土の縄文土器Ⅱ群４類……64
第40図　遺物包含層出土の縄文土器Ⅱ群５類……66
第41図　遺物包含層出土の縄文土器Ⅱ群５類……67
第42図　遺物包含層出土の縄文土器Ⅱ群６類……70

第43図　遺物包含層出土の縄文土器II群６類……71
第44図　遺物包含層出土の縄文土器II群６類……72
第45図　遺物包含層出土の縄文土器II群７類……74
第46図　遺物包含層出土の縄文土器II群７類……75
第47図　遺物包含層出土の縄文土器II群７類……76
第48図　遺物包含層出土の縄文土器III群……78
第49図　遺物包含層出土の縄文土器IV群……79
第50図　遺跡分布図……80
第51図　土器片利用の円盤……82
第52図　土製品（土偶・不明土製品）……83
第53図　琥珀玉製品(1)……85
第54図　琥珀玉製品(2)……86
第55図　遺物包含層出土の石器(1)……92
第56図　遺物包含層出土の石器(2)……95
第57図　遺物包含層出土の石器(3)……96
第58図　遺物包含層出土の石器(4)……99
第59図　遺物包含層出土の石器(5)……100
第60図　遺物包含層出土の石器(6)……103
第61図　遺物包含層出土の石器(7)……104
第62図　遺物包含層出土の石器(8)……106
第63図　弥生土器・中近世遺物……125
第64図　試料中に残存する脂肪酸組成樹状構造図……132
第65図　試料中に残存する脂肪の脂肪酸組成による種特異性相関……133

表　目　次

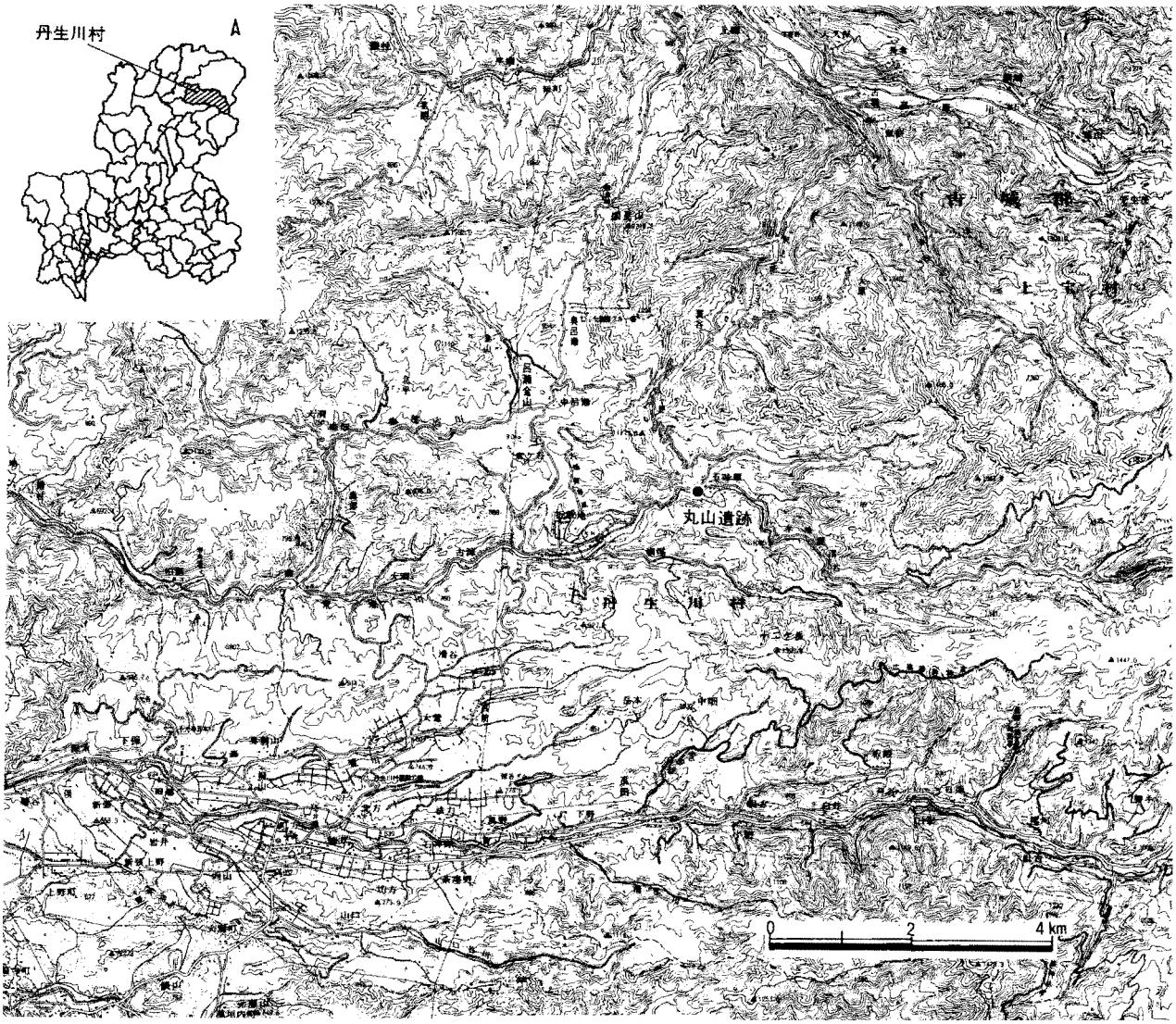
第１表　上宝村の縄文遺跡……9
第２表　土坑観察表……28
第３表　底部圧痕の比較……81
第４表　網代の種類の比較……81
第５表　琥珀玉製品観察表……84
第６表　石器計測表……107
第７表　琥珀分析結果……127
第８表　土壌試料の残存脂肪抽出量……129
第９表　試料中に残存する脂肪の脂肪酸組成……129
第10表　〃　脂肪のステロール組成……130
第11表　試料中に分布するコレステロールとシトステロールの割合……131

第１章　発掘調査の経緯

第１節　調査に至る経緯

今回、丸山遺跡が発掘調査の対象となったのは、宮川上流河川開発工事事務所による丹生川ダム建設による。丹生川ダム水没地内埋蔵文化財緊急発掘調査の経緯については「西田遺跡」の発掘調査報告書に記述されているので割愛する。

丹生川ダム水没地内には岐阜県遺跡地図によって「牛垣内遺跡」と「カクシクレ遺跡」が知られており、事前調査によって「西田遺跡」の存在が明らかになっていた。しかし、水没予定地内にさらに新たな遺跡が存在する可能性が想定できたため平成５年度および平成６年度に周辺の試掘調査を実施した。当該地の試掘調査は平成６年度に実施された。西田遺跡の西側に隣接する小丘陵地で水田部に22ケ所のトレンチを設定し重機によって掘削した。人力による精査および掘削土内の遺物の有無確認などを行った。その結果５ケ所のトレンチより遺物が出土した。また土層観察などから遺物包含層の存在が確認できたため文化財保護法第57条に基づき新発見の遺跡としての手続きを行った。当該地は小字名をとって「丸山遺跡」(08761) として認定され調査に至った。



第１図　丸山遺跡位置図

第２節　調査の経緯

発掘調査は、丹生川ダム水没地域内の最終年度の発掘調査として、平成８年４月22日～11月12日まで実施した。同年４月３日現地を視察するが、全面雪に覆われており長靴がなければ歩行できない状態であった。４月中旬までに発掘調査の準備を行い、４月22日より５日間重機を使用して第Ⅰ層となる表土を掘削した。以下、２週ごとに調査経過を記述する。

第１・２週（４.30～５.10）作業員に調査方法を指導し、調査区内の環境を整備した。５月８日、調査始め式を行う。グリッド(区)は北から南にＡ～Ｊ、西から東に１～18区と設定して杭打ちを行った。調査地区の東側16～19区を掘削し、特にＨ16区周辺より出土する遺物が目立った。

第３・４週（５.13～５.24）Ｃ15．16区とＧ15～18区の２地区を重点的に調査し、Ｇ17区より石鏃（21点）など遺物が多数出土。円形プラン（SK３）を確認。Ｃ15．16区では遺構は確認されず。

第５・６週（５.28～６.７）調査地区東側のＨ15～Ｈ17区にかけて土器片が多く出土。Ｇ16区よりSB１のプランを確認する。SB１の南北２カ所に土坑（SK22、SK32）が重なる。

第７・８週（６.10～６.21）Ｆ11～Ｆ12区の黒色土より縄文早期の土器片が集中して出土した。SB３内を掘削し柱穴を検出する。

第９・10週（６.24～７.５）調査地区西側のＥＦＧＨ８～ＥＦＧＨ12区を重点的に調査を進めた。Ｆ13では縄文早期の土器片が出土。遺構は検出されなかった。

第11・12週（７.９～７.18）引き続き西側地区の調査を進める。ＥＦ８～ＥＦ10区を約60cm掘削。III層黒褐色土まで掘削。遺物包含層である。

第13・14週（７.22～８.２）Ｆ10区を南西に向かう谷とＧ13からＨ11の南西に向かう小川を確認。小川には礫が入り込み周辺には、土器片や石器が多数出土した。

第15週（８.５～８.９）Ｆ10からＧ9の南西に流れる谷に土砂が約130cm堆積していることを確認。

第16・17週（８.19～８.30）調査地区西側谷部の掘削続行。雨のため思うように進まなかった。

第18・19週（９.２～９.13）Ｇ９区にて黒色土中に直径50cm程の焼土を検出。焼土下より打製石斧が１点出土する。

第20・21週（９.17～９.27）SB１、SB２を掘削。遺物数点が出土。SB３でも土器片や石器などが出土。住居跡中央部より赤く焼けた地床炉を検出した。

第22・23週（10.１～10.11）ＥＦ12～14区を重点的に掘削した。Ｅ13区のIII層に焼土を検出し、周辺から遺物が出土した。Ｆ13区より縄文早期の土器片が多数出土した。SK３の柱穴を掘削する。

第24･25週（10.14～10.25）SK22の土坑より琥珀玉製品が出土。SK25から縄文中期の土器が出土。Ｅ13～Ｆ12区III層の数カ所に直径30～40cmの範囲で焼土を検出し、周辺から土器が固まって出土。

第26･27週（10.28～11.８）土坑の断面実測を行い全掘。土坑の密集するＧ16．17区を再測量。SK30より石皿が出土。11月８日調査納め式実施。

第28週（11.11～11.12）現場の発掘調査を終了し、遺物・用具等を飛騨出張所に搬入。以後、岐阜県文化財保護センター飛騨出張所にて整理作業に入った。

第２章　遺 跡 の 環 境

第１節　地形・地質環境

１．地形的特徴

丹生川村五味原地域は、わずかに緩斜面と河岸段丘がみられ、そこには縄文時代以降の人跡が発見されている。この五味原の平坦地は、荒城川本流と主な支流である大脇谷との合流地点付近に発達している。(第２図)丸山遺跡は、荒城川本流沿いに位置し、河川によって形成された地形上に位置している。

近隣には、6500年前のアカホヤ火山灰層が確認されているので、それ以前からこのような地形形成が始まっていたと考えられる。現在この辺りの荒城川の河床には岩盤が露出していることから、全体的に浸食環境にあったが、扇状地状の緩斜面と低位河岸段丘がみられることから一時期は堆積物が集積するようなことがあったのだろう。荒城川流域には、低位段丘はよく発達しているが、中位段丘でこのような扇状地状の緩斜面はあまりみられない。

２．地質的特徴

この付近の地質は、中生代白亜期（約６千５百万年前）に噴火した大雨見山層群中の酸性火山岩である明ケ谷溶結凝灰岩層と、新生代第四紀更新世中期（60万年前）に噴出した上宝火砕流堆積物の分布域である、これらの火山岩は、いずれも大規模な火砕流堆積物であり、高温で堆積して自らの熱で軽石などが溶結した、いわゆる溶結構造を有している。

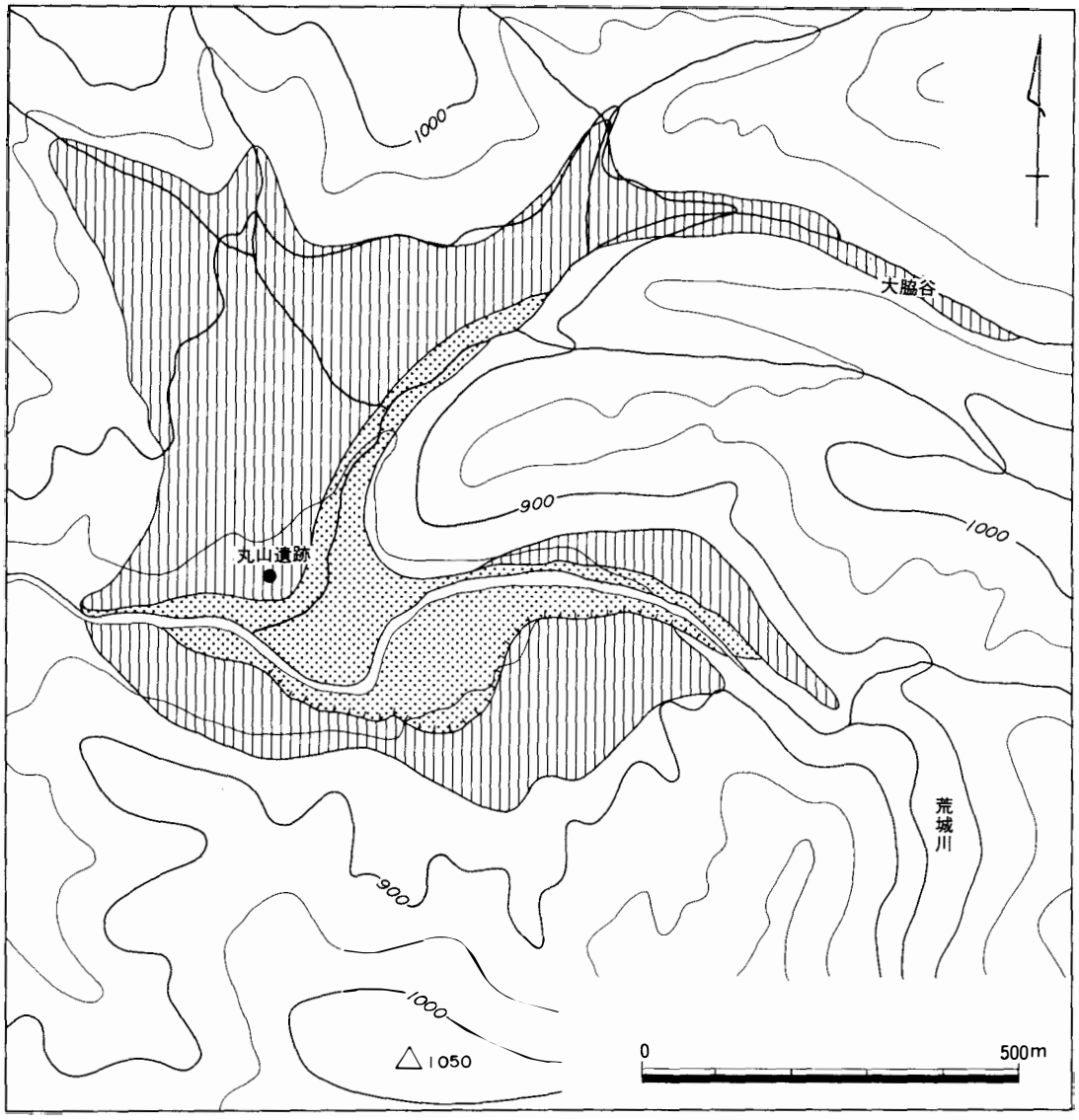
明ケ谷溶結凝灰岩層の特徴は、笠原氏によれば最大層厚300mであり、流紋デイサイト～流紋岩で粗粒のカリ長石・石英・斜長石・黒雲母・単斜輝石などの鉱物を含んでいる。少し上流側には、上宝火砕流堆積物が広く分布している。上宝火砕流堆積物は流紋岩質で、斑晶として斜長石・石英・黒雲母などで、溶結構造をもつ本質レンズを多く含む。かなり多孔質で加工しやすいが石器としては柔らかすぎるのであまり利用されていない。また、周辺には古生層の荒城川層が見られ、河川の礫中にも緑色岩、泥岩などが多く存在している。五味原グラノファイアも分布している。

このように、石器や炉石には、多孔質で柔らかい上宝火砕流堆積物は使用しないで、比較的硬い大雨見山層群の流紋岩類をよく利用している。

大雨見山層群の溶結凝灰岩と上宝火砕流堆積物（溶結凝灰岩）は、いずれも溶結構造をもつ、かなり風化に対しての抵抗力の弱い岩石であることから、五味原地区の緩斜面形成の一要因になったことが考えられる。

〈参考文献〉

笠原　芳雄（1988）大雨見山層群―飛騨外縁帯の白亜紀末期の湖成層と火砕流堆積物―
飛騨の大地をさぐる　教育出版文化協会



低位段丘

扇状地・緩斜面

現河川

段丘崖

山地

第2図　遺跡付近の地形区分

第2節　歴史的環境

五味原遺跡群第１集西田遺跡調査報告書では、丹生川村の縄文遺跡について概観した。同第２集カクシクレ遺跡報告書では荒城川水系の縄文遺跡について述べた。当調査報告書では、五味原遺跡群が所在する折敷地五味原に隣接する上宝村の縄文遺跡について概観してみたい。後述するように丸山遺跡において主体を占める中期初頭の土器群と同種のものが上宝村上灘下野切遺跡においても確認されていることなどから五味原からトヤ峠を越えて交流が想定できるからである。

上宝村は、丹生川村の北方に隣接する。東西約40km南北約15km。中央部を高原川が流れる。高原川は県境付近で宮川と合流し富山県からは神通川とその名称を変え日本海に流れ出している。村内には双六川・蔵柱川など高原川の支流が形成する小段丘に多数の縄文遺跡が所在する。

上宝村の縄文時代研究は、昭和３年田中正太郎の報告にもとづいて上宝村・神岡町合わせて９ケ所の縄文遺跡が報告されていることに始まる。その後の調査で昭和10年「飛騨石器時代遺跡地名表」では29ケ所が紹介されている。また、昭和10年代には林魁一が踏査にもとづいて上地ケ根、一重ケ根、今見、葛山、岩井戸、在家、本郷、吉野、中山、見座、新田、蔵柱などの遺跡を紹介している。昭和20年代後半には、当時、上宝第一中学校教員であった石原哲彌による調査[註1]が行われ、それを受けて昭和33年には大江命、下形武による「上宝村の先史時代」が刊行されている。

ここでは、上宝村の縄文遺跡を時期別に概観する。

草創期についてはその様相が不明である。早期については、向野遺跡が押型文土器を出土する単純遺跡として注目される。押型文の文様は楕円文がもっとも多く山形文がつぎ、格子目文は僅少である。原体を横回転させた施文方法のものが一般的で稀に縦施文や帯状施文のものがある。高山市ひじ山遺跡のものに最も近いといわれている。他に押型文土器を出土している遺跡は下尾ノ上遺跡、大首遺跡宮の上遺跡などである。

前期の遺物を出土した遺跡は10ケ所ほどが報告されているが、他の時期の遺物に少しづつ混じる程度のものが多く前期主体の遺跡は今のところ確認されていない。その中で杖石岩陰と大楢遺跡では前期末の結節状浮線文土器が出土している。また、上灘下野切遺跡では西日本系前期末大歳山式土器が出土している。

中期前半を代表する遺跡は上灘下野切遺跡である。主体となる土器は五領ケ台式・鷹島式土器と東海地方に分布の中心を持つ中期初頭の土器である。更に北陸系の撚糸文を施す土器片も出土している。丸山遺跡の主体を占める土器と類似しており興味深い。

中期中・後半期の遺物を出土する遺跡は上宝村内には多く。本郷内野、中野、在家　大楢などの各遺跡が代表的である。北陸系の上山田・古府・串田新式を始めとして勝坂・阿玉台や加曽利Ｅ式など中期中葉以降の各期の型式土器が見られる。吉野地区内に所在する豊受神社を中心とする宮の上遺跡では加曽利Ｅ式期の住居跡が１軒発見されている。また、本郷内野遺跡では炉内に土器を敷きつめた例が報告されている。

後期・晩期の遺物量は少ない。後期については大楢遺跡に堀之内式併行式土器、大首・在家・中垣内の各遺跡には気屋式類似。大楢・新田たんど遺跡には加曽利Ｂ式類似土器。在家・大楢遺跡には西日本系縁帯文系土器が出土している。晩期については、長倉道場遺跡で大洞Ｂ式、大首遺跡からは大

洞Ｃ式が出土している。牧の巾遺跡では長野県千曲川流域の佐野式併行期の土器が出土している。更に中山遺跡には安行３ａや大洞Ａ式土器、杖石岩陰では北陸系の中屋式や大洞Ａ′期の浮線文土器などが出土している。

1997年10月27日から約10日間の日程で愛知学院大学麻生優教授による杖石岩陰の調査が行われた。調査報告[註2]によれば縄文時代から古代までの焼き物類が出土し、縄文時代早期３点、前期24点、中期３点、後期６点、晩期最終末13点、時期不詳縄文土器119点、土師器19点とされる。縄文時代早期の土器は肉厚で繊維を含む。前期の土器は北白川下層Ⅱ式および諸磯系のものや羽状縄文のもの、大歳山式のものなどがある。後・晩期の土器では八日市新保式と思われるものや、玉抱き三叉文や磨消縄文のものなどがある。また、晩期最終末水神平式が１点報告されている。

石器については、打製石斧１点、礫器１点、台石３点、敲石５点、叩石３点、磨石18点、石鏃25点剥片鏃１点、礫石錘10点、石錐５点、スクレイパー９点などである。石器組成では、石鏃、磨石、礫石錘の多さと打製石斧の少なさが特徴的である。石材は、地元産の溶結凝灰岩の物がもっとも多く、黒曜石や下呂石もみられる。

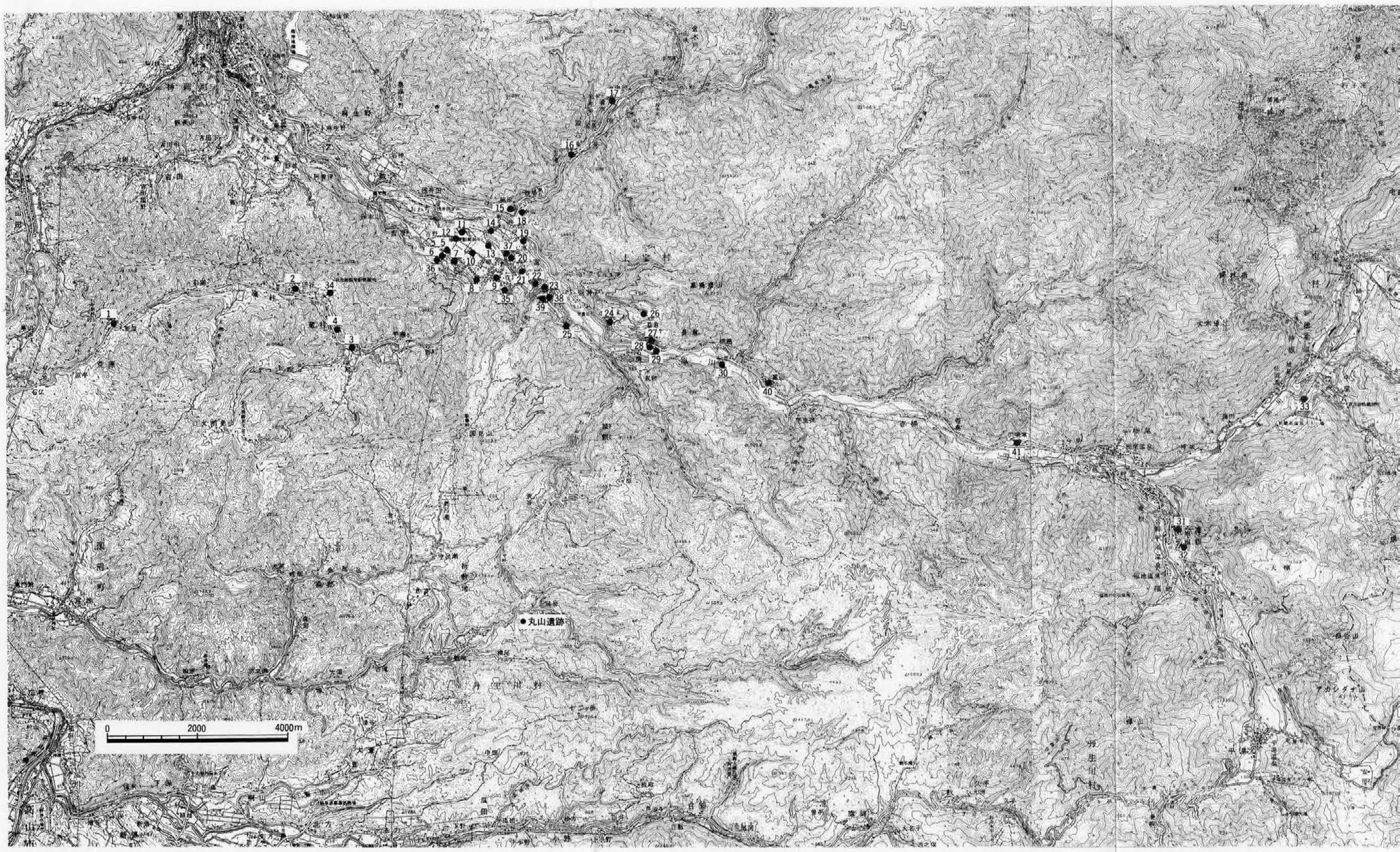
また同報告では、遺跡の性格について、立地条件などから高原川に対する物見台としての使用を示唆している。

上宝村の東側には北アルプスの急峻な山々が控えており文化の伝播を考える場合には高原川に沿う北陸地方との繋がりを想定するのが自然である。しかし、確実に信州文化圏のものが流入していることを考えると北アルプスの一角にその窓口を考えなければならない。

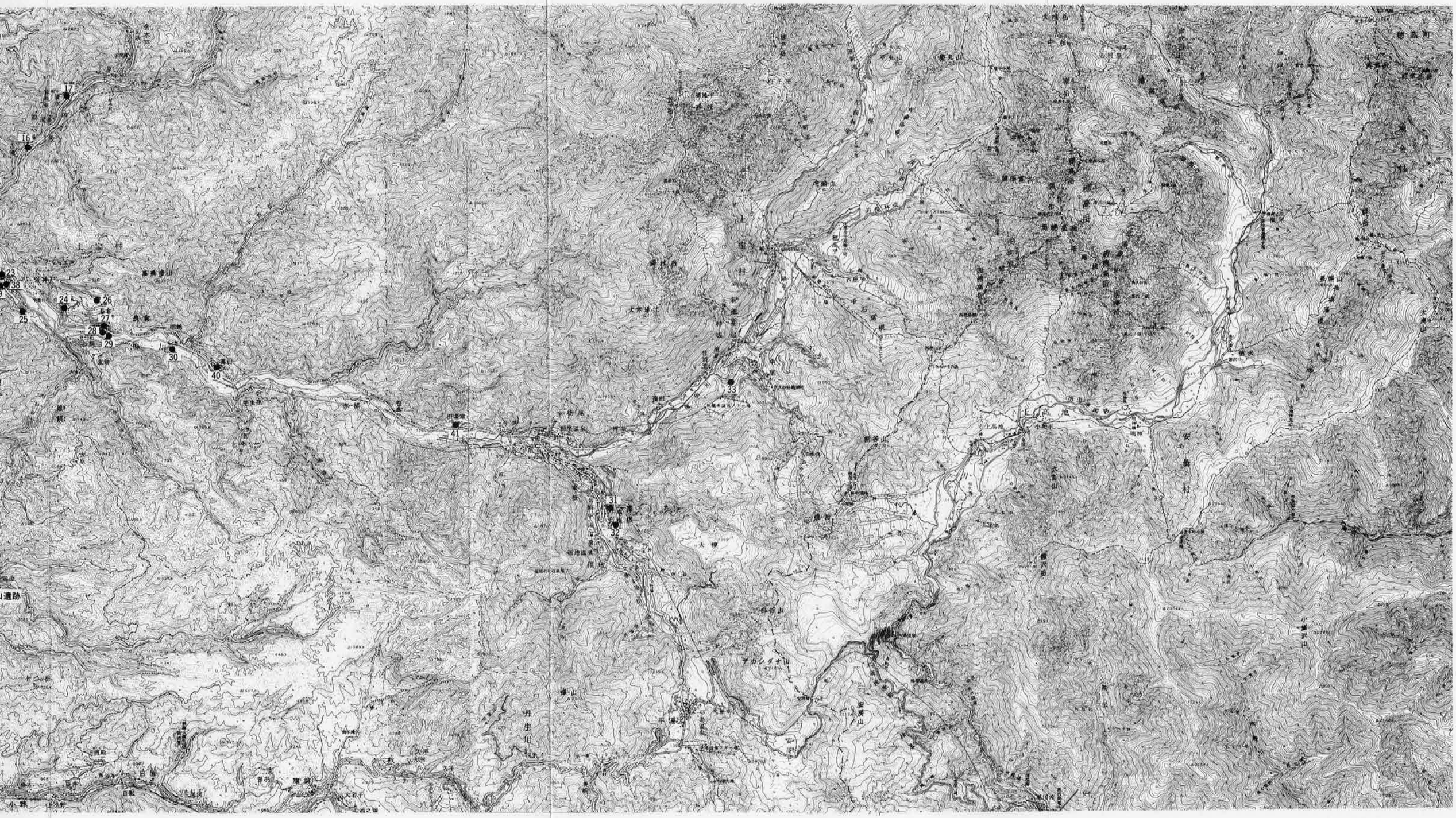
五味原遺跡群と上宝村を結ぶルートは五味原の北方に位置するトヤ峠を通るものである。峠を越えた上宝村側には蓑谷などの集落が存在する。また、西田遺跡第２章２節歴史的環境でも触れたように中世においては北吉城を支配した戦国武将江馬氏の勢力が五味原の地まで伸びていたことなどからも高原川流域と荒城川流域の交流はトヤ峠によることが想定できる。(伊藤秀雄)

註１　故石原哲彌氏が昭和20年代後半に調査・採集した遺物は、最近まで本郷中学校に保管・展示されていたが現在は上宝村教育委員会に保管されている。その膨大な資料数に上宝村の縄文文化の深さを一見にして理解することができる。1988年、当時上宝村派遣の社会教育主事であった本永義博は上宝村教育委員会の調査事業の一貫として本郷中学校保管土器の再整理を行っている。それによれば土器総数は2189点である。縄文時代早期70点、前期20点、中期777点、後期100点、晩期95点、時期不詳1119点、須恵器８点である。また、石器は546点である。これらのデーターは「本郷中学校保管の縄文土器・石器」(1988　上宝村教育委員会)としてまとめられている。

註２　日本における洞穴遺跡の構造論的研究　1998　麻生　優



第3図　高原川水系の縄文遺跡



第３図　高原川水系の縄文遺跡

第1表　上宝村の縄文遺跡

番号	遺　跡　名	所　在　地	備考（参考文献）
1	荒原遺跡	吉城郡上宝村荒原西ケ洞	「上宝先史」「地名表」
2	蔵柱上野遺跡	吉城郡上宝村蔵柱上野	「地名表」
3	堂殿遺跡	吉城郡上宝村蔵柱堂殿	「県史」「地名表」前期
4	下垣内遺跡	吉城郡上宝村蔵柱下垣内	「地名表」
5	中垣内遺跡	吉城郡上宝村吉野中垣内	「上宝先史」「地名表」
6	宮ノ上遺跡	吉城郡上宝村吉野宮ノ上	「県史」「地名表」早期中期後期晩期
7	田影遺跡	吉城郡上宝村本郷田影	「上宝先史」「県史」「地名表」早期
8	本郷内野遺跡	吉城郡上宝村本郷内野	「上宝先史」「県史」「地名表」前期中期
9	在家遺跡	吉城郡上宝村在家家ノ瀬戸	「上宝先史」「県史」「地名表」中期後期
10	本郷遺跡	吉城郡上宝村本郷下野	
11	猫田平遺跡※	吉城郡上宝村吉野猫田平	「県史」「地名表」中期
12	中野遺跡	吉城郡上宝村吉野中野	「上宝先史」「地名表」中期
13	向野遺跡	吉城郡上宝村本郷向野	「上宝先史」「県史」「地名表」早期
14	中古瀬遺跡	吉城郡上宝村見座中古瀬	「上宝先史」「県史」「地名表」中期晩期
15	桃原遺跡	吉城郡上宝村双六桃原	「地名表」晩期
16	中洞遺跡	吉城郡上宝村双六中洞	「地名表」中期後期
17	中沢遺跡	吉城郡上宝村双六中沢	「地名表」中期後期
18	中山遺跡	吉城郡上宝村中山えんだ	「上宝先史」後期晩期
19	牧ノ巾遺跡	吉城郡上宝村見座牧ノ巾	「上宝先史」「県史」前期晩期
20	下尾ノ上遺跡	吉城郡上宝村宮原下尾ノ上	「上宝先史」「県史」早期・前期
21	宮原遺跡	吉城郡上宝村宮原森脇	「県史」「地名表」早期前期
22	キク畑遺跡	吉城郡上宝村宮原キク畑	
23	新田谷戸遺跡	吉城郡上宝村新田谷戸	「上宝先史」「地名表」晩期
24	岩井戸遺跡	吉城郡上宝村岩井戸西ケ平	
25	大楢遺跡	吉城郡上宝村新田大楢	「上宝先史」「地名表」前期中期後期
26	道場遺跡	吉城郡上宝村長蔵道場	「地名表」中期晩期
27	小屋倉平遺跡	吉城郡上宝村長倉小屋倉	
28	長倉平遺跡	吉城郡上宝村長倉平	「地名表」中期後期晩期
29	学校川原遺跡	吉城郡上宝村長倉平	「地名表」晩期
30	杖石岩陰遺跡	吉城郡上宝村長倉細越	「上宝先史」「地名表」早期～晩期
31	上地ケ根遺跡	吉城郡上宝村一重ケ根上地ケ根	「上宝先史」「地名表」
32	大首遺跡	吉城郡上宝村一重ケ根大首	「上宝先史」「県史」「地名表」早期中期～晩期
33	八王子遺跡	吉城郡上宝村神坂八王子	「地名表」中期後期
34	長表遺跡	吉城郡上宝村蔵柱長表	
35	宮の横遺跡	吉城郡上宝村在家宮の下	
36	下夕平遺跡	吉城郡上宝村吉野下夕平	
37	ヤナツボ遺跡	吉城郡上宝村宮原マセド	
38	下野切遺跡	吉城郡上宝村宮原上灘	「上宝先史」「県史」「地名表」前末～中初
39	下野平遺跡	吉城郡上宝村宮原上灘	
40	葛山遺跡	吉城郡上宝村葛山岩之本	
41	田頃家遺跡	吉城郡上宝村田頃家上ノ平	

1～41の遺跡は岐阜県遺跡地図1990岐阜県教育委員会による。
「県史」―岐阜県編　1972『岐阜県史』通史編原始
「上宝先史」―上宝村編　1958『上宝村の先史時代』大江　命　　下形　武
「地名表」―飛騨考古土俗学会　1935『飛騨石器時代遺蹟地名表』
※旧遺跡地図では横畑平とあるものを1990岐阜県遺跡地図で訂正。

第3章　遺　　構

第1節　概　　要

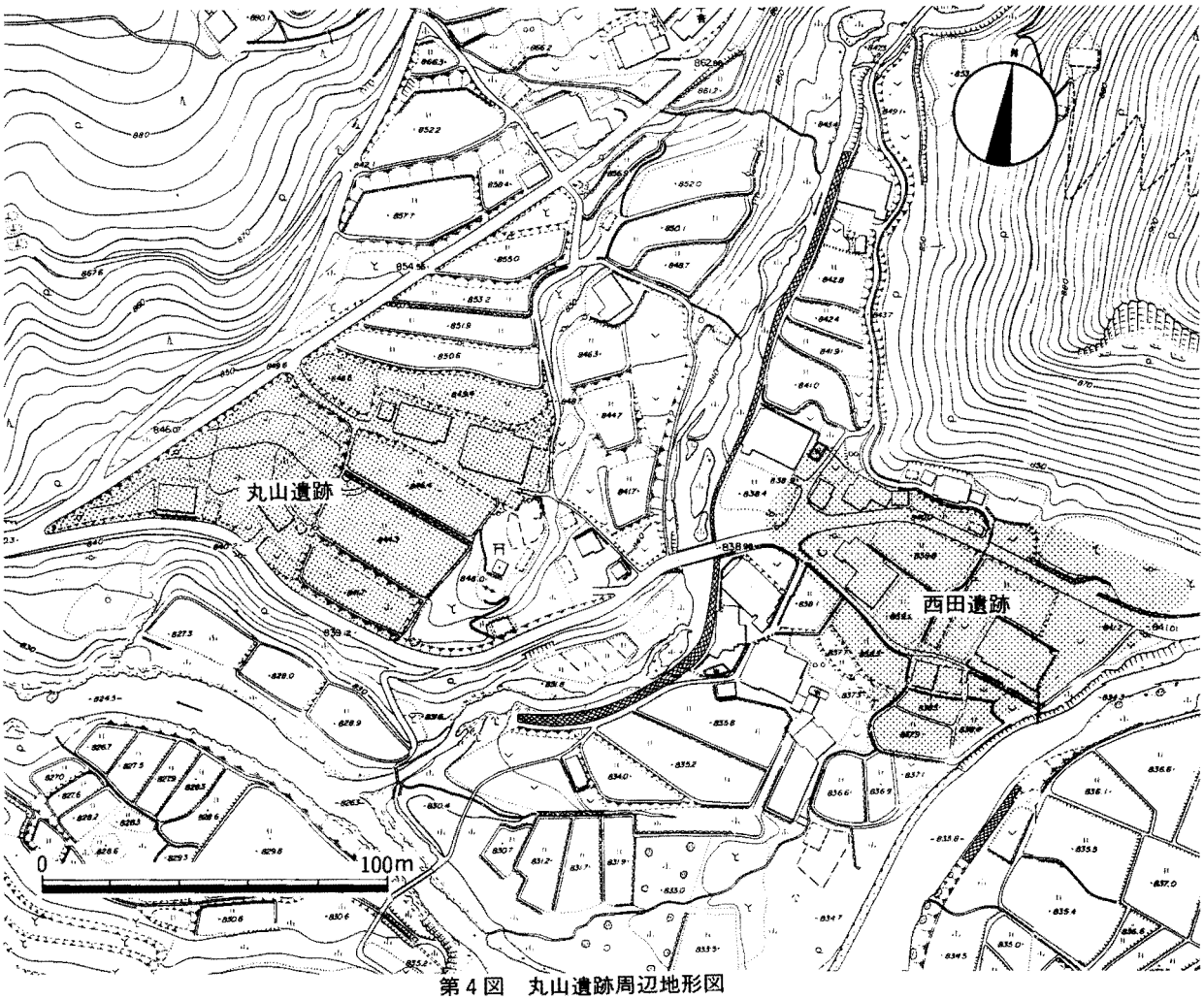
丸山遺跡は、標高850m前後の涯錐性小丘陵上に位置する。牛垣内遺跡から続くやや急峻な斜面は当遺跡のあたりでなだらかになり約60mで荒城川に接する崖となる。荒城川との比高は約30mである。移転した住宅の前には水田・畑が数段にわたって造成されていた。造成のため遺跡全体として遺構の残存状況は不良であった。

発掘調査にあたっての地区の設定は国土座標に合わせ第7図のように8×8mの区画を設定し北から南へA・B・Cとし、西から東へ1・2・3と番号を付けてグリッド名を表すことにした。

耕作土および後世の埋土は重機を利用して除去した。その際に小字名にもなっている通称「まるやま」と呼ばれる祠のあった小山にトレンチ設定し一部深掘をおこなったがその地点では遺物包含層は確認できなかったため調査区から除外した。

旧地形は北から南に緩やかに傾斜しており、調査区の西よりの地点で北から南に向かう幅約8mの埋没谷が2本確認できた。現在は水が流れておらず湧水も認められない。

検出された遺構は、竪穴住居跡3軒、土壙墓1基　土坑65基、ピット群である。遺物は、縄文早期と前期末～中期初頭および少量の後・晩期の土器、石器類約3万点である。



第4図　丸山遺跡周辺地形図

第2節　基 本 的 層 序

牛垣内遺跡から続く斜面は当遺跡付近でなだらかになる。なだらかになった丘陵に丸山遺跡が位置する。調査区域内を北から南に流れる川が２本埋没していた。西側に位置する川の周辺は急斜面の麓付近のため、数多くの礫が谷に向かって散在していた。また、谷となった場所は、礫や土砂の流れ込みのため層位が複雑になっていた。東側の地区は、きめの細かな土の層が広がり、住居跡や土坑などの遺構が検出された。調査前は民家や水田・畑があり、開田のために土地は削平され北側が削り取られてしまっていた。そのため残存状況としては不良であった。

土層は耕作土などの表土が第Ⅰ層、第Ⅲ層が遺物包含層であり、第Ⅴ層が地山となっている。

第Ⅰ層　暗褐色土（10YR3/3）表土

長年、耕作土や民家の地盤として利用されてきた表土である。調査区東側は、水田として利用されていたため赤み（明褐色7.5YR5/8）を帯びた敷き土が１～５㎝の厚さでこの層の中に含まれていた。暗褐色の土が10～30㎝程堆積している。砂粒や小石、細かな炭粒や土器粒が混入していた。

第Ⅱａ層　黒褐色土（7.5YR3/1）

赤みを帯びた敷き土の下の層で、やや粘性があり固くしまった土である。黒褐色土の中に炭粒や小粒の石（φ１～４㎜程）が多く混入していた。

第Ⅱｂ層　暗褐色土（10YR3/3）

赤みを帯びた敷き土の下の層で、やや粘性があり固くしまった土である。土中に炭粒や小粒の石を多く含み、この層の下部には砂や卵大～拳大の川原石が多量に混入していた。

第Ⅱｃ層　暗褐色土（10YR3/3）

土質は粘性は少なく、固くしまった土である。角の取れた拳大～人頭大の礫が多く混入している。拳大の礫の間に非常に多くの砂（φ１～５㎜）や小石が堆積しいて川だったことがわかる。

第Ⅲａ層　黒色土（10YR1.7/1）

土質は粘性が少しあり、きめの細かなしまりのある土である。炭粒（φ１～４㎜）や土器粒が少し混入するが、砂などは含まれない。調査区東側では縄文中期の遺物が出土した遺物包含層である。

第Ⅲｂ層　黒褐色土（10YR2/2）

土質は少ししまりがあり粘性が少しある。炭粒（φ２～３㎜）や砂（φ１～２㎜）が少し混入していた。

第Ⅲｃ層　黒色土（7.5YR1.7/1）

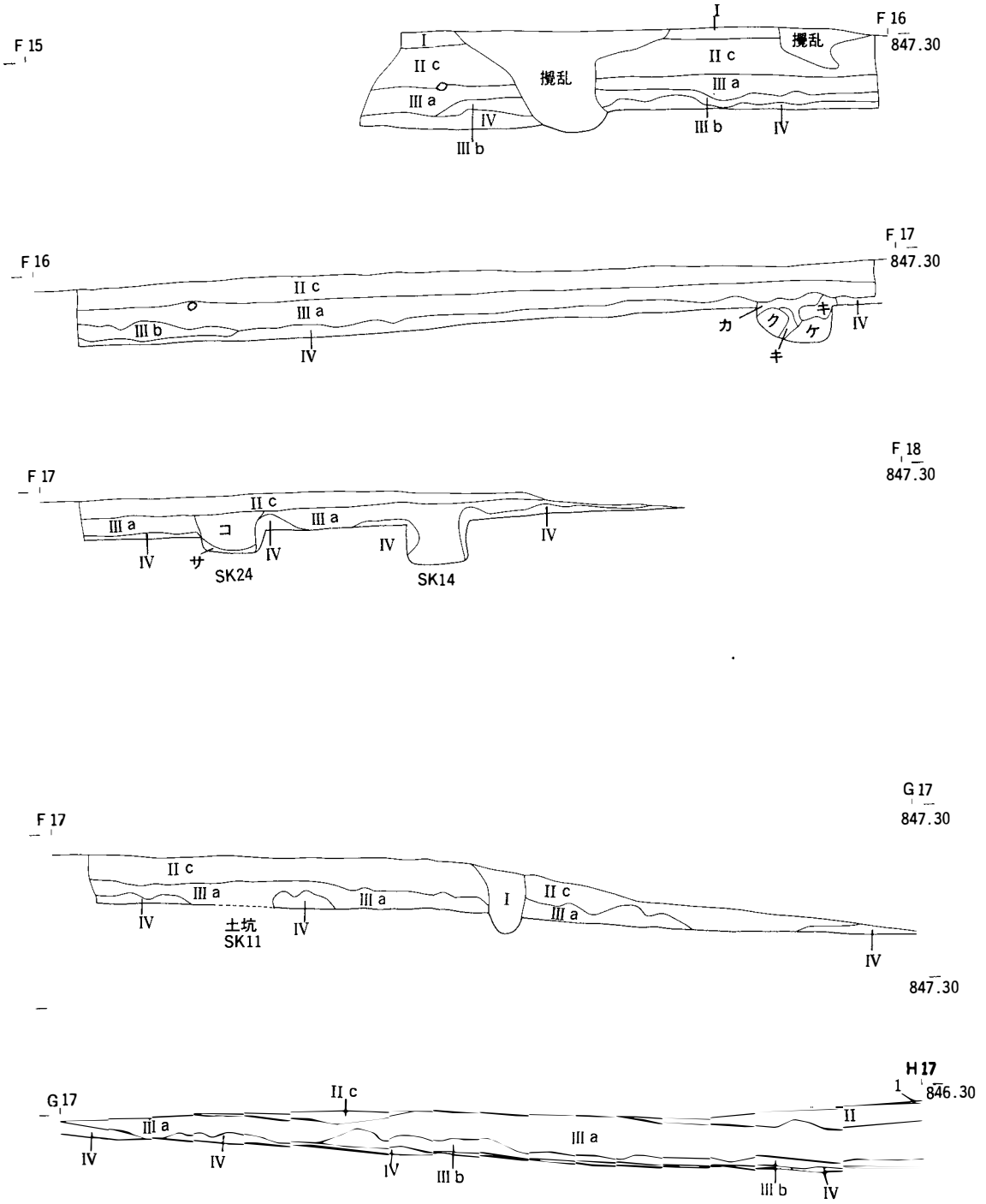
土質はしまりがあり粘性が少しある。砂などは含まれず、きめの細かな土で炭粒（φ１～４㎜）や土器粒が少し混入する。

第Ⅳ層　暗褐色（10YR3/4）～にぶい黄褐色（10YR4/3）

土質はしまりや粘性がある。きめの細かな土で炭粒（φ２～３㎜）が少し混入していた。Ⅲ層の暗褐色やⅤ層の黄褐色が混ざり合う層で場所によりまばらになるところもある。

第Ⅴ層　黄褐色（10YR5/8）

地山。炭や砂などを含まず、きめの細かな粘土質の層である。粘性やしまりがあり地山となる。



部分的な層

ア、暗褐色土（10YR3/3）粘性少なく、土にしまりがある。
拳大の石が混入する。

イ、黒褐色土（10YR3/1）やや粘性があり、土にしまりがある。

ウ、褐灰色土（10YR5/1）粘性少なく、土のしまりがある。
砂や小石を多量に含む。

エ、褐色土（10YR4/4）粘性少なく、土のしまりなし。
炭化物（3㎜以下）や明褐色の土がまばらに入る。

オ、暗褐色土（10YR3/3）粘性少なく、土のしまりなし。
砂を多量に含む。

カ、褐色土（10YR4/4）粘性少なく、土にしまりなし。
炭化物（3㎜以下）や明褐色の土がまばらに入る。

キ、明褐色土（10YR6/8）粘性があり、土が固くしまりがある。
炭化物（5㎜以下）が混入する。

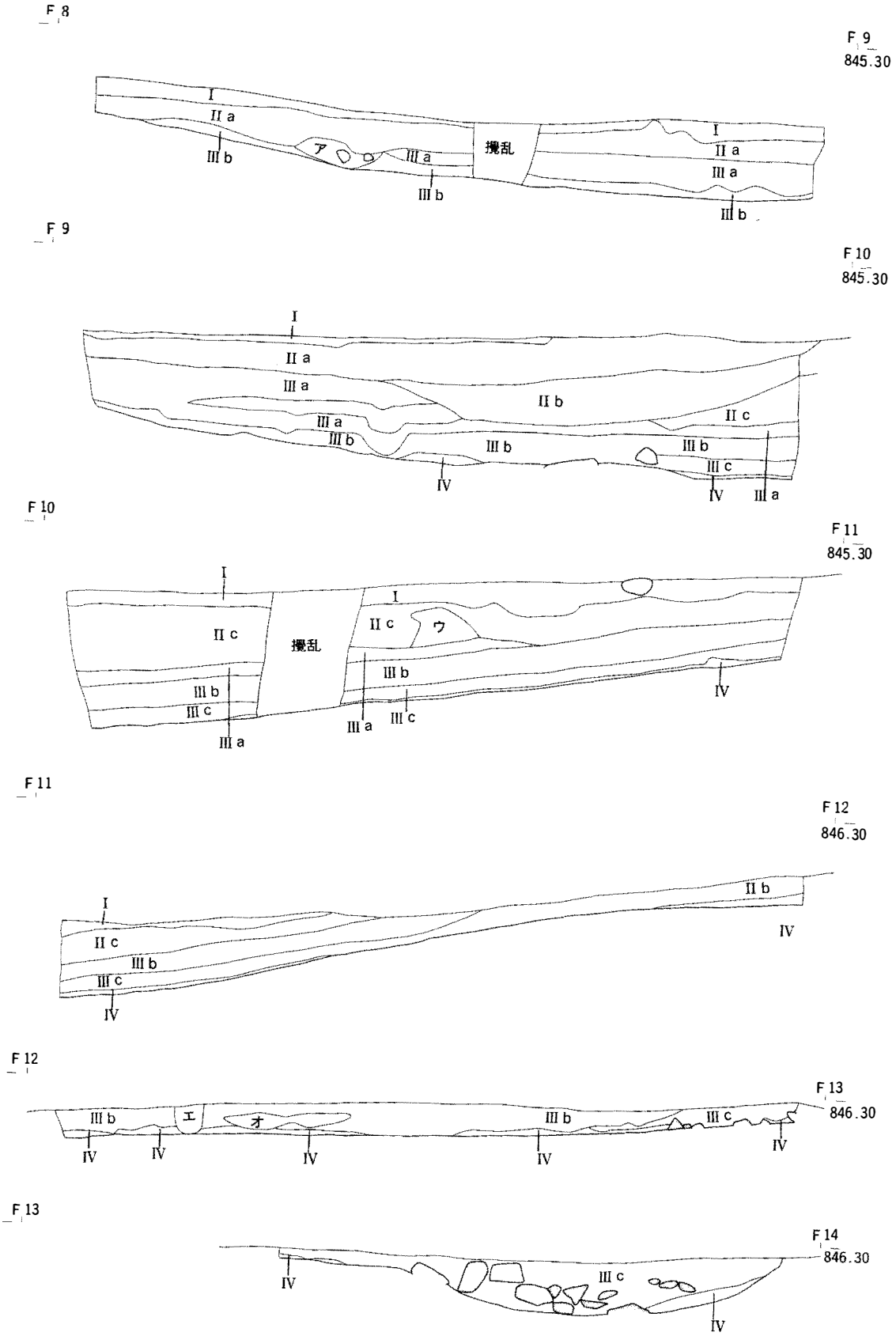
ク、黒褐色土（10YR3/1）粘性がある。土はやわらかいがしまりがある。
明褐色の土が僅かに混入する。

ケ、灰褐色土（10YR4/2）やや粘性があり、土は固くしまりがある。
炭化物（5㎜以下）が少し混入する。

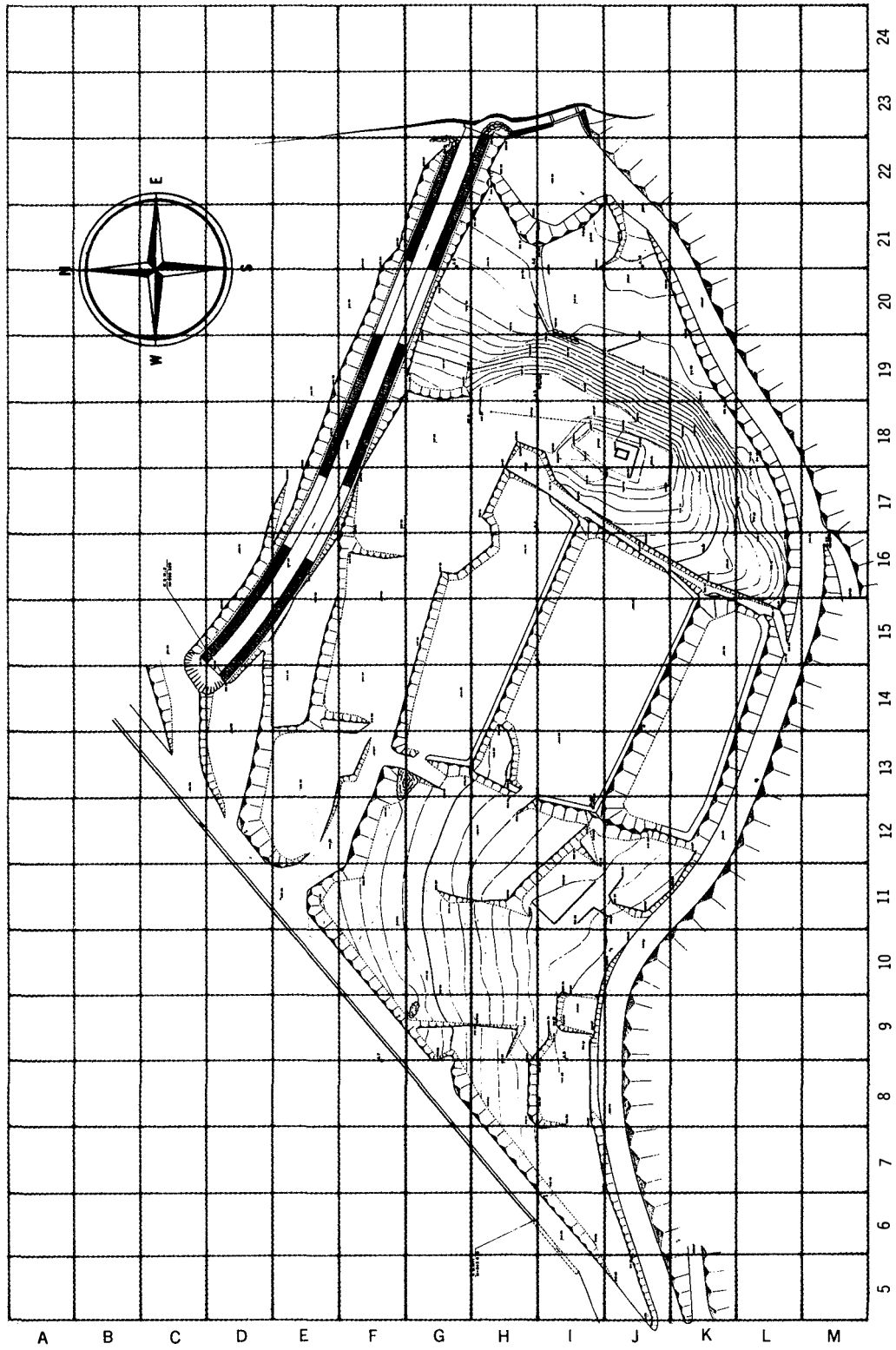
コ、黒色土（10YR2/1）やや粘性があり土にしまりがある。

サ、にぶい黄褐色土（10YR4/3）やや粘性があり土にしまりがある。

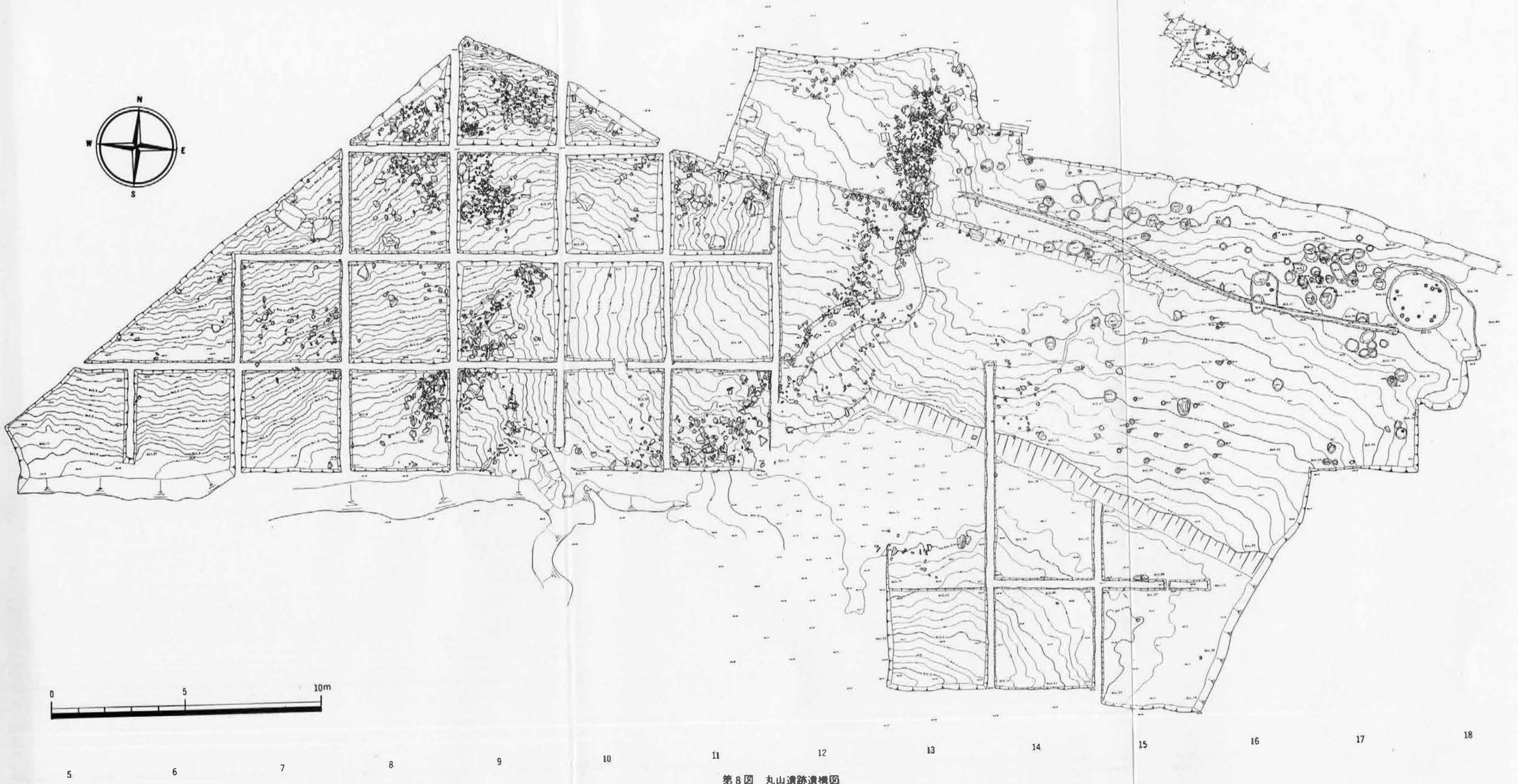
第5図　土　層　図（1）


F 8
F 9
845.30
I
II a
III b
ア
III a
III b
撹乱
I
II a
III a
III b
F 9
F 10
845.30
I
II a
III a
II b
III a
III b
II c
III b
III b
III c
IV
IV
III a
F 10
F 11
845.30
I
II c
撹乱
I
II c
ウ
III b
III c
III a
III b
III a
III c
IV
F 11
F 12
846.30
I
II c
III b
III c
IV
II b
IV
F 12
F 13
846.30
III b
エ
オ
III b
III c
IV
IV
IV
IV
IV
F 13
F 14
846.30
IV
III c
IV

第6図　土　層　図　(2)


A
B
C
D
E
F
G
H
I
J
K
L
M
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
N
E
S
W

第7図　地区設定図



第8図　丸山遺跡遺構図

第3節　竪穴住居跡

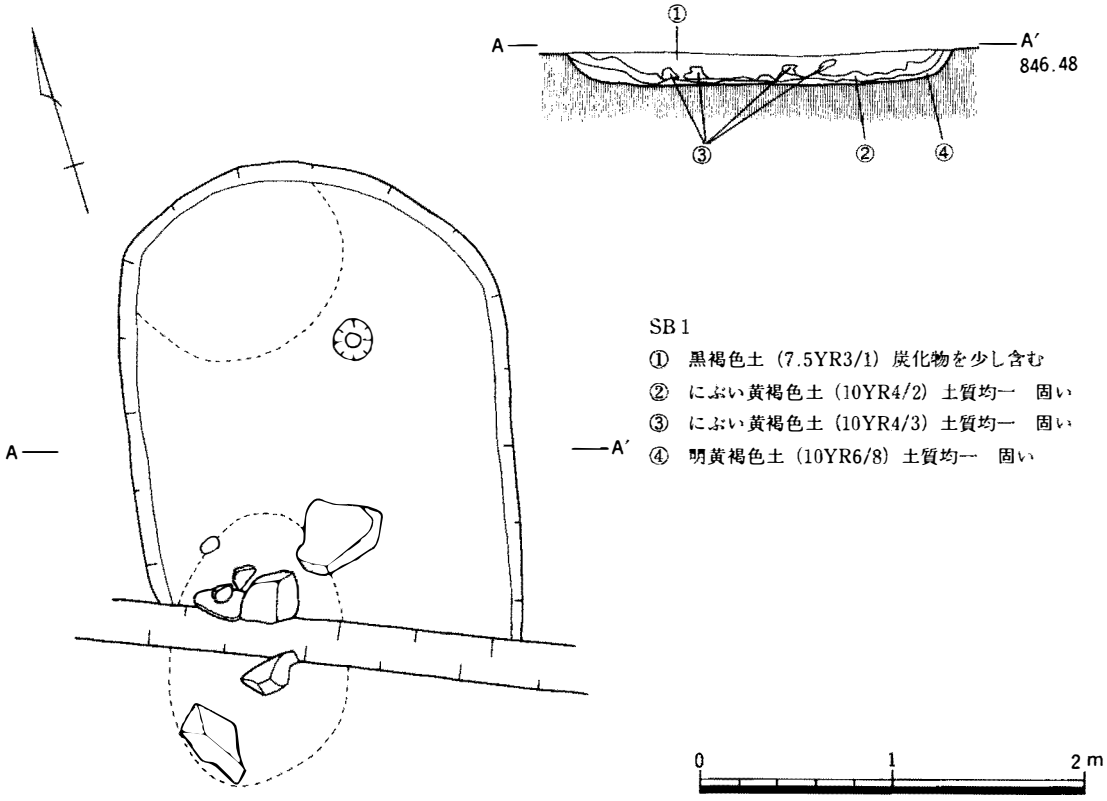
第1号住居跡（第9図　図版1）

第1号住居跡は調査区東よりのG16グリッド北側で検出された。遺物包含層を掘り下げていく段階で黒褐色のほぼ楕円形を呈するプランが確認された。楕円形プランの南側は長径約50cmの土坑(SK32)と重複していることが確認できた。また、水道管埋設のために遺構の南側は削りとられていた。覆土は、しまりのある黒褐色土で、そのなかに遺物や少量の炭化物が見られた。床面付近ではにぶい黄褐色から明褐色と変化していた。住居は、黄褐色の地山を掘り込んで作られる。床面は明褐色でよくしまっており、南に約10cmの高低差で傾く。覆土掘削の段階で北側に85×115cmの土坑(SK22)が掘り込まれていることが明かになった。南側の水道管埋設や土坑の重複のために床面の完全な検出はできなかった。住居の平面形は1.85×2.85mの楕円形で、床面積は推定で5.74m²である。主軸方向は不明である。壁も南端部が削平されていたためすべてを検出することはできなかったが、検出された壁高は14～15cmと平均していた。柱穴と思われるピットが1基確認された。直径20cm、深さ15cmである。

1ケ所のみで、はたして柱穴と断定できるかどうか疑問が残こる。炉跡は認められなかった。

出土遺物は縄文時代早期の上ノ山II式・入海I式塩屋中層A式などの土器片が数十点出土している。石器はチャートのフレークが3点出土している。

出土した土器などから縄文時代早期の住居跡と推定できる。



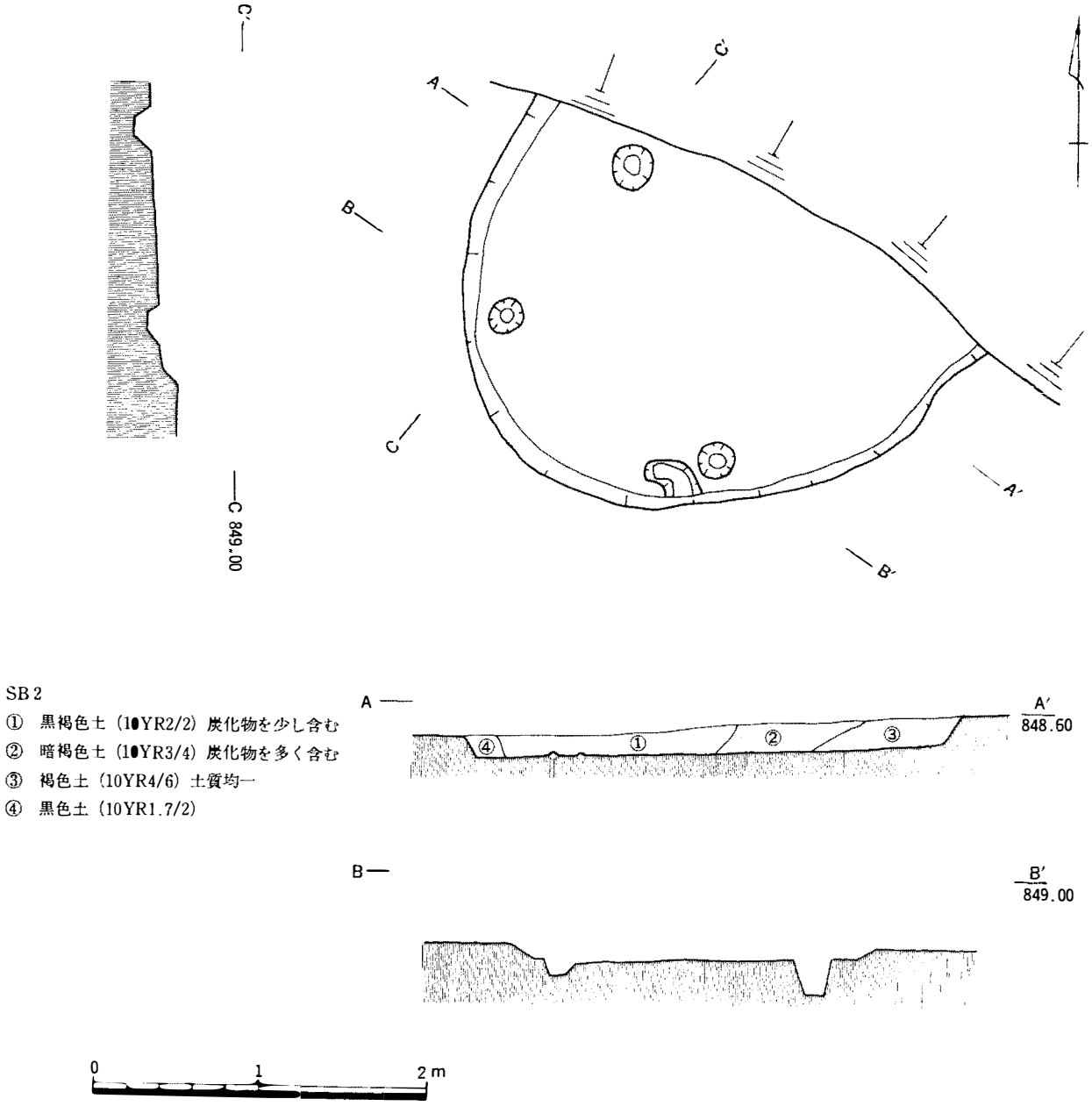
第9図　第1号住居跡

第2号住居跡（第10図　図版1）

第2号住居跡は調査区北東D15・16グリッドおよびE15・E16グリッドに位置する。住居跡の北東部は流路溝工事によって1/2以上削り取られていた。直径約2.7mを計り楕円形のプランを呈すると思われる。覆土は黒褐色および暗褐色で遺物が含まれていた。床面は、黄褐色の地山を掘り込んでつくられており、硬くしまっていた。東にやや傾き高低差は11cmあるが、ほぼ平坦である。壁高ははっきりしていたが5.2～5.9cmと低かった。柱穴は3ケ所確認された。直径23～30cm、深さ8.1～20.7cmである。炉跡は確認できなかった。

出土遺物は北陸系の半截竹管文を施すものや、連続爪形文を有するものなど十数点出土している。石器は、フレーク・チップ類が10点余り出土している。

出土遺物からみて縄文時代中期初頭の住居跡と考えられる。



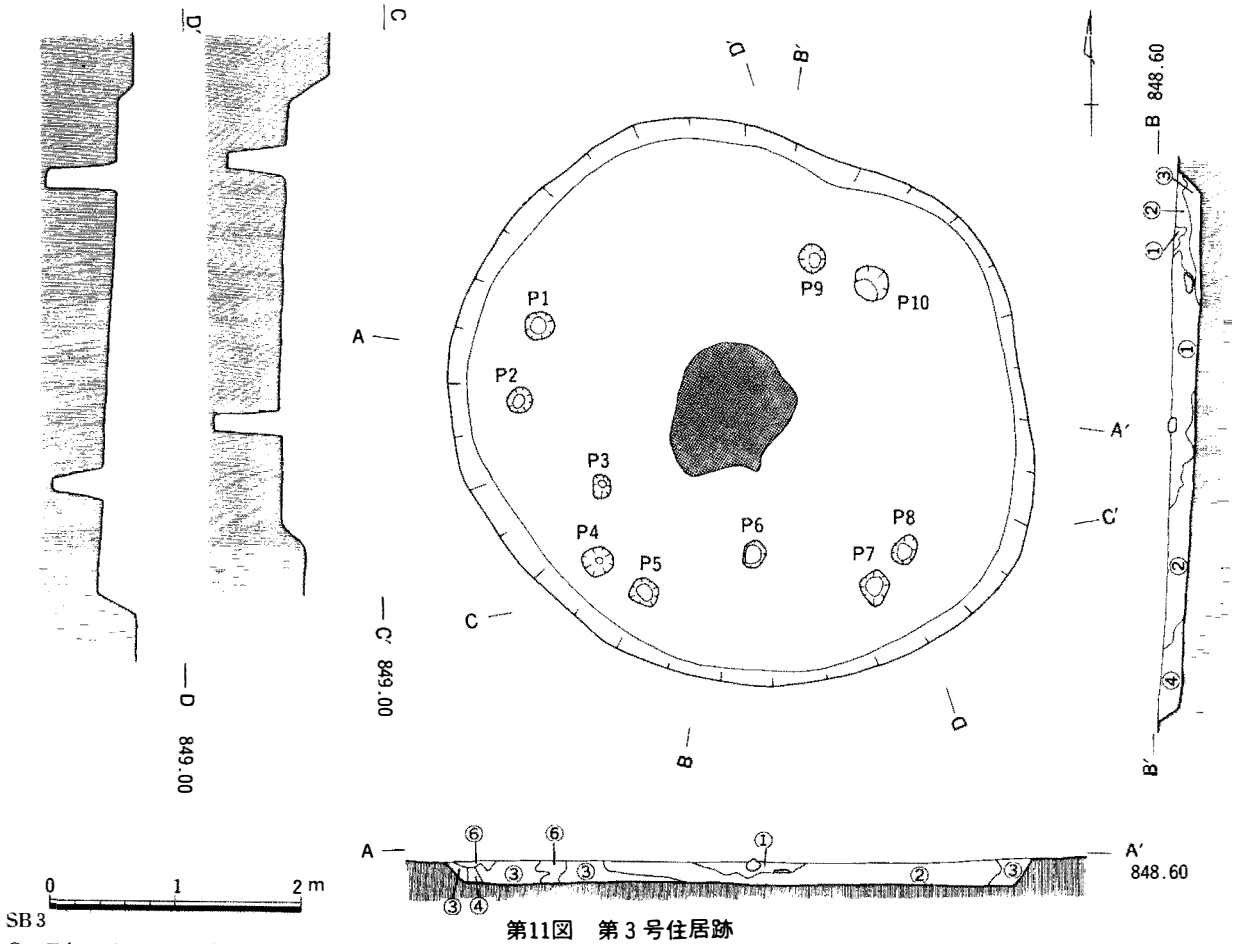
第10図　第2号住居跡

第３号住居跡（第11図　図版１）

第３号住居跡は、調査区の東端G17およびG18グリットの北よりに位置する。遺物包含層を掘り下げていく段階で黒色の円形プランが確認できた。住居跡の上層は馬小屋として長期間使用されていたため土層がかなり変化しておりプランを検出するのに困難を極めた。また、覆土も理解に苦しむ変化がみられた。１層は黒色土、２層は黒褐色、３層は暗褐色、４層は橙色と暗褐色がまばらに入り混じっていた。５層は黄褐色、６層は黒色などと単純ではなかった。覆土が複雑であったわりには床面はよくしまった状態で明確に検出できた。しかし、後世の土坑跡が残存していたり、試掘坑が１部掘り込まれていたりしていたため全面検出はできなかった。床は南東にやや傾斜し高低差は約13cmあるがほぼ平坦である。壁高は15～25cmである。柱穴は10ケ所検出された。主柱穴はその深さなどからP_1・P_5・P_8・P_9などが考えられる。炉は地床炉で、住居跡のほぼ中央に円形に近い状態で検出された。土はよく焼けており明褐色を呈し半割断面では皿状に焼け込み、その深さは中心で８cmまで達していた。

出土遺物は、鷹島式と思われる薄手の連続爪形文を有する土器や北陸系の半截竹管文を施す土器などが出土している。また五領ケ台式や東海系の土器も伴っている。さらにこの時期の粗製土器なども出土している。石器は、石鏃11点・石錐１点・凹石１点・フレークなどが出土した。

出土遺物などから縄文時代中期初頭の住居跡と考えられる。　（野村宗作）



第11図　第３号住居跡

① 黒色土（7.5YR1.7/1）炭化物を含む　土質均一
② 黒褐色土（10YR2/2）炭化物を含む
③ 暗褐色土（10YR3/3）炭化物をわずかに含む　土質均一
④ 橙・暗褐の混じり（7.5YR6/8・10YR3/3）
⑤ にぶい黄褐色土（10YR4/3）炭化物を少々含む　粘土質
● 黒色土（10YR1.7/1）しまりがない　攪乱層

第4節　土壙墓（SK22）（第13図　図版1）

位置と検出状況

G11グリット、1号住居跡内の北側に位置し、住居跡の床面検出の段階で楕円形の黒褐色土層が残り、床面を掘り込んでいることが理解できた。したがって、1号住居跡（縄文早期）より新しい遺構であるが検出面より上層の掘り込みや土層については明らかにすることができなかった。位置的には住居跡と完全に重複していた。

平面形

121cm×91cmの楕円形を呈し、長軸方向はN-75°-Eで深さは北壁で46cm。1層黒色土（10YR1.7/1）で、少量の炭化物を含んでいる。2層も黒色土で（10YR2/1）で、3～4層にかけては黒褐色や黄褐色となり、底部地山に達する。なお、この覆土は篩にかけ更に洗浄したが2～3㎜の小礫以外目につくものはなかった。

遺物

プランの南側を半割する過程で、南西に約20cm、深さ29cmのところで琥珀製の棗玉状管玉が6個連綴の状態で検出された。（第13図　図版1）土壙底面より6cm上部である。しかし、劣化が激しく、1個は検出と同時に崩壊し、更に1個が検出後まもなく崩壊したが、一部は土中に残存していた。従って、4個のみ原形を留めて取り上げることができた。

琥珀は劣化がきわめて激しく、かつ脆いため少しの振動でも崩壊する。そこで、遺物の周辺を石膏で固めそのままの状態で取り上げ、元興寺文化財研究所保存科学センターに復元・保存処理を委託した。その処理中に7個目の玉が検出された。

また、琥珀検出面で繊維入りの小土器片が出土したが、これは縄文早期の土器片で土壙内の堆積土層の観察から混入と思われる。

時期

時期を明瞭に示す遺物は、土壙内からは検出されなかった。周辺出土の土器は縄文時代前期末から中期初頭のものであった。したがって、土壙の時期はこれらのなかにその可能性が求められる。一方玉自体の観察からしても、後述するように縄文時代前期末から中期初頭に所属すると推定されるので、この時期の間と考えるのがもっとも妥当であろう。しかし、№1、2、4、5は行田遺跡出土のものに最もよく似ているので、前期に含まれる可能性がきわめて大であろう。　（野村宗作）

第5節　土坑その他の遺構（第12図～17図）

検出された65基（土壙墓を含め）の土坑は、全体に散在しているわけではなく調査地区の北部中央（F14．15区）に16基の1群と北東部に23基（FG16．17区）と9基（GH17区）の2群の集まりが見られる。

形態については円形57基、楕円形4基、不定形4基である。土坑の規模として上端部の最大幅が、円形で35～138cm、楕円形で110～168cmである。円形の土坑の場合80cm代のものが17基（30％）あり70～90cmに最大幅を持つものが33基（58％）にのぼる。楕円形の土坑の場合は4基とも1m以上であり、琥珀が出土した土壙墓（SK22）も121×81cmの楕円形である。同じ程度の大きさの土坑が他に2基

（SK32．SK49）検出しているが、土壙の性格を表す遺物が出たのは、琥珀玉が出土したSK22だけである。その他の特徴としてはフラスコ状の形態をもつ土坑が７基検出しているが、堅果類などの炭化物が出土せず土坑の性格が明確でない。

円形の土坑

SK12は76×81深度46㎝底部が固く平底を呈している。上層は黒褐色土で炭や人頭大の石が混入し底面より２～４㎝漸移層内では縄文中期初頭の土器片が出土している。SK14は72×79深度39㎝。底部が平底で固くしまり、覆土の黒褐色土には多くの炭が含まれ土器片や石鏃が出土した。SK18は87×88深度44㎝。底面が固くしまり、黒褐色の覆土に人頭大の石と中期初頭の土器片が混入していた。SK25は59×50深度23㎝。底部が平底を呈している。覆土より新崎式土器が下部を欠損し横に倒れた状態で出土した。SK30は風倒木痕と思われ、掘り起こした部分に石皿が混入している。

フラスコ状の土坑

SK17は67×63深度31㎝。比較的小型の土坑で頸部を持ち底部が広がるフラスコ状を呈している。卵大の川原石が中心より東側に数多く混入していた。SK19は77×75深度36㎝多少フラスコ状を呈している。黒褐色土に人頭大の石や多くの炭、中期初頭の土器片が混入していた。SK27は87×80、深度50㎝で平底を呈している。黒褐色の覆土に炭が多く含まれ、その下より中期初頭の土器が出土した。SK48は85×95深度40㎝。底部が平底を呈し、暗オリーブ褐色の覆土より磨石と中期初頭の土器片が出土した。SK55は80×73深度34㎝。底部が平底を呈している。人頭大の石を含むが出土遺物はなかった。SK63は３号住居跡に重なる土坑で94×101深度70㎝。底部が平底を呈している。覆土からの遺物は出土していない。

楕円形の土坑

SK24は168×75深度20㎝。丸底を呈している。黒色土より中期初頭の土器片と凹石が出土している。SK32は143×78深度17㎝底部が平底を呈している。黒褐色土の覆土に炭が多く混入し、人頭大の石を数点含まれている。SK49は110×83深度34㎝。底部が丸底を呈している。暗オリーブ褐色の覆土に炭が多く混入し人頭大の石が数点含まれている。

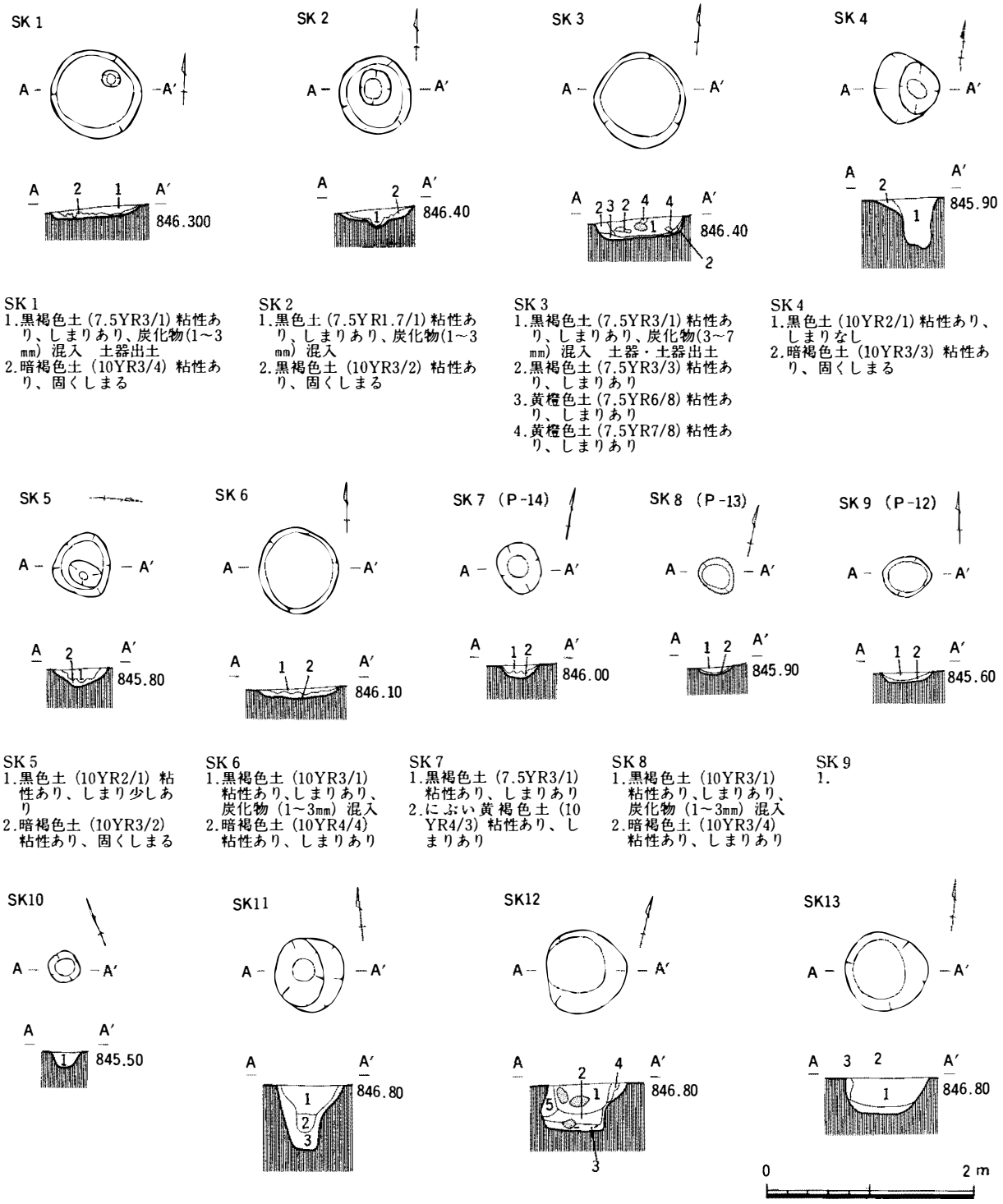
不定形の土坑

SK20は111×160深度65㎝。土坑が重なった様相を呈する。遺物は、中期初頭の土器片が多く出土している。不明遺構としてＦ14～Ｆ15区の位置にＳＸ１とＳＸ２の２基を検出した。ＳＸ１は147×186㎝、深度24㎝であるが底部より10㎝程上部に段をもち、凹凸がある面が広がる。形状は不定形である。遺物はRFが１点出土する。ＳＸ２は122×210㎝、深度27㎝であるが底部より約10㎝上部に段をもち凹凸がある面が広がる。形状は不定形である。遺物は出土しない。

堀立柱建物跡

堀立柱建物跡はＨ15～Ｈ16区に位置し、３列の柱穴が確認された。１列は東西方向に2.15ｍ・2.35ｍ・2.20ｍの間隔で４つ柱穴があり、２列目・３列目までの間隔がそれぞれ2.0ｍである。

（上出巳吉）



SK 1
1.黒褐色土 (7.5YR3/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物(1～3㎜) 混入　土器出土
2.暗褐色土 (10YR3/4) 粘性あり、固くしまる

SK 2
1.黒色土 (7.5YR1.7/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物(1～3㎜) 混入
2.黒褐色土 (10YR3/2) 粘性あり、固くしまる

SK 3
1.黒褐色土 (7.5YR3/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物(3～7㎜) 混入　土器・土器出土
2.黒褐色土 (7.5YR3/3) 粘性あり、しまりあり
3.黄橙色土 (7.5YR6/8) 粘性あり、しまりあり
4.黄橙色土 (7.5YR7/8) 粘性あり、しまりあり

SK 4
1.黒色土 (10YR2/1) 粘性あり、しまりなし
2.暗褐色土 (10YR3/3) 粘性あり、固くしまる

SK 5
1.黒色土 (10YR2/1) 粘性あり、しまり少しあり
2.暗褐色土 (10YR3/2) 粘性あり、固くしまる

SK 6
1.黒褐色土 (10YR3/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物 (1～3㎜) 混入
2.暗褐色土 (10YR4/4) 粘性あり、しまりあり

SK 7
1.黒褐色土 (7.5YR3/1) 粘性あり、しまりあり
2.にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 粘性あり、しまりあり

SK 8
1.黒褐色土 (10YR3/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物 (1～3㎜) 混入
2.暗褐色土 (10YR3/4) 粘性あり、しまりあり

SK 9
1.

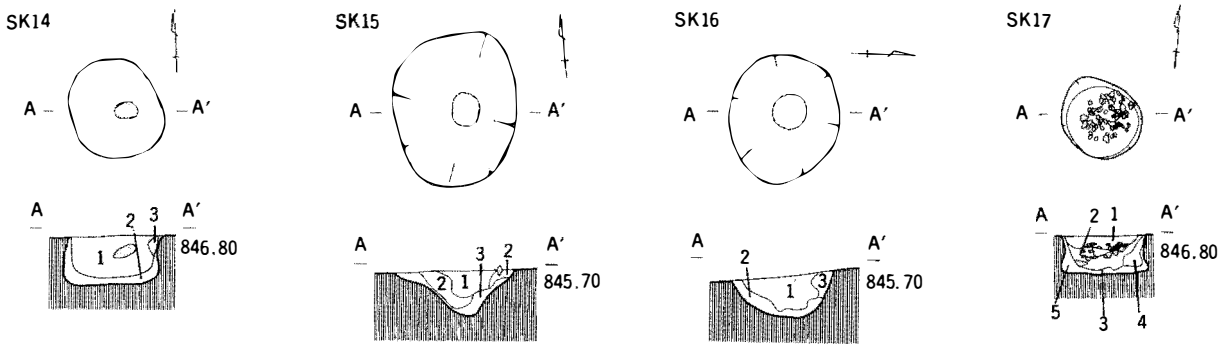
SK10
1.黒色土 (10YR1.7/1) 粘性あり、固くしまる、石器出土

SK11
1.黒褐色土 (10YR3/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物(1～3㎜) 小石 (2～5㎜) 混入
2.褐色土 (10YR4/4) 粘性あり、しまりあり、10㎜程の炭化物混入
3.暗褐色土 (7.5YR6/8) 粘性あり、固くしまりあり、炭化物 (4～6㎜) 混入　石器出土

SK12
1.黒褐色土 (10YR3/1) 粘性、しまりあり、炭化物(5～10㎜) 上部に混入
2.黒褐色土 (10YR3/1) 粘性あり、しまりあり、炭化物混入
3.暗褐色土 (10YR3/3) 粘性あり、固くしまる、底面2㎝上で土器片出土
4.橙色土 (10YR4/6) 粘性あり、しまりあり
5.黒褐色土 (10YR3/1) 粘性あり、しまりあり

SK13
1.黒褐色土 (10YR2/2) 粘性あり、しまりあり、土器片出土
2.暗褐色土 (10YR3/3) 粘性あり、固くしまる
3.黄褐色土 (10YR5/6) しまりなし

第12図　土　坑 (1)

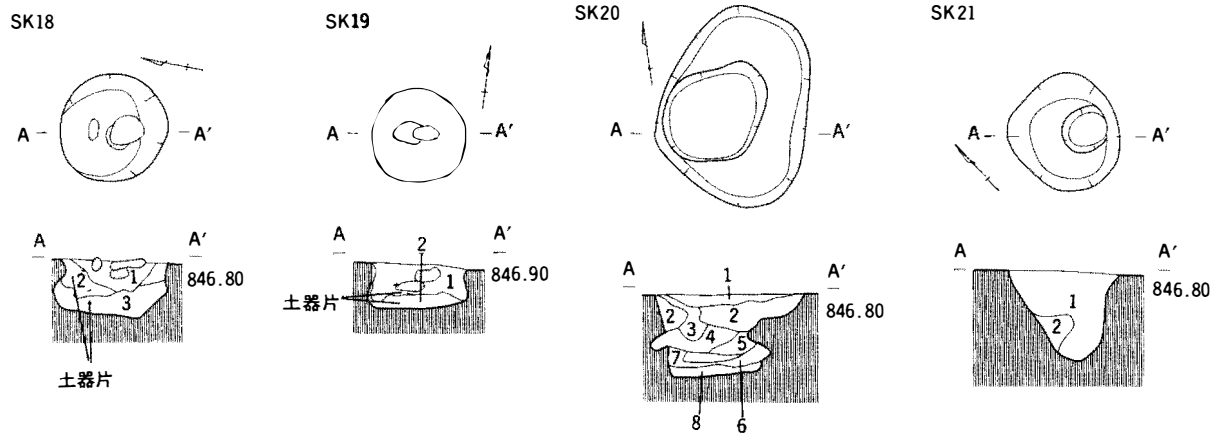


SK14
1.黒褐色土（10YR2/2）粘性あり、炭化物(1～3mm)混入　土器片出土
2.暗褐色土（10YR3/3）粘性あり、■くしまる。土器片出土
3.褐色土（10YR4/4）粘性あり、しまりあり

SK15
1.黒色土（10YR1.7/1）粘性なく、しまりなし、土器片出土
2.黒褐色土（10YR2/2）粘性あり、しまりなし
3.黒褐色土（10YR2/2）粘性あり、しまりあり

SK16
1.黒色土（10YR1.7/1）粘性なし、しまりあり
2.暗褐色土（10YR3/3）粘性あり、しまりあり
3.灰黄褐色土（10YR4/2）粘性なし、しまりなし

SK17
1.黒色土（10YR1.7/1）粘性少なく　しまりあり
2.黒褐色土（10YR2/3）粘性があり、しまりあり、卵大の礫多数含有　炭化物混入
3.黒褐色土（10YR3/1）
4.暗褐色土（10YR3/3）
5.暗褐色土（10YR3/4）

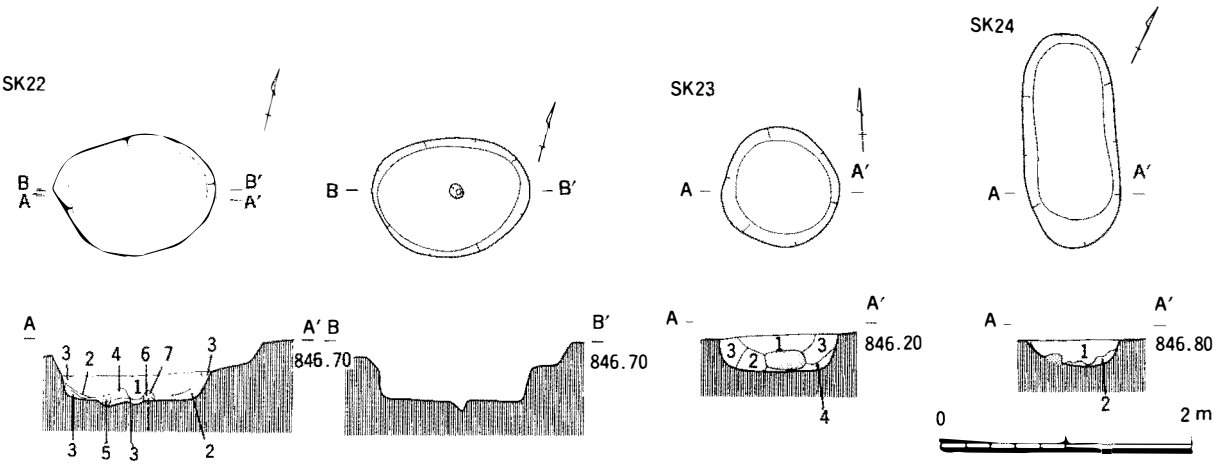


SK18
1.黒色土（10YR1.7/1）粘性少なくしまりあり
2.黒褐色土（10YR3/1）粘性あり、しまりあり
3.にぶい黄褐色土（10YR4/3）粘性あり、しまりあり

SK19
1.黒褐色土（10YR2/3）粘性あり、固くしまる。炭化物（1～3mm）多く混入　土器片出土
2.褐色土（10YR4/6）粘性あり、固くしまる

SK20
1.黒色土（10YR2/1）粘性は少なくしまりあり
2.黒褐色土（10YR3/1）粘性あり、しまりあり、炭化物（1～3mm）混入
3.暗褐色土（10YR2/3）粘性あり、しまりあり、遺物出土
4.黒褐色土（10YR2/3）粘性あり、しまりあり
5.暗褐色土（10YR2/3）粘性あり、しまりあり
6.黒色土（10YR1.7/1）粘性あり、固くしまる
7.黒褐色土（10YR2/2）粘性あり、くしまりあり
8.にぶい黄褐色土(10YR5/4)粘性あり、しまりあり

SK21
1.黒褐色土(10YR3/1)やや粘性あり。
2.暗褐色土（10YR2/3）やや粘性あり

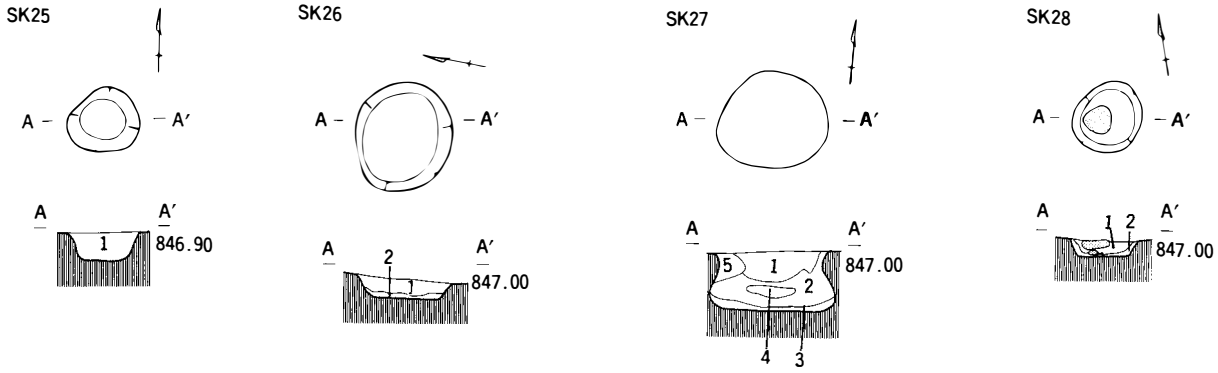


SK22
1.黒色土（10YR1.7/1）粘性は少なくしまりあり
2.黒色土（10YR2/1）粘性あり、しまりあり
3.黒色土（10YR2/3）粘性あり、しまりあり、炭化物（2～4mm）混入
4.黒褐色土（10YR3/2）粘性少なく、しまりあり
5.暗褐色土（10YR3/2）粘性あり
6.明褐色土（7.5YR5/8）粘性少なく、しまりあり
7.黒色土（7.5YR1.7/1）粘性少なく、しまりあり

SK23
1.黒色土（10YR1.7/1）粘性は少なくしまりあり、炭化物（3～7mm）混入
2.黒色土（10YR1.7/1）粘性あり、炭化物（5～10mm）混入
3.黒褐色土(10YR3/1)粘性あり
4.黄褐色土（10YR5/6）粘性少なく、しまりあり

SK24
1.黒色土（10YR1.7/1）粘性は少なくしまりあり、細かい炭化物を含む。土器片や凹石など出土
2.黒褐色土（10YR3/1）粘性少なく、しまりあり

第13図　土　坑（2）

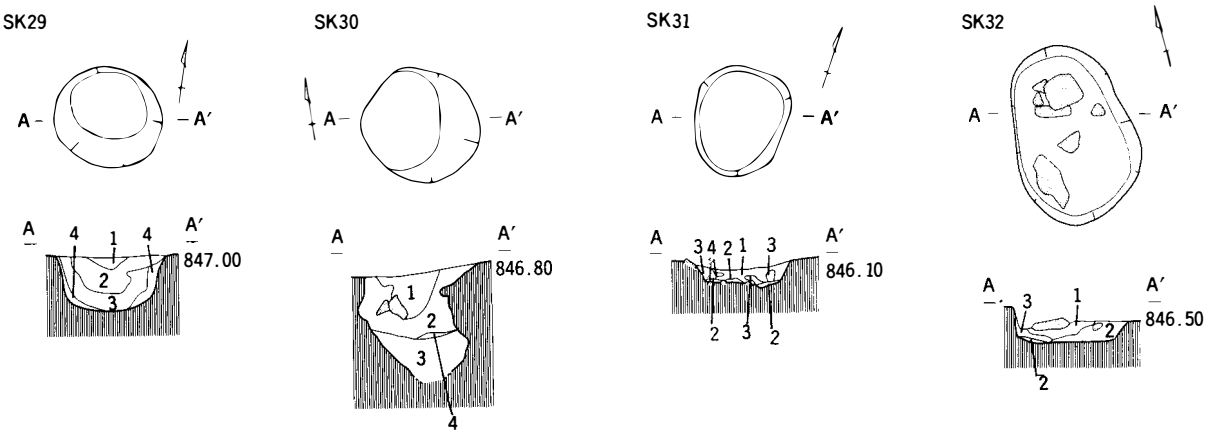


SK25
1.黒褐色土（10YR3/1）粘性少なく、しまりあり、土器出土

SK26
1.黒褐色土（10YR2/2）粘性あり、しまりあり、炭化物（2mm以下）少し含む
2.にぶい黄褐色土（10YR4/3）粘性あり、しまりあり

SK27
1.黒色土（10YR1.7/1）粘性少なく、しまりあり、炭化物（2～10mm）が中央に混入、土器片混入
2.黒褐色土（10YR2/3）粘性あり、しまりあり
3.にぶい黄褐色土（10YR1.7/1）粘性あり。しまりあり
4.黒褐、色土（10YR2/3）大き目の炭化物混入　土器片出土
5.黒色土と地山土が混じり合う

SK28
1.暗褐色土（10YR3/3）粘性あり、しまりあり、炭化物を混入

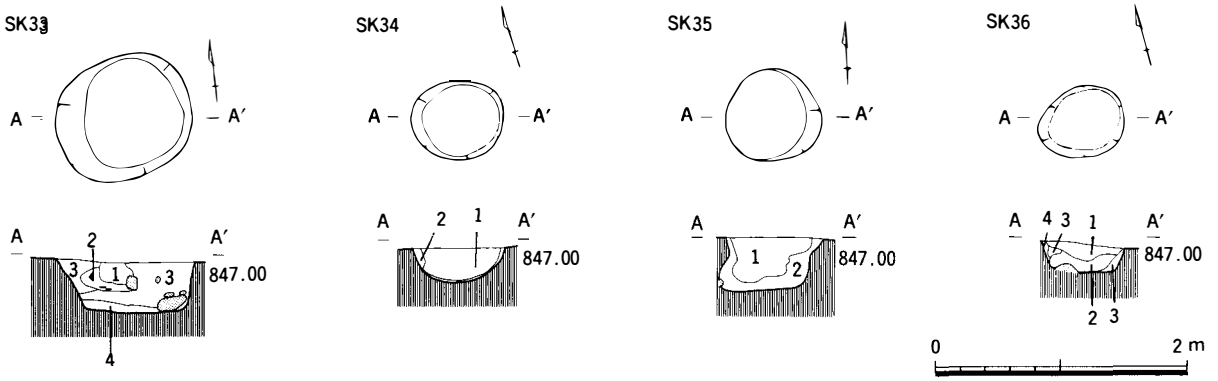


SK29
1.黒色土（10YR1.7/1）粘性あり、しまりあり
2.黒色土（10YR1.7/1）粘性あり、しまりあり、炭化物（1～10mm）が中心部に多く混入
3.黒色土（10YR2/1）粘性あり、しまりあり、炭化物（3mm以下）多く含有
4.褐色土（10YR4/6）粘性あり、しまりあり

SK30
1.黒褐色土（10YR3/2）粘性あり、しまりあり、炭化物・遺物出土
2.にぶい黄褐色土（10YR4/3）粘性あり、炭化物（3～10mm）多量に混入
3.黒色土（N2/6）粘性あり
4.にぶい黄褐色土

SK31
1.黒色土（10YR1.7/1）粘性少なくしまりあり、炭化物（2mm以下）少量混入
2.褐色土（10YR4/4）粘性あり、しまりあり
3.黒色土に黄褐色土が多量に混じる
4.黄褐色土（10YR3/3）の粘土塊

SK32
1.黒色土（10YR1.7/1）粘性少なくしまりあり、炭化物（2～5mm）多量に混入　人頭大礫多く混入
2.黒褐色土（10YR3/1）粘性少なくしまりあり、炭化物（4～7mm）多量混入
3.黒色土（10YR2/1）粘性少なく明褐色土の塊（5～30mm）多く混入



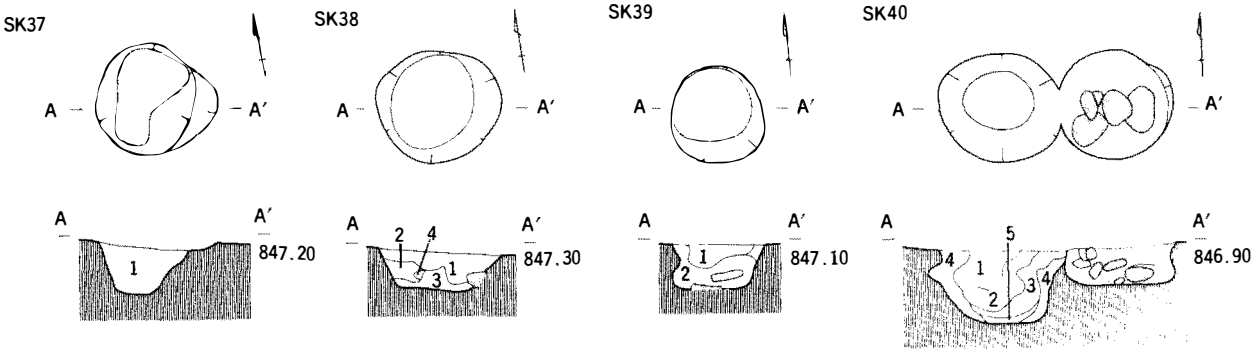
SK33
1.黒色土（10YR2/1）粘性少なくしまりあり
2.暗褐色土（10YR1.7/1）粘性少なくしまりあり
3.黒褐色土（10YR2/2）粘性ありしまりあり、炭化物（2～5mm）や砂（1～2mm）を多く含む
4.にぶい黄褐色土（10YR4/3）粘性やしまりあり、小石を含む

SK34
1.黒色土（10YR1.7/1）粘性は少なくしまりがあり、炭化物（1～3mm）混入
2.黒褐色土（10YR3/1）粘性少なくしまりがあり

SK35
1.黒褐色土（10YR3/2）粘性は少なくしまりがあり、炭化物・人頭大礫多く混入
2.褐色土（10YR4/4）粘性少なくしまりあり、炭化物・粘土粒（3mm以下）多く混入

SK36
1.黒色土（10YR1.7/1）粘性は少なくしまりあり、炭化物多く混入
2.黒褐色土（10YR3/1）粘性少なくしまりあり、炭化物を多く混入
3.黒褐色土（10YR2/2）粘性ありしまりあり

第14図　土　坑（3）

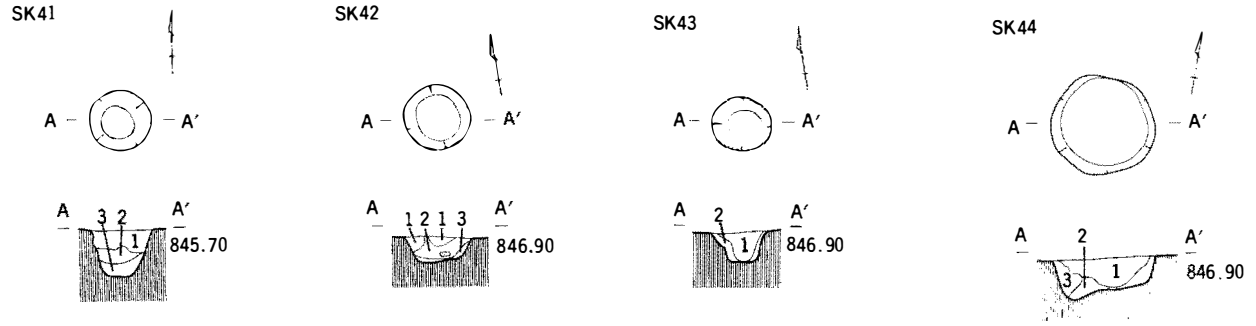


SK37
1.黒色土（10YR1.7/1）粘性少なくしまりあり、炭化物(3㎜以下)・砂混入

SK38
1.黒色土（10YR1.7/1）粘性少なくしまりあり、炭化物多く混入
2.暗褐色土（10YR2/2）粘性少なくしまりあり
3.黒色土(10YR1.7/1)1よりも黒く、粘性あり

SK39
1.黒色土（N2/0）粘性少なくしまりあり
2.黒色土（10YR1.7/1）粘性少なくしまりあり、石の周辺に炭化物（3～5㎜）混入

SK40/SK45
1.黒色土（10YR2/1）粘性は少なくしまりあり、炭化物(2～5㎜）を多く含む。
2.黒色土（N2/0）粘性少なくしまりあり、土器片出土
3.黒色土（10YR1.7/1）粘性少なくしまりあり
4.黒色土（10YR1.7/1）粘性少なくしまりあり
5.黒褐色土（10YR2/2）粘性・しまりあり

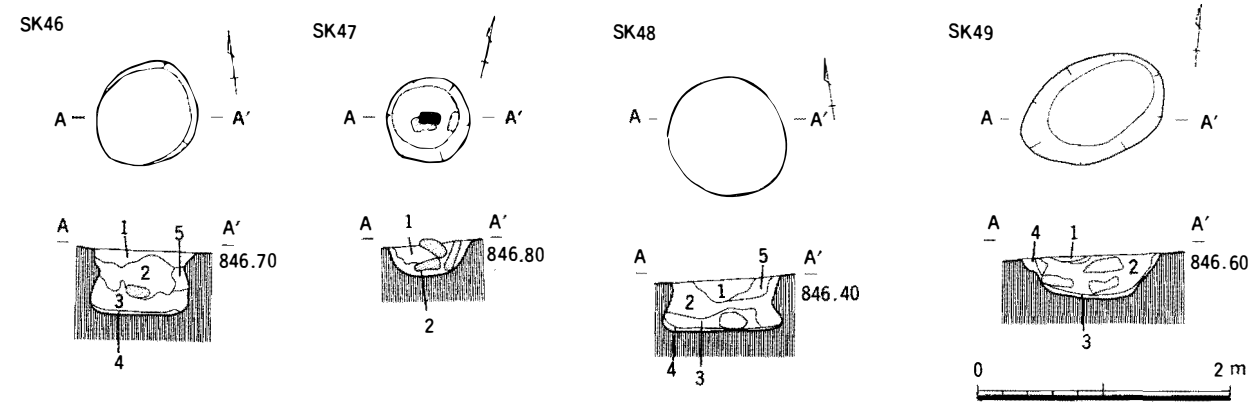


SK41
1.黒色土（10YR1.7/1）粘性少なくしまりあり、炭化物(1～5㎜）多く混入
2.黒褐色土（10YR3/2）粘性少なくしまりあり、炭化物多く混入
3.褐色土（10YR4/4）粘性ありしまりあり

SK42
1.黒色土（10YR1.7/1）粘性は少なくしまりあり、黄褐色の細かい土（1㎜以下）を含む。
2.黒褐色土（10YR3/1）粘性は少なくしまりなし、黄褐色の細かい土(1㎜以下)を多量に含む
3.黄褐色土（10YR5/8）やや粘性ありしまりあり

SK43
1.黒色土（10YR1.7/1）粘性少なくしまりあり、褐色の土(1㎜以下）を少し含む。
2.黒褐色土（10YR3/2）粘性少なくしまりあり、地山の褐色土（1㎜以下）がまばらに混入

SK44
1.暗褐色土（10YR3/4）粘性少なく、しまりあり、炭化物(約20㎜）を混入。遺物出土
2.褐色土（10YR4/4）粘性ありしまりあり
3.黒色土（10YR2/1）粘性少ない　しまりなし



SK46
1.黒色土（10YR1.7/1）粘性少ない　しまりあり、炭化物(3㎜以下）少量混入
2.黒色土（N2/●）粘性少ないしまりなし
3.黒褐色土（10YR2/2）粘性あり　しまりあり、炭化物（5～15㎜)、炭化木片混入
4.にぶい黄褐色土（10YR4/3）粘性あり　しまりあり
5.黒色土（10YR1.7/1）粘性少ない、しまりない

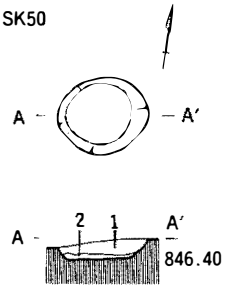
SK47
1.黒色土（10YR2/1）やや粘性あり、しまりあり、黄褐色の細かい土（1㎜以下）を多く含む。
2.暗褐色土（10YR3/3）粘性あり　しまりあり

SK48
1.黒色土（N2/0）粘性は少なくしまりあり
2.黒色土（10YR2/1）粘性少なくしまりあり、褐色の粘土粒や炭化物（2㎜以下）を少し含む。
3.黒色土（10YR1.7/1）粘性少なく、固くしまりあり、炭化物(5～15㎜）を多く含み土器が混土
4.暗褐色土（10YR3/3）粘性・しまりあり
5.黒色土（10YR1.7/1）粘性少なく、しまりあり

SK49
1.黒褐色土（N2/0）粘性少なくしまりなし
2.暗オリーブ褐色土（10YR2/1）粘性少なくしまりあり
3.にぶい黄褐色土（10YR4/3）粘性・しまりあり
4.黒色土（10YR1.7/1）粘性少なく、しまりなし

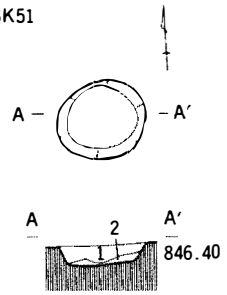
第15図　土　坑（4）

SK50



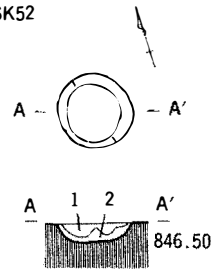
SK50
1.黒色土（10YR1.7/1）粘性少なく、しまりあり
2.暗褐色土（10YR3/4）粘性少なく、しまりあり

SK51



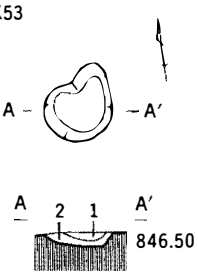
SK51
1.黒色土（10YR1.7/1）粘性・しまりあり、炭化物(1～10mm)混入
2.黄褐色土（10YR5/6）粘性・しまりあり

SK52



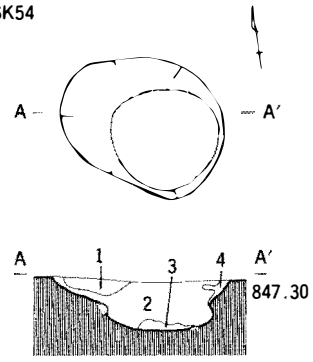
SK52
1.黒色土（10YR1.7/1）粘性少なくしまりあり、炭化物(1～5mm）混入
2.暗褐色土（10YR3/4）やや粘性あり、しまりあり

SK53



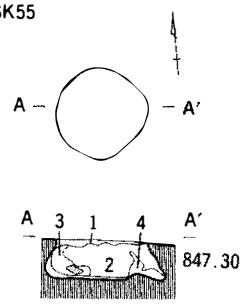
SK53
1.黒色土（10YR1.7/1）粘性少なくしまりあり、炭化物(1～3mm）混入
2.暗褐色土（10YR3/4）やや粘性あり、しまりあり

SK54



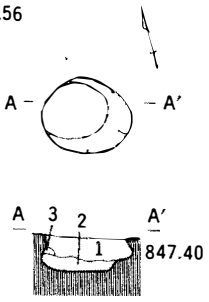
SK54
1.黒色土（10YR1.7/1）粘性・しまりあまりなし
2.黒褐色土（10YR2/2）やや粘性あり、しまりあり、炭化物（5mm以下）・粘土粒（1mm以下）多く含む。
3.黒色土（10YR1.7/1）やや粘性あり、しまりあり

SK55



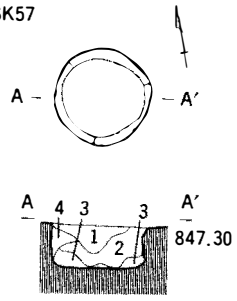
SK55
1.暗褐色土（7.5YR3/4）粘性少なく、しまりあり、暗赤褐色土混入
2.黒色土（10YR1.7/1）やや粘性あり、固くしまる。炭化物・粘土粒（2mm以下）を含む。
3.黒褐色土（10YR3/1）やや粘性あり、しまりあり、褐色の粘土粒(1mm以下)を多く含む。
4.褐色土（10YR4/4）やや粘性あり、しまりあり

SK56



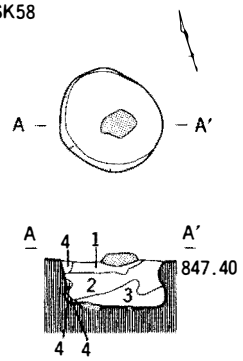
SK56
1.黒褐色土（10YR3/1）やや粘性あり、固くしまる。炭化物や粘土粒（2mm以下）混入
2.暗褐色土（10YR3/3）やや粘性あり、固くしまる
3.褐色土（10YR4/4）やや粘性あり、しまりあり

SK57



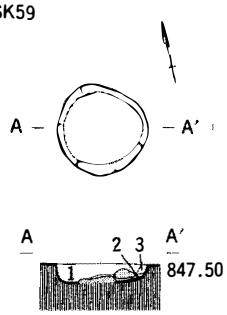
SK57
1.黒色土（10YR1.7/1）粘性少なく、しまりあり。炭化物や粘土粒（2mm以下）を含む。
2.黒褐色土（10YR2/2）粘性あり、固くしまる。炭化物や粘土粒（2mm以下）を含む。土器出土
3.黒色土（10YR1.7/1）粘性あり、固くしまる。粘土粒(2mm以下）を含む。

SK58



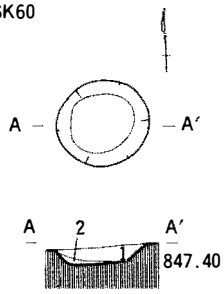
SK58
1.黒褐色土（10YR1.7/1）粘性少なく、しまりあり、炭化物・粘土粒（2mm以下）を含む。
2.黒褐色土（10YR2/2）粘性あり、固くしまる。炭化物・粘土粒（3mm以下）多量に含む。
3.黒色土（10YR2/1）粘性あり、固くしまる。粘土粒(2mm以下）含む。

SK59



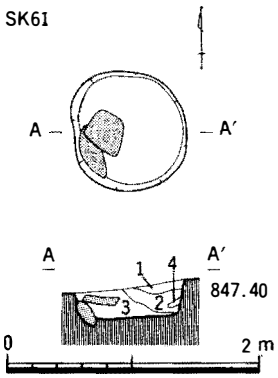
SK59
1.暗褐色土（10YR3/4）やや粘性あり、固くしまる。炭化物（5mm以下）・粘土粒（2mm以下）を含む。
2.褐色土（10YR4/6）粘性あり、固くしまる。

SK60



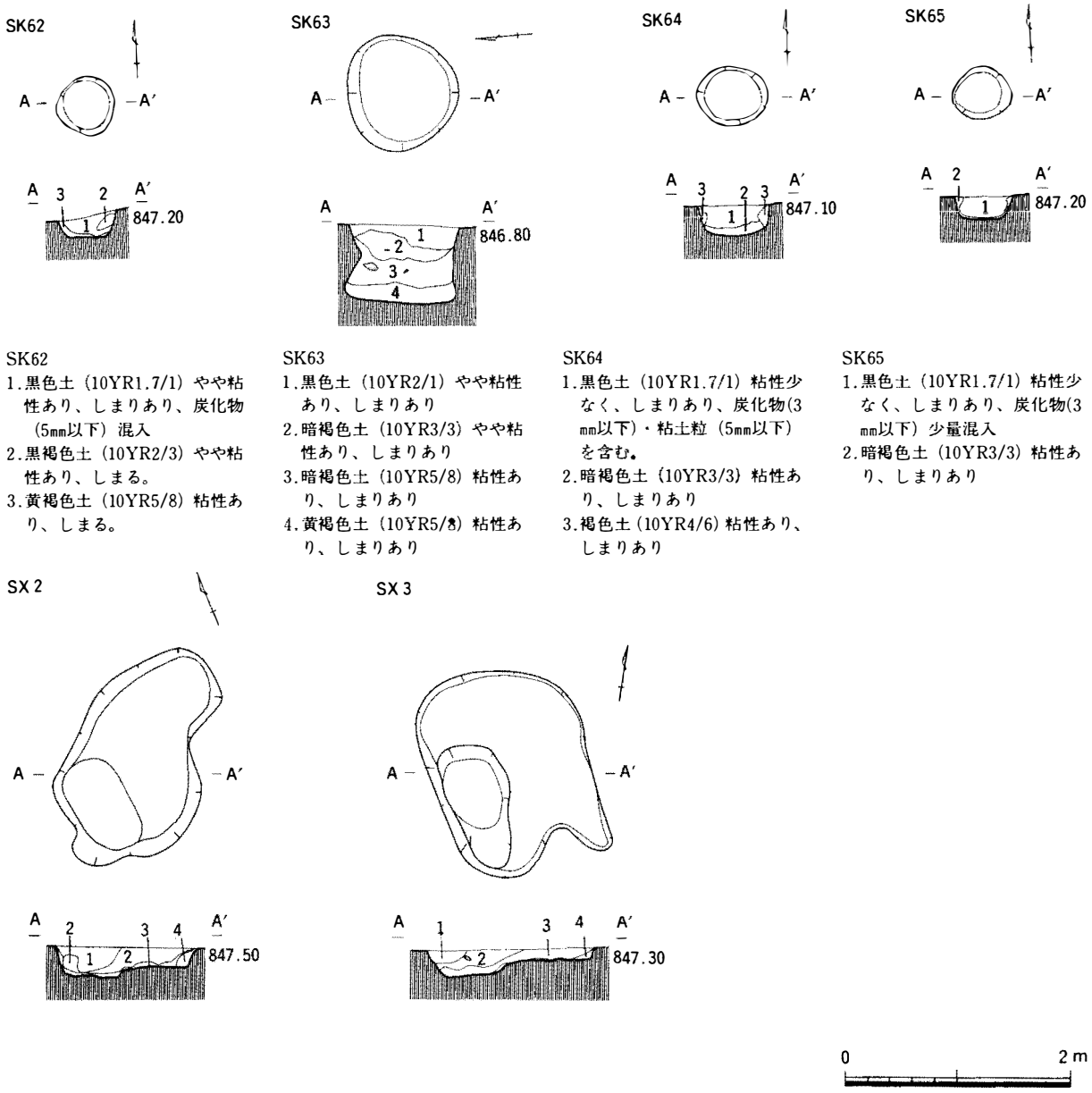
SK60
1.黒色土（10YR1.7/1）やや粘性あり、しまりあり、炭化物（10mm以下）多量に含む。
2.暗褐色土（10YR3/4）粘性あり、固くしまる。

SK61



SK61
1.黒色土（10YR1.7/1）やや粘性あり、しまりあり。炭化物（約10mm）点在
2.暗褐色土（10YR3/4）粘性あり、固くしまる。炭化物(3mm以下）や粘土粒（5mm以下）を含む。
3.暗褐色土（10YR3/4）粘性あり、固くしまる。粘土粒(5mm以下）を含む。

第16図　土　坑　(5)



SK62
1.黒色土（10YR1.7/1）やや粘性あり、しまりあり、炭化物（5mm以下）混入
2.黒褐色土（10YR2/3）やや粘性あり、しまる。
3.黄褐色土（10YR5/8）粘性あり、しまる。

SK63
1.黒色土（10YR2/1）やや粘性あり、しまりあり
2.暗褐色土（10YR3/3）やや粘性あり、しまりあり
3.暗褐色土（10YR5/8）粘性あり、しまりあり
4.黄褐色土（10YR5/8）粘性あり、しまりあり

SK64
1.黒色土（10YR1.7/1）粘性少なく、しまりあり、炭化物(3mm以下)・粘土粒（5mm以下）を含む。
2.暗褐色土（10YR3/3）粘性あり、しまりあり
3.褐色土（10YR4/6）粘性あり、しまりあり

SK65
1.黒色土（10YR1.7/1）粘性少なく、しまりあり、炭化物(3mm以下）少量混入
2.暗褐色土（10YR3/3）粘性あり、しまりあり

SX 2
1.暗褐色土（10YR3/3）粘性少なし、しまりあり。炭化物(2mm以下）や小石（2mm以下）混入
2.黒色土（10YR1.7/1）粘性少なく、しまりあり、炭化物(2mm以下）混入
3.黒褐色土（10YR2/2）粘性あり、しまりあり、炭化物(3mm以下）や小石（3mm以下）が混入
4.黄褐色土（10YR5/6）粘性あり、しまりあり

SX 1
1.黒褐色土（10YR2/2）粘性少なく、しまりあり。炭化物(3mm以下）や小石（2mm以下）が少量混入
2.黒褐色土（10YR2/3）粘性少なく、固くしまる。小石(3mm以下）が混入する。
3.黒褐色土（10YR3/3）粘性あり、しまりあり、炭化物(3mm以下）混入
4.黄褐色土（10YR5/6）粘性あり、しまりあり

第17図　土　坑（6）

第2表　土坑観察表

遺構番号	挿図	地区	形態	規模(cm) 上端	下端	深度	出土遺物 土器		石器	
1	12	H−17	円形	77× 80	70× 70	9	18	2c類,2d類,6e類	1	RFチャート1
2	12	H−17	円形	66× 70	50× 50	17	2	2類		
3	12	H−17	円形	89× 90	68× 70	19	14	3b類,3d類,3f類	5	磨製石斧1,石鏃1,フレーク1,磨石2
4	12	H−17	円形	63× 65	尖底	48	0			
5	12	H−17	円形	45× 50	20× 25	17	0			
6	12	H−16	円形	75× 75	60× 65	9	0			
7	12	H−16	円形	36× 40	15× 20	13	0			
8	12	H−16	円形	34× 35	20× 20	7	0			
9	12	H−16	円形	46× 45	30× 30	10	0			
10	12	H−16	円形	22× 25	18× 20	14	0		1	フレーク1
11	12	G−16	円形	60× 75	53× 48	62	21		2	フレーク1,RFチャート1
12	12	G−16	円形	76× 81	59× 55	46	12	2c類,3f類,2d類	1	フレーク1
13	12	G−16	円形	80× 77	60× 56	34	1	2c類		
14	13	G−16	円形	72× 79	65× 58	39	15	6類,5類,3f類,2d類	2	石鏃1,凹石1
15	13	H−15	不定形	86×115	尖底	36	3			
16	13	H−15	不定形	81× 95	25× 30	34	1			
17	13	G−17	不定形	67× 63	55× 55	31	1	2c類		
18	13	G−17	不定形	87× 88	60× 68	44	3	2c類		
19	13	G−17	不定形	77× 75	68× 64	36	15	5類,2d類		
20	13	G−17	楕円	111×160	101× 90	65	40	3f類,2d類	31	凹石1,打製石斧1,石鏃1,スクレーパー1,チップ13,フレーク14
21	13	G−17	円形	94× 88	64× 62	71	7	2c類,3f類,6d類	1	凹石1
22	13	G−16	楕円	120× 87	109× 84	21	2	不明		
23	13	G−15	円形	89× 90	60× 60	29	14	2c類,3f類,6d類		
24	13	G−17	楕円	75×168	56× 90	20	4	2d類	3	凹石3
25	14	F−17	円形	59× 50	36× 32	23	0			
26	14	F−17	楕円	70× 89	58× 72	16	0			
27	14	F−17	円形	87× 80	78× 69	50	5	2d類,3f類	3	磨石2,フレーク1
28	14	F−17	円形	54× 55	42× 44	13	0			
29	14	F−17	円形	87× 80	58× 54	40	23	2d類,3f類		
30	14	G−17	円形	89× 94	尖底	90	16	2d類	1	フレーク1
31	14	G−14	楕円	70× 80	60× 70	21	0			
32	14	G−16	楕円	78×143	78×131	17	1		3	石錘1,フレーク1,UF1
33	14	F−14	楕円	122×104	103× 87	40	12			
34	14	F−14	円形	69× 64	63× 58	25	0			
35	14	F−14	円形	78× 85	72× 74	42	0			
36	14	F−14	円形	62× 54	53× 46	23	0			
37	15	F−14	不定形	67× 84	28× 76	39	22	2a類,2d類,5類,6e類		
38	15	F−15	円形	80× 89	75× 73	29	1			
39	15	F−15	円形	73× 78	62× 57	35	2	5類底部	2	凹石1,フレーク1
40	15	F−17	円形	95× 75	67× 49	55	0			
41	15	G−16	円形	50× 50	20× 20	36	0			
42	15	F−16	円形	45× 45	35× 35	19	1	1b類		
43	15	G−16	円形	43× 43	26× 22	22	0		1	磨石1
44	15	G−17	円形	83× 75	63× 71	59	8	2d類,3類,6e類	2	フレーク1,チップ1
45	15	G−17	円形	93× 86	73× 76	35	17	2d類底部		
46	15	G−17	楕円	85×120	81×111	51	11	2d類	3	磨石1,凹石1,チップ1
47	15	G−17	円形	57× 70	52× 55	28	0			
48	15	G−17	円形	85× 95	80× 84	40	8	5類	1	磨石1
49	15	G−17	楕円	11[illegible]× 83	71× 63	34	1		1	フレーク1
50	16	G−17	円形	71× 60	59× 50	15	1			
51	16	G−17	円形	69× 67	54× 50	15	7	2d類,6c類	1	フレーク1
52	16	G−17	円形	56× 59	45× 50	14	15	5類		
53	16	G−17	楕円	50× 46	39× 40	11	2	4類		
54	16	F−15	円形	138×112	116× 52	40	2	6e類		
55	16	F−14	円形	80× 73	55× 61	34	2			
56	16	F−14	円形	63× 62	53× 44	27	2	6e類	1	チップ1
57	16	F−14	円形	81× 75	63× 56	36	4	6e類		
58	16	F−14	円形	84× 85	71× 71	37	3		1	打製石斧1
59	16	F−14	円形	72× 72	63× 57	15	5			
60	16	F−13	円形	59× 67	48× 46	15	1			
61	16	F−13	円形	86× 85	65× 65	27	2			
62	17	F−13	円形	50× 50	35× 35	25	1			
63	17	G−18	円形	94×101	84× 93	70	0			
64	17	F−17	楕円	61× 51	49× 48	27	0			
65	17	F−17	円形	50× 46	40× 37	20	1	2d類		

第４章　遺　　物

第１節　遺物の概要と分類

約３万点の遺物が出土している。縄文土器、石器が主体を占める。縄文時代の遺物では他に琥珀製品や土製品などがある。そのほかには弥生土器、中近世陶器などが若干出土している。縄文土器は大きく２時期に分けることができる。縄文早期と前期末から中期初頭である。以下にその分類を示す。

Ⅰ群　早期末～前期初頭の土器群

１類　押型文系土器群

２類　前半期条痕文系土器群に属し、沈線によりモチーフを描く土器

３類　後半期条痕文系土器群に属し、刺突列によりモチーフを描く土器

４類　交互押圧の施された隆帯を持つ土器群
　４ａ類　外面に刺突列、内面に隆帯を持つ土器
　４ｂ類　１条の交互押圧を施した隆帯を持つ土器
　４ｃ類　２条以上の交互押圧の施された隆帯を持つ土器
　４ｄ類　口唇に交互押圧状の施文がみられる他には施文がみられない土器

５類　一方向から刻まれた隆帯を持つ土器群
　５ａ類　口縁直下に１条の隆帯を持つ土器
　５ｂ類　不整形な複数条の隆帯を持つ土器
　５ｃ類　複数条の高隆帯を持つ土器
　５ｄ類　複数条の低隆帯を持つ土器

６類　刺突列や隆帯によりモチーフを描く薄手硬質な土器群

７類　縄により施文された土器群
　７ａ類　縄文が施された土器
　７ｂ類　絡状体圧痕文が施された土器

８類　Ⅰ群に属する底部

II群　前期末～中期前半の土器群

1類　前期末の土器

2類　半截竹管文を施す北陸系の土器群

2ａ類　キャリパー形のもの

2ｂ類　口縁が外反するもの

2ｃ類　円筒形のもの

2ｄ類　器形不明の胴部破片

3類　大きめの連続した爪形文や特有の粗い縄文で施文する薄手の西日本系の土器群

3ａ類　貝殻腹の押圧文を施す土器

3ｂ類　貝殻先端部による連続刺突を施す土器

3ｃ類　円形刺突を施す土器

3ｄ類　施文方法は同じだが厚手の土器

3ｅ類　酒杯状突起

3ｆ類　その他の胴部破片

4類　貼付隆帯上に連続した爪形文を施し三角刺突や玉抱き三叉文を施文する東海系土器群

5類　三角刺突や半截竹管文で施文し胎土に金雲母を多量に含む関東系の土器群

6類　縄文のみで施文される土器。

6ａ類　口縁部から頸部にかけて斜縄文を施し胴部は羽状縄文を施すキャリパー形の土器

6ｂ類　口縁部に半截竹管による調整を加えるもの。

6ｃ類　口縁部に段を形成するもの。

6ｄ類　粘土帯で口縁を形成し内面に縄文を施文するもの。

6ｅ類　その他の縄文施文の土器

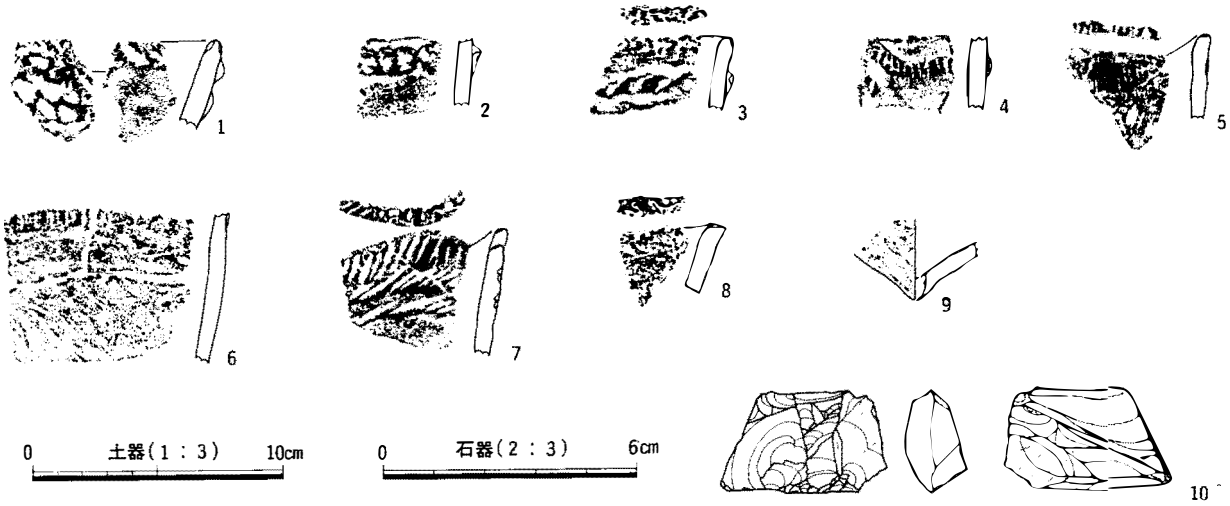
7類　その他の中期前半の土器

III群　後・晩期の土器

IV群　その他時期不明の土器

第２節　遺構出土の遺物

第１号住居跡出土の遺物（第18図　図版３）



第18図　第１号住居跡出土の縄文土器・石器

本遺構からは４～６類の胴部片が出土した。

１は繊維をわずかに含む比較的厚手の土器である。口縁端部の内外を刻んでいる。隆帯を２条貼付し、指頭状の交互押圧を施している。２は隆帯をアナダラ属の貝殻腹縁で深く刻んだもので、隆帯の大半がつぶれている。３は比較的高い隆帯を貼付し、右上がりの斜位に深く刻んでいる。口唇部には貝殻腹縁状の刻みが施されている。４は繊維をほとんど含まない硬質な土器である。低隆帯を波状に貼付し、細かい刻みを施している。一部には隆帯の端部が観察され全周しない隆帯が貼付されている可能性もある。５は繊維の混入が少ない比較的厚手の土器である。口縁に沿って３条の刺突列を施文しているが、２、３条目は斜位に連続的に施文しており、凹線文状を呈する。６、７は図示外にも同一個体が多く、本遺構で最もまとまっている。繊維をわずかに含み焼成は不良である。口縁は波状で端部を面取りし浅く刻んでいる。外面には浅い連続的な刺突列が施されている。接合部が少なく不明だが、１条目は口縁に平行、２条目は波状、最下段は水平に施文されているものと推定される。８は繊維を含む無文土器であるが、刺突が施されている可能性もある。口唇部には浅い刻みが施されている。９は底部で繊維をわずかに含む。

このほかには無文の胴部破片が多数出土した。繊維の混入が少なく、比較的硬質で上記の土器の胴部片に類似したものであろう。以上本遺構出土土器は入海Ⅱ式から塩屋中層Ａ式にほぼ収まる。現段階では混在として考えられるが、これらの土器が過渡的段階として共存した可能性も否定できず、今後検討を要する。

10は UF で、石質はチャートである。側辺部に衝撃によるつぶれが見られる。

第２号住居跡出土の遺物（第19図　図版６）

約50点の土器片が出土している。そのほとんどが直径３センチ以下の胴部小片である。文様等が確認できるものは、Ⅱ群２類が４点、Ⅱ群７類が２点である。RL の斜縄文を施した大きめの胴部破片が

あるが同一個体と思われる。口縁部近くの破片形状から6ｃ類の口縁に段を有する土器の可能性もある。第19図1と2はII群2類の土器で同一個体である。1は緩やかに内湾するキャリパー型土器の口縁部付近で口縁部外面を横位に半隆起線を巡らせその下頸部までを縄文地に間隔をおいて沈線を縦に引く。北陸系土器に特有の突起部が見られる。2はその胴部である。新保式の新しいものまたは新崎の古い段階のものか。

3は「く」の字状に屈曲する口縁をもち細い粘土紐による貼付隆帯で区画しその内部に沈線で格子目文を描く。頸部下には目の粗いRLの縄文を施し細い並行沈線を縦に引いている。4は帯状に粘土を貼付した上を箆状工具によると思われる短沈線で連続して刻み、その下は平行沈線が横走する。

6は上下端につぶれ状の剥離痕がみられる。

第3号住居址出土の遺物（第20図・21図　図版6）

約100点の土器片が出土している。そのうちII群の土器は2ａ類が1点。2ｄ類が8点。3類が3点。4類が1点。8類が2点である。そのほかは無文または縄文の小破片である。

1は2ａ類の土器である。口縁内面を肥厚させ内湾気味の口縁部を持つキャリパー形の土器である。地文にRLの縄文を施し、その上を半截竹管による半隆起線や平行沈線によって施文する。突起から粘土紐が懸垂する。口縁端部は半截竹管によって丁寧に地文縄文が擦り消され、その下部に3本の半隆起線が横走する。さらにその下は半截竹管による平行沈線で施文される。胴部については不明であるが同一個体の可能性が高い2、3から胴部は縄文が施されるのかも知れない。口縁内面には煤が付着している。

4・5は3類土器の口縁部である。共に薄手で大きめの爪形文を施す。5の爪形文は直線的である。

6は4類土器である。双頭波状口縁を持ち地文にRLの縄文を施しその上に半截竹管による半隆起線と爪形文、三角刺突、三叉状の楔形文などを施文する。胎土は灰黄褐で焼成堅緻な東海地方に主体を持つ土器特有のものである。内面は丁寧になで調整される。口縁内面を肥厚させ面を形成する。

8も4類土器である。6同様双頭波状口縁と思われる。口縁部は2条の貼付隆帯上に爪形文を施文する。頸部も2ないし3条の貼付隆帯上に爪形文を施文する。その間は無文であると思われる。頸部隆帯上の爪形文は途中から垂下し始めるがその後の文様展開は不明である。胴部は細い半截竹管によって集合沈線文が幾何学的に施される。頸部の隆帯直下には三角形状の模様が展開される。胎土は灰黄褐で器壁は5ミリと薄手である。口縁内面はその直下で面を形成している。

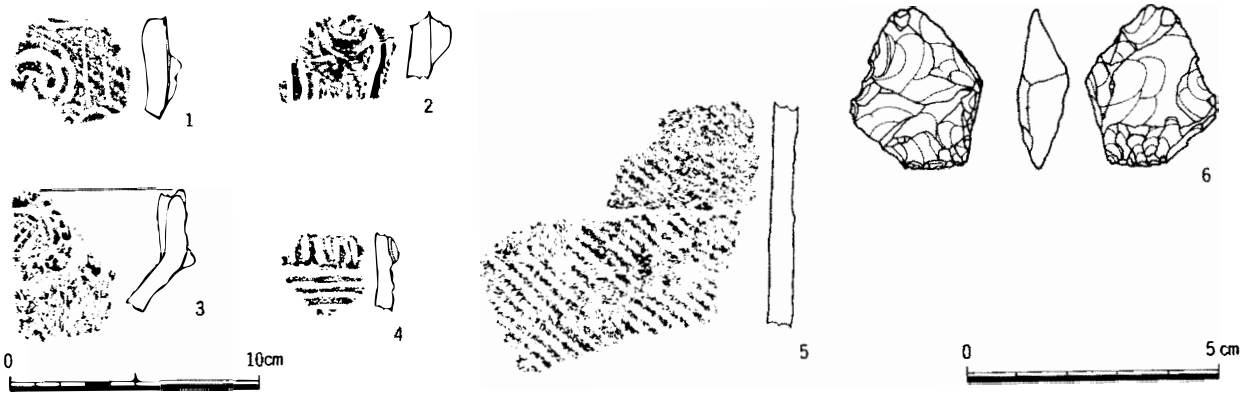
7は第3号住居跡内のピット4から出土した6ｄ類の土器である。口縁内面に粘土帯を貼付け縄文を施文した粗製土器である。

9は薄手で、文様はないが3類と思われる。10は6類。11は2類か。

石器は主なもの6点を図示する。（第22図　図版29）

1は先端角38°側縁部の形状が凸状になる。基部の抉り込みは6㎜と深く円形を呈する。2は先端角が39°側縁部の形状が凸状になる。全体が丁寧に二次加工され、基部は「く」字状に抉り込まれている。3は先端角が85°と比較的広い。側縁部の形状は直線状であり、基部は円形の小さな抉りを呈している。先端部のには使用による小さな剥離が見られる。4は貝殻状剥片を利用し、抉りが施されている。5は基部と錐部を丁寧に作出している。24㎜の錐部の側辺にはつぶれが見られる。錐部先端部の断面は

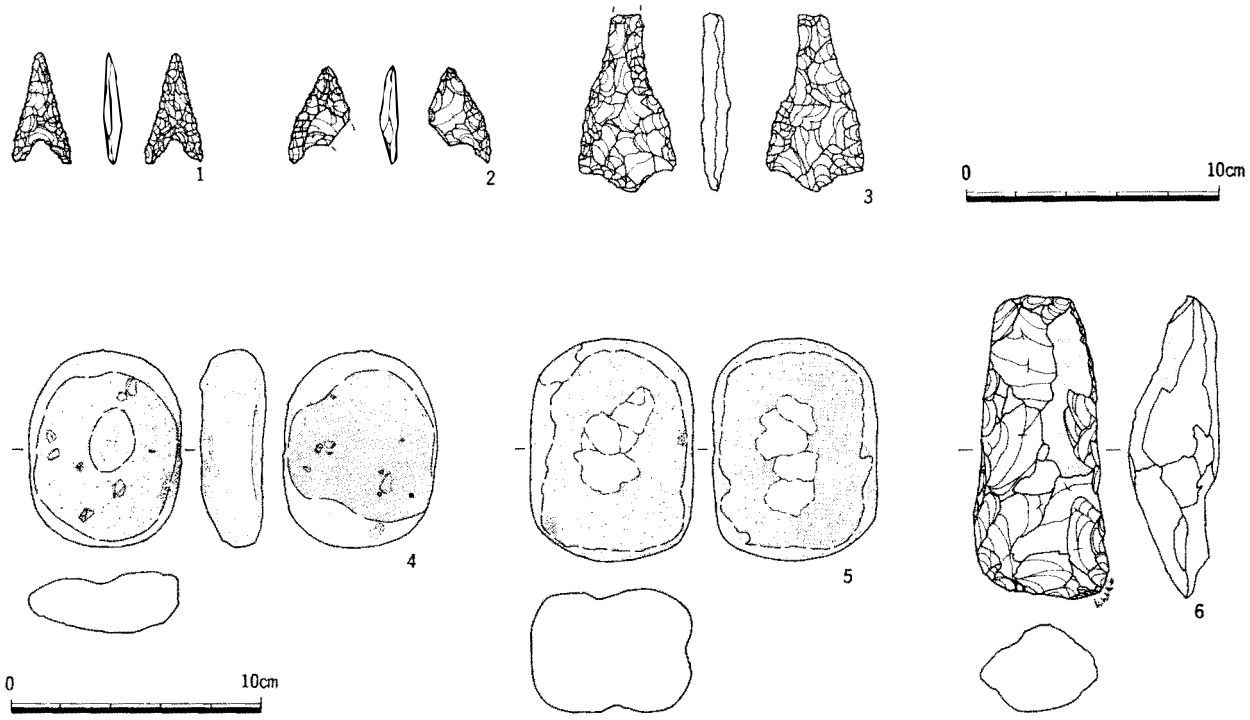
三角状を呈し、中央付近では菱形を呈している。石質はチャートである。６は両側辺が折られ、下端部には刃こぼれが見られる。７は節理面を持ち剥離作業が行われている。８は風化がはげしい凝灰岩の凹石である。中央がわずかに凹を呈している。



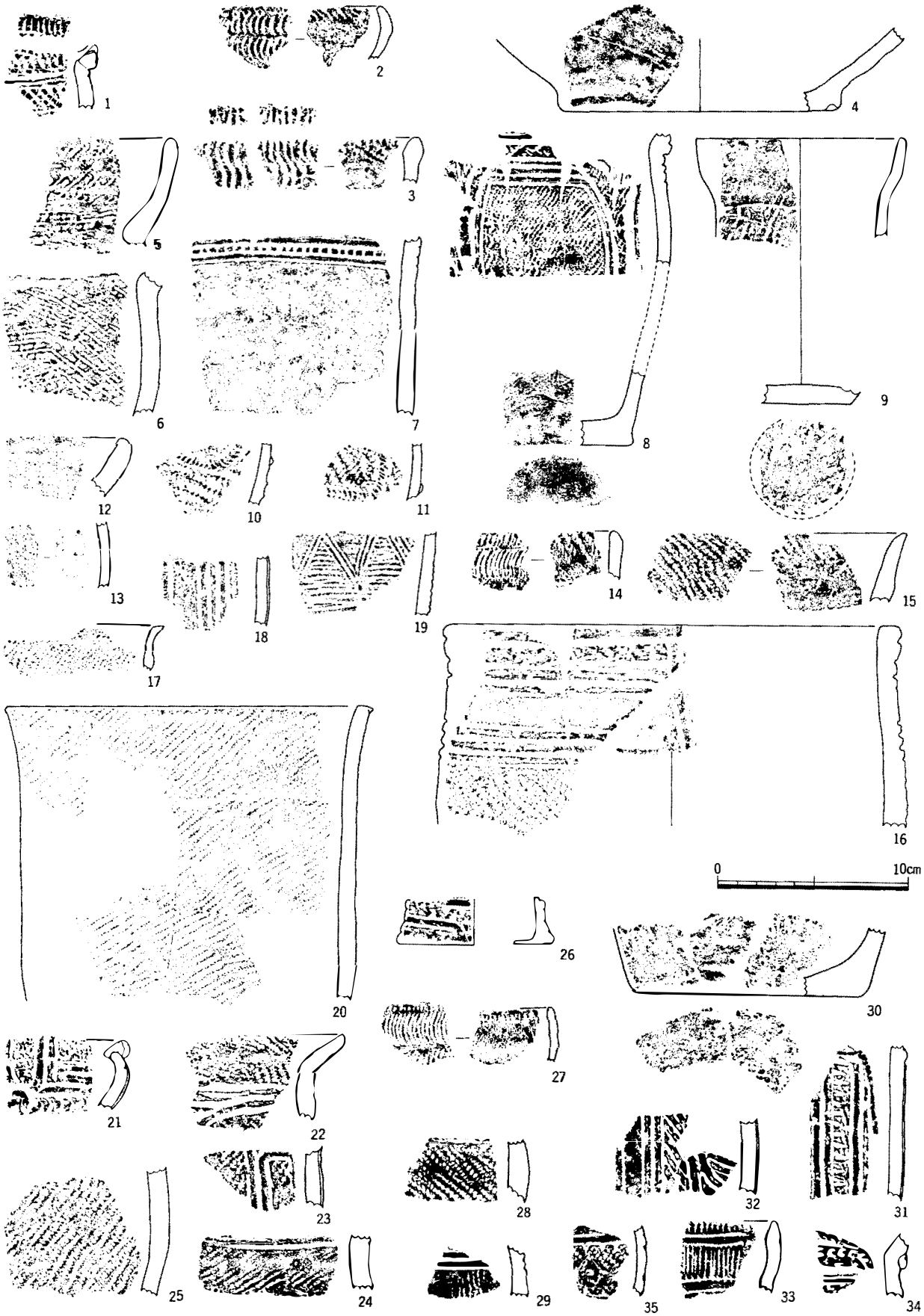
第19図　第２号住居跡出土の縄文土器・石器

第20図　第３号住居跡出土の縄文土器

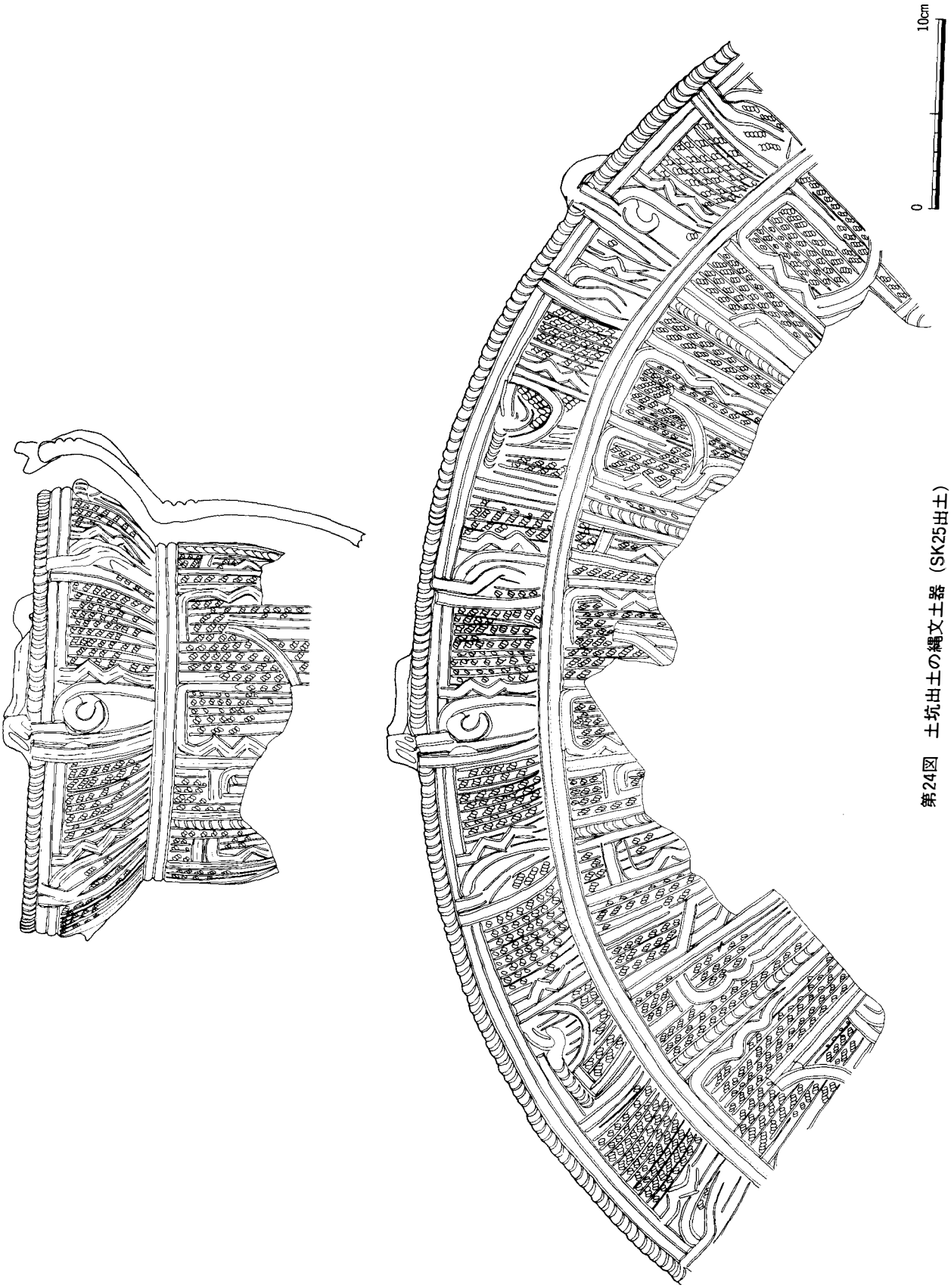
第21図　第3号住居跡出土の石器



第22図　土坑出土の石器



第23図　土坑出土の縄文土器



第24図　土坑出土の縄文土器（SK25出土）

土坑出土の土器（第23図・24図　図版６・７）

65基の土坑のうち遺物が出土していない土坑は20基である。45基の土坑からは何らかの遺物が出土している。土器についてはＩ群（早期末～前期初頭）とII群（前期末～中期前半）が同一土坑内から混在して出土している場合が多いが、ここでは新しい時期の土器がその遺構の時期を決定すると考えＩ群土器は除外した。したがって分類記号等はII群土器についてのものである。

SK１

２ｃ類木目状撚糸文を持つ土器の破片が１点。２ｄ類が１点。６ｅ類が２点出土している。木目状撚糸文土器は第32図26の土器の破片である。

SK２（第23図１）

２類が１点と不明土器小片が１点出土している。１は口縁内面に撚糸圧痕文を施す。口縁は粘土を貼付け肥厚させその上を短い箆状工具によって爪形状に刻む。細い半截竹管によって区画された中を格子目状に沈線を施す。中期初頭の新保式のなかでも古い様相を持つものと思われる。

SK３（第23図　２～４）

３ｂ類が１点。３ｄ類２点、同一個体である。３ｆ類が３点。底部が１点出土している。２は３ｂ類で口縁外面に連続爪形文、内面にRLの縄文を施す。３は３ｄ類で口縁にＣその下には逆Ｃ字形の爪形文を施す。４は浅鉢の底部か。一端内傾し立ち上がる。

SK12

２ｃ類木目状撚糸文を持つ土器の破片が１点。３ｆ類の小片が10点余り。２ｄ類が５点出土している。木目状撚糸文土器は第32図26の一部である。

SK13

２ｃ類木目状撚糸文を持つ破片が１点出土している。第32図26の一部である。

SK14（第23図　５・６）

６類の土器。５・６は同一個体と思われる。５は口縁部で６はそれに続く胴部。縄文は０段のＲ（ｒｒ）の縄に同じく０段のＲ（ｒｒ）の細い縄を巻き付けた縄巻縄文である。口縁から頸部にかけてと胴部の施文方向を変化させている。他に３ｆ類が１点、２ｄ類が４点出土している。内１点は木目状撚糸文である。SK19の５類土器と接合する１点が出土している。

SK17（第23図　７）

２ｃ類が２点。同一個体である。胴部破片で無文部の上に３条の半截竹管による半隆起線を引き中央の半隆起線に爪形文を施している。

SK19（第23図　８・９）

本土坑から３点出土し図のように接合した。SK14からも１点出土し接合する。H17・G17グリッド包含層からも同一個体が出土し一部接合している。小型の深鉢である。胴部が緩やかに膨らむ。口縁部の形状は不明であるが外反する可能性がある。胴部は半截竹管による半隆起線で縄文を区画するＹ字状の懸垂文はおそらく４単位である。Ｙ字状文と頸部で横走する半隆起線には縄文が残される。縄文原体はLRの縄文に２ケ所別の条で縛った原体を使用したと思われる２列の結び目回転痕が残る。胎土は緻密で均一である。灰黄褐を呈し金雲母を含む。５類の五領ケ台式土器と思われるが他の同類

土器に比べ胎土色が異質である。同一個体と思われる底部がE13グリッドから出土し図上復元を試みた。底面は滑らかに調整される平底である。やや内傾して立ち上がる。２ｄ類の小片が５点出土している。９は６類だが口縁部は無文で小型のキャリパー形深鉢である。

SK20（第23図　10・11）

３ｆ類が12点出土している。粘土紐貼付上に爪形文を施文し、目の粗い特有の縄文を地文とする土器である。10・11は粘土帯上の爪形文は幅８ミリで他の同類土器に比べ繊細である。また地文縄文は莚状で当遺跡の３類土器の中ではやや異色の印象を受ける。２ｄ類が１点出土している。

SK21

２ｃ類木目状撚糸文を持つ土器の破片が１点出土している。木目状撚糸文土器は第32図26の一部である。２ｄ類が１点。３ｆ類が１点出土している。

SK22（第23図　12・13）

時期不明の土器が２点出土している。13は琥珀製品に伴って出土している。

SK23（第23図　14～16）

２ｃ類が１点。３ｆ類が２点。６ｄ類が１点出土している。16は２ｃ類で地文はRLの縄文でその上に半截竹管による半隆起線によって文様を展開する。口縁は半截竹管によって丁寧に整形される平口縁である。地文の縄文を残し２条の半隆起線が横走する。さらに無文帯を挟んで３条の半隆起線が再び横走し胴部の縄文部となる。口唇直下から半隆起線が垂下し、横走する半隆起線とで無文帯を区画している。器形は胴がやや膨らむ筒形と思われる。14は３類。15は６類である。

SK24

２ｄ類が３点出土している。

SK25（第24図）

２ａ類が１個体出土している。胴下半が切り取られたように残存しないが胴部から口縁部までの遺存状態は良い。胴が緩やかに膨らむキヤリパー形の器形で半截竹管による半隆起線と爪形文によって施文する。地文はRLの縄文である。頸部と胴部は２条の半隆起線で区切られる。口縁部は３条の半隆起線が横走し、口唇の半隆起線に爪形文を施す。口唇には２個の突起が付くが対称とはならない。口縁部には８個の突起が付くが割付けは均等でない。突起の意匠は口唇の突起下、その左右、さらにその左右が同じである。どの突起にもB字状の蛇行する懸垂文が付く。口縁部の８個の突起間は地文の縄文を残した半截竹管による集合沈線を充塡する。胴部は垂下する爪形文を伴う半隆起線によって４分割される。４分割された３面はB字状文の先端が上方に向かって跳ね上がる。１面のみ異なった文様展開となっている。新崎式土器である。

SK27（第23図　17～20）

２ｄ類が１点。３ｆ類が５点出土している。17は３ｆ類で外反する口縁部付近である。19は５類か。20は６類である。

SK29

３ｆ類が６点。２ｄ類が１点出土している。

SK30

２ｄ類の土器が２点出土しているが。５類の土器である可能性もある。

SK37（第23図　21～25）

２ａ類が１点。２ｄ類が１点。５類が２点。６ｅ類が１点出土している。21は２ａ類の土器で口縁に粘土紐を付加し内面に面を形成し内湾させている。文様は半截竹管による半隆起線と集合沈線によって構成される。24と25は胎土に金雲母を含む厚手土器で胎土から５類と判断した。22は胴部が膨らみ口縁部は開く器形。内面は丁寧に撫で調整が施される。

SK39（第23図　26）

５類と思われる土器底部。半截竹管の半隆起線と楔形刺突を交互に施す。薄手である。

SK44（第23図　27～29）

27は３類口縁部。28は６ｅ類。29は２ｄ類で撚糸文を施す。

SK45（第23図　30・31）

30は底部。31は２ｄ類。

SK46

２類ｄ１点

SK48（第23図　32～34）

５類が５点。全ての胎土に金雲母を多く含む。32は半截竹管によって集合沈線文をなす。33は爪形文を意識したと思われる施文方法を持ち口唇も刻む。34は貼付した粘土紐上に刺突を連続させる。頸付近の破片である。底部１点。おそらく５類のものであろう。

SK51

２ｄ類１点。６ｃ類２点。

SK52

５類１点

SK53（第23図　35）

４類が１点。玉抱き三叉文と楔形三角刺突を施す薄手の土器である。

SK54号

６ｅ類２点

SK56

６ｅ類２点

SK57号

６ｅ類４点

SK65

２ｄ類１点

（伊藤秀雄）

土坑出土の石器（第22図１～６　図版29）

１はSK14より出土。先端角が33°側縁部は直線状抉り、基部は「く」の字状抉り込みを呈する。石質はチャート。２はSK20より出土。脚部を欠損する。貝殻状剥片を素材とした剥離調整が施され、先端角55°側縁部は凸状を呈する。３は錐部の先端が欠損してSK32より出土。全体に丁寧な調整を行い基部の底部に茎を呈する。錐部にはつぶれが見られる。４はSK20より出土。石質は凝灰岩。６面全面に擦り面を施し、凹部が表に３ケ所、裏に４ケ所、側面に２ケ所ある。５は凝灰岩。SK58より出土。背面に自然面を残す。６の刃部は２次加工の調整が行われている。（上出巳吉）

第3節　包含層出土の土器

1．Ⅰ群　早期の土器

1類　押型文系土器群（第25図1～3　図版3）

本類は図示した3点が全てである。1、2は繊維を含まない硬質な土器で、西田遺跡ⅠA－2類段階である。(谷口他1997) 1は頸部破片で比較的広い無文帯持つ。2単位の穀粒状の楕円文が密に並んだ原体で施文している。3は繊維を含むやや厚手の土器で、西田遺跡ⅠA－3類段階である。口縁端部をやや内削ぎ気味に面取りしている。原体は2単位の穀粒状の楕円文で、上段に重複して下段を施文している。

2類　前半期条痕文系土器群に属し、沈線によりモチーフを描く土器群（第25図4～8　図版3）

4～8は円棒状工具による沈線でモチーフを描く土器で全て同一個体と思われる。繊維と長石（最大4㎜）を含む。7、8の内面に貝殻条痕文が残る他は内外とも器面調整は平滑である。5、7はわずかに外反している。4、5は平行する沈線により文様帯を区画し、区画内に縦位の集合沈線を充塡している。区画線上2カ所に円棒状工具端部による不明瞭な刺突がみられる。7は摩耗しており破片下端の施文の有無は明確ではない。本類は施文の特徴などから鵜ヶ島台式に比定される。

3類　後半期条痕文系土器群に属し、刺突列によりモチーフを描く土器群（第25図9～17　図版3）

粕畑式に比定される土器（9～14）と、併行期と思われる土器（15～17）がある。

9は酒杯状突起である。表面の摩耗が激しく施文や調整は不明である。10は口縁端部は角頭状を呈し、口唇部にヘラ状工具による刻みを施している。11は同じく口唇にヘラ状工具による刻みを施している。外面にはアナダラ属の貝殻腹縁による刺突列を施している。12、13は同一個体と思われる。台形状の波状口縁になると推定される。繊維を多量に含むが器厚が薄い(約6㎜)。内外に顕著な貝殻条痕が施されている。14は爪形の浅い連続的な刺突列が横位に施されている。また刺突列に直交するように幅1㎜ほどのキャタピラ状の圧痕が2条みられる。

15は繊維を含み焼成は不良で、黒褐色を呈している。口縁部は緩く外反し端部は肥厚する。口唇部は幅広の工具で深く押圧され、直下に2条の刺突列が施されている。刺突は不整形な板状工具で下方より施されたものと推定される。16、17は同一個体で、図示外にも同一個体は多い。繊維を含み焼成は不良である。円棒状工具端部で2条以上の刺突列が施されたもので貝殻条痕文もみられる。

4類　交互押圧の施された隆帯を持つ土器群（第25図18～35　第26図36～44　図版2・3～4）

4a類　外面に刺突列、内面に隆帯を持つ土器（18、19）

18、19は繊維を多量に含み焼成は不良である。同一個体もしくは類似した土器である。外面には口縁に沿って浅い爪形の刺突列を施している。口唇は指頭による押圧が施されている。口縁端部内面には高い隆帯が貼付されている。隆帯の上端から刺突し、前面から押圧してある。外面の施文は2b類に類似しており、上の山Ⅰ式に併行もしくは先行すると思われる。

第25図　遺物包含層出土の縄文土器（Ⅰ群）

４ｂ類　１条の交互押圧を施した隆帯を持つ土器（20～36）

本類は上の山Ｉ式に比定される。繊維を多く含む他、長石の細粒を含み焼成は全体的に不良である。20、21は同一個体で、口唇部を斜位に刻む。口縁直下に刺突列とその下段に隆帯を貼付し、交互押圧を施している。内面には浅い刺突列が施されている。22は器面調整が粗く擦痕も残る。隆帯への交互押圧は不規則で乱雑な印象を受ける。口唇を押圧し小波状に整形するほか、内面端部にわずかな爪痕が認められる。23は砂粒を多く含みやや硬質な土器である。器面はナデ調整され比較的平滑である。波状口縁で、口唇を指頭で押圧的に刻む。口縁直下に隆帯を貼付し、指頭で摘むように交互押圧したもので下方の圧痕には爪痕が顕著である。24は内面に貝殻条痕がみられる。口唇を指頭で押圧している。隆帯は口縁端部に貼付されている。25は口縁端部が角頭状を呈しており、口唇は外面端部に指頭により浅い刺突が施されている。隆帯への押圧は特に前面からが顕著である。26は器厚が６㎜と薄い。27は特に隆帯上端からの押圧が顕著である。29は口縁端部を外面から摘みながら押圧したものと看取される。30は外面の条痕文が顕著である。隆帯は細く、深い刺突により蛇行気味に貼付されている。31～34には内面端部に刻みが施されている。31の隆帯は端部がみられ全周していない。33は緩く外反する口縁内面に刺突列が施されている。隆帯は比較的太く、上下方向からの刺突は比較的浅い。34は口縁内面が短く外反し刺突列を施している。器面には粗い調整痕が残る。35は22に類似した土器であるが、隆帯への施文が整然と施されている点が異なる。ほぼ直行して立ち上がる。36は底部まで器形が判明する良好な状態で出土した。口縁は全周しないが緩い波状口縁になると思われる。胴部は楕円形になる可能性もある。胴部は下膨れで最大経は下半部にあり、乳房状の底部に至る。底面はわずかに面取りされ２㎝に満たない平坦面を持っている。内外面には部分的に貝殻条痕文が残る。また、補修孔が隆帯直下と胴下半部に穿たれている。

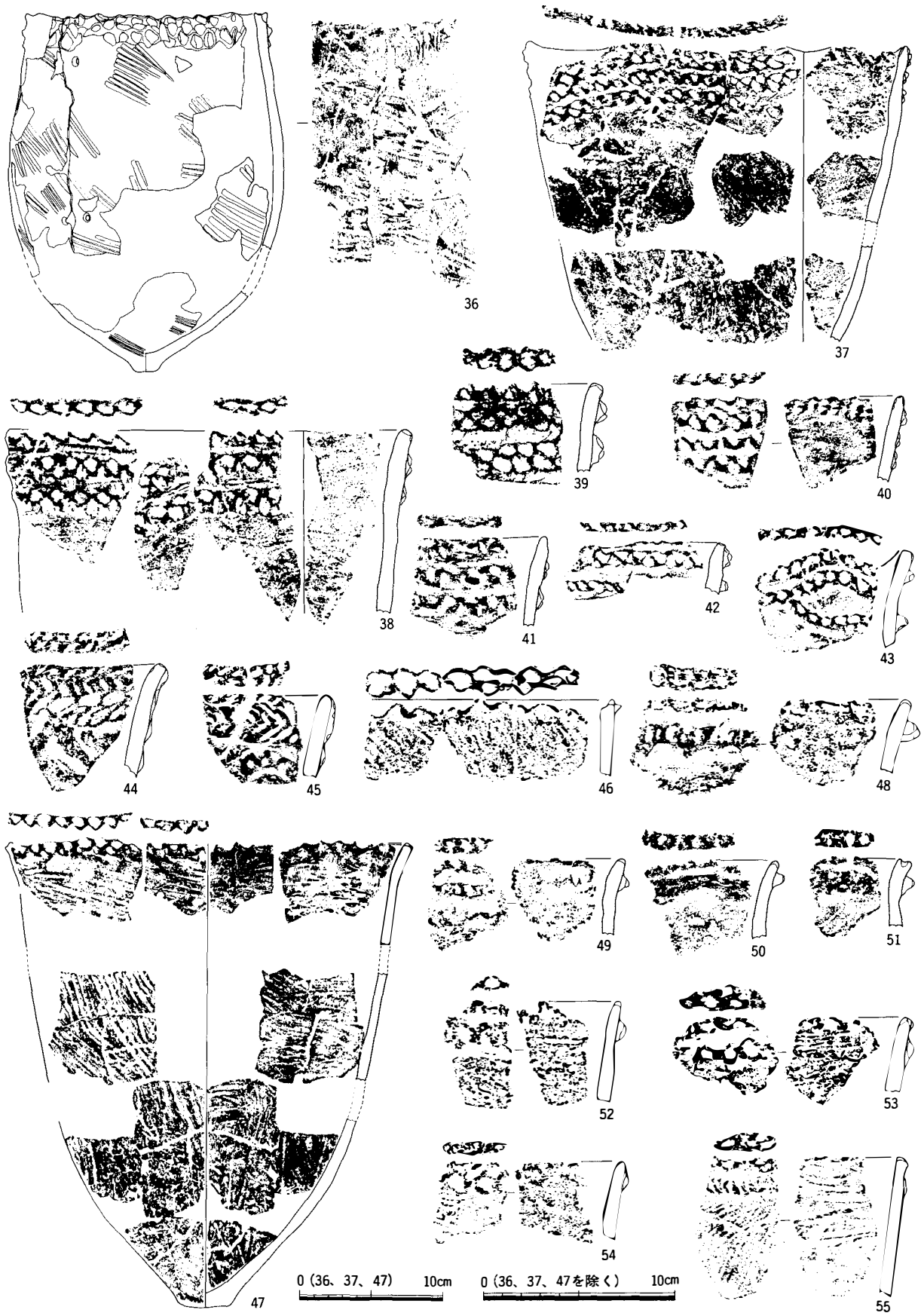
４ｃ類　２条以上の交互押圧の施された隆帯を持つ土器（37～45）

37～41は上の山II式に類似する。器形は37のように直線的に立ち上がると思われる。繊維を含むが37以外はその量は比較的少ない。口唇は押圧気味に刻まれ小波状を呈する土器が多い。37、40は口縁端部内面にも刻みが施されている。40は貝殻腹縁による刺突である。38には外面端部に爪形の刺突が施されている。隆帯は２～３条であるが、37の３条目は全周しておらず、従って他の土器の条数も特定はできない。隆帯上には特に前面から顕著な指頭押圧が施されており爪痕が残る土器が多い。

42～45は交互押圧以外の施文も用いられているもので、後出的な様相を示している。42は２条の隆帯がみられるが下段の隆帯は円棒状工具側面による刻みが施されている。43は波状口縁で波頂部にモチーフを描いている。１条目の隆帯は交互押圧でないが、下段の隆帯は交互押圧を施しているほか、口縁端部にも交互押圧が施されている。44、45は同一個体で、幅広の隆帯に羽状の刻みが施されたものである。その下の隆帯は波状に貼付されている。下位の隆帯への刻みは単一方向からのものである。

４ｄ類　口唇に交互押圧状の施文がみられる他には施文がみられない土器（46、47）

二股貝塚のIII群ｂ類に類似する。しかし、47には隆帯の剥離とみられる部分もあり、これらには交互押圧の施された短隆帯が貼付されていた可能性も否定できない。46は繊維を多く含み。内外面共に顕著な貝殻条痕文が施されている。口縁部で緩く外反する。底部は４㎝弱の小平底となる。



第26図　遺物包含層出土の縄文土器（Ⅰ群）

5類　隆帯を一方向から刻む土器群（第26図48～第29図122　図版4～5）

5a類　口縁直下に1条の隆帯を持つ土器（48～55）

隆帯の高さや刻み方にバリエーションがあり、時間幅があると思われる。48は繊維をほとんど含まない。高さの不揃いな隆帯が貼付され、貝殻腹縁により連続的な刻みが施されている。また、破片中央の隆帯上端には垂直方向に深い刺突が施され、隆帯の下端が膨らんでいる。口唇には貝殻腹縁による刺突が施されている。49は繊維を含みやや焼成が不良である。口唇と隆帯にヘラ状工具による刻みが施されている。50、51は白色砂粒を多く含み焼成は極めて不良である。口縁は短く外反している。隆帯上に不明瞭な刻みが施されている。口唇にはヘラ状工具で明確な刻みが施されている。52、53は白色砂粒を多く含み焼成は不良である。内面の貝殻条痕文が顕著である。52は隆帯にヘラ状工具で下方からなでるように刻みが施されている。53は口縁端部内外に刻みが施されている。54は器厚が6㎜に満たない薄手の土器である。口縁直下に偏平な隆帯が貼付され、ヘラ状工具で浅い刺突が施されている。55も器厚が薄く比較的硬質な土器である。内外面に条痕文が施されているが間隔が異なり、異原体の可能性もある。低い隆帯に細い刻みが施されている。

5b類　不整形な複数条の隆帯を持つ土器（56～70）

本類は56に代表される。隆帯は2条が主体で、比較的幅の広い隆帯を貼付している。ヘラ状工具による刻み（56～61）と貝殻腹縁による刻み（62～70）に細分される。本類は隆帯が多条化する過程にある土器群と思われ、入海Ⅰ式に先行もしくは併存する在地化した土器の可能性がある。

56は口径が27㎝と大型の深鉢である。ほぼ直行して立ち上がる。口縁は緩い波状を呈する。器面は粗くなでられており、外面では胴下半部から擦痕が顕著である。内面では胴下半部に貝殻条痕文が施されている。口唇部は棒状工具側面で深く刻まれている。隆帯は2条で密接に貼付され、深い刻みが施されている。隆帯の幅は不揃いで刻みも乱雑である。また、2条目の隆帯は一部で途切れている。57は56に類似した胎土と文様を持つ。58は2条の隆帯が密着し、肥厚口縁状に貼付されヘラ状工具により刺突気味の刻みがそれぞれに施されている。60は隆帯が連結する部分もみられることから何らかのモチーフが描かれていると推定される。一部に交互押圧文的な部位もある。61は器厚が薄く胎土も他と異なるため早期末葉の土器群にも類似する。2条目の隆帯は非直線的なモチーフを描いているもの思われる。

62は口縁に2条の隆帯を貼付し、1ヶ所に貝殻腹縁による刻みが施されている。63は2条の隆帯が口縁に平行に貼付され、口唇と隆帯を貝殻腹縁で刻んでいる。内外面に条痕文が施されている。本類の中では隆帯が整っている。64は器厚が6㎜に満たない。口縁直下に幅広の隆帯が2条密接に貼付され、貝殻腹縁で連続的に刻まれている。65～67は同一個体。口縁に平行して1条の隆帯が貼付され、65の破片では下段に波状の隆帯が貼付されたている。68は同一個体がSB1から出土している。面取りされた口唇と隆帯に貝殻腹縁で斜位に刻みが施されている。複数条の隆帯が貼付されたものと推定される。69、70は同一個体。幅広の隆帯が貝殻腹縁で押さえつけるように刻まれている。

5c類　複数条の高隆帯を持つ土器（71～102）

本類は概ね入海Ⅰ式に比定される。何れも繊維を少し含む他、長石の目立つ土器もある。器形は72

第27図　遺物包含層出土の縄文土器（Ⅰ群）

第28図　遺物包含層出土の縄文土器（Ⅰ群）

に代表される波状口縁と74に代表される平口縁がある。隆帯は口縁に平行に3～4条貼付され、波頂部にモチーフを描く土器もある。また、口縁端部や隆帯下位に刺突列を施す土器も存在する。

71～74はまとまって出土したもので胴上半部の器形が判明した。71は平面形は楕円形を呈する。ナデ調整であるが、内面には斜方向の擦痕が顕著である。口縁端部は内削ぎに整形されている。端部外面と内面にはヘラ状工具による刻みが細かく施されている。4単位の波状口縁である。隆帯は口縁に平行に3条貼付されるが、波頂部の1ヶ所では3条目の隆帯に短い隆帯が対弧状に貼付され、右隣の波頂部では3条の隆帯が「入字状」に連結されると共にはやり最下段には短隆帯が対弧状に貼付されている。隆帯にはいずれもヘラ状工具により深い刻みが施されている。72は繊維を多く含み焼成はやや不良である。4単位の波状口縁でいわゆる砲弾型の深鉢になるものと思われる。口唇には円棒状工具側面による刻みが施されている。口縁直下に3条の隆帯が密に貼付されている。隆帯にはヘラ状工具による刻みが隆帯に垂直な方向に施されている。73は72に器形や施文が類似している。やはり4単位の波状口縁になるものと思われる。4条の隆帯が口縁に平行して密接に貼付され、刻みはやや斜位に施されている。口縁端部外面と口唇には指頭による浅い刺突がみられる。端部を摘みながら施文したものと推定される。74も72に類似した胎土である。ナデ調整であるが、外面の隆帯より下には斜位の擦痕が顕著である。口縁部は残存部で判断する限り平縁だが、波状縁になる可能性も否定できない。口唇には浅い刻みが施されている。口縁部には4条の隆帯が口縁に平行して貼付され、ヘラ状工具により斜位に深い刻みが施されている。

75～95は以上4点の復元個体に類似した口縁部破片である。75には3条目の隆帯に交互押圧的手法も用いられており注目される。79は高さの不揃いな隆帯である。砂粒の混入が少ないなどやや異質な胎土である。80は2条の隆帯は口縁に沿って波状に貼付されるが、3条目は水平に貼付されている。82は比較的硬質な土器である。隆帯への刻みが深く、間隔も狭い。83は2条の隆帯が密接に貼付され、円棒状工具側面により下方より刻まれている。84～87は同一個体である。82と同様にやや硬質な土器である。波状口縁で口縁端部は尖頭状に整形される。口縁端部外面には連続的な刺突が施されているが、口唇は刻まれない。口縁に平行に4条の隆帯が貼付され、深く、押さえつけるように刻まれている。胴部外面には縦方向の擦痕、内面には横方向の擦痕が観察される。88、89は同一個体。繊維の混入が少なくやや硬質な土器である。隆帯は断面三角形を呈し、頂部を斜位に刻んでいる。口縁端部内面にも刻みを施している。90、91は同一個体と思われる。細隆帯を3条貼付し、細い刻みを施している。繊維の混入は少ない。95は破片は多いが、剥離や摩耗した破片が多く詳細は不明である。96は精緻な土器である。比較的低い隆帯上を貝殻腹縁状の工具で浅く刻んでいる。

97～102は刺突列文が併用されたものである。97は3条の隆帯と2条の刺突列を併用している。隆帯は上2条と3条目の間隔が異なる。また、隆帯への刻みが右下がりなのに対して刺突列は右上がりに施されている。尚、口縁端部の刻みも右上がりに施されている。98、99は同一個体と思われる。3条の隆帯を口縁に平行して貼付し、下段に2条の刺突列を施文している。隆帯の刻みと刺突は同一手法である。100は焼成が不良である。3条の隆帯の下部に指頭押圧状の圧痕が連続している。101と102は刺突の手法など他と異なる。101は器厚が5㎜に満たない。口唇部に指頭押圧痕がみられる。隆帯の上端を刺突したもので、隆帯下部には細いヘラ状工具の浅い刺突が広い間隔でみられる。102は口縁部に長く直線的な刺突が垂直に施される。口唇はヘラ状工具、隆帯は棒状工具側面で刻まれている。

5ｄ類　複数条の低隆帯を持つ土器（103～122）

本類は隆帯の形状などから概ね入海II式に比定される。106が復元された以外は破片のみで全貌は不明であるが波状文を描く隆帯が多くみられる。確認される隆帯は4～5条が主体となる。

103はまとまって出土したが、焼成が不良で摩耗が激しく接合部が少ない。繊維の混入は顕著でない。口縁は直行して立ち上がり、端部は丸頭状を呈する。口唇部は無文で、口縁端部外面には浅い刺突列が施されている。隆帯は5条が口縁に平行して貼付されている。104は胎土など103に類似する。■唇部への刻みを有する点が異なる。口縁部は緩い波状を呈し、隆帯の上3条はこれに平行するが下2条は水平に貼付されているようである。105は器厚の薄い土器で、砂粒や繊維の混入も顕著である。波状口縁で■唇部と端部外面を刻んでいる。隆帯は5条で、上4条が口縁に平行し、下1条は波状文を描いていると思われる。106は4単位の波状口縁になるものと推定される。繊維を多く含み、やや硬質である。内外共に擦痕が顕著である。口縁はわずかに外傾しながら立ち上がる。口唇部と端部外面を連続的に刻んでいる。隆帯は4条で、上3条は口縁にほぼ平行し、下1条は波状文を描いている。

107～122は本類に含まれる破片である。107と108、115と116は同一個体と思われる。繊維の混入は比較的少ない。口唇は（107は残存部が少なく不明だが）ほとんど刻みが施されている。口縁端部外面に刺突列を施すものが多く、107、110は2条、111、115には1条の刺突列がある。隆帯は偏平で下方から押さえつけられたようになる。口縁に平行する隆帯と波状文を描く隆帯が併用されているが、110は全てが波状文、111は2条目が波状文、114は下段が波状文を描く。120は連結するモチーフを描く。122のモチーフは不明である。隆帯以外に刺突列を施す土器もあり、110は隆帯間、114、116は隆帯下部に刻みを施している。

6類　刺突列や隆帯によりモチーフを描く薄手硬質な土器群（第29図123～129　図版5）

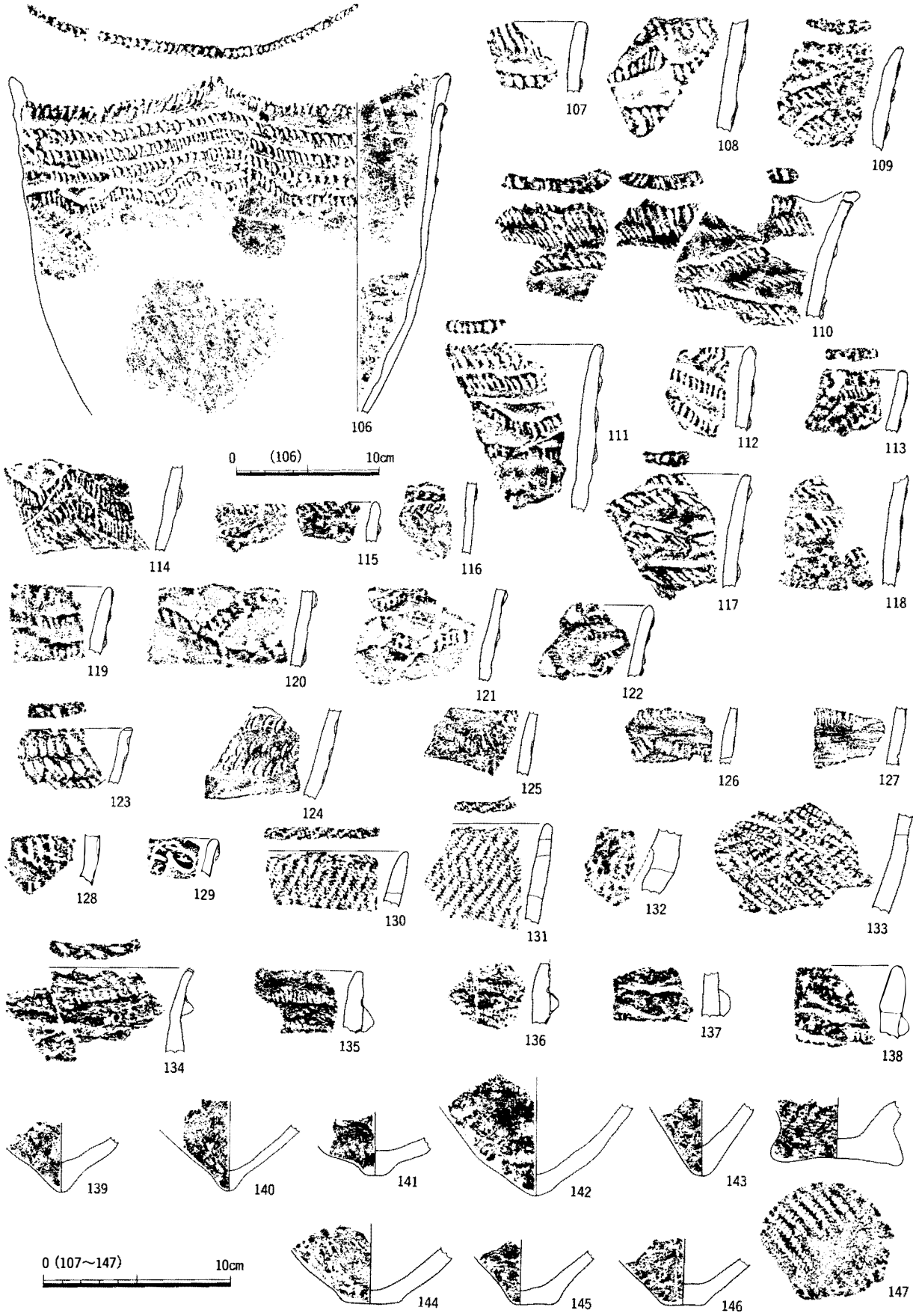
123～127は塩屋中層A式に併行する。123は3条の刺突列が口縁部に描かれている。3条目の刺突列は上2条と間隔や大きさが異なり、波状文などを描いている可能性がある。124は比較的厚いことや破片上端の剥離が隆帯の剥離であった可能性もあるため、別期に属する可能性も否定できない。125～127は細かい刺突が連続的に施されているため、一部では凹線状を呈しており、塩屋中層B式に類似する。128は短沈線気味の刺突が施されている。細かい砂粒の混入からザラザラした感じを呈する土器で、西田遺跡IIIC類に類似した北陸系の土器であろう。

129は細片のため詳細は不明だが、器厚の薄い土器に偏平な隆帯を貼付し、条痕もしくは棒状工具による側面圧痕を隆帯上に施している。木島III式以前の早期末に属する可能性がある。

7類　縄文の施文された土器（第29図130～133　図版5）

130、131は同一個体と思われる。繊維を含みやや硬質である。0段多条のLRの縄を横位に回転して施文している。口唇部にも同一原体により施文している。132も繊維を含みやや硬質な土器である。胴下半部片と思われ不均一な器厚である。これらは西■遺跡IVC－1類に類似し、早期に属する。

133は繊維を多く含む。一部で回転方向を転移させた羽状構成を持つ。前期初頭に属すると思われる。



第29図　遺物包含層出土の縄文土器（Ⅰ群）

8類　絡状体圧痕が施された土器（第29図134～136　図版5）

図示した3点が全てである。何れも比較的高い隆帯を貼付し、上下に細かい絡状体圧痕を施したものである。134繊維を多く含み、焼成は不良である。口縁は短く外反し口唇を円棒状工具側面で刻んでいる。口縁に平行して高い隆帯を貼付し、上端に沿って絡状体圧痕が施されている。器面が粗く、撚りなど詳細は判然としない。135は134より密な胎土である。隆帯の上下に絡状体を横位に押圧している。これらは形態的な特徴から早期後葉に属すると思われる。

尚、137、138は同一個体で134に胎土や隆帯の形状が類似する。絡状体圧痕など隆帯以外の施文はなく所属する時期は不明であるが、本類に近似した土器である。

9類　Ⅰ群に属する底部（第29図139～147）

底部を一括した。無文土器はいわゆる乳房状の尖底（139～143）と、小平底（144～146）がある。これらは2類土器の底部であろう。147は胴部と底面に縄文が施文される。繊維や砂粒を多く含む。

147は底面から大きく括れて胴部に至る。底面は内面がわずかに窪み、底面および外面には0段多条のRLの縄で施文されている。繊維を含む土器で前期初頭に属すると思われる。

3、縄文時代早期の五味原遺跡群における丸山遺跡

五味原遺跡群内では7地点から早期の遺物が出土している。前葉は少ないが中葉以降は連綿と継続した様相が確認されている。最後に遺跡群内における本遺跡の位置づけを5期にわけてまとめておく。

1期に属するのは中葉の押型文土器である。該期は牛垣内遺跡と西田遺跡から、特に樋沢・細久保段階の充実した遺物が出土した。本遺跡例は特に西田遺跡との関連が想定できる。

2期は鵜ヶ島台式である。条痕文系前半期は飛騨全体では、子母口式＝牛垣内、野島式＝江名子糠塚・田影、鵜ヶ島台式＝岡前、茅山下層＝牛垣内・藤原などで断片的に確認されているにとどまる。本遺跡例は交点刺突が明確ではなく、区画内に押し引き状の短沈線を充填する江名子糠塚、田影との関連が看取される土器で、鵜ヶ島台式の古段階として遺跡群内では単独に存在したと考えられる。

3期は粕畑式である。該期は西田遺跡からまとまって出土しているほか、牛垣内遺跡やたのもと遺跡でも出土するなど遺跡群内の広範な分布が確認されており、本遺跡もその中に位置付けられる。ただし、西田遺跡の土器と比較すると器厚などに相違が認められ、時間差の想定も可能である。

4期は隆帯文系（上ノ山・入海）段階で、本遺跡が遺跡群内の中心的な遺跡として位置付けられる。西田遺跡はこの段階は希薄で、遺物の分布はこの時期を境に西への移動が確認されるなど、一つの画期となっていた。本遺跡はまさしくこの間隙を埋める土器群として位置付けられる。調査した範囲では遺構は確認されていないが、廃棄状態での出土状況で数個体がまとまりをみせており、住居址などの存在が十分想定される。また、一般に上ノ山式→入海Ⅰ式→入海Ⅱ式の変遷が想定されるこの段階の土器群であるが、本遺跡例中には明確に位置付けることができない資料も存在しており、在地化した土器などは当地方での類例を待って再検討する必要がある。

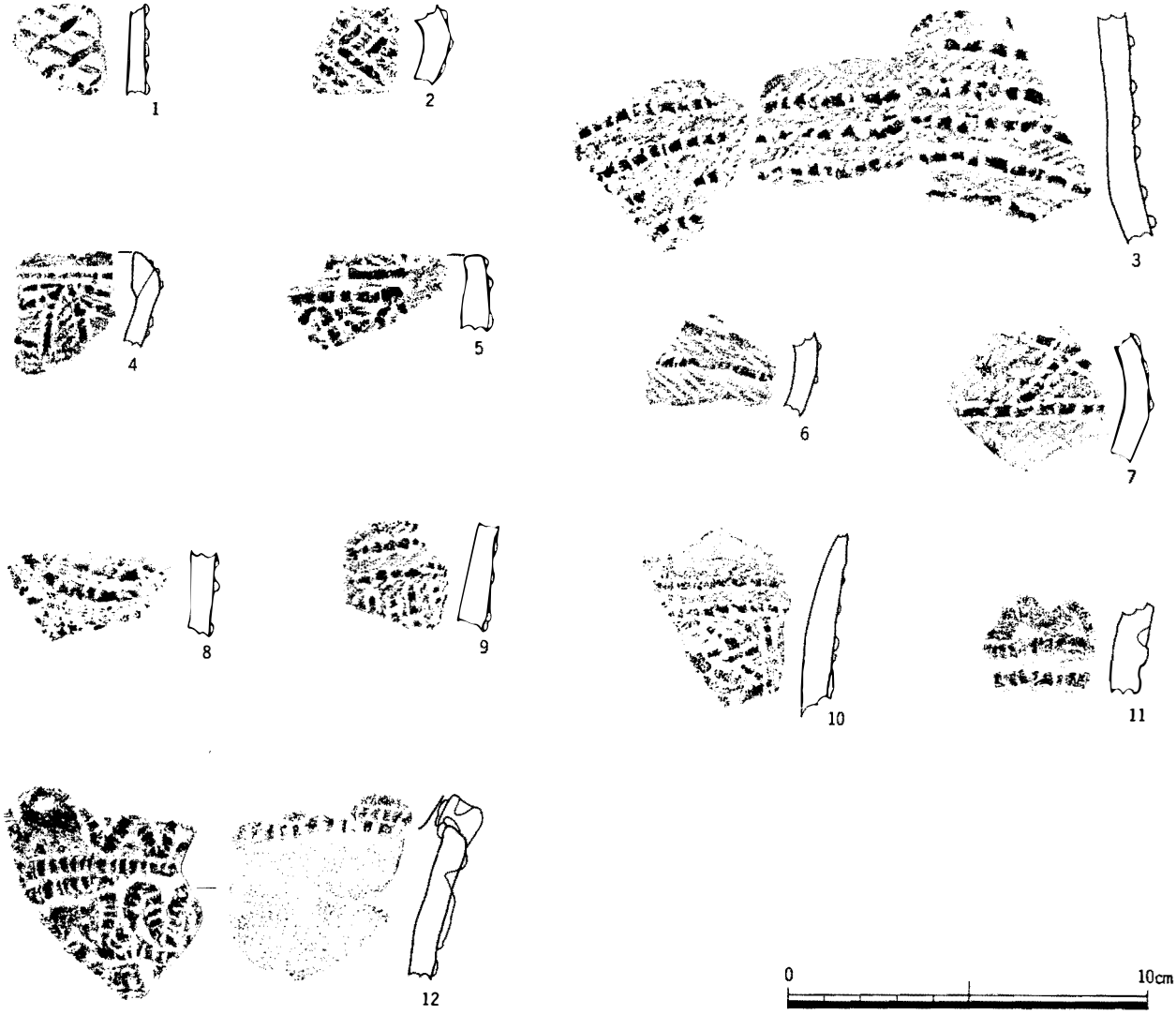
5期は薄手化が顕著となる段階で、再び西田遺跡で多数の遺物が確認されている。本遺跡の土器は数点を確認したにとどまるが、その主体は前段階の隆帯文系から刺突文系へ移行した直後の遺物に限られており、SB1もその過渡的な遺物が混在している点で注目に値しよう。　　（谷口　和人）

包含層出土土器

２．II群　前期末～中期前半の土器群

１類　前期末の土器（第30図１～12　図版８）

細い粘土紐を貼り付けた前期末の浮線文土器を一括した。１から11までは地文に縄文が施されている。１・２は粘土紐を格子状に貼り付ける。粘土紐上には半截竹管による押引は確認できないことからいわゆるソーメン状浮線文であるかもしれない。３から11は粘土紐上を半截竹管で押引く結節浮線文を有する。11と12は鋸歯状の印刻文を有する。粘土紐の幅が10までと比べ幅広となる。12は突起を持ち口唇に結節浮線文をジグザグに施す。口縁部破片で器形等の詳細は不明であるが石川県真脇遺跡５群土器に類似するものがある。本類土器は、結節浮線文によって施文される前期末の福浦上層式・鍋屋町式・十三菩提式などに共通する要素を持つものと考える。小片の資料であるため詳細は不明であるが施文方法から１・２、３～10、11・12に３細分できるかもしれない。



第30図　遺物包含層出土の縄文土器（II群）

2類　半截竹管文を施す北陸系の土器（第31図～34図　図版8～11）

新保式および新崎式土器である。口縁形態によって3細分し胴部その他の破片を一括した。口縁形態は直立するもを2a類、外傾するものを2b類、外傾内彎するキャリパー形のものを2c類とする。その胴部は円筒形となるものが多いことが破片などから予測される。半截竹管による半隆起線によって文様帯を区画するものが主体である。また、頸部から胴部にかけては半截竹管による半隆起線が垂下し、その起点には突起が付く。地文および胴部文様はいわゆる縄文の他に羽状縄文や木目状撚糸文が施される。

13は口縁形態から2c類に含まれる。幅約3㎜の細い半截竹管によって斜格子目状に施文する。斜格子目は斜めの半隆起線を施した後に薄い箆状工具によって細線を直行させて描かれる。口唇を外側にややせり出させ、口唇外面から内面へ撚糸文が施される。半截竹管による半隆起線の細さや口唇の撚糸施文などから新保式段階のものであると思われる。14は小片で詳細は不明であるが半隆起線の細さや斜格子目状の文様帯を口縁部に持つことなどから13と同様と考える。わずかに残存する口唇外面の貼付隆帯には連続爪形文が施される。

15は2a類で口縁が直立するものである。本類はこの1点のみである。口縁文様は上下3条の半截竹管文とそれに挟まれた無文帯で構成される。半截竹管による半隆起線の起伏がなく平坦である。最上部の半隆起線は刻まれている。無文帯に突起を持つ。突起から半截竹管による半隆起線が胴部上半まで垂下する。胴部は横位羽状縄文である。結束のある羽状縄文である。

16から29は2b類で口縁が外傾する。

16は胴部に縦位羽状縄文が施される。結束のある羽状縄文である。口縁外面の半隆起線による区画内には胴部同様の羽状縄文が確認できる。地文の羽状縄文を磨消して半隆起線を施文している。口縁部は半截竹管による半隆起線で区画される。頸部と胴部は半截竹管による押引きによって爪形文が施される。胴部に垂下する半隆起線があることから突起の存在が想定できる。口縁部の外傾は緩やかである。半隆起線の幅は約6㎜である。新崎式の中頃の段階のものか。

17は緩やかに外傾する口縁を持つ。口縁部に粘土を貼付して肥厚させる。口縁外面には楔状の刺突を連続して巡らせている。半隆起線は起伏が浅く平坦である。地文は確認できない。胴部は密接した縦位の半隆起線を施し瘤から垂下する半隆起線やB字形文を配する。半隆起線の幅は約6㎜である。胎土には直径2～3㎜の長石が目立つ。新崎式に比定される。

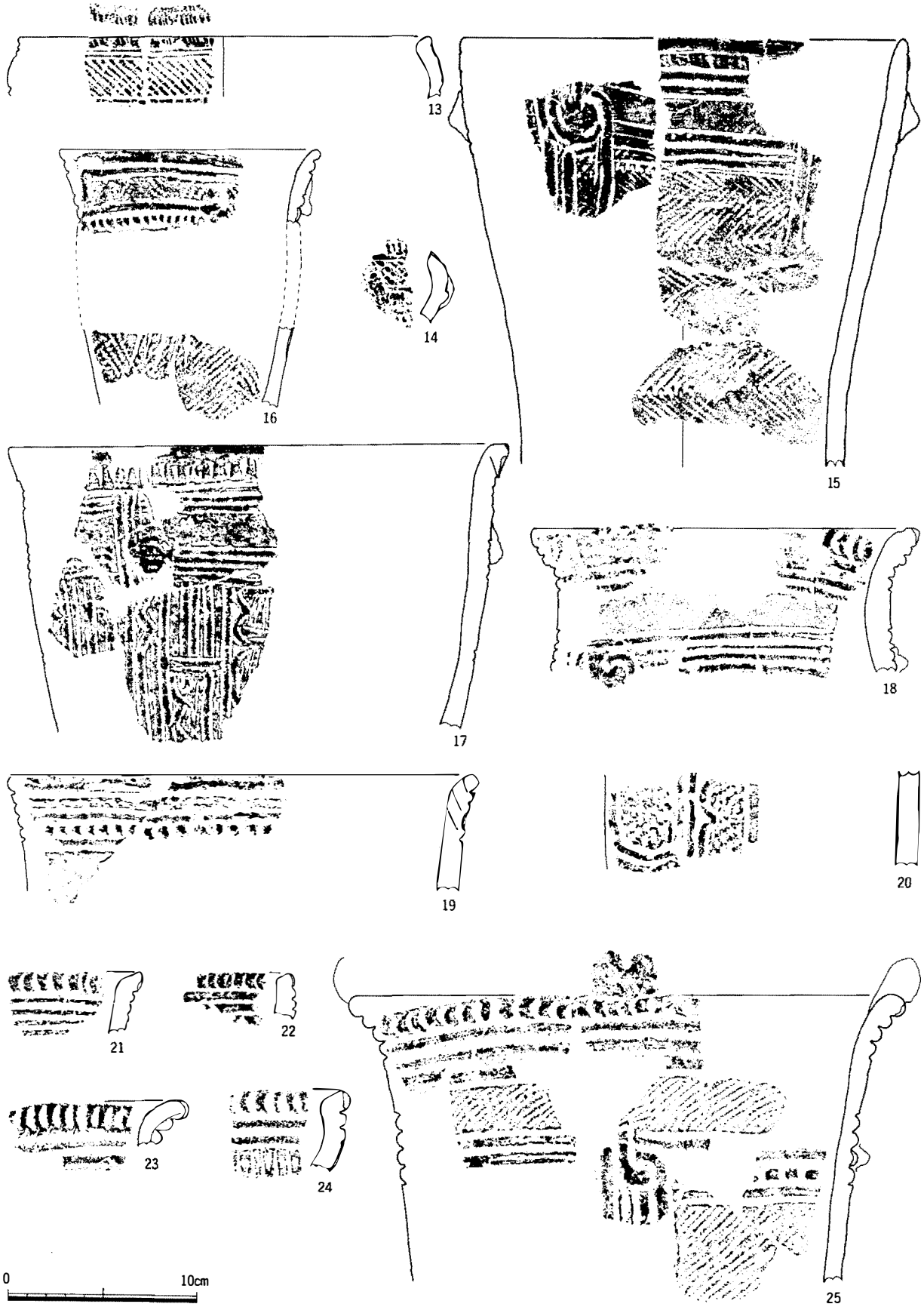
18は口縁に粘土を貼付しその上に彫りの深い爪形文を巡らせる。半隆起線の幅は約6㎜である。20が同一固体であるとすれば地文に縄文を持ち、垂下する半隆起線やB字形文を配するものであることが想定される。

19は口縁部に4条の深い半隆起線を巡らせ下から2条目を爪形文で深く刻んでいる。半隆起線の幅は6～7㎜である。地文の縄文が口縁部に残されている。口縁部の半隆起線で挟まれた無文帯の幅が狭くなったものと解釈する。口縁部の外傾は緩やかである。

21・23は2b類，22・24は2c類である。24は縦の沈線を持つ。

25は18と同じように口縁に粘土を貼付しその上から彫りの深い爪形文を施す。口縁には突起が付き突起先端は刻まれる半隆起線に挟まれた無文帯と胴部はLRの斜縄文が施される。

26は緩やかに外傾する口縁を持つ円筒形の深鉢で本類で底部まで復元できた唯一の土器である。口



第31図　遺物包含層出土の縄文土器（II群）

縁部は半隆起線に挟まれて帯状にLRの縄文が巡る。2条の半隆起線に挟まれて口縁下に無文帯がある。瘤を起点として垂下する半隆起線は上にも伸び、無文帯を区画している。垂下する半隆起線は短く終わる。胴部は木目状撚糸が一面に施される。整ったプロポーションや木目状撚糸文の施文などから丁寧に作られた印象を受ける。新崎式の中でも古い段階のものか。

27から33は口縁部が外傾内彎するキャリパー形深鉢の口縁部破片である。2c類とした。　27・28はいずれも口唇が破損して口縁が完全には残存していない。口縁部と頸部を半隆起線で区画しその間を縦の集合沈線でうめるもので29にも共通する。27・29は地文が縄文である。29は口縁部の半隆起線を爪形文で刻み、口唇に付く突起から半隆起線が瘤を伴って垂下する。口縁は肥厚し内彎する。内面は丁寧に撫で調整が施される。30・31は口縁部下は無文となる。31は突起外面に沈線で格子状の文様を描く。32は本類のなかではやや異質の印象を受ける。口縁部の刻みは箆状のものになり口縁部を区画して垂下する隆帯がある。その隆帯は半截竹管によって爪形文が施されている。詳細は不明だが波状口縁を呈する可能性もある。33は地文縄文の上に縦沈線を施ている。口唇は平たく成型される。

34～37はいわゆる蓮華文と呼ばれるものを一括した。34は細沈線を交互に施し蓮華状の文様効果を出している。内面には玉抱き三叉文が施されわずかに赤色塗彩が残る。36・37については東海地方の土器にも似たような文様をもつものもあり、詳細は不明である。

38～84は胴部破片その他で2d類とした。

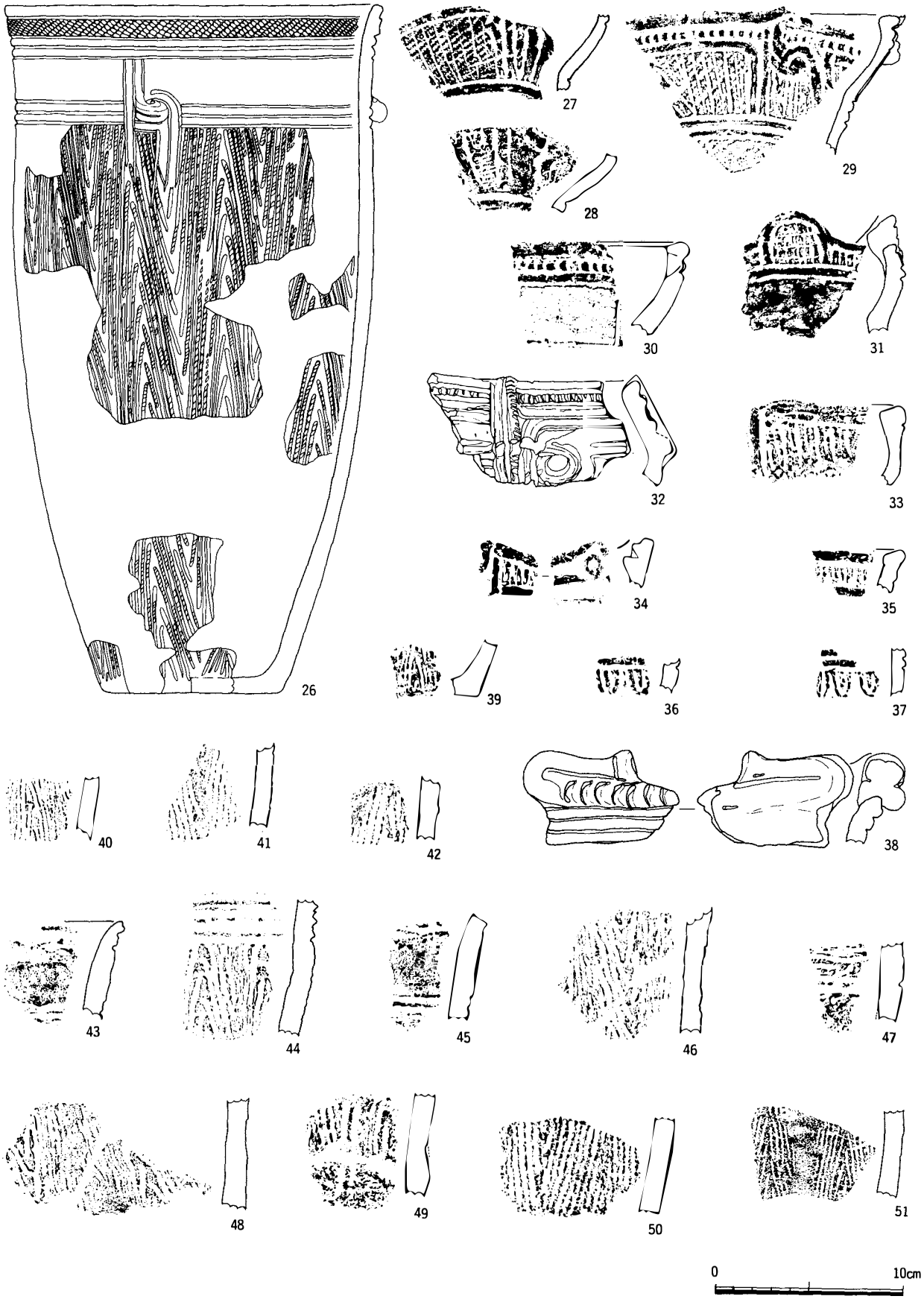
38は大型の突起である。口縁を太い2本の紐状粘土で内外面から挟みながら折り曲げて突起を形作る。突起外面は大きな爪形文が施される。

39～51は木目状撚糸文を施す胴部破片である。43～49は同一固体の可能性もある。粘土が柔らかいうちに撚糸文を施している。43は口唇が破損しているが口縁部破片である。口縁を肥厚させその下に刺突状の施文が観察できるが詳細は不明である。44はその頸部下と思われる。内面赤褐色の厚手の胎土で粗製である。外面には煤が付着する。51は焼成堅緻で撚糸文は細い。

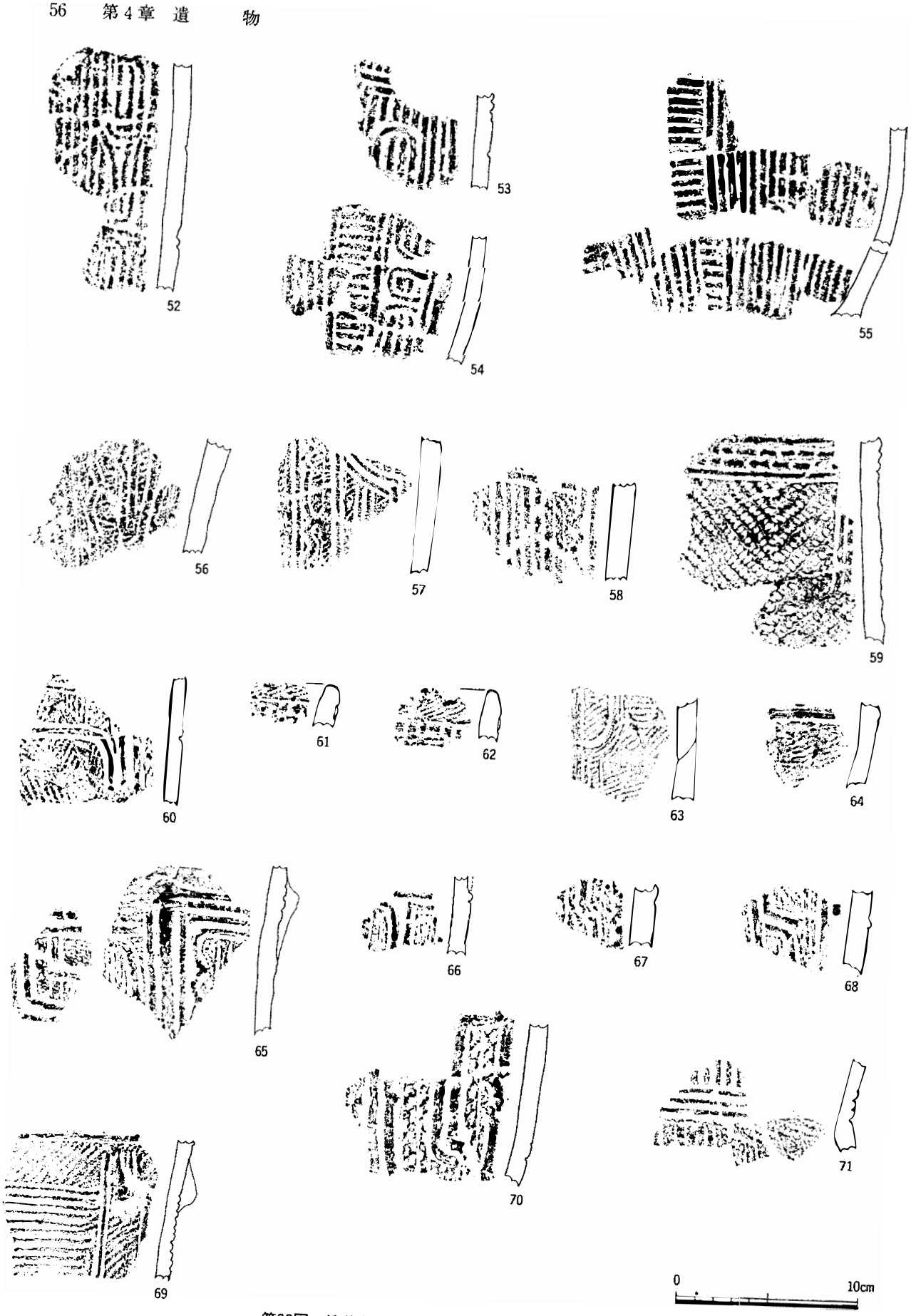
52～55は半隆起線の幅が約5㎜と細い。いずれも地文は確認できない。53は破片上部に連続爪形文を施す。54・55の半隆起線は横位にも施される。71も同じである。59は太い縄よる縦位羽状縄文が施されるかなり大型の深鉢胴部である。半隆起線上の爪形文は間隔をあけて刺突状に施される。60は地文に縦位羽状縄文を施す。61・62は地文LRの縄文に半截竹管による押し引きによって爪形文を施している。63の地文縄文は無節。64も同様。65～71は全て地文縄文を持つ。72・73・75・82は格子目状の文様を持つ。75以外は半隆起線を施す前に細沈線で格子目文を施文している。75は半隆起線を細沈線が切って格子目状文を形成している。

80は同一個体と思われる底部からの破片で図上復元した。胴部はLRの縄文で垂下する半隆起線が胴部上部にある。81も同一固体と思われる破片によって図上復元した。器高は不明であるが口縁などから類推すればかなり大型になる可能性がある。

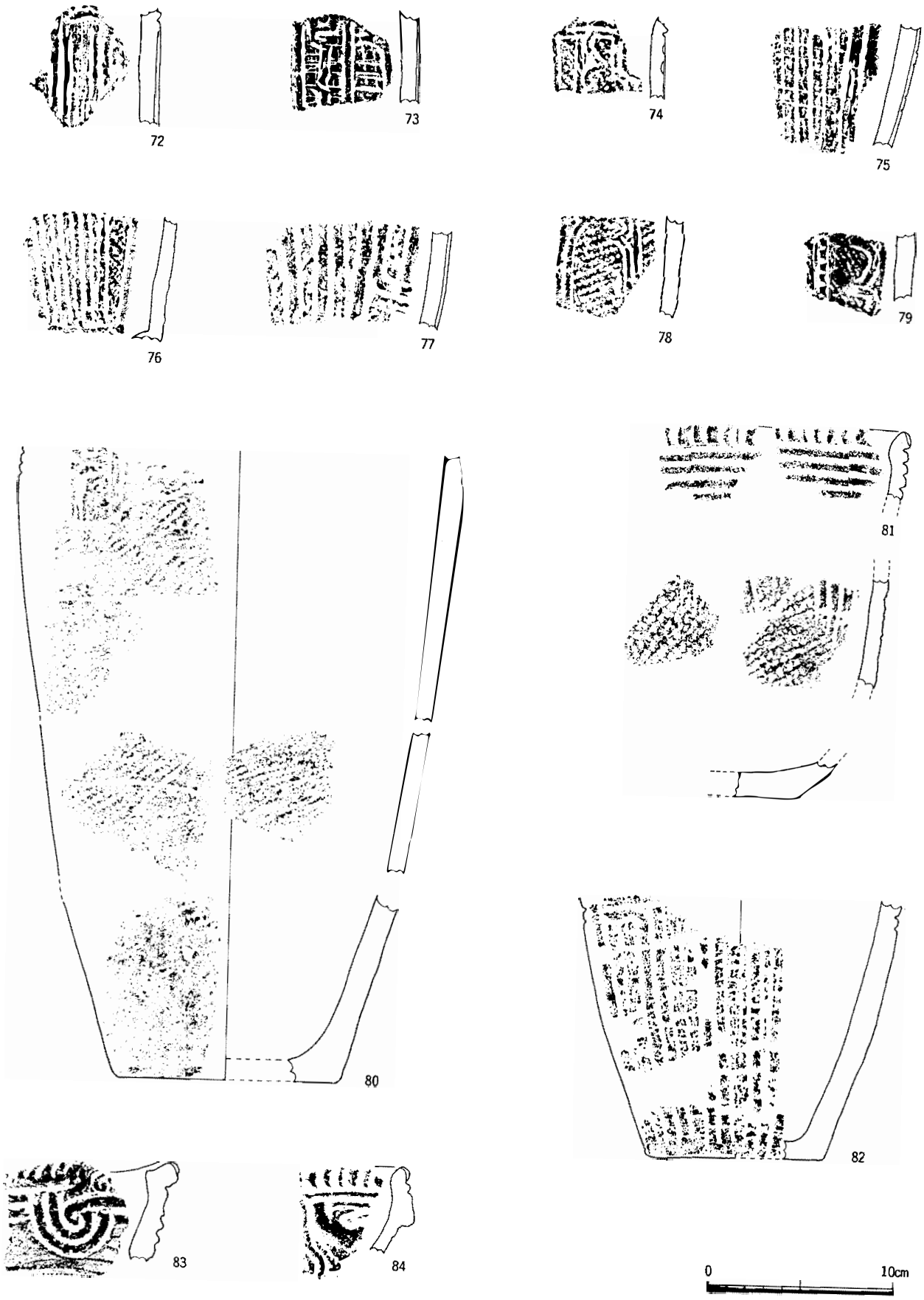
83は半隆起線が横方向への展開を示すもので本類の土器の中では新しい様相を持っていると思われる。84はキャリパー形の口縁部である。半隆起線は比較的細い。



第32図　遺物包含層出土の縄文土器（II群）



第33図　遺物包含層出土の縄文土器（II群）



第34図　遺物包含層出土の縄文土器（II群）

3類　連続した爪形文や特有の粗い縄文を施文する西日本系の土器（第35図～36図　図版11～12）

鷹島式や船本Ⅰ式に比定される1群である。施文方法などによって6細分した。3ａ類は貝殻腹の押圧文を施すもの。3ｂ類は連続した刺突を施すもの。3ｃ類は厚手の土器。3ｄ類は酒杯状突起。3ｅ類は爪形文と粗い縄文のみによって施文されるもの。3ｆ類は胴部破片その他である。いずれも焼成堅緻で薄手であり本遺跡で出土した土器のなかで一見して区別できるものである。口縁内面には一様に地文と同じ原体による縄文が施される。器形はキャリパー形を呈するものが多いと思われる。波状口縁のものと平口縁のものがある。3ｄ類の酒杯状突起が付くものがある。爪形文は密のものと粗であるものがある。爪形文の形はいわゆる「C」字状である。

85は3ａ類の貝殻腹の押圧文を施す土器である。貝殻押圧文は2枚貝の付根部分を使っている。押圧は土器内面に及んでわずかな膨らみをもたらしている。頸部で大きくくびれ口縁部が内彎するこの時期の西日本系によく見られる土器である。器厚は薄く焼成堅緻である。連続する爪形文と特有の目の粗い縄文を施文する。内彎する口縁外面には2条の連続爪形文が巡る。2条目は貼付け隆帯上に連続爪形文を施文する。口縁の2条連続爪形文から頸部までを爪形文が蛇行する。頸部下に2条の連続爪形文が巡る。隆帯は貼付せず押引によって施文されている。胴部には特有の目の粗い縄文が全面に施文されている。口縁内面には胴部と同じ縄文が施文される。

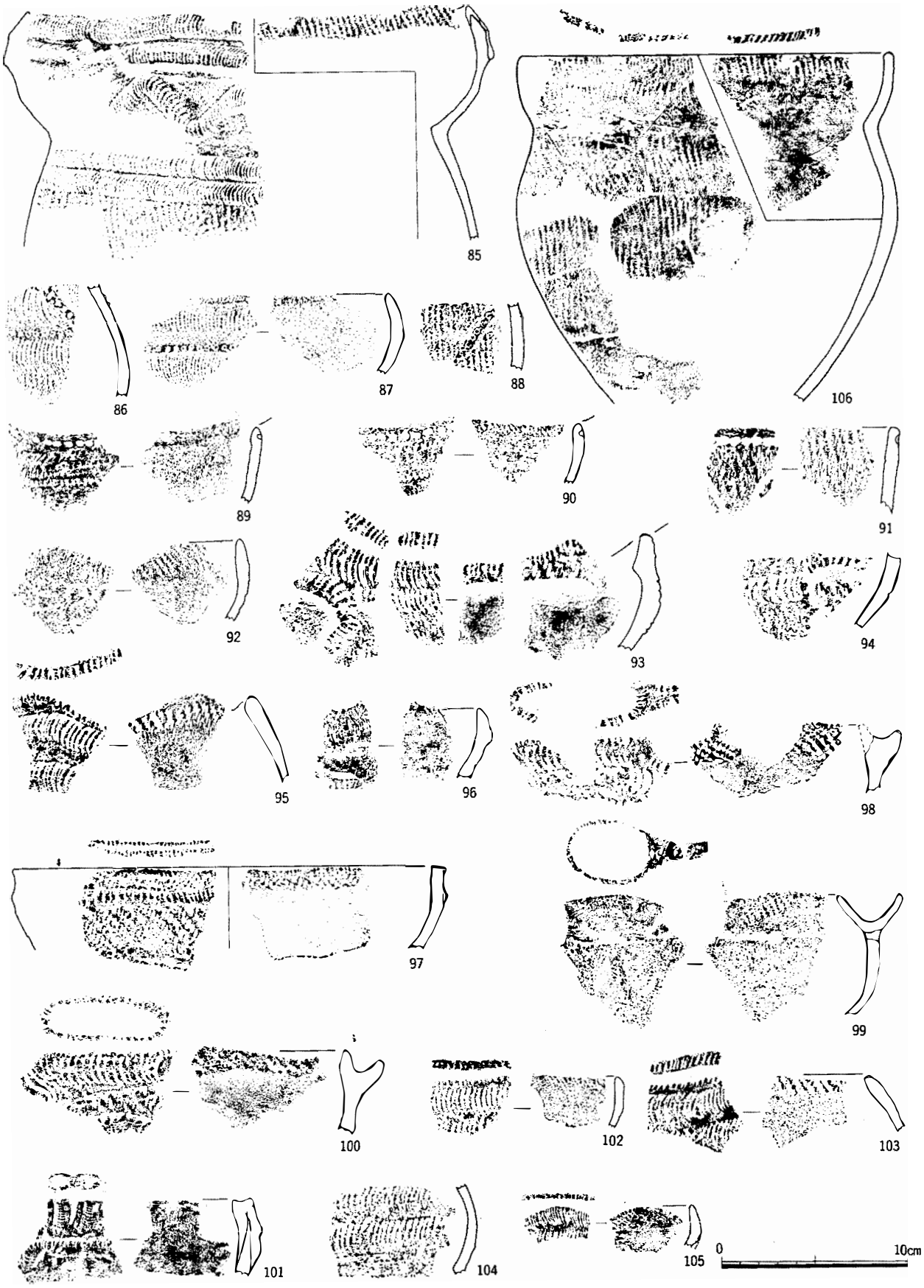
86から92は3ｂ類の連続刺突を施す土器である。86の斜傾する連続刺突は貼付隆帯に施されている。86から88は同一個体であろう。89と90は深い連続刺突を口唇外面に施し波状口縁となる。同一個体である。刺突内に煤が付着している。91は平口縁でかなり大形の深鉢と推定される。口縁内面の縄文は破片の全面に施される。他の土器のそれに比べ幅広である。外面には刺突に使用したものと同一原体の押引によって蛇行する文様が横位に展開すると思われる。92は円形の連続刺突を施す。波状口縁である。

93から97は3ｃ類厚手の土器である。施文方法等は3類全般に共通するが厚手である。93・94は同一個体である。円形に粘土帯を貼付し爪形文を施す。口縁端部にも爪形文を施す。口縁内面を肥厚させる。97は口唇に粘土を貼付しその上を異色の原体で施文している。これと同様の施文方法を持ったものが飛驒地方では門坂シズマ遺跡で出土している。地文の縄文は口縁外面から施文され、薄い粘土帯をやや蛇行気味に貼り付け爪形文を施している。

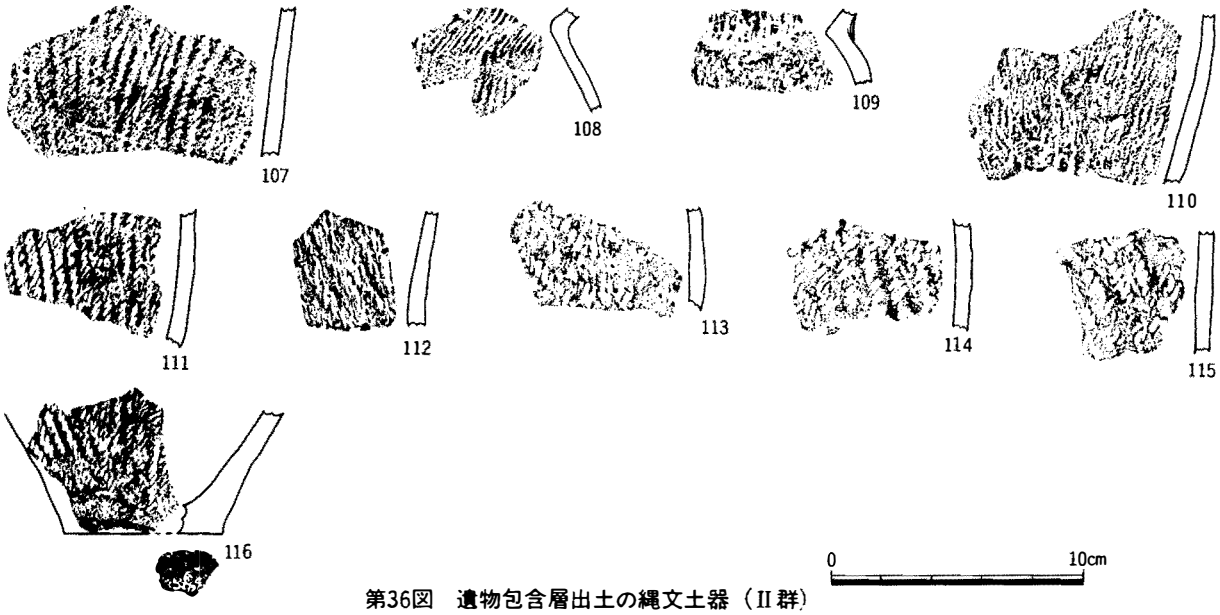
98から101は3ｄ類酒杯状突起である。98は93と同一個体の可能性が高い。98と100の胎土には直径5㎜ほどの石英粒が目立つ。平面形が長楕円の酒杯状突起である。99は98・100に比べ薄手である。摩耗が激しく施文の遺存状態はよくない。平面形が楕円の酒杯状突起で穿孔が穿たれる。101は酒杯状突起ではないかもしれないが本類に位置付けた。

102から105は3ｅ類爪形文と縄文のみによって施文される土器である。刺突を持たないこと以外は3ａ類と共通する。いずれも薄手である。106は器形復元できた個体でキャリパー形を呈する。口縁より胴部が膨らむ。平口縁で口縁端部に細かな刻みを有する。口縁部から頸部までは連続した爪形文を施し、胴部は目の粗い縄文を施す。口縁内面も縄文で施文される。胎土には細かな金雲母が含まれる。

107から116は3ｆ類で胴部破片その他をまとめた。いずれも薄手で焼成堅緻である。目の粗い縄文が施される。108と109はキャリパー形土器の頸部。



第35図　遺物包含層出土の縄文土器（II群）



第36図　遺物包含層出土の縄文土器（II群）

4類　貼付隆帯上の連続爪形文や三角刺突・玉抱き三叉文を特徴とする東海系土器(第37図～39図　図版13～14)

中期初頭の北裏C１式に比定される一群である。全般に焼成堅緻で薄手である。器形は頸部から大きく外傾して開く口縁部を持つものが多い。胴部は樽状に膨らむものが多いと思われるが円筒形となるものもあるようだ。頸部から胴部にかけて橋状把手が付くものもある。主に施文方法によって３細分した。

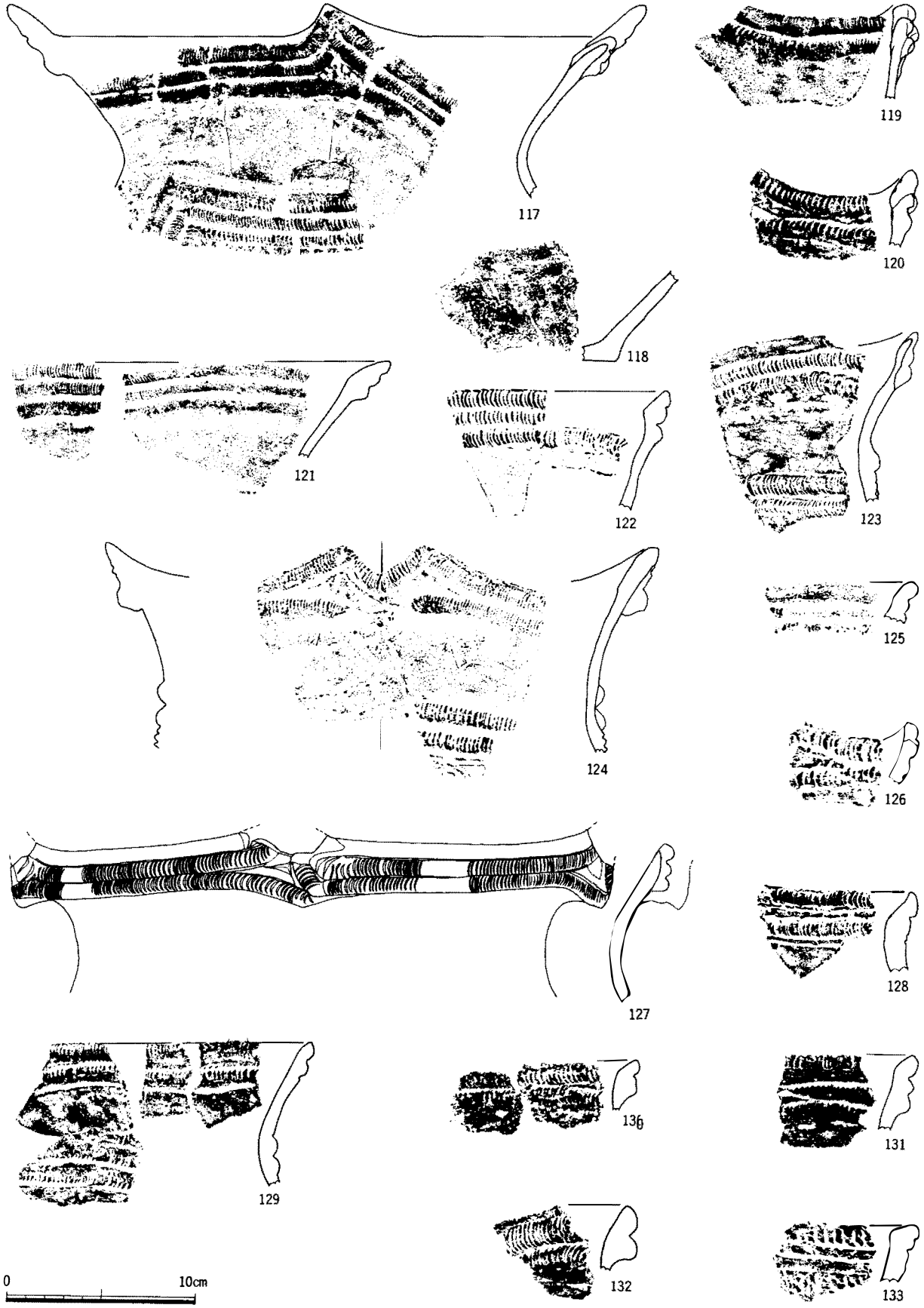
４ａ類は、貼付隆帯上を密に連続する爪形文によって施文されるもので縄文施文を持たないもの。

４ｂ類は、三角刺突・玉抱き三叉文を施文し縄文を有するもの。

４ｃ類は、把手その他である。

117から141は４ａ類である。貼付隆帯上を細かな爪形文を密に連続して施文する。隆帯は口縁部と頸部に確認できる。胴部の展開については詳細不明である。口縁部から頸部までは無文である。胎土は全体に黄褐色または褐色を呈する。

117は頸部から大きく外傾する。口縁部は外面に３条の貼付隆帯を持ち内面も粘土を張り付けて肥厚させる。口縁内面に面を形成し段を有する。三角形の突起部下は隆帯で三角形に囲み刺突を施す。同内面は三叉状に彫り込まれている。頸部下の文様は同一個体と思われる破片で図上復元した。118と121は同一個体と思われる。117・121内面には煤が付着し118底部外面にも煤が付着する。119は連続爪形文を施す。２条の貼付隆帯を口縁部に巡らせ波状口縁となる。内面には段を持たない。120は内面に段を持つ。２条の隆帯間にわずかに三角刺突が観察できる。４ｂ類の可能性もある。122の内面は段を有する。123も内面に段を有する。口縁端部には爪形文を施す隆帯を持たず一段下がって２条の隆帯を持つ。頸部の２条の隆帯下にわずかに三角刺突が観察できる。４ｂ類の可能性もある。124は双頭波状口縁を有する。口縁を肥厚させ内面に段を有する。それぞれの波状口縁の内面は縦に綾を形成している。胴部は細い半截竹管によって集合沈線文が描かれる。第３号住居跡から出土した土器は同一個体であろう。125は２条目の隆帯から爪形文を施す。126は２条の隆帯内を三角形に区画する。127は123・125と同じく２条目の隆帯から爪形文を施す。貼付隆帯を折り曲げて突起を形成しているようであるが詳細は不明である。他のものに比べて隆帯が高く盛り上がる。128の隆帯は貼付されたものでないかもしれない。129は124と同種の文様展開を胴部に持つかもしれない。



第37図　遺物包含層出土の縄文土器（II群）

142から173は4ｂ類の三角刺突・玉抱き三叉文を施文し縄文を有するものである。

142は外傾する口縁を持ち、胴部が膨らむ器形である。文様帯は口縁部と胴部上半にあり他は無文である。文様帯は地文縄文が施され、無節である。口縁部は小波状である。詳細は不明であるが双頭波状またはそれに類する口縁部を持つのかもしれない。小波状下に刺突状痕跡がある。2条の爪形文を持たない半隆起線で挟まれた口縁外面は粘土を貼付け肥厚させている。胴部文様帯も2条の半隆起線で区画され上部に三角刺突を連続させる。下部の半隆起線は斜めに下降し胴半ばで止まる。半隆起線間にある横走する沈線はその端部で三叉文となっている。口縁部から胴部にかけて橋状把手が付いていた痕跡がある。142～146は同一個体であると思われる。

147は口縁外面は地文縄文を残しその下に半截竹管による半隆起線を巡らせる。内面はわずかに肥厚させる。149は大波状口縁となる深鉢で胴部は円筒形となる。頸部から外傾する。口縁部は粘土を貼付けて肥厚させ、その外面は半隆起線で区画された縄文地に三角刺突を連続させる。内面は段を有する。頸部や胴部の半隆起線で区画された内側は地縄文が残り、三角刺突が連続して施される。頸部と胴部を結ぶ橋状把手が付く。波状口縁の単位数は不明である。150～154は同一個体の破片である。

155は、わずかに外傾する口縁部破片で半隆起線を挟んで2列楔形の刺突が連続する。楔形の刺突の施文方法は半截竹管の押し引きであろうか。左方向から押し引かれたと思われる。地文縄文に玉抱き三叉文を施文する。156は胴部破片。刺突は楔形というより細く鋭い短沈線状である。157も胴部破片。玉抱き三叉文が明瞭に残る。163・165・166も同様に玉抱き三叉文を持つ。164は胴部下部で半隆起線の終わりを示している。169は双頭波状となる口縁部破片である。波状口縁外面に玉抱き三叉文を持つ。口唇に爪形文を持つ。第3号住居跡で同一個体の口縁部破片が出土している。170の刺突は鋭く急角度で押し引かれる。

171は肥厚させた口縁外面を半隆起線で区画し地文縄文の上に三角形刺突を上下2列配する。下段の刺突は三角形をしているが上段のものは線状になるものもあることから箆または板状のもので施文する方法を予想できる。刺突を施す方向を変えることによって三角形状であったり楔状になったり、あるいは線状になったりするものと思われる。

148は縄文も爪形文も持たない。粘土を貼付し口縁部を肥厚させる。突起部で半隆起線を折り曲げ三角状にすることやその内面に三角形の彫り込みをなすことは4ａ・ｂ類に共通する。

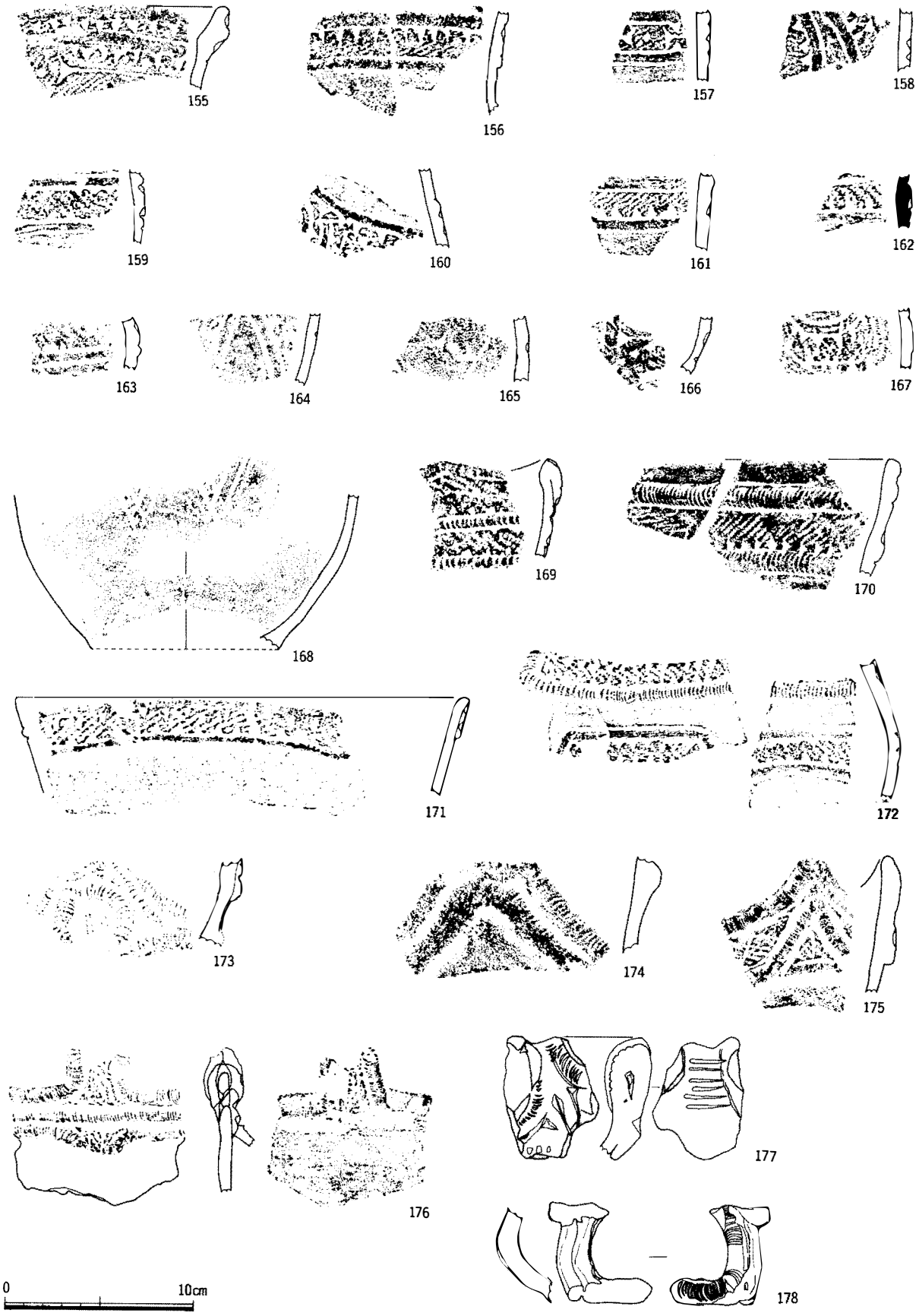
172は胴部破片で爪形文を施す半隆起線で区画された内側を三角形状の刺突を上下から施す。173と同一個体の可能性が高い。

174から178は4ｃ類である。174は波状口縁頂部が欠損している。粘土を貼付した半隆起線上を爪形文を施し玉抱き三叉文を形成している。175は波状口縁部で摩耗が激しく詳細は不明な点が多い。半隆起線で区画されたた中央の三角形内に鋭い沈線を引く。

176は177は把手。176は最初に内側に把手の芯になる部分を作りその後粘土紐を内外二方向から合わせて把手作成した様子が観察できる。その下には欠損しているが橋状把手があったことがうかがえる。焼成堅緻で褐色の胎土に金雲母が目立つ。177は176より大型で胎土は灰黄褐である。外面には三角形の彫り込みや尾をもつ楔形の施文が見られる。内面は横に数段の沈線を引く。

178は橋状把手である。粘土紐を2本接着させて作成している。爪形文は胴部や頸部へ展開する半隆起線へとつながっていると思われる。

第38図　遺物包含層出土の縄文土器（II群）



第39図　遺物包含層出土の縄文土器（II群）

５類　三角刺突や半截竹管文で施文し胎土に金雲母を多量に含む関東系の土器群（第40図～41図　図版15～16）いわゆる五領ケ台式のものを本類とした。

179は平面形が楕円形を呈する浅鉢。口縁内面に文様帯を持つ。連続する爪形文で施文され４単位の波頂部で区画される。波頂部間の３条の爪形文は逆Ｃ字形である。波頂部施文は爪形文間に縦に三角刺突を施す。長軸の相対する波頂部は緩やかな双頭波状口縁を呈する。胎土は褐色で金雲母を多量に含む。

180は波頂部破片で口唇に爪形文を施す。外面は縦の細沈線が施される。赤褐色の胎土に金雲母が目立つことから本類とした。181はやや外傾気味に立ち上がる口縁部で頸部で屈曲する。口縁部は粘土を貼付して肥厚させる。貼付した粘土紐上を連続して細かに爪形文を施す。波状口縁を呈するがその形態は不明である。双頭状口縁である可能性もある。地文は擬縄文である。頸部と口縁外面に三角刺突を施す。波頂部内面には三角印刻が施される。胎土は赤褐色で金雲母を含まない。中部高地に系譜を持つものかもしれない。

182は口縁を肥厚させ外傾内彎する口縁部破片で頸部に突起を持つ。突起は細い棒状工具による刺突が施される。口縁部と頸部には同じく棒状施文具による刺突や沈線が施される。190の土器と共通する要素がみられる。茶褐色の胎土に金雲母を含む。

183は２条の幅狭の半隆起線の下に三角刺突が施される。頸部に刺突を持つ。184は円形の粘土を押圧貼付する。細い沈線下に三角印刻文が施される。金雲母を含む。185は半截竹管による集合沈線文によって施文される。金雲母を含む。外傾内彎する口縁部で187や188と共通する。186は口縁部下に粘土紐を貼付し爪形文を施す。187は185同様半截竹管による集合沈線文によって施文される。内面は丁寧に撫でられる。188は屈曲部の半隆起線上に爪形文を施しその上には上下交互に三角印刻文が施される。金雲母を含む。

189は179と同類と思われる浅鉢で双頭状の口縁部である。肥厚した口縁内面に文様帯を持つ。細い棒状工具の押引きによって爪形文に良く似た効果を持つ。その中に三角印刻文が施される。

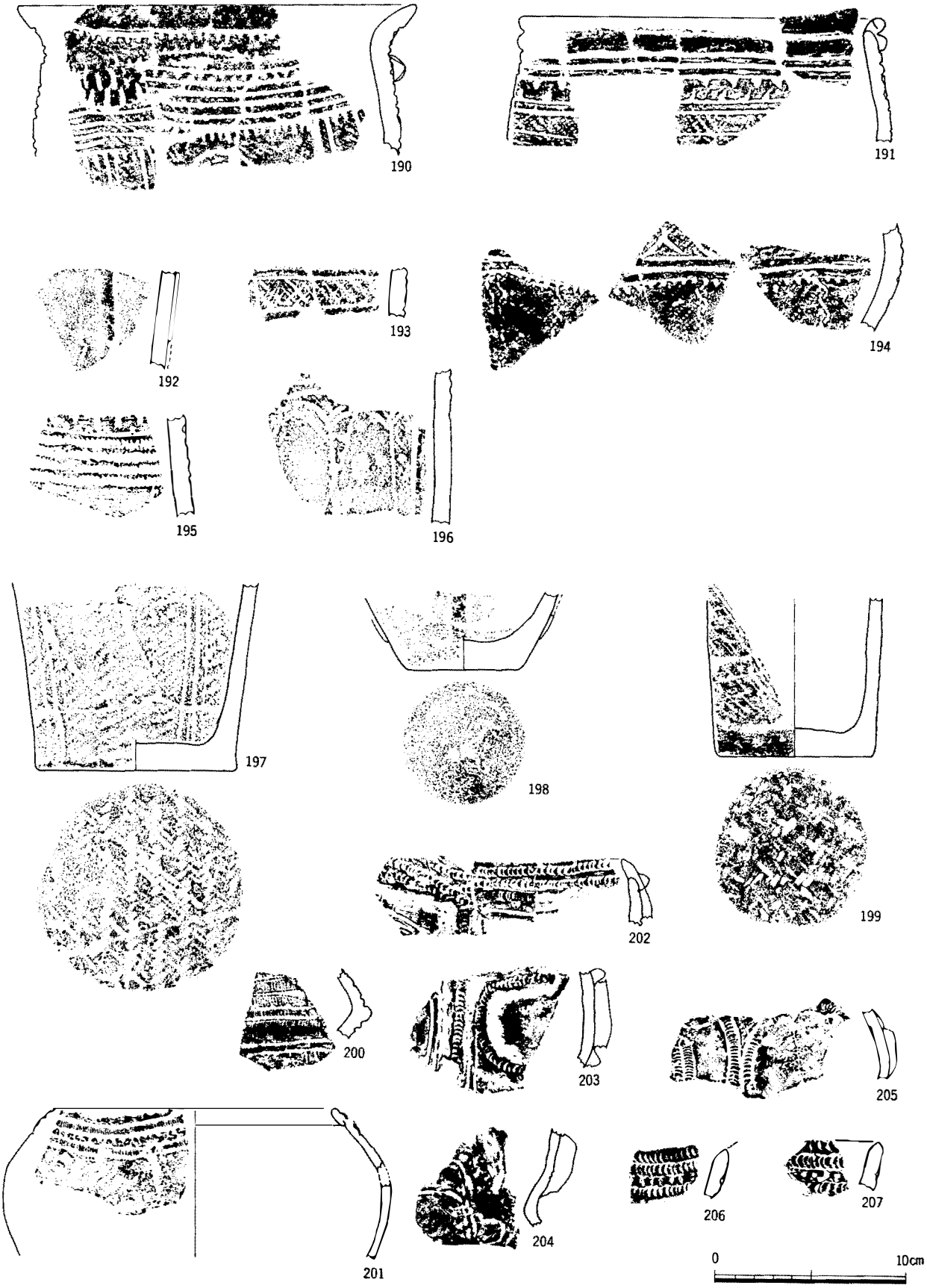
190は破片から器形復元したもので外傾する口縁部は小波状口縁となる可能性もある。粘土を貼付し肥厚させた口縁部に縄文を施し、その下に棒状工具による刺突が巡る。頸部に突起を持つ。頸部の刺突は上下二方向から施されいわゆる「連続コの字」文が施文される。胴部の文様の詳細は不明だが棒状工具による沈線が施され一部に縄文が見られる。胎土には長石を多く含む。

191は小波状を呈する。内傾する口縁の土器である。口縁部の半隆起線下には上下二方向からの三角印刻文が施され、その下は縄文施文。

192は赤褐色の胎土。縦の半隆起線を持ち、金雲母を含む。193は半隆起線で区画され、沈線で斜格子状に描く。茶褐色の胎土に金雲母を含む。194は胴部破片で半隆起線下に棒状工具による下方からの刺突列が並ぶ。胴部下半には縦方向に結節の回転痕が観察される。いわゆる帯縄文か。195は胴部破片で破片上部に刺突を交互に施し「連続コの字」文を形成する。その下には５条の爪形文を施す。爪形文は逆Ｃ字である。下部には細い条痕が見られる。胎土は長石と金雲母を含む。196も胴部破片で沈線で連孤文を描く。胎土に長石が目立つ。

197は底部まで半隆起線が垂下し、２条１単位で土器を４分割している。198は貼付隆帯が底部付近まで垂下する。胎土は赤褐色で長石が目立つ。本類のものか不明。199も本類のものか不明だが胎土に

第40図　遺物包含層出土の縄文土器



第41図　遺物包含層出土の縄文土器（II群）

長石が目立つ。200は連続爪形文間に三角印刻文が見られる。201は口縁内面に粘土帯を貼付しわずかに肥厚させる。爪形文間に交互刺突が施される。器形は鉢と思われる。202から204は同一個体。口縁部には2条の逆C字の爪形文が施され。その下は貼付隆帯を楕円形に区画しその上に爪形文が施される。詳細は不明だがキャリパー形の可能性もある。本類か不明。205は半隆起線状に爪形文が施される。4類の可能性もある。焼成堅緻である。206･207は2条の爪形文下に刺突を施し、207では交互刺突である。胎土には金雲母を含む。

6類　主として縄文のみで施文される土器（第42図～44図　図版16～19）

器形はキャリパー形・円筒形・円筒形の胴部に開き気味の口縁が付くものなどがある。5細分した。

6ａ類　口縁部から頸部は斜縄文、胴部は羽状縄文を施し頸部で外傾する器形の土器群。口縁内面を肥厚させて内湾ぎみにするものとそうでないものがある。

6ｂ類　口縁端部に調整を加えるもの。爪形文を施すものと施さないものがある。

6ｃ類　粘土を貼付して口縁部に段を形成するもの。

6ｄ類　粘土帯で口縁を形成し内面に縄文を施文するもの

6ｅ類　その他の縄文施文の土器

207から216は6ａ類である。

207は、頸部から外傾する口縁部を持ち。口縁端部を内面で肥厚させる。口縁部はLRの斜縄文。胴部は異方向縄文である。208から213は口縁部破片である。胴部文様は不明。頸部で屈曲するものを一括した。208は波状口縁を呈する。209は屈曲が弱い。口唇を丸く整形する。210は強く外傾する。211の縄文は無節か。212は口唇が内彎する。213は縦の隆帯を貼付する。

214は粘土を「逆のの字」状に貼付して突起を形成する。胴部は結節の羽状縄文である。キャリパー型の器形で胴部が樽状に緩やかに膨らむ。215の口唇は平らに整形される。216は214と同種の突起を持つ。

217から220は6ｂ類である。

217は口縁端部を沈線によって区画し無文化させている。頸部までRLの斜縄文、頸部下を結び目縄文または縄の開端を別の条で縛る縄文を施す。218は口縁端部外面に2条の半隆起線を持ち1条目に爪形文を施す。やや肥厚させた内面にはLRの縄文が施される。外傾しやや内彎気味のキャリパー型器形であろう。

220は、外傾する口縁部を持つ。口縁端部を丁寧に無文化させ斜縄文部を短くとる。胴部には異なる撚りの縄文を結合させた結節羽状縄文が施される。

221から236は6ｃ類である。

221・222・224は口唇を平らに整形する。223も粘土帯を貼付し口縁端部が強く外反する。横位羽状縄文である。224は幅1cmほどの粘土帯を貼付しRLの縄文をその上に施す。226は全面にLRの縄文を施す。227は粘土帯の幅で外反する。口縁端部及び内面は比較的丁寧に調整される。全面に単節のRL

の縄文が施される。228も口唇から内面にかけて丁寧に撫で調整される。胎土は赤褐色で本類では少ない。粘土帯下は無文化させている。229は外傾内彎するキャリパー形土器。粘土を折り曲げているかのように見えるが口縁内外面に粘土を貼付し肥厚させているのだろう。内面は丁寧に撫でられる。230は開いて立ち上がる器形で縄文はLRの無節か。231は焼成堅緻で内面は丁寧に撫で調整される。口縁端部外面にRLの縄文を施し、その下は頸部まで無文である。胴部は結び目縄文または別の条で縛る縄文が施される。232口縁内面には調整時の沈線が残る。

233は本類のなかでは比較的大きな破片資料である。開いて立ち上がる口縁部を持つ。口唇から内面にかけて丁寧に撫で調整される。外面は全面に単節のRLの斜縄文が施される。頸部屈曲部に突起を持つ。234も開く口縁部を持つものである。丁寧に撫で調整された内面に煤が付着する。

235は本類のなかでは唯一の波状口縁を有するものである。粘土帯を貼付させ口縁を肥厚させていることから本類に位置付けた。236は粘土帯上に爪形文状の刻みを並べ、口唇は刻む。内面に煤が付着。

237から239は6ｄ類である。

237は内面に粘土帯を貼付し肥厚させ縄文を施す。

238は破片によって図上復元した。大型の深鉢である。緩やかに外傾して立ち上がる。胴部はやや膨らむか。胎土は赤褐色。

239はキャリパー型で口縁端部外面と口唇には刻みを有し内面に縄文を施す。頸部には爪形文を施す。箆状工具によるのか直線的である。縄文は曲線を描く。2類の可能性も考えられる。

240から254は6ｅ類である。

240は突起を有しバケツ状に開く口縁の土器。口縁に突起を2個持つ。1個は粘土帯を刻む手法、1個は「逆のの字」状である。

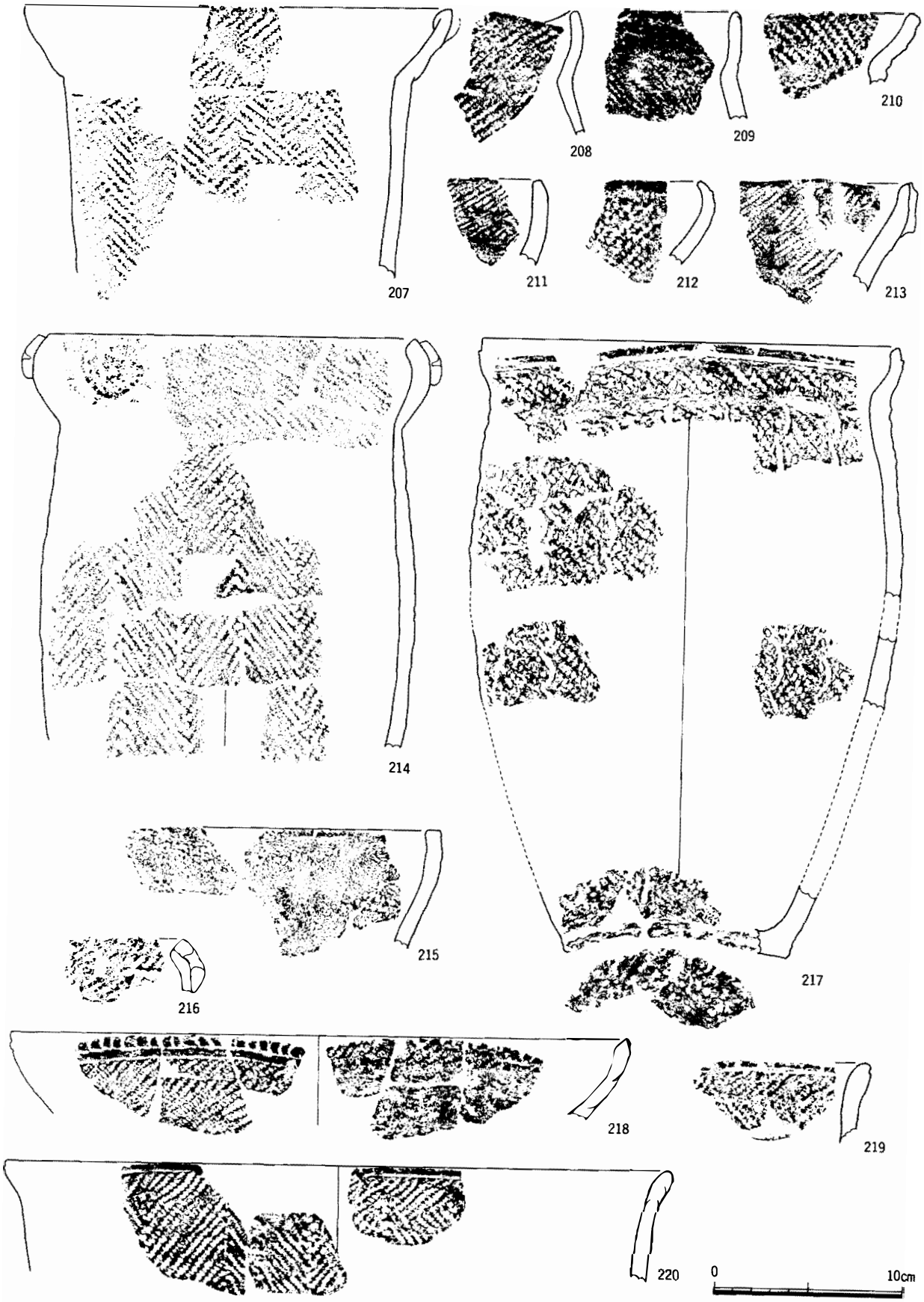
241は穿孔のある突起を口縁部に1個持つ。頸部に4単位の突起を有する。土器外面全体にRLの斜縄文が施される。口唇部から内面にかけて丁寧に整形される。器形は頸部で緩くくびれ、やや外反気味の口縁部を持ち、胴部は膨らむ小型の土器である。

242は231同様口縁部に無文部を持つ。頸部に縦に貼付隆帯が見られる。

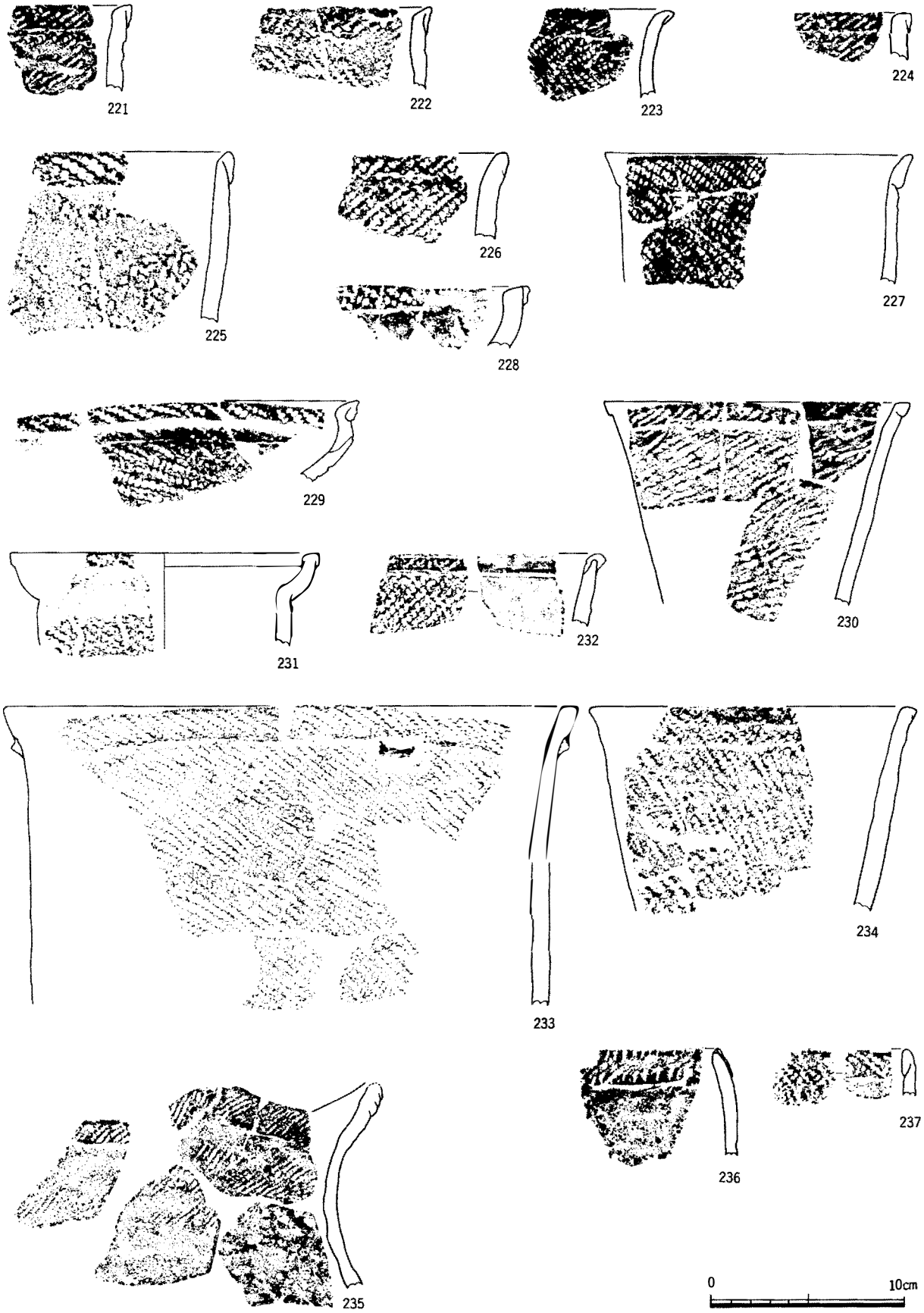
243は内彎気味の口縁部破片。横位羽状縄文が観察できる。244は外反する口縁部。結び目縄文または別の条で縛る縄文を縦位に回転させる。「帯縄文」か。穿孔を途中まで開けている。貫通しない。

245は口縁端部外面をせりだし刻む。器形は浅鉢か。246と247は、よく似ている。土器表面に薄く粘土を被せた痕跡がよくわかる破片で土器成形の手法を観察できる。

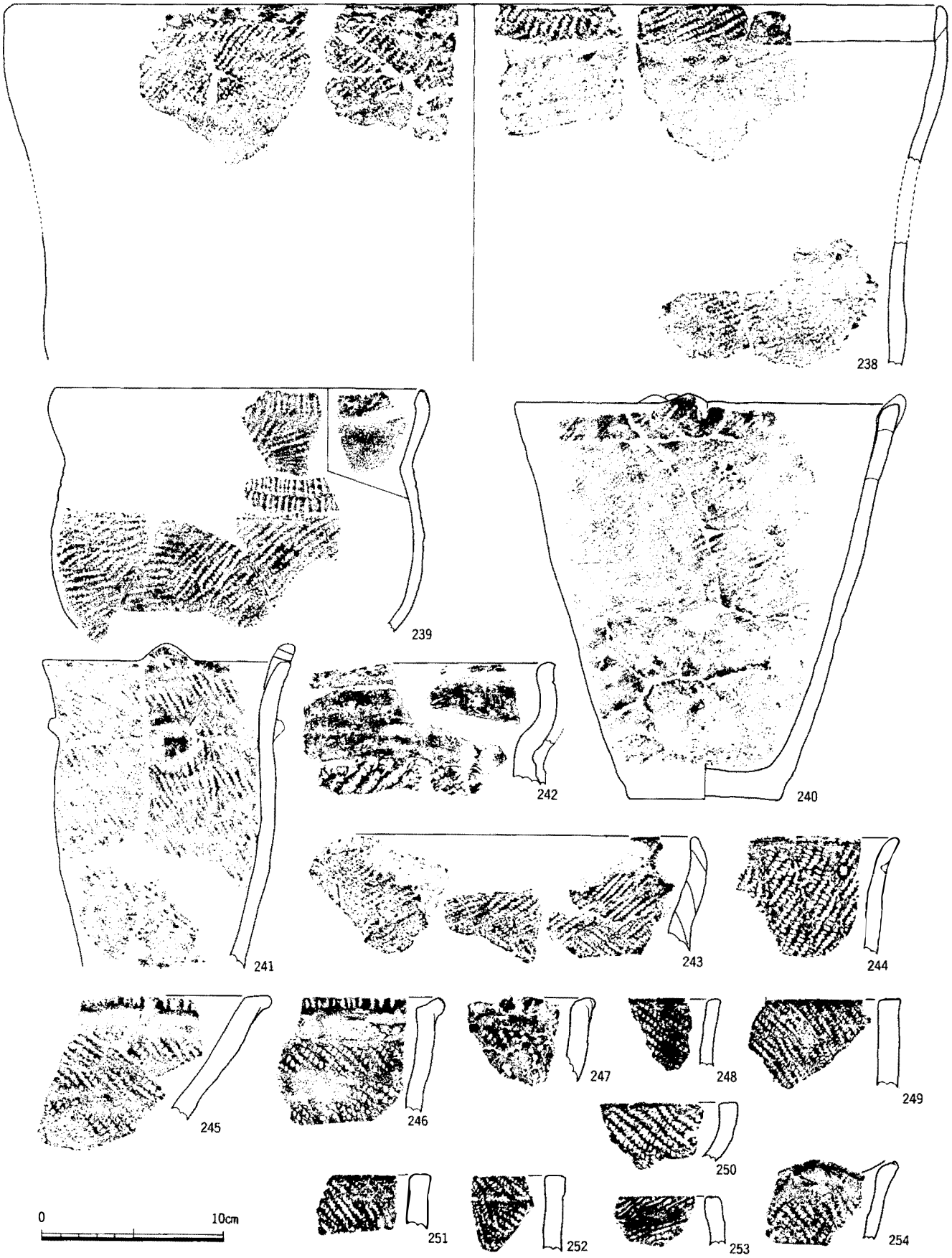
248から253は口唇部を平らにするものを一括した。253は波状口縁で口縁直下を無文としている。



第42図　遺物包含層出土の縄文土器（II群）



第43図　遺物包含層出土の縄文土器（II群）



第44図　遺物包含層出土の縄文土器（II群）

7類　その他の中期の土器（第45図～47図　図版20～21）

6類までを縄文時代中期初頭と位置付け。7類はそれに後続するものを一括した。したがって時期的には縄文時代中期前半から中葉に含まれると考えられるが中には時期が明確でないものも含まれる。

255は大型の深鉢で口縁直径40cmを越える。双頭状波状口縁を呈する。4単位である。口縁外面には2条の大型の爪形文が施されその間に波状に沈線が引かれる。2条の爪形文部はやや肥厚気味であり中期初頭の半隆起線の形骸化したものとも考えられる。口縁部は緩やかに開く。胴部はやや膨らむ。復元された胴部中央までのみ破片が確認されそれより下部のものは1点も見つけられなかった。4類の東海系土器にその系譜を求めることができると考える。愛知県南知多町山田平遺跡出土土器の中に類似のものがある。256は無文であるが、255に器形が似る。同じく双頭状波状口縁である。

257は内彎し口縁端部で反る鉢である。屈曲部に連孤状隆帯を形成しその上に爪形文を施す。更に口縁外面にも爪形文が施される。爪形文は「くの字」状に屈曲するもので初頭のものとは異なる。胴部は無文である。これも東海系の土器にその系譜が求められると考える。

258･259は口縁の爪形文下に縦の半隆起線を持つ。260と261は同一個体。焼成堅緻である。262は半隆起線下に刺突を施す。263は不明瞭な半隆起線が3条施される。内面を肥厚させる。口唇に煤が付着する。264と265は同一個体の可能性が高い。幅広の粘土帯を貼付け蛇行させる。波状口縁の可能性がある。

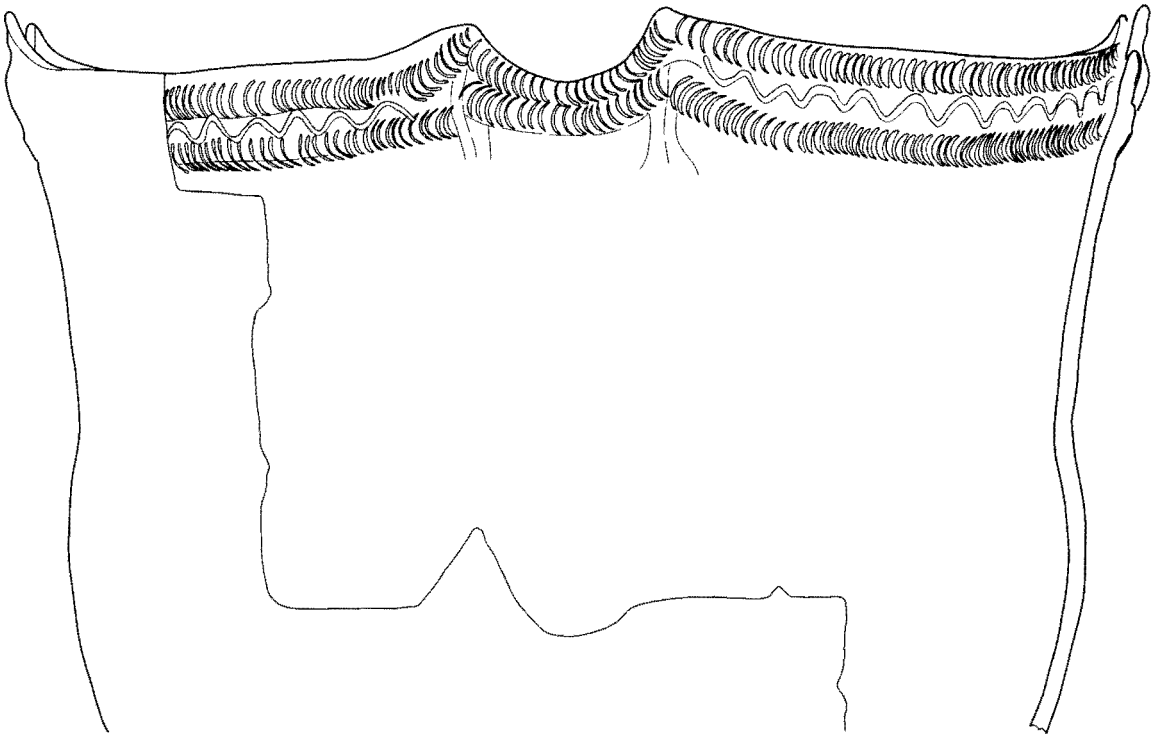
267は「逆C字」の半截竹管による刺突を連続させる。波状口縁である。268は半隆起線間に縄文帯が残る。擬縄文の可能性もある。269は幅広の粘土帯を貼り付け段を形成する。その上に粘土帯に沿って半隆起線を蛇行させる。擬縄文が残る。270は半截竹管の押し引きが2条施される。271は焼成堅緻で内面は丁寧に撫で調整される。272は半隆起線下に交互に刺突を施す。

273は「逆くの字」状に屈曲し、爪形文を2ないし3条巡らす。273までのものは東海地方にその系譜を求めることができるかもしれない。

274は沈線で区画された内に縦の沈線を引く。交互に刺突を施す。275は角状となる突起を持つ波状口縁部破片で半隆起線によって施文され、胎土の様相などから5類の可能性もある。276から279は同一個体であろう。縄文地に隆帯で施文する。280は隆帯と集合沈線で構成されることから中期初頭の可能性がある。281はせりだした口縁端部外面に爪形文が施される。その下には半隆起線が縦に密接する。280同様初頭の可能性もあるが胎土は厚手で初頭のものとは異質である。282は281と同一個体の可能性が高い。蛇行する隆帯を際立たせるかのように爪形文を施す。283・284は詳細不明であるが隆帯上の爪形文と連続刺突によって構成される。285は細い棒状工具による押し引きを横走させる。286は粘土紐を撚り合わせるかのようにして形成された突起を持つ。

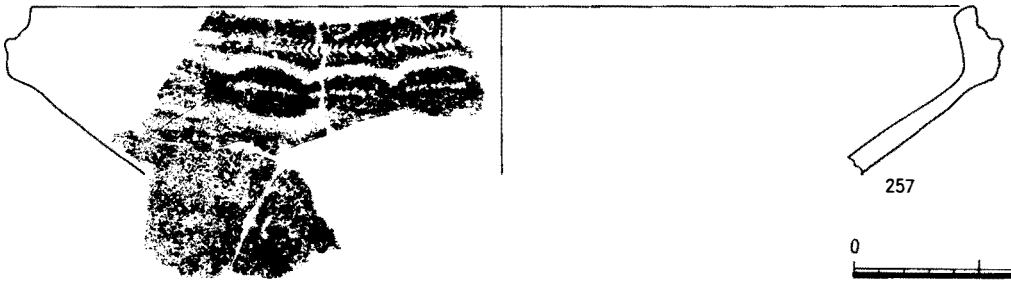
294は口縁部破片で外反して立ち上がる。内外面ともに丁寧に撫で調整される。厚手の土器である。295から306は同一個体である。294も同一個体の可能性もある。隆帯と沈線で施文される。隆帯に沿って沈線を引く技法や矢羽状沈線の特徴などから中期中葉以降のものと考える。

307から309は口縁部破片である。307は口縁端部外面を粘土を貼付して肥厚させる。308の沈線は細く鋭い。沈線を縦に施す技法は共通するが同一個体かどうかは不明である。310から312は同一個体である。隆帯上に指頭圧痕状の刻みを施す。沈線の雰囲気から308と同一個体の可能性もある。313と314は310から312と同一個体である可能性が高く胴部破片である。



255

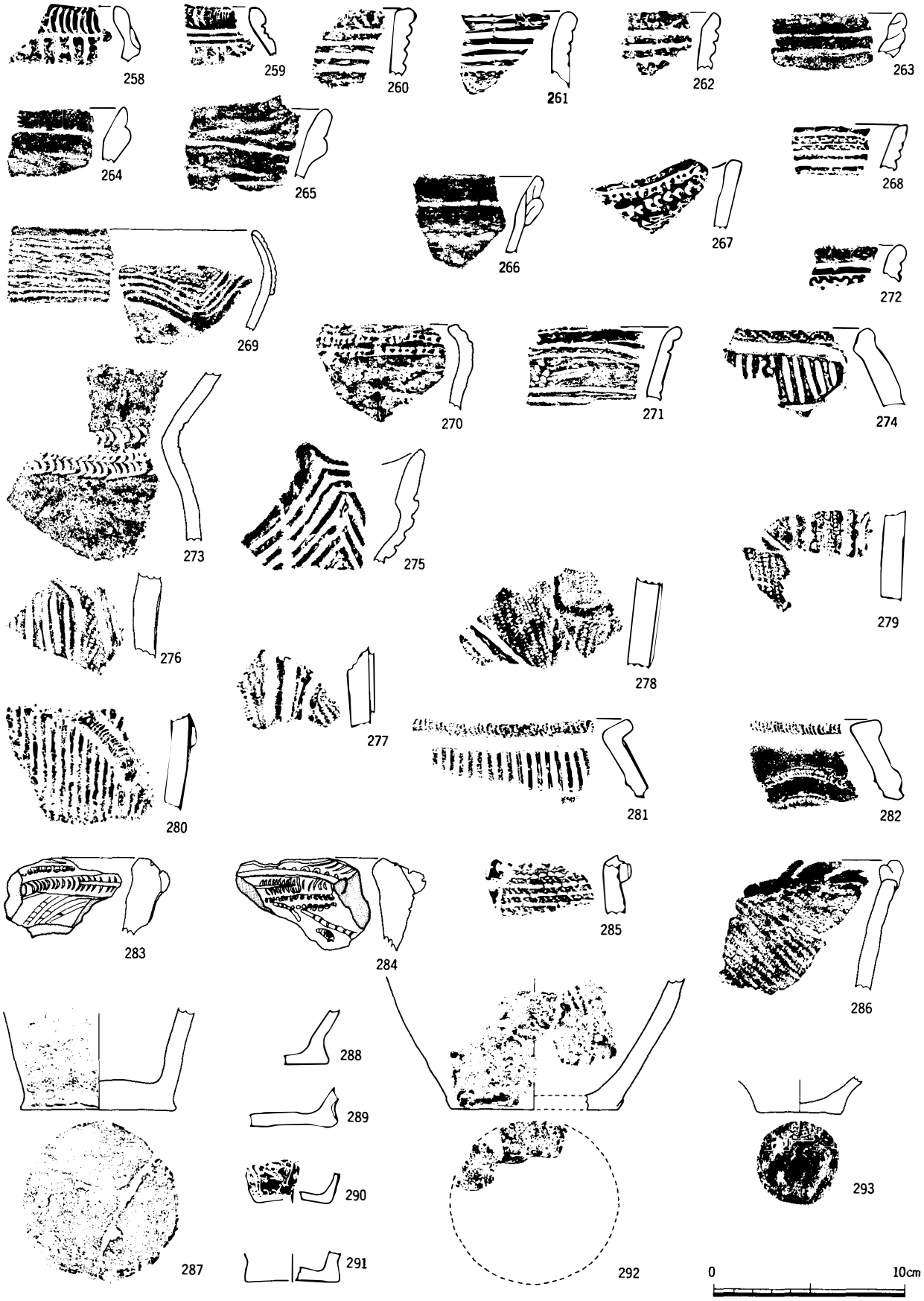
256



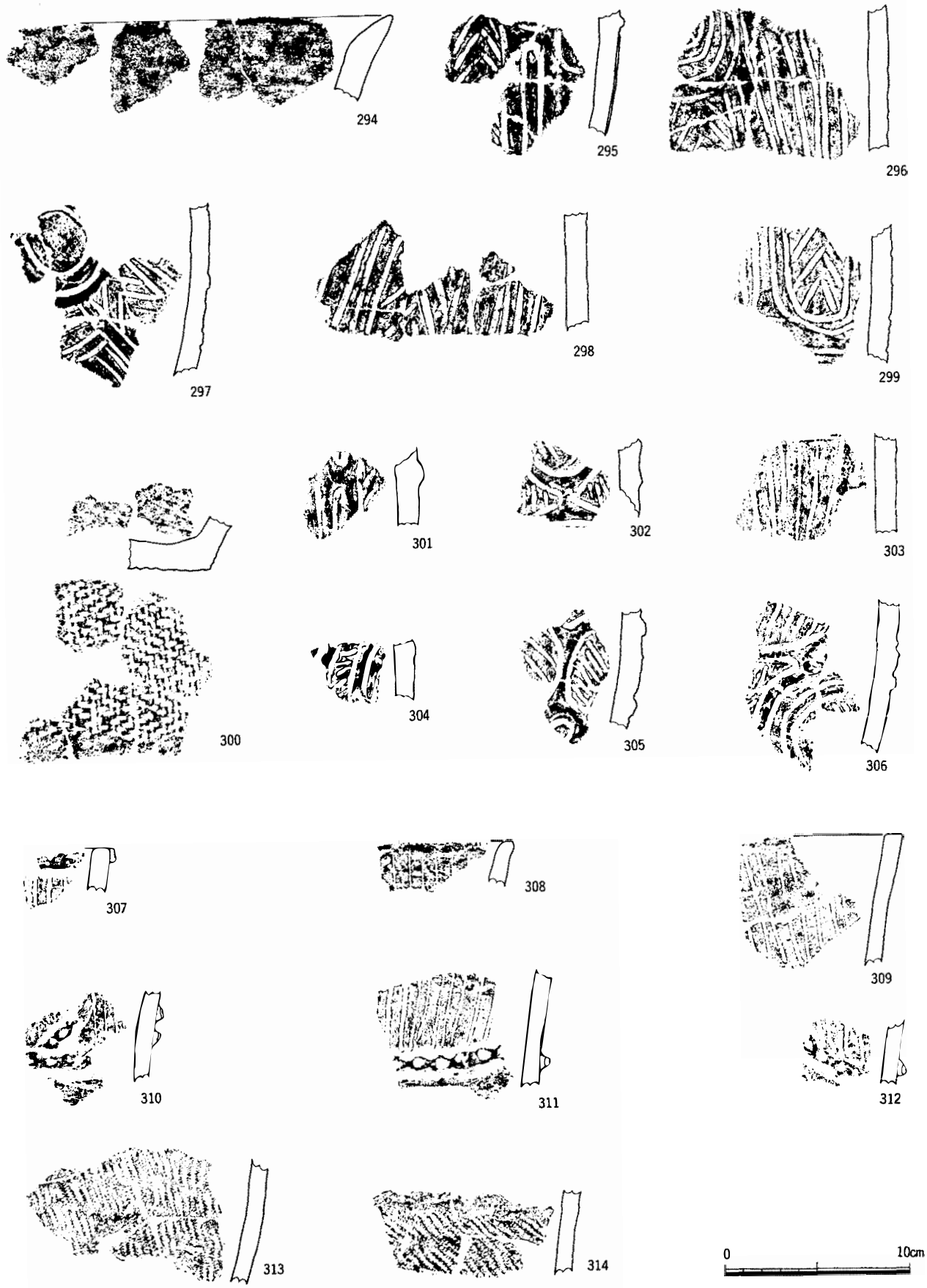
257

0　10cm

第45図　遺物包含層出土の縄文土器（II群）



第46図　遺物包含層出土の縄文土器（II群）



第47図　遺物包含層出土の縄文土器（II群）

３．III群　後期・晩期の土器（第48図　図版21～22）

１から11までを後期、12から25を晩期とした。

１から４は微隆起線を有する土器である。１と２は同一個体である。微隆起線上を斜め短沈線で刻み、口縁端部外面も同様に刻まれる。３と４は刻みを伴わない。同一個体か。

５は詳細不明であるが、口縁外面に縦沈線を施す手法から後期に位置付けた。６は波状口縁の波頂部に指頭圧痕状の押圧を施しそこに向けて隆帯を集束させる。隆帯に沿って細い沈線が引かれる。

７から９は後期後半の凹線文土器に比定されるものと考える。７は内側に屈曲する口縁を持つ鉢である。口唇を刻む。２条の細い凹線が施される。口縁外面には地縄文が施されているかもしれない。８は内傾する口縁を持つ小型の深鉢で口縁外面に２条の凹線が巡る。口唇に縄文が施される。凹線下には縦縄文が施される。口縁や凹線の様相から波状口縁の可能性もある。９は４条の凹線が巡る。口唇は平らに整形される。地文は縦縄文である。

10は台形の突起部破片で八日市新保段階のものと考える。

11はこの時期のものとしては唯一復元できた個体である。４単位の山形の突起を口縁部に配する。山形の突起は左右に更に小型の山形を配する面もある。突起下には瘤が付けられる。瘤の数は２個ずつの可能性もある。瘤と瘤の間は溝状の指頭によると思われる幅のある沈線が施される。頸部でくびれ胴部が膨らむ独特のプロポーションである。地文縄文は口縁外面からランダムに施される。明確な断定はできないが北陸系の後期後半の土器の中に突起を配し瘤を有するものがある。胴部も膨らむ形態のものがあることから同様の時期と考えた。

12から14は磨消縄文の土器。13・14は注口土器か。13は破片下部に刺突列が見られる。14口縁端部外面は短沈線で刻まれる。

15は16は「くの字」状に頸部で屈曲する深鉢である。15は口縁端部外面に刻みを有し、頸部には刺突を施す。地文は擬縄文である。胴部上部に縦長の突起を付す。17は沈線間に列点を配する。15から17は晩期中葉の段階のものであろう。18は後期の可能性もある。

19から23は晩期末の工字文あるいは浮線文系土器である。19は工字文系の土器。22は２条の浮線状沈線下にレンズ状付帯文を有する。21と22は同一個体の可能性もある。どちらも赤色塗彩が施される。

24は口唇に刻みを持つ粗製土器。穿孔は貫通していない。外面に煤が付着する。25も同じく粗製土器で内彎する口縁で口唇を刻む。

４．IV類　その他時期不明の土器（第49図　図版21～22）

１は大きく外反する口縁を有する大きめの深鉢で破片から復元された。胴部はやや膨らむ。口縁部から頸部までは無文で以下に斜縄文を施す。

２は内外面に撚糸文を施す。342も撚糸文の可能性が高いが外面のみに施文される。

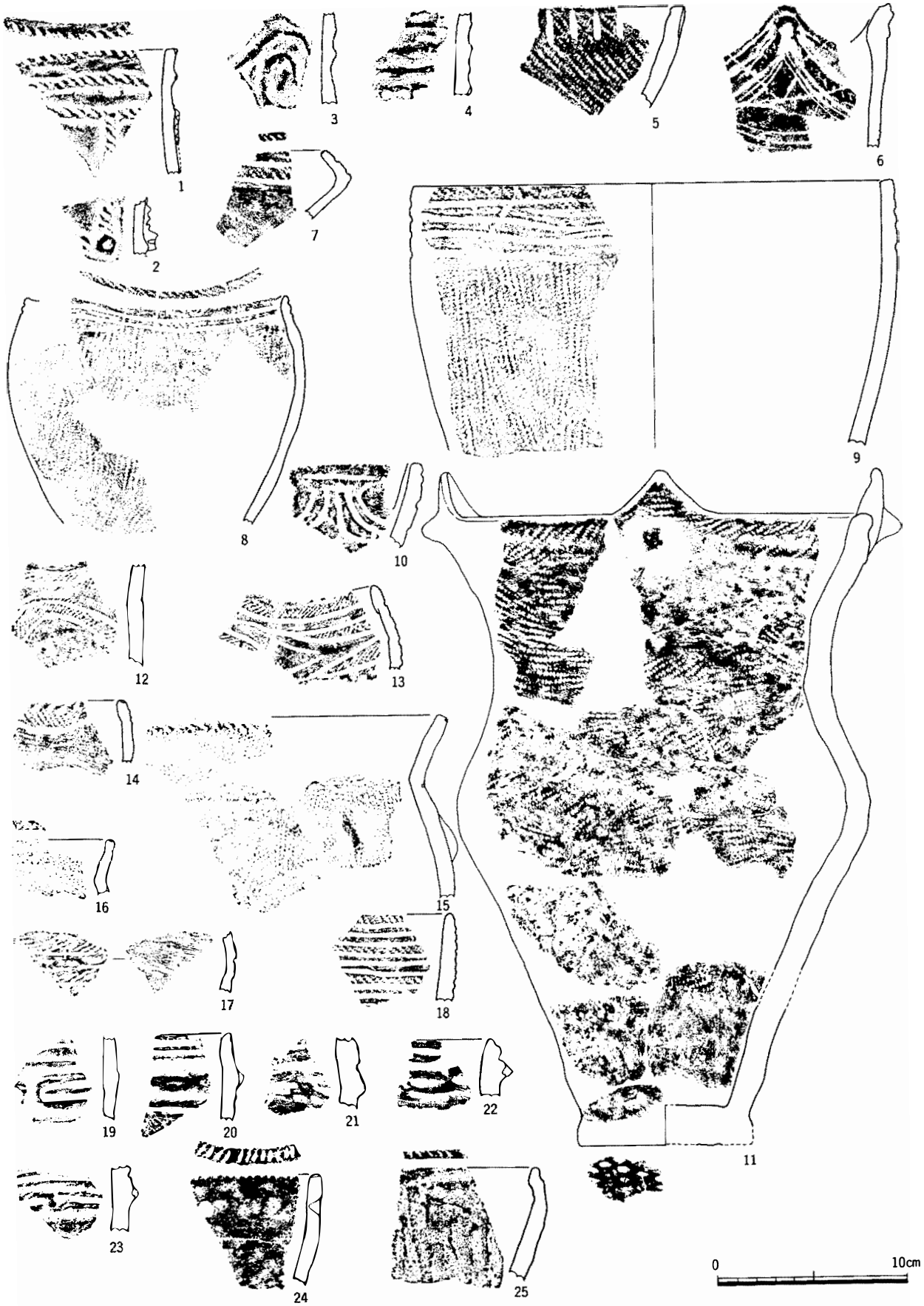
５は肉眼では確認しにくいが拓本では縄文が確認される。内面には薄く粘土が塗られる。外面にもその痕跡がある。縄文を施文した後に薄く粘土を塗ったと考えられる。

６は図上復元した。口縁外側に２条の沈線と２列の刺突列を施す。沈線には施文具の細い条が見られる。刺突は半截竹管を斜方向に施す。突起が付くものと思われる。

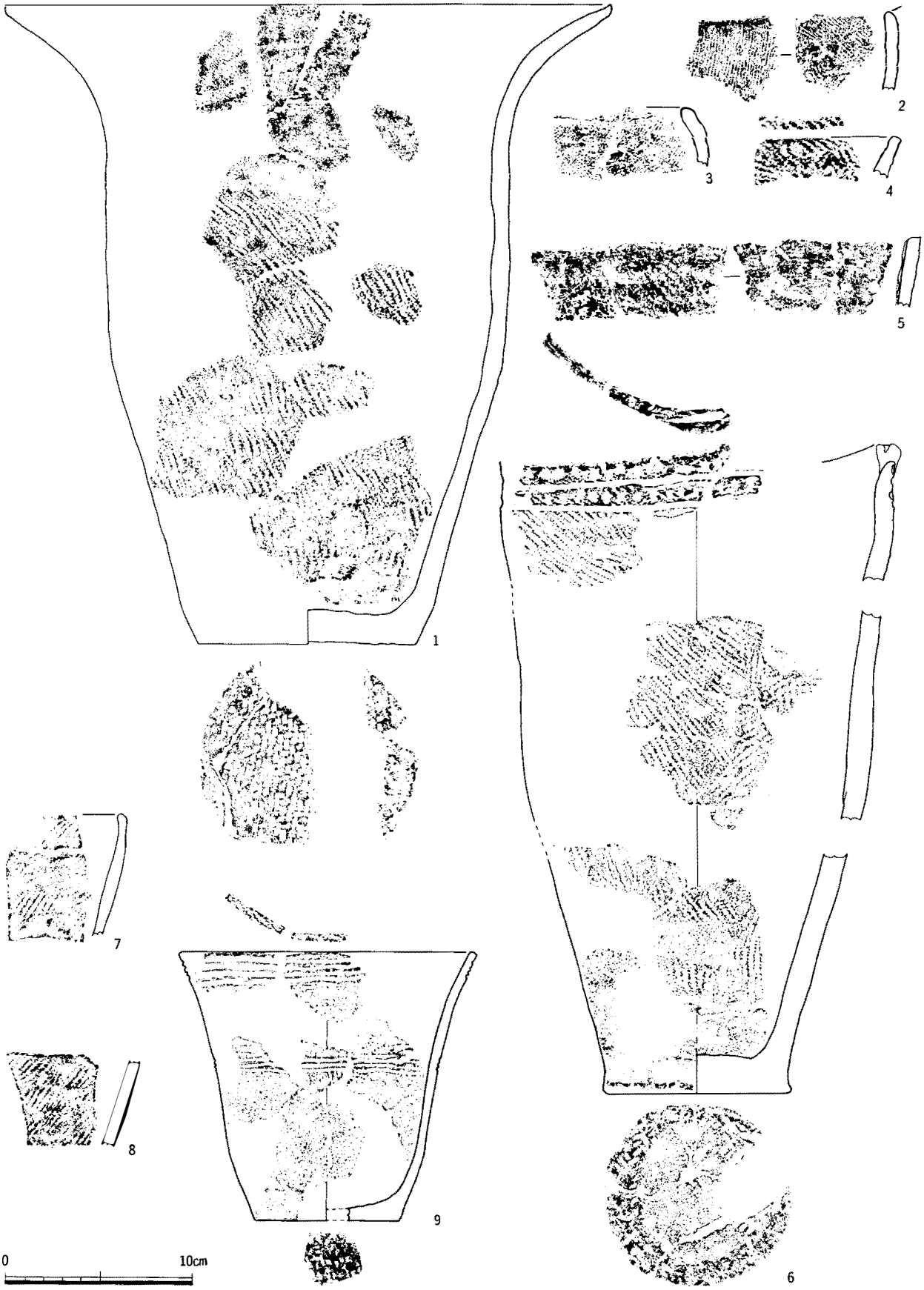
７と８は同一個体と考えられる。焼成堅緻で薄い。

９は破片から図上復元した。口縁部と胴部に沈線が巡る。胴部の沈線から縦に垂下する沈線がある。口唇に縄文が施文される。胴部下半でやや膨らむ。

第46図、287から293は底部である。時期については不明である。287や288・289・291などは底部から内傾したあと立ち上がる。　（伊藤秀雄）



第48図　遺物包含層出土の縄文土器（III群）



第49図　遺物包含層出土の縄文土器（Ⅳ群）

第4節　丸山遺跡の底部

確認した底部破片は166点である。接合した後で集計したのであるが、9割以上残るものは1割に満たず大半が破片であるため、個体数はこれより少ないと推定される。

底面から一度括れて立ち上がるものが（器形判明分の）5割以上を占め、かつ底面形態が窪まず平坦になっている点を本遺跡出土の底部の特徴として挙げることができよう。胴部の出土状況などから考えるとII群に属する底部形態を示していると考えられる。

底面は84点にナデ調整が施されており全体の5割を占める。ナデの前に何らかの圧痕が存在した可能性も否定できないが、丁寧になでられた底面を持つ土器が目立ち、意図的に圧痕を消す作業が行われたと推定される。網代圧痕のみられる土器は35点（2割）と少なく、反対にスダレ状圧痕が13点と、全体の1割を占める点が特筆される。スダレ状圧痕は縦糸が1㎜を越え、細かいスダレはみられない。葉脈圧痕の確認された底部は6点あった。葉脈は網状脈で平行脈はみられない。

また、網代の編み方の確認できたのは以下のようである。

Ａａ類「緯条が経条に対して1本越え1本潜り、1本送り」＝3点

Ａｂ類「緯条が経条に対して2本越え2本潜り、1本送り」＝4点

Ａｃ類「経条が緯条に対して2本越え2本潜りで1本送りと2本送りが交互」＝2点

Ａｉ類「緯条が経条に対して3本越え3本潜りが基本で送りが不明」＝1点

本遺跡は前期末葉から中期前葉の土器群が主体をなしている。従って、底部圧痕にもその時期の特徴が反映されていると考えられる。一方、中期中葉以降、晩期に至るまでの土器もわずかに含まれている点も考えなければならず後者に属する可能性もある。

以下、これまで報告者が観察した荒城川（宮川）流域の遺跡の土器底部の特徴を基に、本遺跡の土器底部の編年的な位置づけを簡単に検討したい。

2、五味原遺跡群を中心とした底部圧痕の変遷

①　遺跡の主体となる時期[1)]

・荒城神社遺跡＝中期後葉

・岡前遺跡＝中期中葉

・西田遺跡II層＝後期中葉から晩期前葉

・カクシクレ遺跡Ａ＝中期後半と晩期前後半

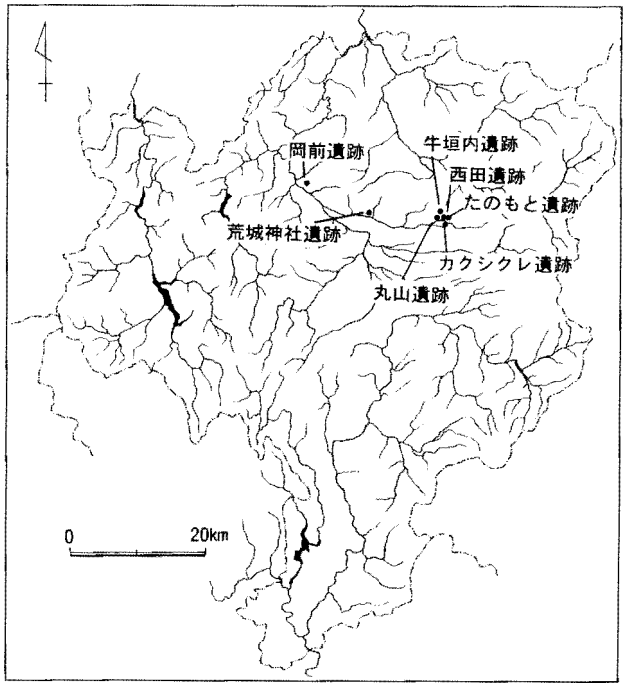
・牛垣内遺跡Ａ＝晩期中葉以降

・牛垣内遺跡ＢＣ＝中期後葉

・丸山遺跡＝前期末～中期前葉。

・たのもと遺跡西区III層＝後期前葉

これらの遺跡の比較から、おおよそ丸山→岡前→カクシクレＡ→牛垣内ＢＣ→荒城神社→たのもと→西田→牛垣内Ａと、中期初頭から晩期までの変遷を辿ることが可能であり、丸山遺跡はこの変遷過程にあって初期の特徴を持ってい



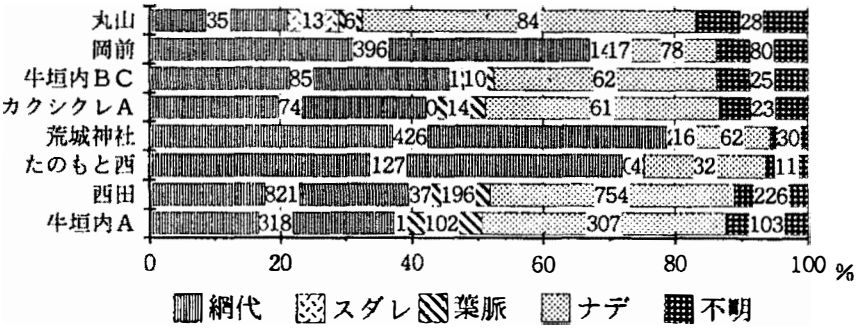
第50図　遺跡分布図

るものとし位置付けられよう。以下、底部圧痕と網代の編み方を中心に特徴を比較する。

②　底部圧痕の比較

丸山遺跡では網代圧痕が少なく、ナデ調整が多いが、岡前遺跡では７割近い底部に網代圧痕がみられる。牛垣内ＢＣ地点、カクシクレＡ地点では５割程度である、荒城神社遺跡、たのもと遺跡では８割近い底部に網代圧痕がみられる。と共に、ナデ調整を行う土器は少ないのが特徴である。西田遺跡や牛垣内Ａ地点では網代圧痕の確認できるのは４割程度である。スダレ状圧痕は丸山遺跡の組成が最も多い。反対に葉脈圧痕は西田遺跡や牛垣内Ａ地点で目立っている。

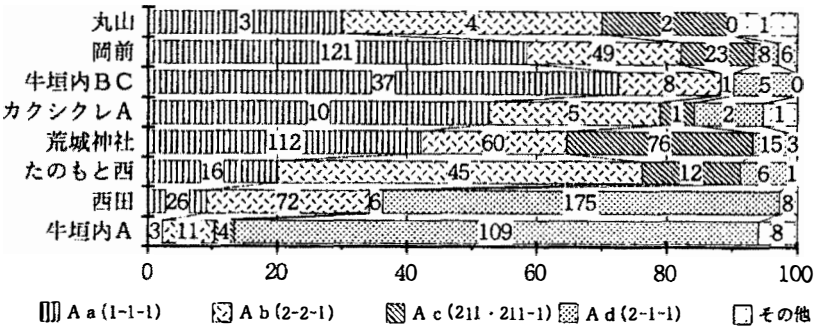
第３表　低部圧痕の比較（数字は出土点数）



③　網代の編み方の比較

Ａａ類は時期の変遷を最も端的に示している。岡前遺跡では６割近くで、牛垣内ＢＣ地点では７割と平織りのピークの様相を呈している。しかし、たのもと遺跡では２割を確認できたこの平織りも牛垣内遺跡Ａ地点に至ってはほとんどみられなくなっている（約２％）。どの遺跡でも２割程度確認できたのがＡｂ類であるが、たのもと遺跡では６割を占め、編み方の主体となっているが、牛垣内遺跡Ａ地点では１割をきっている。この編み方では、２本を１組にして編むことが多く、中には３本を１組にして編む例もみられた。次に荒城神社遺跡で特徴的だったＡｃ類であるが、たのもと遺跡までは１割程度確認できたあまり確認されていない。また、Ａｄ類ははたのもと遺跡までは１割に満たないのに対して、西田遺跡で６割、牛垣内では８割となって際だっている。

第４表　網代の種類の比較（数字は出土点数）



④　まとめ

以上をまとめると、全体では以下の変遷が予察される。

１、網代圧痕は縄文時代前期末中期前葉では一般的ではなく、中期にピークとなる。

２、平織りは中期中葉でピークを迎え、後晩期ではほとんど用いられなくなる。

３、２本越え２本潜りは中期後葉から後期前葉に主体的に用いられた編み方である。

４、２本越え１本潜りは後期から晩期にかけて主体的に用いられた編み方である。　（谷口和人）

1）土器の出土量からみた時期であり、複合遺跡である各遺跡にはこれ以外の時期も相当数含まれている。しかし、各遺跡の比較によってとらえられる底部圧痕の特徴は、各遺跡の主体となる時期の相違を反映していると考えることは可能であろう。

第5節　土製品（第51図・52図　図版23）

本遺跡から土器片利用の円盤9点、土偶4点、不明土製品1点が出土している。遺構に伴って出土したものはなく、いずれも遺物包含層より出土している。

土器片利用の円盤（第51図　1～9）

土器片の周辺を打ち欠いたり、磨いたりして円盤状にしたと思われるものである。胴部破片がほとんどである。1のみ底部片と思われる。無文。2も無文。3・4・8は縄文。5・6・7は半截竹管文で5と6は同一固体の可能性がある。7は繊維を含む。重量は2が6.7gで最軽量。9が20.0gで最も重い。長径は2が2.6cmで最小。その他1から8までは3cm代である。9は4.9cmである。使用された時期については特定できないが半截竹管文のものは中期前半の土器片。7は早期の土器片であろう。

土偶（第52図　1～4）

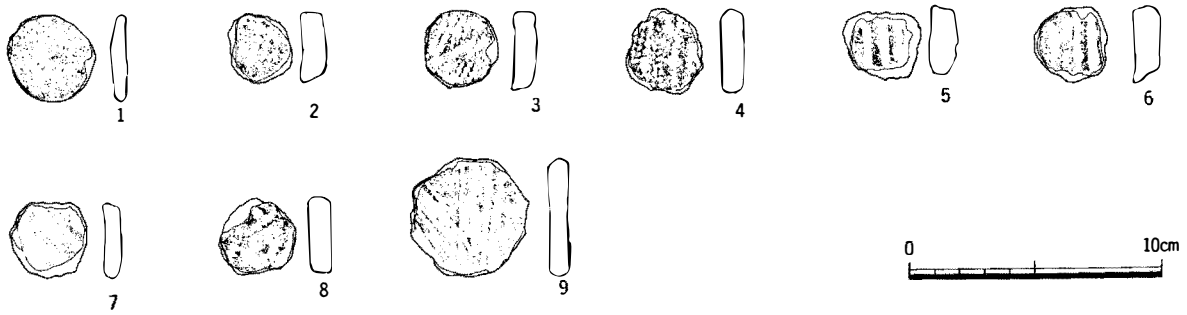
2はE13区中期遺物包含層より出土した。土偶胴部片である。片面にのみ工具圧痕とおぼしき細条を伴う微弱な線で文様が描かれている。表裏は定かでない。胴部中央にあたる破損面に縦位に貫通孔が2本認められ、そのうち1本中に直径1.5mmほどの木芯が炭化した状態で残っている。腕部は断面が縦長の楕円形となり、真ん中をやや凹ませてある。にぶい黄橙色を呈する。焼成普通。

1はF13区中期遺物包含層より出土した。整形の精粗などから判断して右腕部片と考えられるが、無文でもあり現存部分から左右は定かでない。腕部の断面は縦長の楕円形となり真ん中が凹んでいるなど、2と同一形態の土偶と思われる。胴部との接合面付近で破損したような印象を受けるが、破損面に明確な粘土接合痕および木芯痕を認めることは出来なかった。にぶい橙色を呈する。焼成普通。

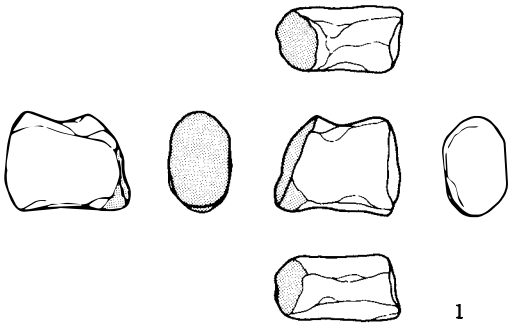
3～4は同一固体である。F15区中期遺物包含層より出土したもので、出土時における2点間の距離は50cmほどであった。ともに破損面に粘土塊の滑らかな表面が露出している。即ち、脚部粘土塊のポジティブな面と、これにより股間に移行すると思われる箇所に胴部との接合に補足的に用いられたと考えられる粘土のネガティブな面が認められる。直径1mmほどの木芯痕を有する。また4については、下端部に粘土を螺旋状に巻き付けたような接合痕が観察でき、足部部分が別個の粘土で作成されていることが判る。にぶい黄橙色を呈する。焼成普通。やや摩耗気味である。　（古田奈緒子）

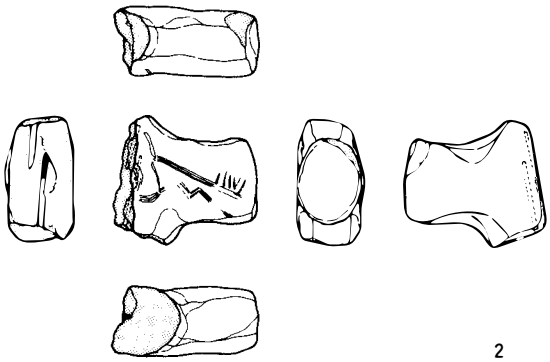
不明土製品（第52図　5）

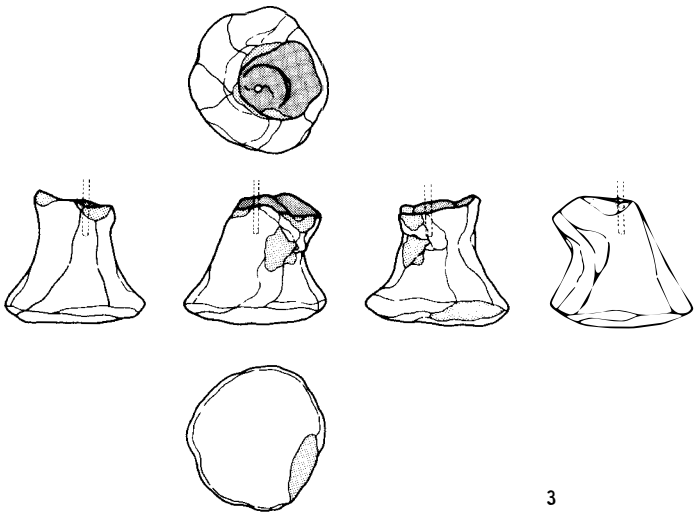
5はE13区中期遺物包含層より出土した。全体に丁寧に成型されているが用途等遺物の性格は不明である。にぶい橙色を呈する。焼成普通。

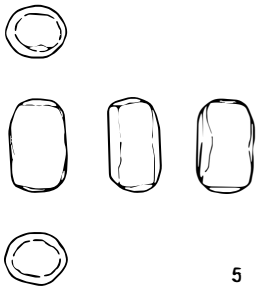


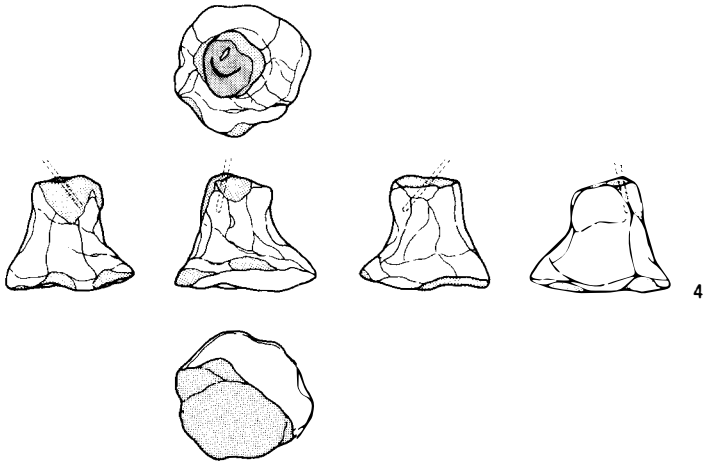
第51図　土器片利用の円盤

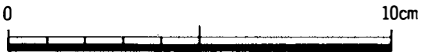












第52図　土製品（土偶・不明土製品）

第6節　琥珀玉製品（第53図・54図　図版23）

検出時には劣化が激しかったので、観察は処理後に行った。そのため色調、重量、その他検出時とは異なっているところもある。

琥珀は7個検出されたが、原形を留めて完形品として実測できたのは5個のみである。5個は全面が整形（加工）されている。琥珀玉を計測すると第3表のようになる。

最初に発見された玉は、検出時に崩壊し砕散した。色調は一見明るい赤茶色を呈していたが、よく見ると半透明で赤味を帯び、美しい飴色を呈している部分がみられた。しかし、時間の経過と共に変色がすすみ、更に取り上げ段階の薬品処理で、出土時の色調はほとんど見られなくなった。砕散片を集め復元につとめたが不可能であった。残存破片量と全部の重さから推測すると、あまり大きな製品であったとは考えられない。その量からしてNo.6の丸玉（第54図）に近いものと推測される。表では参考のためNo.7として記した。

No.1（第53図）

連綴の状態で検出された最初のものである。劣化が著しい。処理後も土の付着が認められ、表面を全て観察することはできなかった。

形状は胴張りの管玉状を呈している。細長い棗(なつめ)の果実に似ているので、このような形の玉を棗状管玉と称している。断面は扁円形を呈しているが、その調整はあまりよくない。長軸にそってC面（表面）は胴張りできれいに整形されているが、研磨時の擦痕が一部認められる。傾斜は長軸に対し約80度である。なお、整形時の剥離痕跡と認められる縦長の窪みがe面（裏面）にみられ、e面はc面と反対にやや内彎しているが、長軸に平行して研磨痕と思われる擦痕が認められる。

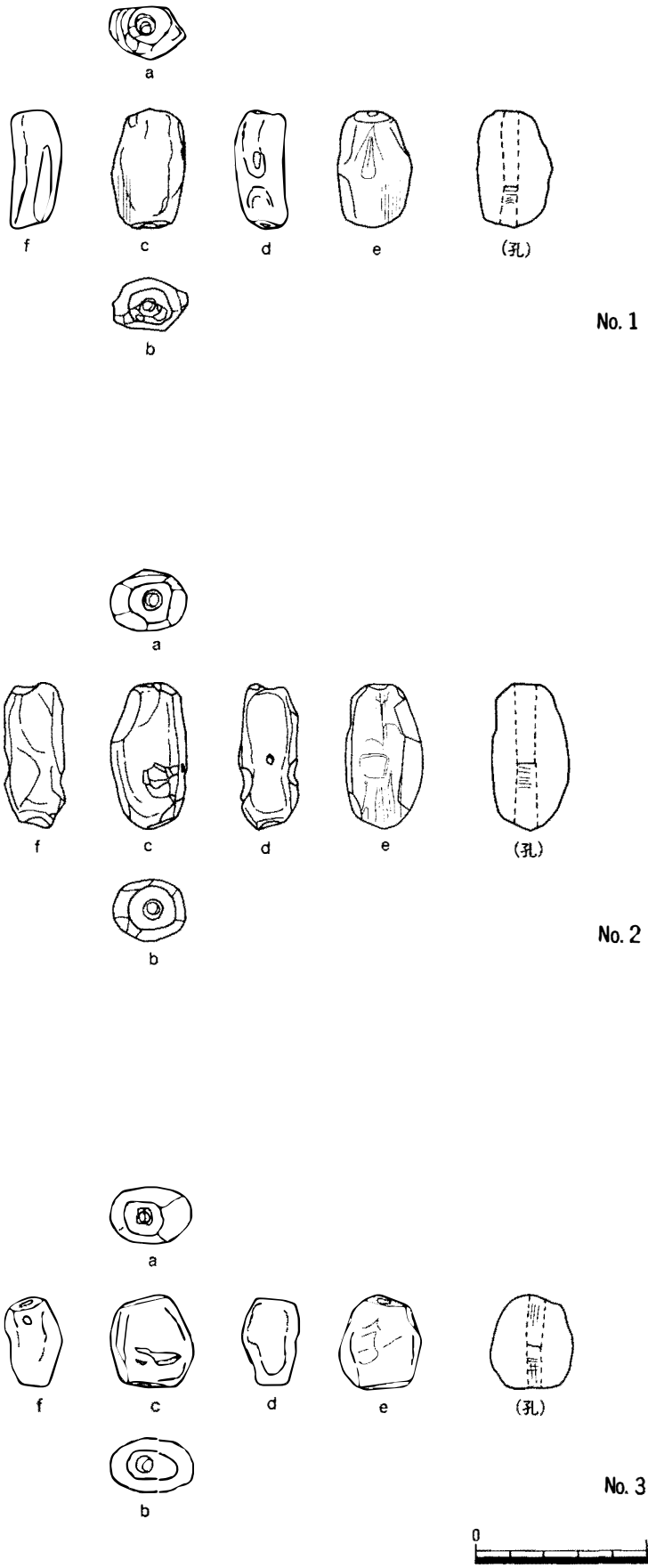
孔は両端より穿たれる両面（二方向）穿孔である。図のa面（上）からの孔をa孔、b面（下）からの孔をb孔と称すると、a孔は明らかではないが、b孔内には回転痕が若干認められた。なお、b孔開孔部には修正痕が見られる。a孔とb孔はくい違い点で約10度の孔軸の方向差がある。

第5表　琥珀玉製品観察表

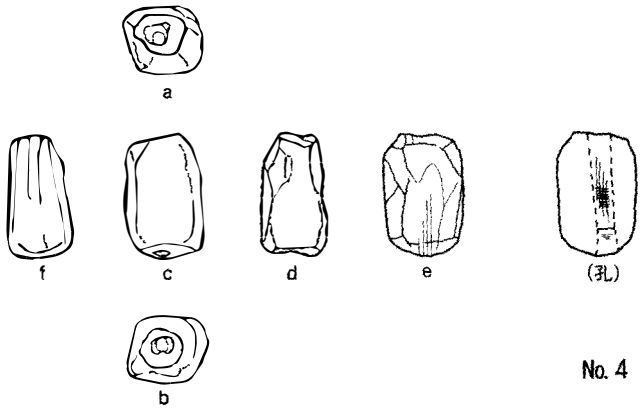
No.	玉の形態	長さ(cm)	径 幅(cm)	径 厚さ(cm)	重さ(g)	孔 a面 開孔径(mm)	孔 a面 終孔径(mm)	孔 b面 開孔径(mm)	孔 b面 終孔径(mm)	孔 a面の孔の深さ(cm)	孔 b面の孔の深さ(cm)	孔 孔内の回転痕	孔 穿孔方向の擦痕	表面に研磨の擦痕	色調・備考
1	棗状管玉	3.41	2.07×1.50		5.9	5.4	3.0	5.6	3.8	2.0	1.2	有り	—	有り	暗い赤味茶
2	棗状管玉	4.21	2.18×1.71		9.0	6.0	4.0	7.0	5.3	2.2	1.8	有り	—	有り	暗い赤味
3	棗状偏平丸玉	2.59	2.31×1.57		5.3	5.0	4.0	5.0	4.5	1.3	1.1	有り	有り	無し	にぶ赤
4	棗状管玉	3.13	1.98×1.77		7.[illegible]	6.0	4.0	7.0	4.9	2.4	[illegible].7	有り	有り	有り	暗い赤味茶
5	棗状管玉	—	約2.29	—	残存1.5	3.7	—	4.0	—	—	—	土付着観察不能		—	暗い味赤
6	棗状丸玉	2.13	2.11×1.94		5.1	5.0	4.0	5.3	4.4	1.0	1.2	有り	有り	有り	にぶ赤
7	棗状丸玉？	—	—		破片3.1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

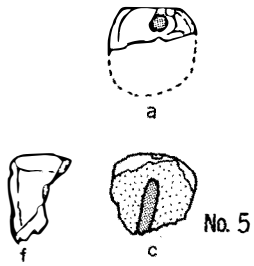
註1　色調は「Today's C LOR/300」（日本色彩社刊）による。

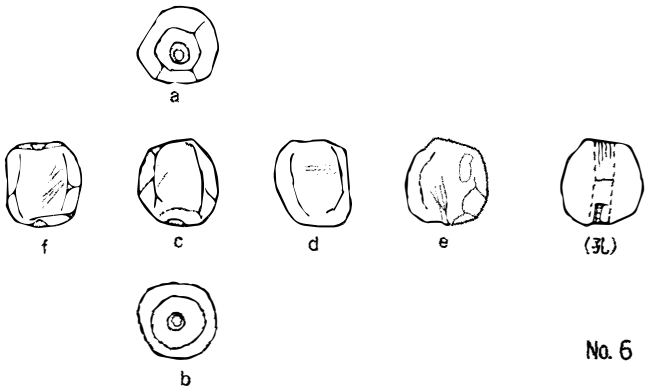
註2　a・b面の形態により、a面とb面の孔の深さの合計は必ずしも玉の全長値とは一致しない。

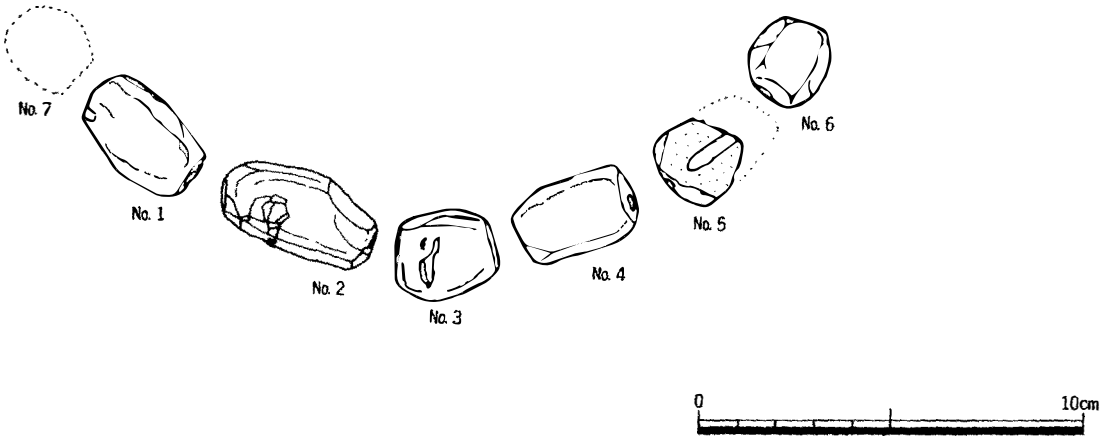


第53図　琥珀玉製品(1)


a
f
c
d
e
(孔)
b
No. 4


a
f
c
No. 5


a
f
c
d
e
(孔)
b
No. 6


No. 7
No. 1
No. 2
No. 3
No. 4
No. 5
No. 6
0
10cm

第54図　琥珀玉製品(2)

No.２（第53図）

２番目に検出されたものである。棗状管玉として最も大きな法量を示す。胴張りの形状であるが、両端は細くなり断面はやや偏円形を呈する程度である。ａ・ｂ面の調整はあまりきれいでない。ｃ・ｅには剥離の跡と思われるネガティブの跡がみられる。また、ｄ面の中央に径3.1㎜、深さ2.2㎜の孔が認められるが人工的ではない。ｅ面の長軸にそって研磨によると思われる擦痕が見られるが、整形はｅ面を除けばあまりよくない。

孔は両面穿孔であるが、ａ面開孔部には修正痕が認められる。ａ孔内には確認できないが、ｂ孔内には回転痕がわずかに認められる。ａ孔とｂ孔の交わりは約２度のくい違いを有している。

No.３（第53図）

３番目に検出されたのものである。棗状に近い扁平丸玉である。劣化が比較的少なく土の付着は少ない。断面は楕円形であるが全面がきれいに整形されている。ｃ・ｆ面に剥離痕と思われる窪みが少し残存しているが、擦痕もほとんど見られず、他のものと比較すれば全体に非常に滑らかな面をしている。

ａ・ｂ穿孔面の調整も大変きれいである。穿孔は両面穿孔であるが、特にｂ面からの穿孔は修正痕も見られずきれいである。ｂ孔内には回転痕が認められる。さらに縦の擦痕がａ孔内・ｂ孔内に認められる。ａ孔とｂ孔は交点で約10度傾いている。

No.４（第54図）

４番目に検出されたものである。断面は扁円形というより隅丸方形に近い。調整はあまり滑らかではない。基本的には長方形の素材の稜を整形して丸みをもたせたように見える。剥離の痕跡が見当らず、整形時の痕跡はｅ面に若干見える程度である。

穿孔は両面穿孔である。開孔部がやや楕円形となっているのは修正痕と思われる。ａ孔内・ｂ孔内には回転痕や縦の擦痕が認められる。ａ孔とｂ孔とは約５度の傾斜で交わる。

No.５（第54図）

完全な棗状管玉の形で検出されたが、検出直後にほとんど崩壊してしまった。しかし、一部残存した部分を実測することができた。実測図に示すように孔内に土が残っている。

No.６（第54図）

発掘現場では確認することができず、元興寺文化財研究所で処理作業中に検出されたものである。長さと幅の差はほとんど無い。球形で、まさに丸玉といえるものである。調整はあまり滑らかではない。ｅ面には剥離痕と思われる小さな窪みが見られる。調整時の研磨痕と思われる擦痕は、長軸に対し平行もしくは約70度の角度で若干見られる。

穿孔は両面穿孔である。ａ孔内には縦の擦痕が認められ、ｂ孔内には縦の擦痕および回転痕も認められる。ａ孔とｂ孔とは約10度のくい違いがある。

丸山遺跡の琥珀製品について

丸山遺跡の琥珀は県下では最初の出土であり、一土壙内から出土したその量においては現在のところ全国でも類例がみられず、第一級の資料として高く評価されるものであろう。

縄文時代遺物として発見される琥珀は、劣化しており大変脆いため検出が困難である。本遺跡の琥

珀も、もし一個のみであったなら見過ごされた可能性がある。

琥珀（Amber）は、植物の樹脂が変質して化石化した脆弱な有機物である。硬度は2～2.5（爪より堅く10円玉より柔らかい）と比較的柔らかく、比重は1.05～1.096で軽く海水に浮くものもある。150℃で柔らかくなり300℃で溶けて燃える。燃焼時や高温を受けると、樹脂特有の芳香を発する。色調は黄色、黄褐色、赤褐色などで透明から半透明を呈し綺麗である。中に虫や植物の葉、果実などの化石を含むものがあり、これらは虫入り琥珀などと呼ばれて珍重されている。

丸山遺跡の琥珀もこうした特徴を有していると思われるが、残念ながら劣化が激しく、琥珀としての本来の特徴的な色を見ることはできない。しかし、肉眼では見えにくいが拡大鏡でよく観察すると、半透明で赤味を帯びた飴色を呈している部分が確認できる。

丸山遺跡の琥珀の加工には、どのような工具が使用されたのか現在のところ分かっていない。しかし琥珀は柔らかく脆いため無理な加工（調整）を行わず、主として研磨の方法が用いられたと思われる。その工具は製品の形状から、筋のあるいわゆる玉磨き砥石等は使用されていなく、平砥石であったと想定される。また、穿孔には、骨もしくは竹の棒状錐のような工具に、細砂等の媒材を使用して穿孔したと考えられるが、管錐使用の痕跡は本遺跡出土のものには認められなかった。孔内の回転痕は媒材によるものと理解できる。ところが、縦の擦痕がなぜ残存しているのかわからない。錐をぬくときあるいは孔内修正の際、または紐を通す時に針などによってついたとも考えられるが、現段階では何とも言えない。

日本列島における琥珀は、北海道厚田郡周辺・岩手県久慈市とその周辺・福島県いわき市・千葉県銚子市・岐阜県瑞浪市等が主な産地としてあげられている。しかし、縄文時代の琥珀出土地は北海道を除けば久慈市周辺と銚子市周辺に集中している。

本遺跡に最も近い琥珀産地である瑞浪市は良好な琥珀産地として知られていたが、中央高速道路建設の際コンクリート吹き付けがなされ、現在は実見できない。また、縄文時代遺物として近辺の遺跡から出土したという報告例はない。それは琥珀が当時露出していなかったか、または風化のために脆く砕けやすくなっているため、気付くことが容易でなかったためと思われる。後者であれば今後出土する可能性は大きいと思われる。

本遺跡に近い出土琥珀を検索すると、山梨県大泉村の甲ツ原（かぶつっはら）遺跡において、土壙墓より琥珀製垂玉が出土しており、時期は縄文時代中期初頭であるという。このなかに、№3の形に類似したものが出土している。長野県諏訪湖近辺では数ケ所の遺跡で、縄文時代中期の住居跡内より琥珀製の玉が出土している。岡谷市の梨久保遺跡では、土壙内より不定形の琥珀製垂玉が出土している。時期は縄文時代中期初頭から中葉であるといわれている。また、岐阜県に一番近い所では、木曾郡南木曾町の太田垣外遺跡で、不定形でやや大きめの琥珀の垂玉が一個出土している。時期は縄文時代中期後葉といわれている。

富山県の境A遺跡においても、長さ2.5cm、幅1.6cm、厚さ1.4cmで形は「やや扁平ななつめ形」といわれ、本来は長さ3cm、幅2.6cm、厚さ1.6cmになるものと報告された琥珀が出土している。包含層出土で、時期は縄文時代後・晩期でないかと言われているが中期初頭の土器も出土しており丸山遺跡の琥珀と類似していて興味深い。石川県真脇遺跡でも琥珀の丸玉が一個出土していて、時期は縄文時代前期末と報告されている。縄文時代前期末の例では、千葉県四街道市木戸先遺跡から、前期後半の琥

珀出土が報告されている。山武考古学研究所の長井正欣氏のご教示によれば、群馬県松井田町の行田（おくなだ）大道北遺跡では、住居跡内より棗状管玉の琥珀が一個出土していて、縄文時代前期末の諸磯ｂ式土器が伴出している。

丸山遺跡の琥珀は、土壙内に時期が分かる土器を伴っていない。周辺より出土した土器は縄文時代前期末から中期初頭のものである。したがって、縄文時代前期に属する真脇遺跡や行田大道北遺跡の琥珀の類例などから、縄文時代前期末から中期初頭の範囲に入る可能性が高い。しかし、形態上から行田大道北遺跡出土の棗状管玉に最も類似している。この点縄文前期に属する可能性がきわめて大きいと思われる。

当遺跡の琥珀は、先にも述べたように一土壙内から出土した数量としては最多であり、他に類例が見られない。さらに７個の琥珀が棗状に全面加工され連綴の状態で装飾品（首飾り）として使用されたと実証される類例は、当遺跡の琥珀に限らず大変珍しい。配列は出土状況から考察して、第54図の下段図の如く復元される。No.７は発見と同時に砕けてしまったが、No.１～６は番号順に検出された。No.４・６は何らかの理由で移動したと想定される。玉の配列は、No.７をNo.６と同様の丸玉と考えると残存量がNo.６に最も近い。『丸玉・棗状管玉・棗状管玉・棗状扁平丸玉・棗状管玉・棗状管玉・丸玉』と扁平丸玉を中心に左右対称に無理なく配置される。琥珀がこの時期に、このような状態で利用されていたことを示す最初の例である。しかも、産地から遠い飛騨山中で出土したことの意義は大きい。また、そのアンバールートを探る上でも注目されるべき貴重な資料である。

産地については、元興寺文化財研究所および報告（第５章）に述べられているように産地同定はできなかった。ちなみに、他の遺跡の琥珀の産地については、下記のような報告がなされている。

甲ツ原遺跡の琥珀については、山梨県埋蔵文化財センターの五味信吾・野代幸和氏による赤外線吸収スペクトル分析による産地同定が試みられた。その結果、福島県いわき産に近いと言われながらも断定はできないとされている。

梨久保遺跡の琥珀については、長野県史によれば八王子市北浅川産をあげられているが、五味信吾・野代幸和氏によると北浅川産の琥珀は諸条件が整っていなく無理であろうと指摘されている。吉田格氏は産状からして北浅川産琥珀は採取されなかっただろうと述べられている。その他の遺跡出土の琥珀も、粟島台遺跡など若干を除いては、現在のところ多くは産地がはっきりしていない。しかし、分析化学が発達すれば、いずれ科学的に産地同定がなされる時がくると思われる。その時、丸山遺跡出土琥珀の産地も再び検討され解明されるであろう。

丸山遺跡の発掘調査・報告書の作成にあたり、格別にご指導、ご助言くださった寺村光晴先生、藤田富士夫先生には特記して感謝の意を表する次第である。　（野村宗作）

〈参考文献〉

石川県能都町教育委員会　1986『真脇遺跡』
五味信吾・野代幸和　1994「山梨県北巨摩郡大泉村甲ツ原遺跡出土琥珀の産地同定(1)」
寺村光晴　1985「日本先史時代の琥珀―その出現と様相」
『和洋女子大学学部創設35周年記念論文集』

寺村光晴　1984「古代人の交流・交易」
『別冊 歴史読本 再現！古代人の知恵と生活』（琥珀）新人物社
寺村光晴　1995「日本の玉」―赤と青―『和洋国文研究』30
富山県埋蔵文化財センター　1992『境A遺跡』
長野県岡谷市教育委員会　1986『梨久保遺跡』
藤田富士夫　1989「玉」ニュー・サイエンス社
南木曽町教育委員会・木曽郡町村会　1995『太田垣外遺跡』
山梨県埋蔵文化財センター　1993『甲ツ原遺跡II』
吉田格　1992「縄文時代の琥珀―南関東・山梨県下の出土例について―」『考古学論究』

第７節　遺物包含層出土の石器

本遺跡から出土した石器は4421点である。そのうち遺構内からの出土は269点、包含層からの石器の出土は1600点、表土など攪乱した場所や区一括扱いの石器やチップが2552点である。包含層から出土した石器の器種別内訳は、石鏃213点、石錐51点、石匙20点、両極石器31点、ヘラ形石器8点、削器33点、掻器20点、RF46点、UF55点、コア９点、打製石器141点、磨製石器16点、磨石108点、凹石186点、石皿８点、抉入石器１点、石垂４点、有溝石製品１点、横刃型石器１点、フレーク648点である。出土した剥片石器の石材を見るとチャート481点、下呂石220点、黒曜石193点、凝灰岩362点、緑色片岩26点、頁岩６点、砂岩４点、玉随４点である。これらの石器は、縄文時代早期～中期に製作・使用されたものと思われるが、包含層における層位の違いが確認されにくく、土器型式に見合うような詳細な時期区分ができなかった。詳細については、以下の各器種において説明する。

石鏃（第55図１～28　図版25）

石鏃は折損したものも含め213点である。石材の内訳はチャート79点、下呂石65点、黒曜石68点、頁岩１点である。本遺跡の石鏃の分類は矢先としての機能する尖頭部と矢柄装着部である基部に着目し、尖頭部と基部との組み合わせで分類した。

尖頭部の分類

１類　先端が鋭角なもの。
２類　先端が鋭角であり全体が細長いもの。
３類　先端が鈍角なもの。
４類　先端が小さく尖り側縁部の肩が張った形状を持つもの。
５類　先端が丸いカーブを描くもの。
６類　先端が小さく尖っているもの。

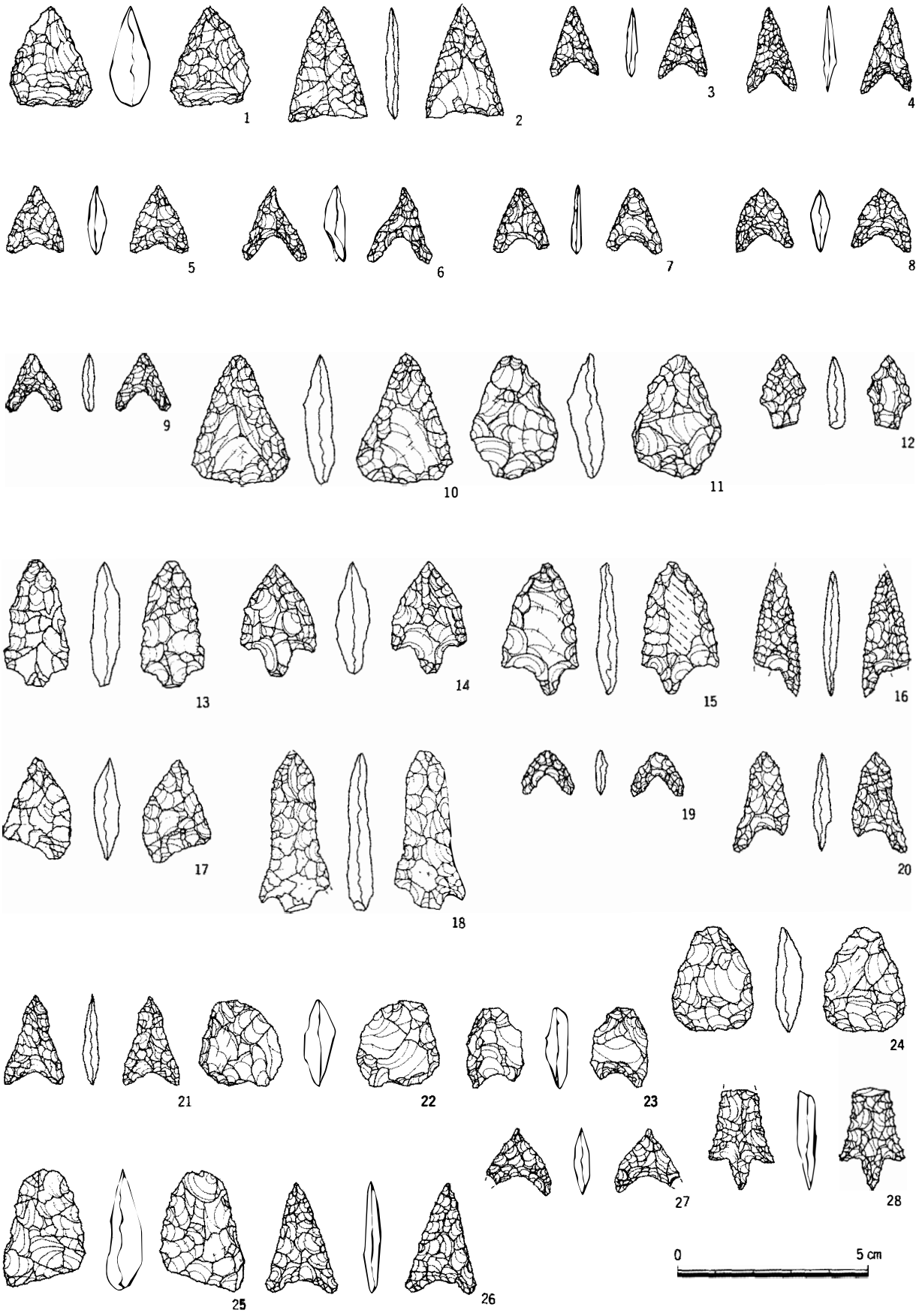
基部の分類

Ａ類　脚部が片方のみか、極端に片方が短いもの。
Ｂ類　基部の凹状のもの。
Ｃ類　基部の凹状の抉りが浅く不明瞭なもの。
Ｄ類　平基鏃で基部が直線状になるもの。
Ｅ類　円基鏃で基部が丸みを帯びるもの。
Ｆ類　有茎鏃で基部に茎を持つもの。
Ｇ類　平基鏃に茎を持つもの。
Ｈ類　有茎鏃に両脚があるもの。

折損部位

ａ　尖頭部の欠損
ｂ　片方の脚部の欠損
ｃ　脚部のみ残存
ｄ　尖頭部のみ残存
ｅ　尖頭部と脚部の一部欠損
ｆ　基部から胴部の半身欠損
ｇ　両脚を欠損
ｈ　基部を欠損
ｉ　その他

分類した石鏃の内訳は、１-Ａ類10点、１-Ｂ類72点、１-Ｃ類15点、１-Ｄ類７点、１-Ｅ類７点、１-Ｆ類３点、１-Ｇ類１点、１-Ｈ類12点、２-Ｂ類１点、２-Ｈ類２点、３-Ａ類１点、３-Ｂ類５点、３-Ｄ類１点、４-Ａ類２点、４-Ｂ類５点、５-Ａ類２点、５-Ｂ類１点、５-Ｃ類３点、５-Ｄ類１点、５-Ｆ類２点、６-Ｃ類３点である。欠損した石鏃のうち１類と分かるものが24点、３類は１点、４類１点、５類１点、基部が確認できたものでＢ類は７点、Ｃ類は１点、Ｄ類は１点、Ｅ類１点、Ｈ類１点、その他石鏃と思われるもの19点であった。



第55図　遺物包含層出土の石器(1)

１－Ａ類の先端角は30°～60°であり、その中心となるものは30°～40°である。側縁部の形状については直線状に開くものが４点、凹状となるものが１点、凸状になるものが４点（17）である。17は厚みが７㎜と比較的厚い。側縁部の一辺は鋸歯状になり、もう一辺は凸状に膨らんでいる。脚部については片方の内側に二次加工の調整が見られるが、もう一方は脚部として製作されず加工されている。

１－Ｂ類の先端角の中心となるものは30°～35°である。側縁部の形状については直線状に開くものが40点（3.7.9）、凹状となるものが10点（4.6）、凸状になるものが20点（5.8）である。抉入部の深さは２～７㎜まであり、主となるのが３㎜（38％）～４㎜（28％）である。３は先端角が36°基部は大きな抉りを施し開き角が93°である。側縁部は直線状を呈している。４は先端角が32°基部は「く」の字状の抉りが施され開き角が100°である。側縁部一辺は直線状だが、もう一辺は凹状を呈している。５は先端角が48°基部は「く」の字状の抉りを施し開き角が125°である。側縁部は凹状を呈している。６は先端角が50°基部は「Ｕ」の字状の抉りを施し、深さは７㎜あり、開き角が77°である。側縁部は凹状を呈している。７は先端角が48°基部は「Ｕ」の字状の抉りを施し、開き角が75°である。厚みは２㎜と比較的薄い。側縁部は直線状を呈している。８は先端角が53°基部は「く」の字状の抉りを施し、開き角が99°である。側縁部は凸状である。９は先端角が50°基部の抉り込みが６㎜と比較的深く、開き角が76°である。

１－Ｃ類の先端角は34°～58°であり、中心となるのは35°～45°である。側縁部の形状については直線状に開くものが６点（２）、凹状となるものが１点、凸状になるものが７点（１）である。基部への抉り込みは１～２㎜と浅い。１の厚さは10㎜と比較的厚く、先端角が57°基部にはつぶれが見られるが、開き角は不明瞭である。２は先端角が38°基部にわずかな抉りが施される。裏面に素材剥片のネガ面を残している。厚みは２㎜と比較的薄い。側縁部は直線状を呈している。

１－Ｄ類の先端角は45°～55°が主である。側縁部の形状については直線状に開くものが４点(10)、凸状になるものが３点である。10は素材剥片のネガ面を残し、側辺部などに粗い調整が施されている。

１－Ｅ類の先端角は33°～47°である。側縁部の形状については直線状に開くものが４点、凸状になるものが２点（11）である。11は全体的に粗い調整が施されている。

１－Ｆ類は２点とも19㎜と22㎜の比較的小型の石鏃である。12は先端角が55°である。裏面に素材剥片を残すが、側縁部には鋸歯状となる剥離を施している。

１－Ｇ類は13の１点だけである。全体的に粗い調整を施し、鋸歯状の側縁部は凸状に膨らんでいる。

１－Ｈ類の側縁部の形状については凹状となるものが１点、凸状になるものが10点（14）である。また、鋸歯状の側縁部を呈するものが７点（15）ある。14の先端角は49°基部は８㎜と比較的厚みのあるが全体が丁寧に調整がされている。15は両面とも素材剥離を残している。茎部が中心線からはずれて作り出されている。

２－Ｂ類は16の１点である。16は先端角が24°鋸歯状の側縁部は凸状に膨らんでいる。

２－Ｈ類は３点出土する。18は側縁部が平行し上半部で肩がつく凹基有茎鏃である。丁寧な二次加工が施される。

３－Ｂ類の先端角は55°～79°と広角であるが78°前後のものが３点出土している。法量は12～16㎜、重量は0.3～0.8ｇと比較的小さく、側縁部は凸状である。19は先端角78°開き角81°とほぼ同数で長い脚部を呈している。先端部には衝撃によるつぶれが見られる。

４－Ａ類の側縁部は上半部に肩を持ち、先端角は共に77°である。20は側縁部の一辺が凹状、もう一片が凸状を呈している。基部は大きく抉り込み、片方の脚部は小さく、他方は調整された長い脚部を呈

している。

4－B類の先端角は58°～80°と広角である。側縁部は上半部に肩を持ち、先端が小さく突出した先端部を呈するものもある（21）。21は突出した先端部まで丁寧に二次加工されている。基部は「く」の字状の抉りを施し、開き角は128°である。

5－A類は基部を調整するが脚部を作出する意図が不明確である。25は先端部に衝撃による痕を残す。

5－B類は先端が丸いカーブを描き全体に粗い調整がされている。23は貝殻状剥片を使用し二次加工が施されている。

5－C類は22の1点である。裏面に貝殻状剥片の面を残し周辺部に二次加工が施されている。

5－D類は24の1点である。丸い先端部に凸状の側縁部を呈する。基部も調整されるが抉りはない。

6－B類は先端部に突出した尖頭部をもつもので先端角は35°～73°と幅が広い。26は側縁部が直線状を呈し、基部は円形に抉り込まれている。27は著しく突出した尖頭部をもち、側縁部が凸状を呈す。基部は円形に抉り込まれている。

28は尖頭部が折損し、鋸歯状になった側縁部は凹状を呈している。全体に丁寧な二次加工が施されている。

石錐（第56図29～33　図版25）

石錐は折損したものも含め51点である。石材の内訳はチャート33点、下呂石12点、黒曜石4点、頁岩2点である。本遺跡の石錐は形状と錐部の組み合わせで分類した。

1類　長い棒状の形状であり、基部と錐部の区別がはっきりしないもの。

1－A　錐部が両端にあるもの。

1－B　錐部が一端にあるもの。

2類　剥片の一端を尖らせて錐部を作り、つまみ状の基部を持つもの。

2－A　長い錐部を持つもの。

2－B　短い錐部をもつもの。

3類　錐部と基部との区別がはっきりしないもの。

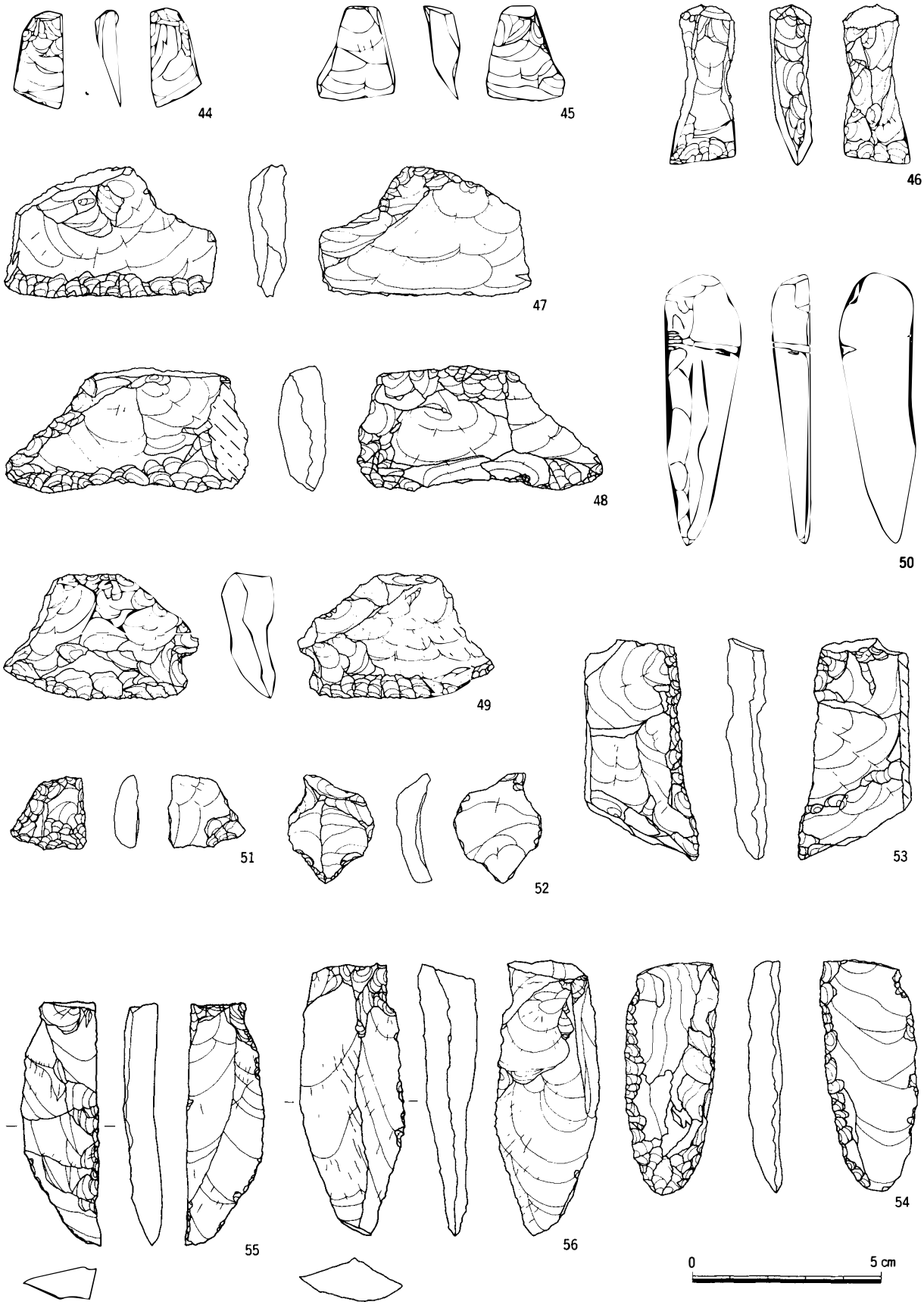
素材を大きく変えることなく、多様な形態をとり錐部が短い。

29は1－A類に属し両面調整を施している。錐部となる両端には使用によるつぶれがある。30は1－B類に属し両面調整を施す。また、側辺上半部にわずかなつぶれがある。錐部の先端角は80°であり、使用による磨耗がある。31は2－A類に属し、錐部は両面調整されている。錐部の断面は菱形であり、両縁辺部につぶれがある。32は2－B類に属し、貝殻状剥片を素材として側縁部に調整を施している。錐部と基部に僅かに角度を変え区分化をしている。33は3類に属する。素材剥片の形状をあまり変えず錐部に調整を施す。錐部の側辺部につぶれが見られ、先端に僅かな磨耗が確認できる。

両極石器（第56図34～38　図版25）

両極に剥離痕を持つ石器やピエス・エスキーユと思われる石器が31点出土している。石材の内訳はチャート13点、下呂石16点、黒曜石2点である。向かい合う二辺ないし、四辺の側辺部に剥離痕やつぶれが認められる石器を下記のように分類した。

第56図　遺物包含層出土の石器(2)



第57図　遺物包含層出土の石器(3)

１類　縦長で縦に１対の剥離痕がみられるもの。

２類　１類以外で、１対の剥離痕がみられるもの。

３類　２対以上の複合的な剥離痕がみられるもの。

34は１類に属する。自然面が残る剥片を使用し上下端部につぶれが入る。35は１類に属し、上下端部につぶれと衝撃時にできたと思われる剥離痕が縦に発達している。36は２類に属し、上下端部と裏面右側辺部につぶれと剥離痕が入る。37は２類に属する。貝殻状剥片の素材を使用し、衝撃による剥離痕が入る。38は３類に属する。打痕が残りバルブの発達した貝殻状剥片を使用している。素材の側辺部全体に使用時のつぶれが状の剥離が入る。

抉入石器（第56図39　図版25）

抉入（ノッチ）状の加工を施すものを抉入石器とした。39は剥片素材を用いて側辺部を調整し、厚みのある上半部の両側からノッチ状の調整を入れ刃部を作出している。

石匙（第56図40～43　図版25）

石匙は折損したものも含め20点出土した。石材の内訳はチャート15点、下呂石３点、黒曜石１点、頁岩１点である。本遺跡の石匙は、つまみ部分（茎部）と刃部の位置関係で分け、さらに二次加工のあり方で細分した。

１類　つまみを上に置いた時、刃部が左右の側縁にあるもの。

２類　つまみを上に置いた時、刃部が向かい側にあるもの。

２-Ａ　刃部が片面にあるもの。

２-Ｂ　刃部が両面にあるもの。

縦型石匙は８点出土した。40は１類に属し、縦長剥片を素材としている。剥離は茎部と表面両側辺部と裏面左側辺部に調整を施している。41は１類に属し、縦長剥片を素材としている。剥離は茎部にノッチ状の調整を加え、さらに両側辺部から下端まで調整を施している。横型石匙は12点が出土した。42は２-Ｂ類に属し、横長剥片を素材としている。刃部は鋸歯状となる下端部が主である。両側辺部にも粗い剥離を作出している。43は２-Ｂに属し、横長剥片を素材とし二次調整によってバルブの厚み削剥している。

ヘラ形石器（第57図44～46　図版26）

ヘラ形石器は８点出土した。石材の内訳はチャート６点、下呂石１点、黒曜石１点である。本遺跡のヘラ形石器は、剥片の両側を折り取り、その部分に挟まれた一端に刃部を持つ石器をいう。刃部の作出方法によって、２つに分類した。

１類　剥離した時の鋭利な刃部を利用しているもの。

２類　刃部に剥離を加えたもの。

１類は２点出土した。44は貝殻状剥片のバルブの部分で構成され、表面左側辺上部につぶれ状の剥離と下端の刃部に刃こぼれが認められる。45は貝殻状剥片を素材としており、刃部には細かい刃こぼれが認められる。２類は６点出土し、46は２類に属し、刃部の両面には剥離が施され、わずかなつぶ

れがみられる。裏面左側辺部より力が加わり粗い剥離を呈する。

削器（第57図47～49　図版26）

削器は33点出土した。石材の内訳はチャート18点、下呂石9点、黒曜石4点、頁岩1点、玄武岩1点である。本遺跡の削器は、剥片の縁辺部に連続的な調整によって刃部を作出したものであり、その作出方法によって下記のように分類した。

1類　片面加工により刃部を作出したもの。

2類　片面加工により作出した刃部と、両面加工により作出した刃部を合わせ持つもの。

3類　両面加工により刃部を作出したもの。

1類は14点であり、47は1類に属する。横長剥片を素材とし、腹面下端部に丁寧な剥離が調整される。剥片にバルバースカーが残る。48は2類に属する。横長剥片を素材とし腹面左側縁部と下端部に剥離が施される。特に腹面左の先端部には表裏とも細かな剥離を作出する。49は3類に属し下端部に両面加工を施す。腹部右側縁部には抉りを入れている。

有溝石製品（第57図50　図版26）

1点のみの出土で、石材は凝灰岩である。断面は三角形となり、裏面となる一面は偏平を呈している。石器上半部には、幅1～2㎜ほどの溝状の凹が横走し、その線を挟んで平行に上下に1本ずつの細い線がわずかに入る。

掻器（第57図51～54　図版26）

掻器は20点出土した。石材の内訳はチャート11点、下呂石8点、黒曜石1点である。剥片の縁辺に急角度な調整を加え刃部とした石器を掻器とした。刃部の位置と数により下記のように分類した。

1類　縦長剥片を用いその側辺と末端が刃部となるもの。

2類　素材の長軸先端部に刃部を作出したもの。

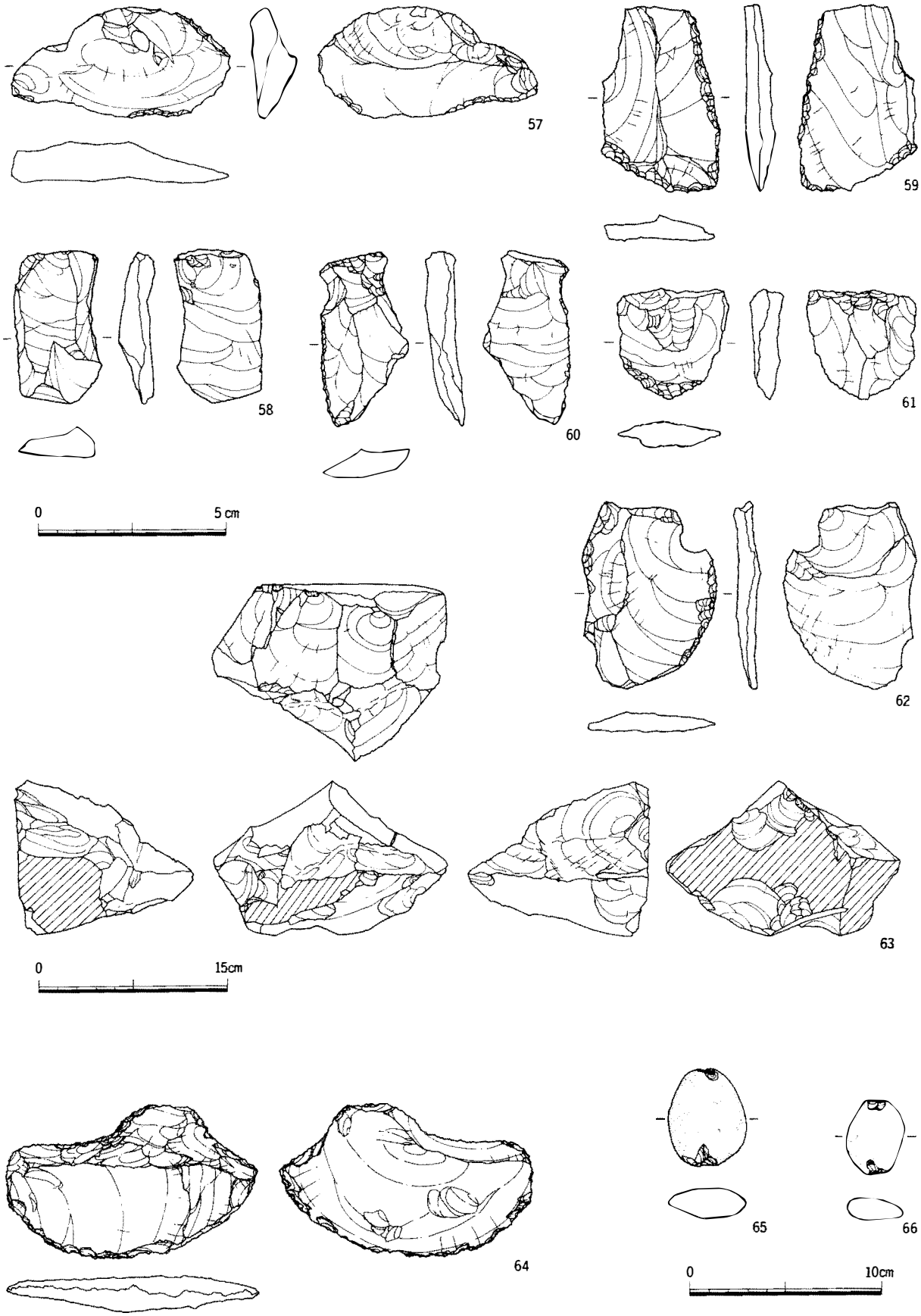
3類　素材の三側辺が刃部となるもの。

4類　剥片の素材全周が刃部となるもの。

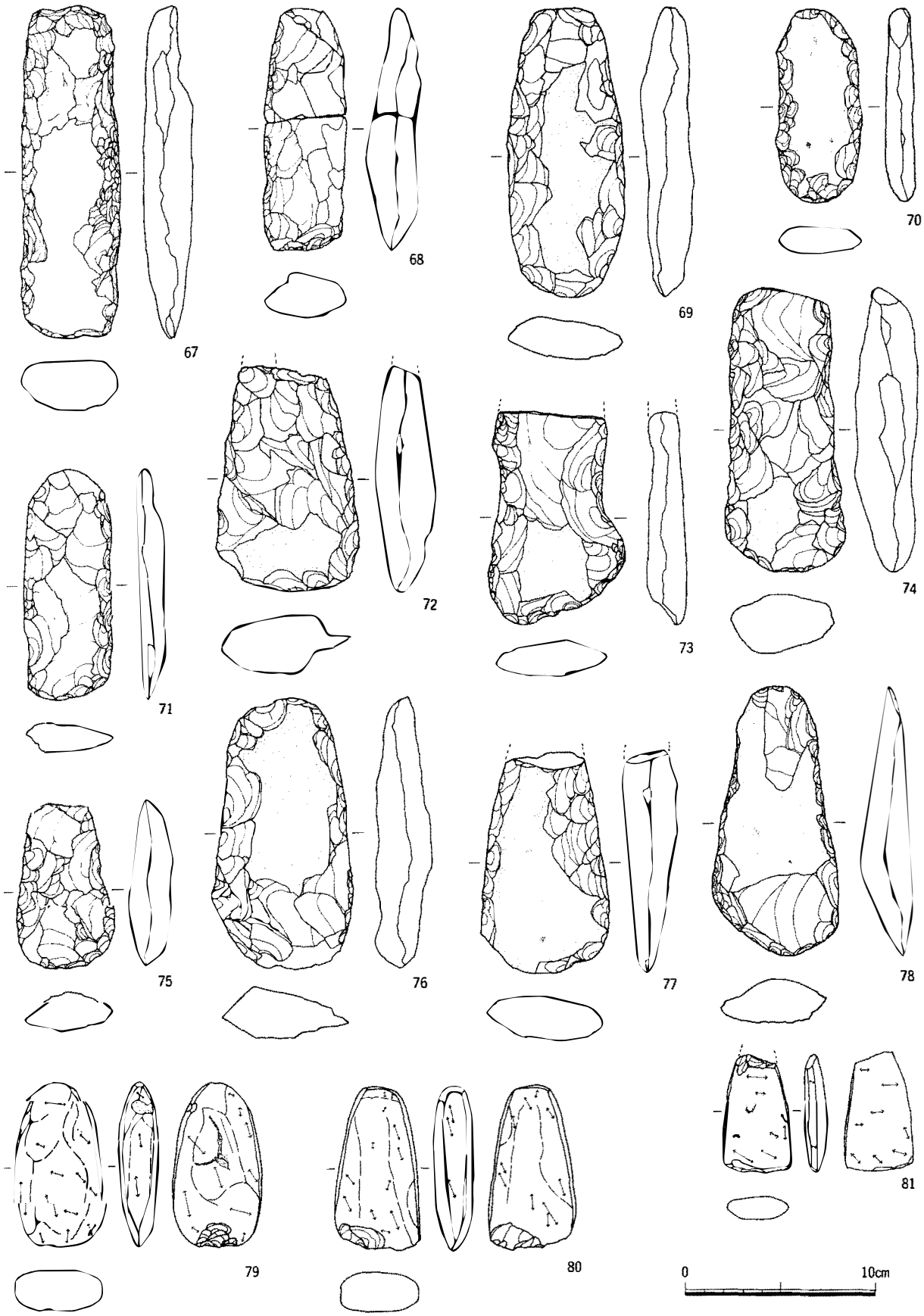
1類は6点、2類9点、3類2点、4類3点が出土している。51は4類に属し台形を呈している。それぞれの4側辺の片面に調整を施している。52は2類に属し、下端部に刃部を作出している。53は1類に属している。剥片素材の形状を用い表面右側辺部と裏面左側辺下部に調整を施し刃部を作出している。54は3類に属し、自然面を持つ表面の3側辺と裏面の左側辺部に刃部を作出している。

UF（第57図55～56　第58図57～58　図版26）

UFは55点出土した。石材の内訳はチャート38点、下呂石12点、黒曜石4点、頁岩1点である。剥片の側辺部に不規則な剥離痕が認められる石器をUFとした。55は縦長剥片をの素材とし、左側辺部から先端部にかけて微細な剥離痕が認められる。56は背面右側縁部に刃こぼれ状の細かい剥離がみられる。57は横長剥片を素材とし下端部の表裏に剥離痕が見られる。表面にバルバースカーが残る。58は縦長剥片を素材とし、その背面左側辺部に微細な剥離がみられる。



第58図　遺物包含層出土の石器(4)



第59図　遺物包含層出土の石器(5)

RF（第58図59～62　図版26）

RFは46点出土した。石材の内訳はチャート28点、下呂石10点、黒曜石８点である。剥片の側辺部に連続した剥離痕を施した石器をRFとした。59は縦長剥片をの素材とするが、左側辺部は大きく剥離され右側辺部の表裏に連続的な剥離痕を作出している。60は縦長剥片を素材としている。左側辺部から先端部にかけて連続剥離がみられる。61は貝殻状剥片の表面下端部に剥離を作出する。62は縦長剥片を素材として表面右側辺部に剥離を作出する。

コア（第58図63　図版26）

RFは９点出土した。石材の内訳はチャート１点、下呂石２点、黒曜石６点である。63は黒曜石を素材として作業面が全周している。

横刃型石器（第58図64　図版27）

１点のみ出土で片岩の横長剥片を素材とし、裏面より基部や刃部を作出している。刃部右半分は裏面からの衝撃で折れ、左半分は連続した剥離を作出している。刃角は19°～25°を呈しているが、裏面の剥離は刃こぼれである。

石垂（第58図65.66　図版27）

礫石垂が４点出土した。石材の内訳は凝灰岩２点、泥石１点、砂石１点である。礫石錐の重量は18.9～47.1ｇである。65の重量は47.1ｇで、石錐の上下端部を打ち欠き紐掛け部を作出する。上端部の幅外は7.4㎜、下端部は9.5㎜である。66の重量は18.9ｇで石錐の上下端部を打ち欠き紐掛け部を作出する。上端部の幅外は9.6㎜、下端部は10.9㎜である。

打製石斧（第59図67～78　図版26）

打製石斧は141点出土した。石材の内訳は凝灰岩110点（78％）、緑色片岩26点（18％）、砂岩４点、粘板岩１点である。打製石斧は平面と断面の形状から下記のように分類した。

平面形態

１類　胴部がほぼ平行な短冊形とよばれるもの。

２類　胴部がくびれる分銅形とよばれるもの。

３類　基部に向かいやや収束するバチ形とよばれるもの。

断面形態

Ａ類　片刃のもの。

Ｂ類　両刃のもの。

折損部位

ａ刃部を欠く。　ｂ基部を欠く。　ｃ基部の一部を欠く。　ｄ両端を欠き胴部のみ　ｅ破片。

分類できたのは１-Ａ類は４点、１-Ｂ類は５点、２-Ａ類は７点、２-Ｂ類は32点、３-Ａ類は13点、３-Ｂ類は16点の合計77点であった。背面（表面）に自然石を残すものは120点（85％）が存在した。67は１-Ａ類に属する。基部には柄の装着用と思われる剥離痕が残り、両側辺部にはつぶれ状の敲打痕

がある。刃部は素材の表面の緩やかなカーブを利用している。68は基部中央で折れ、２つは少し離れて出土した。１-Ｂ類に属し、基部に左側辺部に剥離痕を残す。69は２-Ｂ類に属し、腹面右側辺部より横長剥片として作出した打痕が残る。形状は横長楕円状となる。70は２-Ｂ類に属する。腹面右側辺部より横長剥片として作出し、側辺部全体に二次加工を施し形状を整えている。71は３-Ｂ類に属し僅かに自然面を残す。基部には柄装着のための剥離痕が残る。72は１-Ａ類に属し、両面に自然面を有する板状の素材を加工し、刃部は自然面を利用している。73は３-Ｂ類に属する。背面に両側辺部からの剥離痕が残る。74は２-Ｂ類に属し覆面の左側辺部から横長剥片として作出し二次加工によって形状が整えられている。75は２-Ｂ類に属し、両面とも剥離面で覆われ基部の両側辺部に剥離痕が残る。76は２-Ｂ類に属し、背面に両側辺部からの剥離痕が残る。77は２-Ａ類に属し基端部を折損する。78は３-Ａ類に属し右下端部より打撃を与え背面刃部を形成しているが、その面に縦位の擦痕を残している。

磨製石斧（第59図79～81　第60図82～84　図版27）

磨製石斧は折損したものを含め16点出土し、そのうち分割されたものを接合すると12本の磨製石斧が出土したことになる。石材の内訳は蛇紋岩７点、片岩４点、砂岩１点である。砂岩の石斧は破片４点が接合可能となった。磨製石斧の形状から下記のように分類した。

１類　石斧の長さが10㎝以上のもの。

１-Ａ　頭部に丸みがあるもの。

１-Ｂ　頭部に角があるもの。

２類　石斧の長さが10㎝未満のもの。

２-Ａ　頭部に丸みがあるもの。

２-Ｂ　頭部に角があるもの。

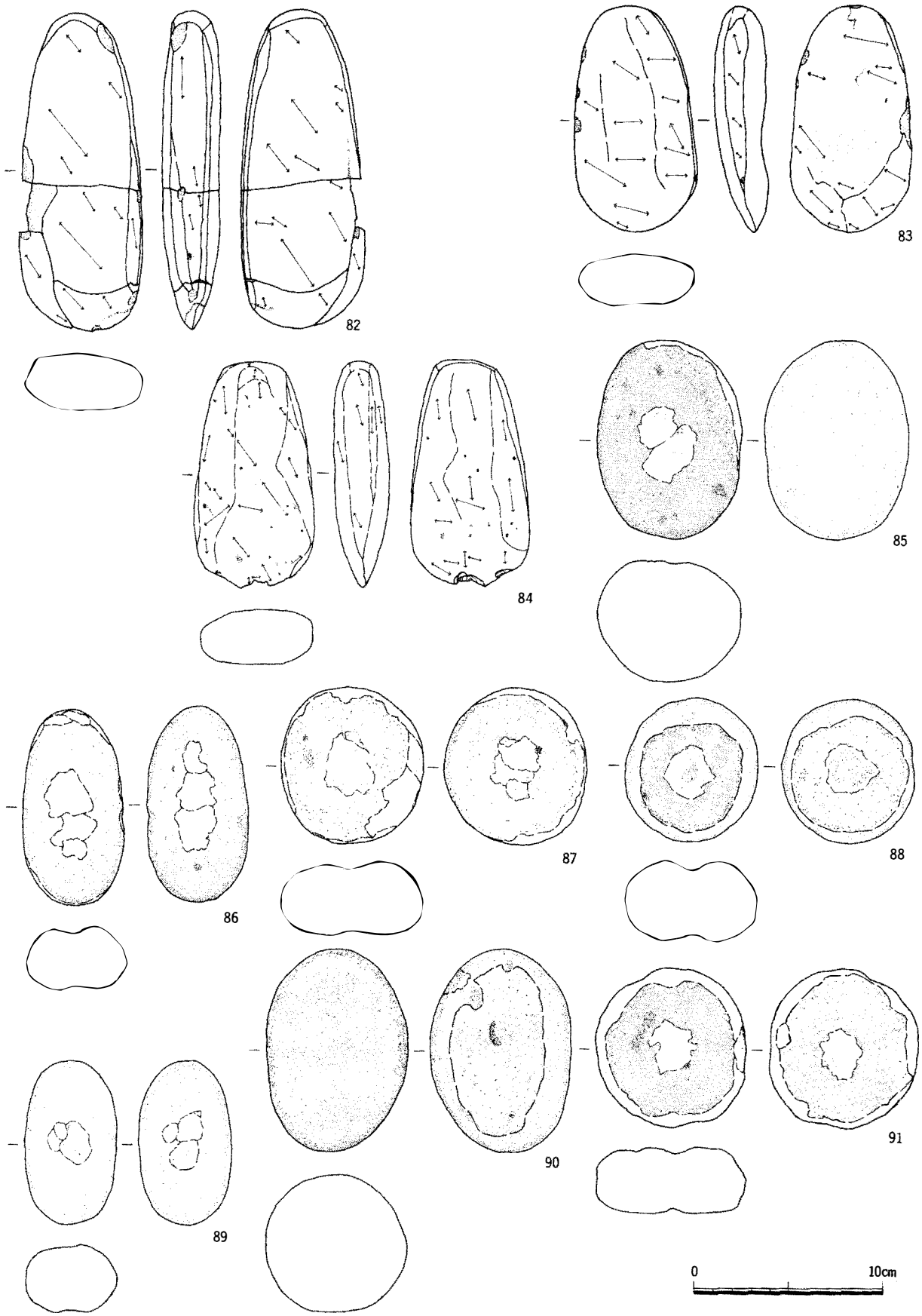
折損部位

ａ刃部を欠く。　ｂ基部を欠く。　ｃ基部の一部を欠く。　ｄ両端を欠き胴部のみ　ｅ破片。

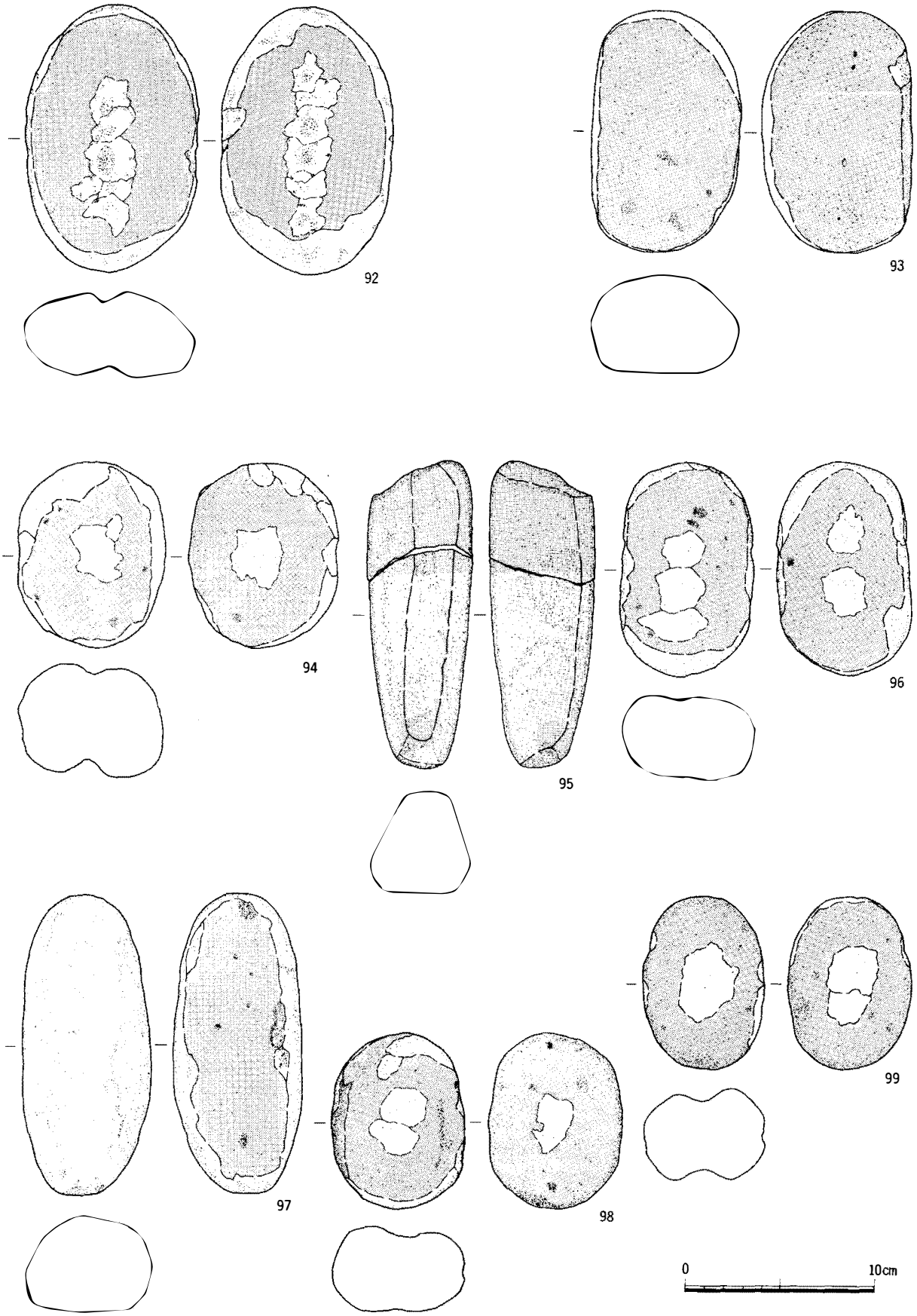
刃部の形状で弧を描く丸刃のものは５点、縁部から刃部に移るとき角をもち平らな平刃が１点であった。79の刃部先端は衝撃により破損するが、刃部は両刃を呈する。断面は隅丸方形を呈する定角式の範疇に含まれる。左上がりに傾斜する研磨痕がみられる。80の断面は隅丸方形を呈し、刃部は折損する。全面に縦方向の研磨痕がみられる。81は刃部と基端部を欠損する。表面は平らな面を持ち裏面は緩やかな弧を描く。82は第３号住居跡とその付近から出土した。表面左側辺部に打痕が残り、基部が折損したとみられる。石斧は５個以上の破片に分かれ、４点が接合可能となりほぼ原型を取り戻した。断面は隅丸方形を呈し、刃角は75°刃部は弧を描く両刃である。また、左上がりに傾斜する研磨痕がみられる。83の刃角は63°刃部は弧を描く両刃である。表面は緩やかな膨らみを持ち裏面は凹状を呈する。研磨痕は全体に左上がりに傾斜する。84は刃角が51°一部を欠損するが、丸刃の両面加工を施す刃部を呈する。研磨痕は全体に左上がりに傾斜する。

磨石・凹石（第60図85～91　第61図92～99　図版27～28）

磨石が108点、凹石が186点出土した。磨石・凹石を平面と断面の形状から下記のように分類した。



第60図　遺物包含層出土の石器(6)



第61図　遺物包含層出土の石器(7)

平面形態

１類　円形のもの。

２類　楕円形のもの。

３類　方形のもの。

断面形態（１～３類は断面を細分した。）

Ａ類　円形のもの。

Ｂ類　楕円形のもの。

Ｃ類　凸レンズ状のもの。

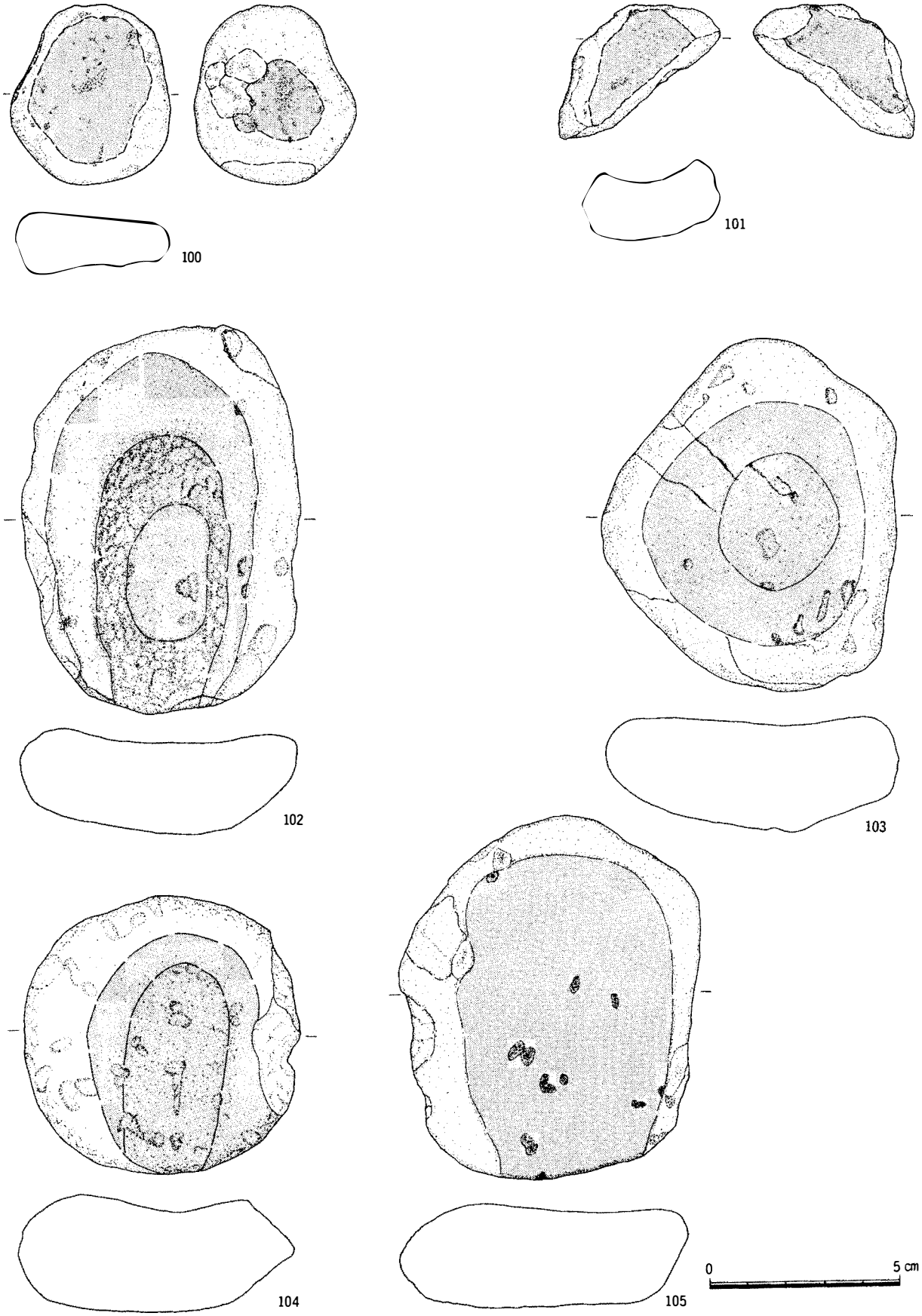
Ｄ類　方形のもの。

４類　角柱状などの自然礫を用い断面が多角形（いわゆる特殊磨石）

使用による凹みの形状は、ア・細かい敲打痕が集中しているもの、イ・擂り鉢状に凹みができているもの、ウ･右上がりの凹みを有するものとして分けた。分類により、１-Ｂ類は23点(7.8%)、２-Ｂ類は191点（65%）、２-Ｄ類は３点、３-Ｄ類は１点、４類は１点、欠損しているが、２類と分かるもの49点（17%）であった。85は２-Ｂ類に属する。表面に擦り面を持ち、擂り鉢状と右上がり状に広がる凹みを有する。86は２-Ｂ類に属する。表裏に擦り面を持ち、擂り鉢状の凹みが繋がっている。87は１-Ｂに属し表裏に擦り面を持ち擂り鉢状の凹みを呈する。88は１-Ｂ類に属する。表裏に擦り面を持ち、表面に１つ裏面に２つ擂り鉢状の凹みを有する。89は２-Ｂ類に属する。上部にアバタ状敲打痕が認められる。また、凹みが表面に２つ、裏面に３つ有する。90は２-Ａ類に属し断面が円形を呈する。１面だけ僅かに平面を作出している。91は１-Ｂ類に属する。表面に擦り面と擂り鉢状の凹みを有する。92は２-Ｂ類に属し、表面には中央を境に２面と裏面に１面の擦り面を有する。凹みは表裏側面とも多数の凹みが繋がり、使用する頻度の高さをあらわしている。93は２類に属する。全体に擦られているが左側辺部は偏平気味に擦り減っている。94は２-Ｂ類に属する。表裏と側辺部に擦り痕を残し擂り鉢状の凹みを有する。95は４類に属し、３つに割れ２点が出土した。１点はＳＫ３より、もう１点は20m程離れた地点（Ｉ-15区）より出土した。断面は三角形の頂点を平らにした形状で、擦り面を４面有する特殊磨石である。96は２-Ｂ類に属し、表裏と側辺部に擦り面を有する。表面に３つ、裏面に２つの擂り鉢状の凹みを有し、側辺部はアバタ状の凹凸が観察される。97は２-Ｂ類に属し長楕円礫を素材としている。擦った一面が偏平状を呈している。98は２-Ｂ類に属し、熱による一部変色が見られる。表裏と側辺部に擦り面を持ち、表面に擂り鉢状の２つの凹みと裏面にはアバタ状の凹凸が観察される。99は２-Ｂ類に属し、焼土より出土した。表面に１つ裏面に２つの擂り鉢状の凹みと両側面に２つずつの凹みを有する。

石皿（第62図100～105　図版28～29）

石皿は８点出土した。石材の内訳は全て凝灰岩である。100は表面と裏面の凹面に擦痕がみられる。101の石皿の多くは欠損している。皿部はＵ字状に凹みを呈し、滑らかな表面を有する。裏面はやや膨らみ、側辺部の表面は凹凸を呈している。102は表面の縁部は馬蹄形を呈し、かき出し部を持つ。皿部外側にアバタ状の敲打痕がみられ、中央部分に滑らかな擦痕が残る。裏面はわずかな膨らみを呈している。103の形状は五角形である。表面に敲打痕が残るが全体を皿部とし、中央に向かいわずかな凹みを呈する。裏面は中央に高い膨らみを持ち、一部に擦痕がある。104は円形の石皿である。表面の縁部は馬蹄形の膨らみを持ち、下部にかき出し部を呈する。■部はＵ字状を呈し、表面は滑らかである。右側縁部を欠損し裏面は緩やかな凸状のカーブを呈する。105はＳＫ30より出土し、表裏に皿部を施す。表面の皿部は敲打痕と中央部分の滑らかな擦痕を持ちかき出し部に繋がる。裏面の縁部は際だった膨らみを持たず、皿部中央にわずかな凹みを呈する。（上出巳吉）



第62図　遺物包含層出土の石器(8)

第6表　石器計測表

石　鏃

No.	出土区	層	遺物番号	石材	大きさ 長さ	大きさ 幅	大きさ 厚み	重量(g)	抉深 mm	最大幅の位置	分類 尖頭-基部	欠損部位	挿図
1	C-15	Ⅲ	1042	チャート	26	21	10	5.0	1	基部	1-C	·	1
2	E-9	Ⅲ	3914	下呂石	(15)	12	14	(0.9)	·	基部	·-·	c	
3	E-12	Ⅲ	5287	チャート	12	17	6	1.8	1	基部	1-C	·	
4	E-12	Ⅲ	5571	下呂石	18	13	3	0.4	4	基部	1-B	·	3
5	E-12	Ⅲ	7121	下呂石	32	22	87	5.1	·	基部	5-F	·	
6	E-13	Ⅲ	4849	チャート	(22)	15	3	(0.9)	3	基部	1-B	a	
7	E-13	Ⅳ	5465	チャート	(14)	(12)	4	(1.1)	3	基部	1-·	c	
8	E-13	Ⅲ	5577	黒曜石	13	9	4	0.4	3	基部	1-B	·	
9	E-13	Ⅲ	5723	黒曜石	(21)	15	5	(1.4)	2	基部	[illegible]	a	
10	E-13	Ⅲ	5820	黒曜石	(13)	(12)	3	(0.6)	4	[illegible]	[illegible]	b	
11	E-13	Ⅲ	6085	黒曜石	(15)	7	3	(0.3)	·	[illegible]	·-·	g	
12	E-13	Ⅲ	6115	黒曜石	(14)	12	4	(1.0)	3	[illegible]	[illegible]	a	
13	E-13	Ⅲ	6234	チャート	35	15	9	5.2	·	[illegible]	[illegible]	·	
14	E-13	Ⅲ	6463	黒曜石	15	(12)	3	(1.2)	·	[illegible]	1-·	i	
15	E-13	Ⅲ	6811	下呂石	(13)	13	3	(0.4)	3	基部	1-B	a	
16	E-16	Ⅲ	718	黒曜石	(11)	11	2	(0.2)	4	基部	·-B	a	
17	I-15	Ⅳ	2117	黒曜石	14	10	7	2.4	·	基部	1-E	·	
18	I-15	Ⅲ	3702	下呂石	(21)	(13)	5	(1.3)	2	基部	1-C	b	
19	I-16	Ⅲ	2271	チャート	22	13	4	1.1	·	基部	1-H	·	
20	I-16	Ⅲ	2876	下呂石	42	(19)	6	(3.7)	·	基部	2-H	·	18
21	I-16	Ⅳ	7152	チャート	(17)	15	4	(1.4)	·	基部	·-·	i	
22	I-16	·	·	下呂石	(18)	12	5	(0.8)	2	基部	1-B	b	
23	F-8	Ⅲ	3802	チャート	32	25	8	5.3	·	基部	1-E	·	11
24	F-9	Ⅲ	3795	黒曜石	22	14	4	0.5	5	基部	1-B	·	4
25	F-9	Ⅲ	4112	下呂石	29	19	4	1.4	4	基部	6-B	b	26
26	F-9	Ⅲ	·	チャート	(15)	12	2	(0.5)	·	尖部	1-·	d	
27	F-10	Ⅲ	4133	下呂石	(12)	15	3	(0.8)	5	基部	1-B	g	
28	F-10	Ⅲ	4910	チャート	(18)	12	4	(0.7)	3	基部	1-B	a	
29	F-11	Ⅲ	2703	黒曜石	(22)	(12)	4	(0.8)	1	基部	1-·	b	
30	F-11	Ⅲ	2783	下呂石	18	14	4	0.7	3	基部	1-B	·	
31	F-11	Ⅲ	2976	下呂石	(18)	11	2	(0.3)	5	基部	6-B	b	
32	F-11	Ⅲ	3189	チャート	(14)	9	2	(0.3)	3	基部	1-B	b	
33	F-12	Ⅲ	2327	チャート	30	21	4	1.6	2	基部	1-C	·	2
34	F-12	Ⅲ	2837	黒曜石	19	14	4	0.7	2	基部	1-C	·	
35	F-12	Ⅲ	2848	黒曜石	(23)	(8)	3	(0.7)	6	尖部	·-·	i	
36	F-12	Ⅲ	2849	黒曜石	18	12	3	0.6	6	基部	1-B	·	
37	F-13	Ⅲ	5342	チャート	13	15	5	0.9	3	[illegible]	1-B	·	5
38	F-13	Ⅲ	5989	チャート	20	15	5	1.1	4	[illegible]	1-B	·	
39	F-13	Ⅲ	6043	黒曜石	20	17	5	0.8	7	[illegible]	1-B	·	6
40	F-13	Ⅲ	6500	黒曜石	(18)	(11)	3	(0.5)	5	[illegible]	1-·	i	
41	F-13	Ⅲ	6531	チャート	(13)	13	4	(1.0)	1	[illegible]	1-C	a	
42	F-13	Ⅲ	6857	下呂石	13	12	4	0.5	4	[illegible]	1-B	·	
43	F-13	Ⅲ	6904	チャート	13	12	3	0.7	2	[illegible]	1-B	·	
44	F-13	Ⅲ	·	黒曜石	(12)	16	4	(0.5)	3	[illegible]	·-·	e	
45	F-14	Ⅲ	1951	チャート	(19)	9	3	(0.6)	·	[illegible]	·-·	e	
46	F-14	Ⅲ	5165	下呂石	14	15	3	0.7	3	[illegible]	1-B	·	
47	F-14	Ⅲ	5637	黒曜石	23	12	5	1.2	2	[illegible]	1-C	·	
48	F-14	Ⅳ	5883	チャート	(12)	(12)	3	(0.5)	·	[illegible]	1-·	d	
49	F-14	Ⅳ	5884	黒曜石	(25)	12	6	(1.2)	4	[illegible]	1-A	a	
50	F-14	Ⅳ	5991	下呂石	34	26	11	9.0	·	[illegible]	1-E	·	
51	F-15	Ⅲ	4459	黒曜石	(23)	11	3	(0.4)	5	[illegible]	1-B	b	
52	F-15	Ⅲ	4706	下呂石	(18)	10	4	(0.5)	3	[illegible]	1-B	g	
53	F-15	·	·	黒曜石	(22)	15	5	(1.5)	4	[illegible]	4-·	f	
54	F-15	·	·	黒曜石	21	15	5	1.5	·	[illegible]	5-B	d	23
55	F-16	Ⅲ	18	黒曜石	(17)	11	2	(0.4)	3	[illegible]	[illegible]	b	
56	F-16	Ⅲ	241	黒曜石	29	(19)	6	(2.9)	·	[illegible]	[illegible]	f	
57	F-16	Ⅲ	296	チャート	18	14	4	1.0	3	[illegible]	1-B	·	
58	F-16	Ⅱ	309	黒曜石	(12)	(11)	2	(0.3)	4	[illegible]	1-B	b	
59	F-16	Ⅲ	415	チャート	(18)	(17)	4	(0.8)	5	基部	6-B	b	27
60	F-16	Ⅲ	735	黒曜石	(15)	11	3	(0.4)	4	[illegible]	1-B	b	
61	F-16	Ⅳ	6129	黒曜石	(17)	13	4	(0.8)	·	[illegible]	·-·	e	
62	F-17	Ⅱ	38	チャート	21	13	4	0.7	3	[illegible]	[illegible]	·	
63	F-17	Ⅱ	41	黒曜石	(41)	10	4	(0.6)	·	[illegible]	[illegible]	g	
64	F-17	Ⅱ	42	黒曜石	16	14	3	0.5	3	[illegible]	[illegible]	·	
65	F-17	Ⅱ	43	チャート	(23)	11	4	(1.1)	3	[illegible]	[illegible]	b	
66	G-10	Ⅱ	3292	下呂石	33	(12)	4	(1.1)	7	[illegible]	[illegible]	b	16
67	G-10	Ⅲ	3695	チャート	(18)	(12)	3	(0.6)	4	[illegible]	[illegible]	b	
68	G-10	Ⅲ	3715	下呂石	(20)	(11)	3	(0.3)	4	[illegible]	[illegible]	g	
69	G-10	Ⅲ	3775	チャート	18	14	4	0.8	5	[illegible]	[illegible]	·	
70	G-12	Ⅲ	4429	下呂石	29	21	7	3.5	·	[illegible]	5-D	·	24
71	G-12	Ⅲ	4430	下呂石	(20)	(14)	3	(0.7)	3	[illegible]	[illegible]	b	
72	G-12	Ⅲ	4466	下呂石	22	17	3	0.7	4	[illegible]	[illegible]	·	
73	G-12	Ⅲ	4501	チャート	(10)	14	4	(0.4)	2	[illegible]	[illegible]	a	
74	G-12	Ⅳ	5344	下呂石	(13)	(15)	4	(0.6)	·	[illegible]	[illegible]	c	
75	G-13	Ⅲ	4364	下呂石	(20)	(15)	3	(1.0)	·	[illegible]	1-D	f	
76	G-14	Ⅱ	163	チャート	19	18	6	1.9	·	[illegible]	[illegible]	·	
77	G-14	Ⅲ	1269	下呂石	(24)	19	6	(2.2)	·	[illegible]	[illegible]	a	
78	G-14	Ⅲ	3427	黒曜石	(15)	(13)	3	(0.5)	·	[illegible]	1-B	g	
79	G-14	Ⅳ	6892	黒曜石	(21)	12	3	(0.9)	3	[illegible]	1-A	a	
80	G-14	Ⅳ	6896	黒曜石	(12)	12	4	(0.5)	3	[illegible]	1-B	a	
81	G-14	·	·	チャート	(20)	(14)	3	0.3	·	[illegible]	·-·	f	

82	G-15	IV	575	チャート	(18)	(11)	3	(0.5)	4	基部	I-B	b	
83	G-15	III	609	[illegible]	(24)	(12)	5	(1.0)	1	基部	I-[illegible]	b	
84	G-15	III	1210	黒曜石	12	9	3	0.3	3	基部	I-B	·	
85	G-15	III	5147	黒曜石	20	(18)	6	(1.9)	1	基部	I-C	a	
86	G-15	III	7566	下呂石	35	22	9	6.1	2	基部	I-C	·	
87	G-16	II	282	チャート	25	19	9	4.1	·	基部	I-E	·	
88	G-16	III	514	チャート	(17)	(9)	4	(0.6)	3	基部	[illegible]	c	
89	G-16	III	638	チャート	(24)	(13)	5	(0.9)	4	基部	I-B	b	
90	G-16	III	711	黒曜石	(17)	(9)	3	(0.4)	4	基部	I-[illegible]	b	
91	G-16	III	878	チャート	27	18	7	2.3	2	基部	I-A	·	17
92	G-16	III	879	チャート	20	15	4	1.3	·	基部	I-A	·	
93	G-16	III	893	下呂石	26	14	4	0.9	6	基部	I-A	·	20
94	G-16	III	[illegible]	黒曜石	26	16	6	2.6	·	基部	I-D	·	
95	G-16	III	5000	下呂石	(17)	9	2	(0.4)	1	基部	I-A	b	
96	G-16	III	·	黒曜石	18	11	4	0.6	1	基部	I-E	·	
97	G-16	III	·	黒曜石	19	19	5	1.1	·	基部	I-C	·	
98	G-16	III	·	黒曜石	(17)	16	4	(1.4)	·	基部	I-D	a	
99	G-17	II	120	チャート	17	11	3	0.5	2	基部	I-B	·	
100	G-17	II	326	黒曜石	15	12	3	0.5	1	基部	I-C	·	
101	G-17	III	355	黒曜石	(15)	13	4	(0.6)	4	基部	I-B	a	
102	G-17	III	361	下呂石	33	17	8	(3.3)	·	基部	I-G	a	13
103	G-17	III	411	下呂石	22	(16)	4	(0.5)	5	基部	I-[illegible]	f	
104	G-17	III	451	チャート	20	(17)	3	(0.5)	5	基部	I-[illegible]	f	
105	G-17	III	478	黒曜石	20	13	4	0.6	7	基部	I-B	·	
106	G-17	III	610	下呂石	39	17	7	3.4	·	基部	2-H	·	
107	G-17	III	611	下呂石	19	15	4	0.9	·	基部	I-D	·	
108	G-17	III	612	下呂石	(20)	(21)	8	(3.4)	·	基部	2-[illegible]	b	
109	G-17	III	616	下呂石	(30)	18	8	(3.6)	·	基部	I-H	a	
110	G-17	III	624	黒曜石	23	13	6	1.6	2	基部	5-C	a	
111	G-17	III	738	黒曜石	(14)	11	3	(0.3)	6	[illegible]	I-B	b	
112	G-17	III	777	黒曜石	(18)	(10)	3	(0.4)	6	[illegible]	I-[illegible]	b	
113	G-17	III	779	チャート	18	18	7	3.0	·	[illegible]	3-D	·	
114	G-17	III	787	砂岩	17	14	2	0.5	4	[illegible]	I-B	·	7
115	G-17	III	791	チャート	34	26	7	5.0	·	[illegible]	[illegible]	·	10
116	G-17	III	826	下呂石	(9)	8	3	(0.2)	1	[illegible]	[illegible]	c	
117	G-17	III	828	下呂石	24	13	5	0.9	2	[illegible]	I-H	·	
118	G-17	III	875	下呂石	(32)	19	7	(3.1)	·	[illegible]	I-[illegible]	c	
119	G-17	III	882	チャート	19	12	5	0.8	·	[illegible]	I-F	·	12
120	G-17	III	4962	黒曜石	(21)	(13)	5	0.9	4	[illegible]	I-·	b	
121	G-17	III	4970	下呂石	(29)	19	7	(3.0)	·	[illegible]	I-H	c	
122	G-17	IV	5033	下呂石	16	12	5	0.7	2	[illegible]	I-B	·	
123	G-17	IV	5130	チャート	16	17	4	1.3	·	[illegible]	I-A	·	
124	G-17	IV	5140	黒曜石	(13)	(10)	3	(0.4)	2	[illegible]	[illegible]	i	
125	G-17	IV	5256	チャート	(23)	(16)	3	(1.0)	5	[illegible]	I-D	b	
126	G-17	IV	5298	下呂石	(27)	15	6	(1.9)	·	[illegible]	I-H	c	
127	G-17	IV	6032	下呂石	(16)	15	3	(0.8)	1	[illegible]	[illegible]-B	a	
128	G-17	IV	7364	黒曜石	(10)	12	2	(0.2)	4	[illegible]	[illegible]-B	a	
129	G-17	IV	7784	チャート	24	15	4	0.9	4	[illegible]	4-B	·	21
130	G-17	IV	7850	チャート	(18)	(12)	5	(0.8)	3	[illegible]	I-B	b	
131	G-17	IV	7860	下呂石	31	17	5	1.8	5	[illegible]	4-B	·	
132	G-17	·	·	チャート	(19)	(9)	2	(0.5)	2	[illegible]	I-·	f	
133	G-17	·	·	チャート	(11)	(12)	2	(0.5)	4	[illegible]	[illegible]-B	a	
134	G-17	·	·	チャート	(13)	(7)	2	(0.2)	·	[illegible]	I-·	i	
135	G-17	·	·	チャート	22	11	3	0.9	·	[illegible]	I-F	·	
136	G-17	·	·	[illegible]	22	10	3	0.6	2	基部	I-B	·	
137	G-17	·	·	下呂石	(16)	(10)	6	(1.0)	3	[illegible]	I-B	b	
138	G-17	·	·	[illegible]	(15)	(14)	4	(0.9)	·	[illegible]	[illegible]-·	i	
139	G-17	·	·	[illegible]	23	22	8	2.8	1	[illegible]	5-C	·	22
140	G-18	III	2844	チャート	(18)	(11)	4	(1.6)	3	[illegible]	I-·	b	
141	G-18	·	·	チャート	(26)	(22)	6	(3.6)	·	[illegible]	I-D	b	
142	H-9	III	[illegible]	黒曜石	(15)	12	4	(0.9)	6	[illegible]	I-B	b	
143	H-10	III	[illegible]	チャート	(26)	(16)	6	(1.9)	·	[illegible]	I-F	b	
144	H-11	·	·	チャート	(13)	(12)	3	(0.7)	·	[illegible]	6-·	d	
145	H-14	III	[illegible]	下呂石	30	(20)	8	(3.2)	·	[illegible]	I-H	·	14
146	H-15	III	[illegible]	黒曜石	15	12	3	0.4	4	[illegible]	I-B	·	
147	H-15	III	1173	チャート	(21)	(16)	7	(2.0)	2	[illegible]	I-C	b	
148	H-15	III	1174	下呂石	26	16	5	2.1	·	[illegible]	I-B	·	
149	H-15	III	1184	黒曜石	(18)	(9)	3	(0.4)	4	[illegible]	I-D	b	
150	H-15	III	1185	チャート	(14)	13	3	(0.7)	1	[illegible]	[illegible]-C	a	
151	H-15	III	1186	下呂石	(25)	19	7	(2.6)	·	[illegible]	I-B	i	
152	H-15	III	1407	下呂石	(26)	17	5	(2.2)	·	[illegible]	I-H	i	
153	H-15	III	1440	下呂石	18	16	3	0.5	5	[illegible]	6-H	·	
154	H-15	III	1488	黒曜石	(9)	(10)	2	(0.2)	4	[illegible]	[illegible]	e	
155	H-15	III	1510	下呂石	19	16	4	0.7	3	[illegible]	I-B	·	
156	H-15	III	1512	下呂石	18	19	6	1.4	·	[illegible]	[illegible]	·	
157	H-15	III	1515	チャート	22	17	5	(1.6)	·	[illegible]	[illegible]-H	a	20
158	H-15	III	1636	黒曜石	12	13	2	0.3	2	[illegible]	[illegible]-B	·	
159	H-15	III	1749	チャート	(18)	14	4	(1.4)	·	[illegible]	I-A	e	
160	H-15	III	1751-1	下呂石	(21)	(10)	4	(0.6)	3	[illegible]	3-B	b	
161	H-15	III	1751-2	黒曜石	9	10	2	0.2	2	[illegible]	1-B	·	
162	H-15	III	1752	チャート	19	12	3	0.7	2	[illegible]	I-B	·	
163	H-15	III	2024	黒曜石	(26)	(8)	3	(0.7)	3	[illegible]	4-B	f	
164	H-15	III	2193	下呂石	(16)	(12)	3	(0.5)	3	[illegible]	I-B	b	
165	H-15	III	2229	黒曜石	(8)	(10)	2	(0.2)	2	[illegible]	·	i	
166	H-15	III	2257	チャート	17	16	4	0.7	4	基部	I-B	·	8
167	H-15	III	2574	下呂石	12	14	3	0.3	5	基部	3-B	·	19

168	H-15	III	3043	下呂石	43	24	10	9.2	・	基部	1-E	・		
169	H-15	III	3168	チャート	19	13	4	0.7	3	基部	1-B	・		
170	H-15	III	3675	黒曜石	(18)	(13)	3	0.5	5	基部	1-B	b		
171	H-15	III	7353	チャート	22	15	5	1.3	3	基部	1-B	・		
172	H-15	・	・	チャート	(21)	(11)	4	(1.2)	2	基部	5-A	f		
173	H-16	II	48-1	黒曜石	(16)	(16)	5	(0.9)	6	基部	・・・	i		
174	H-16	III	207	下呂石	(13)	(13)	3	(0.4)	1	基部	・・・	f		
175	H-16	III	991	黒曜石	17	12	3	0.4	4	基部	1-B	・		
176	H-16	III	1240	黒曜石	(15)	13	3	0.4	5	基部	1-B	i		
177	H-16	III	1292	下呂石	20	12	4	0.7	4	基部	1-B	・		
178	H-16	III	1450	下呂石	24	13	7	1.3	3	基部	4-A	・		
179	H-16	III	1481	黒曜石	(13)	11	3	(0.4)	3	基部	1-B	a		
180	H-16	III	1950	チャート	(19)	10	3	(0.6)	1	基部	1-A	b		
181	H-16	III	2039	チャート	17	13	2	0.4	3	基部	1-B	・		
182	H-16	III	2156	チャート	23	19	6	3.2	・	基部	1-B	・		
183	H-16	III	2181	チャート	24	16	5	1.5	4	基部	1-B	・		
184	H-16	III	2183	下呂石	22	14	5	0.9	5	基部	1-B	・		
185	H-16	III	2282	黒曜石	13	12	3	0.4	1	基部	3-B	・		
186	H-16	III	2356	チャート	(19)	13	3	(0.6)	3	基部	1-B	b		
187	H-16	III	2578	チャート	(22)	(14)	4	(0.8)	5	基部	1-B	b		
188	H-16	III	7503	下呂石	(28)	26	8	(4.2)	・	基部	1-・	h		
189	H-16	・	・	チャート	(22)	(12)	4	(1.0)	2	欠損	1-・	f		
190	H-16	・	・	黒曜石	(15)	11	3	(0.4)	1	基部	1-・	b		
191	H-16	・	・	下呂石	(18)	19	6	(1.5)	・	基部	1-・	d		
192	H-16	・	・	チャート	29	13	8	3.0	・	基部	5-F	・		
193	H-17	III	851	黒曜石	17	12	3	0.5	3	基部	1-B	・		
194	H-17	III	914	チャート	15	15	3	0.5	6	基部	1-B	b		9
195	H-17	III	1103	チャート	(12)	(7)	3	(0.3)	・	基部	・・・	i		
196	H-17	III	1104	チャート	(17)	13	4	(0.9)	・	基部	1-・	h		
197	H-17	III	1258	チャート	17	13	4	0.6	22	基部	1-B	・		
198	H-17	III	1277	チャート	32	22	9	6.3	・	基部	5-A	a		25
199	H-17	III	1307	チャート	15	15	4	0.8	4	基部	3-B	・		
200	H-17	III	1450	下呂石	35	20	5	2.8	・	基部	1-B	・		15
201	H-17	III	1476	下呂石	(16)	(10)	4	(0.6)	5	基部	・・・	e		
202	H-17	III	1478	下呂石	21	13	3	0.7	4	基部	1-B	・		
203	H-17	III	1590	チャート	29	(20)	7	(4.3)	・	基部	1-C	b		
204	H-17	III	1872	下呂石	(13)	14	3	(0.4)	6	基部	・・B	a		
205	H-17	III	1890	黒曜石	(13)	(11)	3	(0.3)	1	基部	1-B	b		
206	H-17	III	2078	チャート	(17)	12	3	(0.7)	・	基部	・・E	a		
207	H-17	III	2094	黒曜石	15	13	1	0.6	4	基部	1-B	・		
208	H-17	IV	2251	下呂石	17	9	3	0.4	・	基部	1-C	・		
209	H-17	III	6760	チャート	25	17	5	1.8	3	基部	1-A	b		
210	H-17	・	・	チャート	(22)	(10)	1	(1.1)	・	欠損	1-・	e		
211	H-17	・	・	チャート	22	24	7	3.6	・	基部	1-D	・		
212	H-18	III	7544	チャート	23	16	4	0.9	4	基部	4-B	・		
213	H-18	III	7894	黒曜石	(34)	(9)	4	(0.5)	2	先端	・・・	・		

剥片石器

No	出土区	層位	遺物番号	石材	大きさ 長さ	幅	厚み	重量 (g)	分類	つまみ	刃部	使用痕	図版
1	E-13	・	・	下呂石	20	15	7	2.1	1	○			
2	F-11	III	3526	下呂石	37	21	5	1.5	1	○			
3	F-11	・	・	チャート	24	25	8	4.8	1	○			34
4	F-12	・	・	下呂石	15	17	6	2.1	1	○			
5	F-13	・	・	チャート	22	22	6	3.5	2	○			
6	F-16	・	・	黒曜石	15	17	3	0.9	2				
7	G-10	III	3701	下呂石	46	43	11	20.5	2	○			
8	G-12	・	・	下呂石	26	16	6	2.9	1	○			
9	G-15	III	1208	下呂石	27	22	9	6.1	2	○			
10	G-15	・	・	チャート	16	13	5	1.6	1	○			
11	G-16	III	944	チャート	21	24	8	4.1	2	○			
12	G-16	・	・	下呂石	20	17	5	2.1	3	●	○		
13	G-17	III	4968	下呂石	41	38	11	15.4	3	○			
14	G-17	・	・	チャート	19	14	4	1.4	1		○		
15	G-17	・	・	下呂石	20	30	9	5.4	2	○			
16	G-17	・	・	下呂石	20	21	8	3.3	2	○			36
17	G-17	・	・	下呂石	22	15	6	2.5	2	○			
18	H-9	・	・	チャート	21	16	5	2.5	1	○			
19	H-11	III	4309	下呂石	31	30	9	7.4	3	○			38
20	H-15	・	・	下呂石	13	12	3	0.6	2	○			
21	H-16	III	247	下呂石	35	19	10	7.3	1	○			
22	H-16	・	・	下呂石	25	16	5	3.3	1	○			
23	H-16	・	・	チャート	26	16	7	3.9	1	○			
24	H-16	・	・	チャート	34	27	10	4.6	2	○			37
25	H-16	・	・	黒曜石	19	17	9	3.1	2	○			
26	H-17	III	1107	下呂石	33	25	9	5.6	3	○			
27	H-17	III	1469	チャート	22	24	6	4.1	2		○		
28	H-17	・	・	チャート	31	18	6	4.2	1	○			
29	H-17	・	・	チャート	25	23	10	6.1	2	○			
30	H-18	III	2380	チャート	(21)	17	6	(2.1)	2		○		
31	H-18	・	・	チャート	22	16	9	4.2	1	●			35

石錐

No	出土区	層位	遺物番号	石材	大きさ 長さ	幅	厚み	重量 (g)	分類	軸部欠損	使用痕	図版
1	E-9	・	・	チャート	24	9	5	1.2	1-A	・	○	
2	E-12	III	5608	チャート	(19)	12	6	(0.9)	3-・	・	○	

3	E-13	III	6161	チャート	48	16	10	5.7	3-[illegible]	・	○	33
4	E-13	・	・	チャート	(19)	16	5	(1.5)	3-[illegible]	・	・	
5	E-14	III	5192	チャート	(25)	9	5	(1.1)	1-B	・	・	
6	E-14	・	・	チャート	19	7	3	0.4	1-A	・	○	
7	F-13	III	5602	下呂石	2[illegible]	15	4	0.9	2-A	・	・	
8	F-13	III	6420	下呂石	(27)	11	5	1.7	1-A	○	・	
9	F-13	・	・	チャート	(20)	9	3	(0.8)	1-B	・	・	
10	F-14	IV	7807	下呂石	30	8	6	1.6	1-A	・	○	
11	F-16	III	6	チャート	39	14	8	3.6	1-A	・	・	
12	G-12	III	404	チャート	23	7	4	0.8	1-A	・	○	
13	G-12	III	2552	下呂石	26	9	3	0.9	1-A	・	○	
14	G-12	III	2932	チャート	31	19	5	3.8	2-A	・	○	
15	G-13	III	1320	チャート	34	13	9	3.6	1-B	○	・	
16	G-16	III	311	下呂石	39	13	8	3.7	1-B	・	○	30
17	G-16	・	・	黒曜石	31	11	6	1.2	2-A	・	○	
18	G-17	III	818	下呂石	41	33	10	11.2	3-[illegible]	・	・	
19	G-17	III	7535	チャート	(24)	11	6	(1.8)	1-A	○	・	
20	G-17	III	7720	下呂石	26	8	5	1.1	1-A	・	・	29
21	G-17	IV	7840-2	黒曜石	26	9	7	1.6	1-B	・	・	
22	G-17	IV	7868	チャート	(19)	13	4	(1.6)	1-A	○	・	
23	G-17	・	・	チャート	(19)	18	8	(3.6)	2-A	○	・	
24	G-17	・	・	チャート	31	15	5	1.2	2-B	・	○	32
25	G-18	・	・	チャート	23	15	9	1.8	3-[illegible]	・	○	
26	G-18	・	・	黒曜石	(25)	9	9	(0.9)	1-B	○	・	
27	H-14	III	1424	チャート	(36)	12	7	(3.[illegible])	1-A	○	・	
28	H-15	III	855	下呂石	33	11	6	(2.0)	1-A	・	○	
29	H-15	III	1638	凝灰岩	(18)	11	3	(0.6)	2-B	○	・	
30	H-15	III	1746	チャート	(25)	6	4	(0.6)	2-A	・	○	
31	H-15	III	3131	チャート	(34)	12	8	(3.0)	1-A	○	・	
32	H-15	III	6766	チャート	38	16	9	3.3	2-A	・	○	31
33	H-15	・	・	チャート	(12)	7	3	(0.6)	1-B	○	・	
34	H-16	III	1715	チャート	(29)	13	3	(1.6)	3-[illegible]	●	・	
35	H-16	III	1732	チャート	25	11	4	1.3	3-[illegible]	・	○	
36	H-16	III	2038	黒曜石	(32)	17	6	(2.2)	2-A	○	・	
37	H-16	III	2062	チャート	22	11	4	(1.0)	2-A	・	○	
38	H-16	III	2575	チャート	(30)	8	5	(1.2)	1-A	○	・	
39	H-17	III	1689	チャート	22	12	4	1.2	3-[illegible]	・	○	
40	H-17	III	2129	チャート	(22)	9	4	(0.7)	1-B	・	○	
41	H-17	・	・	下呂石	24	9	4	0.8	1-A	・	○	
42	H-17	・	・	黒曜石	2[illegible]	15	15	1.3	2-A	・	○	
43	H-17	・	・	チャート	30	26	6	6.3	2-A	・	○	
44	H-17	・	・	下呂石	49	28	7	7.2	3-[illegible]	・	○	
45	I-16	III	1418	チャート	29	14	4	(1.8)	3-[illegible]	・	○	
46	I-16	・	・	チャート	27	10	5	1.6	1-A	・	○	
47	I-16	・	・	チャート	17	(9)	5	(0.8)	1-B	・	・	
48	I-16	・	・	チャート	(28)	9	7	3.5	1-B	○	・	
49	I-16	・	・	チャート	(24)	13	5	(1.4)	2-A	○	・	
50	FD-1	・	929	下呂石	(14)	8	4	(0.4)	2-B	○	・	
51	FD-1	・	1332	下呂石	(19)	21	4	1.5	2-A	○	・	

石 匙

No	出土区	層位	遺物番号	石材	長さ	幅	厚さ	重量(g)	分類	折れ	挿図
1	E-12	II	2324	下呂石	(69)	36	9	(21.8)	1-B	○	
2	E-12	III	6791	チャート	45	20	6	6.2	1-B		
3	E-14	・	・	チャート	(29)	26	7	(5.4)	1-B	○	
4	G-11	III	3360	チャート	(24)	(27)	7	(4.6)	1-B	○	
5	G-17	III	1035	チャート	45	28	10	11.4	1-B		41
6	G-17	III	4959	凝灰岩	45	29	6	8.4	1-B		
7	H-16	III	2758	下呂石	44	33	7	9.6	1-B		
8	H-17	II	5065	チャート	58	40	8	20.2	1-B		40
9	E-12	III	7046	チャート	52	33	8	8.8	2-A		
10	E-13	IV	5363	下呂石	(24)	(28)	9	(5.8)	2-[illegible]	○	
11	E-14	III	5981	チャート	32	44	8	11.3	2-B		
12	F-11	III	3519	チャート	41	46	5	10.3	2-B		
13	F-12	III	7210	チャート	54	52	12	14.5	2-B		43
14	G-16	・	・	黒曜石	(16)	(15)	5	(1.0)	2-[illegible]	●	
15	G-17	III	292	チャート	33	27	4	4.1	2-B		
16	G-17	III	813	チャート	28	27	7	3.8	2-B		
17	G-17	III	7841-1	チャート	38	30	8	7.7	2-B		
18	H-17	III	918	チャート	35	43	7	9.2	2-B		
19	H-17	III	1300	チャート	39	40	4	5.7	2-B		
20	I-16	III	7151	チャート	35	53	8	12.2	2-B		42

へら状石器

No	出土区	層位	遺物番号	石材	長さ	幅	厚さ	重量(g)	分類	挿図
1	E-11	・	・	チャート	26	13	6	1.6	1	44
2	E-13	III	5237	チャート	29	19	7	5.3	2	
3	F-13	III	2412	黒曜石	23	21	10	3.4	1	45
4	G-17	・	・	チャート	21	16	5	2.4	2	
5	H-11	III	3762	チャート	18	26	6	3.6	2	
6	H-16	・	・	チャート	28	16	7	3.3	2	
7	H-16	・	・	下呂石	22	12	4	1.4	2	
8	I-16	III	3222	チャート	42	17	11	8.2	2	46

剥　器

No	出土区	層位	遺物番号	石材	大きさ 長さ (mm)	幅	厚み	重量 (g)	分類	折損	挿図
1	E-13	Ⅲ	5230	下呂石	(55)	52	11	(29.4)	3	○	
2	E-13	Ⅲ	6360	下呂石	49	(56)	15	(42.6)	1	○	
3	E-13	・	・	黒曜石	24	(23)	9	(5.3)	1	○	
4	F-9	Ⅱ	4375	チャート	33	(47)	14	(16.1)	1	○	49
5	F-12	Ⅲ	7261	チャート	(52)	27	6	(10.7)	3	○	
6	F-12	Ⅲ	7824	チャート	(49)	43	11	(21.8)	3	○	
7	F-13	Ⅲ	4407	チャート	33	65	12	24.4	2		48
8	F-13	・	・	下呂石	45	(58)	8	(27.8)	1	○	
9	F-16	Ⅱ	35	頁岩	(26)	30	5	(4.2)	3	○	
10	G-9	・	・	チャート	(23)	26	7	(4.1)	1	○	
11	G-12	Ⅲ	2729	下呂石	(73)	35	7	(18.7)	2	○	
12	G-16	Ⅲ	271	黒曜石	49	(70)	13	(33.5)	1	○	
13	G-16	Ⅲ	456	下呂石	(40)	28	7	(8.2)	2	○	
14	G-16	Ⅲ	500	黒曜石	20	15	8	2.4	1		
15	G-17	Ⅲ	813	チャート	55	40	9	14.0	2		
16	G-17	Ⅲ	816	下呂石	39	50	13	20.9	3		
17	G-17	Ⅳ	5137	チャート	44	(29)	6	(8.9)	2	○	
18	G-17	・	・	チャート	26	(29)	10	(8.2)	2	○	
19	G-17	・	・	下呂石	51	(32)	9	(14.6)	1	○	
20	G-18	Ⅲ	4814	チャート	36	32	8	8.8	2		
21	H-11	・	・	チャート	32	(23)	6	(5.3)	3	○	
22	H-16	Ⅲ	220	チャート	(31)	22	5	(4.4)	3	○	
23	H-16	Ⅲ	688	下呂石	17	29	8	4.6	3		
24	H-16	Ⅲ	835	チャート	35	(19)	5	(4.3)	3	○	
25	H-16	Ⅲ	1719	チャート	39	27	8	8.6	1		
26	H-16	Ⅲ	1948	チャート	49	(21)	7	(8.4)	1	○	
27	H-16	Ⅲ	2611	下呂石	42	(42)	10	(16.8)	3	○	
28	H-16	・	・	チャート	25	20	9	5.5	1		
29	H-16	・	・	チャート	23	(32)	5	(3.2)	1	○	
30	H-16	・	・	玄武岩	(75)	(18)	8	(10.1)	3	○	
31	H-17	Ⅲ	4751	チャート	34	55	10	16.7	3		47
32	I-16	Ⅲ	2523	黒曜石	23	24	8	4.6	1		
33	表採	Ⅰ	・	チャート	18	25	4	2.2	1		

掻　器

No	出土区	層位	遺物番号	石材	大きさ 長さ (mm)	幅	厚み	重量 (g)	分類	折損	挿図
1	E-10	Ⅲ	3420	チャート	61	23	9	14.5	[illegible]	[illegible]	51
2	E-13	・	・	黒曜石	23	15	10	2.5	[illegible]	[illegible]	
3	E-15	・	・	チャート	28	23	7	3.4	[illegible]	[illegible]	52
4	F-12	Ⅱ	4926	下呂石	39	56	13	29.3	4	[illegible]	
5	G-	・	17	チャート	21	19	8	3.6	4	[illegible]	
6	G-9	・	・	チャート	19	20	6	2.8	[illegible]	[illegible]	51
7	G-12	Ⅲ	2728	下呂石	52	59	10	32.7	[illegible]	[illegible]	
8	G-12	Ⅲ	4472	下呂石	52	55	15	41.4	[illegible]	[illegible]	
9	H-5	Ⅲ	4795	チャート	58	28	10	17.6	[illegible]	[illegible]	53
10	H-15	Ⅲ	2028	チャート	19	23	7	2.9	1	[illegible]	
11	H-15	・	・	チャート	21	21	5	2.9	[illegible]	[illegible]	
12	H-15	・	・	チャート	38	(22)	11	(11.6)	[illegible]	○	
13	H-16	Ⅲ	212	チャート	24	32	9	7.1	[illegible]	[illegible]	
14	H-16	Ⅲ	2052	下呂石	(34)	(14)	6	(2.3)	[illegible]	(○)	
15	H-16	Ⅲ	7329	下呂石	80	40	15	57.2	[illegible]	[illegible]	
16	H-16	・	・	下呂石	29	16	9	4.4	[illegible]	[illegible]	
17	H-17	Ⅲ	1655	チャート	24	31	10	7.3	[illegible]	[illegible]	
18	H-17	・	・	チャート	(29)	21	10	(7.3)	[illegible]	[illegible]	
19	I-16	Ⅲ	1620	下呂石	31	26	9	7.8	[illegible]	[illegible]	
20	I-16	Ⅲ	2764	下呂石	(35)	28	11	(9.6)	3	[illegible]	

石　錐

No	出土区	層位	遺物番号	石材	大きさ 長さ (mm)	幅	厚み	重量 (g)	挿図
1	F-11	Ⅲ	2703	頁岩	51	[illegible]	6	47.1	65
2	F-16	Ⅲ	445	凝灰岩	39	[illegible]	2	18.9	66
3	G-17	Ⅲ	1788	凝灰岩	50	[illegible]	3	33.1	
4	G-17	Ⅳ	5060	砂岩	39	[illegible]	4	23.3	

コ　ア

No	出土区	層位	遺物番号	石材	大きさ 長さ (mm)	幅	厚み	重量 (g)	挿図
1	E-13	Ⅲ	6358	[illegible]	21	29	14	7.5	
2	E-16	・	・	[illegible]	36	27	17	15.1	
3	F-14	Ⅳ	6879	[illegible]	54	81	60	195.5	63
4	G-9	Ⅲ	4322	[illegible]	20	21	16	6.9	
5	H-15	Ⅲ	7380	[illegible]	25	53	12	18.1	
6	H-16	Ⅲ	429	[illegible]	28	17	14	7.5	
7	H-16	Ⅲ	2034	[illegible]	63	82	21	108.7	
8	H-16	Ⅲ	2198	[illegible]	20	34	16	12.6	
9	H-17	・	・	[illegible]	29	35	26	28.9	

有溝石製品

No	出土区	層位	遺物番号	石材	大きさ 長さ (mm)	幅	厚み	重量 (g)	挿図
1	G-17	Ⅱ	[illegible]	[illegible]	7.1	2.0	1.0	15.3	50

挟入石器

No	出土区	層位	遺物番号	石材	大きさ 長さ	幅	厚み	重量(g)	挿図
1	E-9	・	・	黒曜石	29	16	7.1	2.5	39

横刃型石器

No	出土区	層位	遺物番号	石材	大きさ 長さ	幅	厚み	重量(g)	挿図
1	F-9	III	4632	頁岩	78	132	18	171.7	64

R・F

No	出土区	層位	遺物番号	石材	大きさ 長さ	幅	厚み	重量(g)	挿図
1	E-9	・	・	下呂石	39	18	7	3.8	
2	E-13	IV	5459	黒曜石	16	31	8	2.5	
3	E-13	III	6610	黒曜石	25	24	10	4.4	
4	F-12	・	・	黒曜石	22	[illegible]	8	5.1	
5	F-13	・	・	チャート	41	[illegible]	9	8.6	
6	F-15	[illegible]	4146	チャート	[illegible]	35	5	8.0	
7	F-16	・	・	チャート	[illegible]	[illegible]	9	4.1	
8	F-16	・	・	黒曜石	22	11	5	1.5	
9	F-17	[illegible]	[illegible]	黒曜石	[illegible]	16	5	2.4	
10	G-10	[illegible]	[illegible]	チャート	[illegible]	41	[illegible]	13.6	
11	G-10	・	・	チャート	[illegible]	21	8	4.5	
12	G-12	[illegible]	3145	チャート	[illegible]	[illegible]	5	9.4	62
13	G-12	・	・	チャート	30	[illegible]	[illegible]	3.9	
14	G-13	・	・	チャート	[illegible]	28	[illegible]	5.9	
15	G-15	[illegible]	1211	チャート	[illegible]	[illegible]	[illegible]	4.2	
16	G-15	・	・	チャート	30	20	5	4.7	
17	G-16	・	・	下呂石	31	18	[illegible]	2.7	
18	G-16	・	・	黒曜石	16	15	[illegible]	1.1	
19	G-17	[illegible]	169	チャート	[illegible]	[illegible]	[illegible]	8.0	
20	G-17	III	613	下呂石	21	[illegible]	2	0.7	
21	G-17	III	625	チャート	31	19	[illegible]	[illegible]	
22	G-17	III	1452	下呂石	29	15	[illegible]	8	
23	G-17	IV	2789	下呂石	53	16	[illegible]	22.4	
24	G-17	・	・	下呂石	18	23	[illegible]	3.3	
25	G-17	・	・	チャート	16	14	[illegible]	0.9	
26	G-17	・	・	黒曜石	18	11	4	0.5	
27	H-11	III	4762	チャート	46	[illegible]	[illegible]	7.8	60
28	H-11	・	・	チャート	33	11	5	1.5	
29	H-11	・	・	チャート	21	16	[illegible]	1.4	
30	H-14	III	1509	下呂石	24	[illegible]	[illegible]	3.3	
31	[illegible]-15	III	[illegible]	下呂石	38	[illegible]	[illegible]	12.1	
32	H-15	III	[illegible]	チャート	36	[illegible]	7	4.5	
33	H-15	[illegible]	[illegible]	チャート	21	[illegible]	[illegible]	4.5	
34	H-15	・	・	チャート	22	[illegible]	[illegible]	0.9	
35	H-16	III	1507	チャート	20	23	[illegible]	2.4	
36	H-16	III	1520	下呂石	42	38	12	21.1	
37	H-16	III	2276	チャート	29	[illegible]	[illegible]	5.9	61
38	H-16	・	・	チャート	22	[illegible]	5	3.6	
39	H-16	・	・	チャート	13	[illegible]	[illegible]	2.2	
40	H-16	・	・	下呂石	20	25	[illegible]	2.0	
41	H-16	・	・	黒曜石	25	17	5	1.8	
42	H-16	・	・	チャート	18	14	2	0.8	
43	H-17	[illegible]	1964	チャート	49	29	[illegible]	[illegible]	59
44	H-17	・	・	チャート	22	25	5	[illegible]	
45	I-16	・	・	チャート	25	19	6	2.7	
46	J-13	・	・	チャート	19	17	4	[illegible]	

U・F

No	出土区	層位	遺物番号	石材	大きさ 長さ	幅	厚み	重量(g)	挿図
1	C-15	II	460	チャート	31	21	8	6.9	
2	E-9	・	・	チャート	28	19	5	2.2	
3	E-12	III	5891	チャート	35	24	3	3.2	
4	E-13	III	6473	頁岩	28	57	11	11.9	57
5	E-13	・	・	チャート	24	20	5	2.4	
6	E-13	・	・	チャート	29	12	2	0.9	
7	F-11	III	3600	チャート	74	28	9	19.0	
8	F-12	III	2333	チャート	27	23	6	3.3	
9	F-12	III	7262	チャート	65	19	8	13.2	55
10	F-12	III	7834	チャート	36	45	8	16.5	
11	F-12	III	7856	下呂石	61	68	13	50.7	
12	F-12	・	・	チャート	29	28	6	4.8	
13	F-12	・	・	チャート	30	20	4	2.4	
14	F-12	・	・	黒曜石	24	16	6	2.2	
15	F-13	III	5562	チャート	27	13	5	2.0	
16	F-13	III	7631	チャート	31	27	11	10.5	
17	F-13	・	・	チャート	41	18	7	5.4	
18	F-13	・	・	チャート	31	24	8	6.7	
19	F-14	III	5807	下呂石	47	42	9	17.2	
20	F-15	・	・	黒曜石	19	17	5	2.0	
21	G-17	III	7533	チャート	39	37	10	13.9	
22	G-9	・	・	下呂石	30	42	10	14.1	
23	G-10	・	・	下呂石	40	43	8	12.7	
24	G-12	・	・	下呂石	31	16	9	4.1	

25	G-13	・	・	チャート	27	32	10	9.8	
26	G-15	・	・	チャート	22	52	5	4.6	
27	G-15	・	・	チャート	25	29	6	5.6	
28	G-15	・	・	チャート	29	21	7	6.0	
29	G-15	・	・	チャート	20	20	5	2.1	
30	G-16	II	313	下呂石	38	21	8	5.7	
31	G-16	III	1443	チャート	38	26	8	6.4	
32	G-16	・	・	黒曜石	19	11	3	0.7	
33	G-17	・	・	チャート	19	18	4	1.4	
34	G-17	・	・	チャート	13	25	7	2.5	
35	G-17	・	・	下呂石	29	15	5	2.4	
36	G-17	・	・	黒曜石	21	10	5	0.8	
37	G-18	・	・	チャート	35	21	7	4.3	
38	G-18	・	・	チャート	17	9	3	0.5	
39	H-11	III	4737	チャート	39	35	7	9.9	
40	H-11	III	4221	チャート	19	51	4	3.4	
41	H-15	III	3040	チャート	33	29	7	5.5	
42	H-15	III	3119	チャート	32	35	9	10.5	
43	H-15	・	・	チャート	46	35	8	13.5	
44	H-15	・	・	下呂石	40	23	13	11.1	
45	H-16	III	354	下呂石	72	27	11	19.2	56
46	H-16	III	1529	チャート	31	28	5	4.4	
51	H-16	III	2219	チャート	40	20	8	7.2	[illegible]
47	H-16	II	2255	チャート	27	21	4	3.1	
48	H-16	III	2502	下呂石	29	32	5	4.1	
49	H-16	IV	3221	チャート	16	49	9	6.0	
50	H-16	III	7342	下呂石	42	35	8	11.5	
52	H-17	・	・	チャート	41	20	9	8.4	
53	H-17	・	・	チャート	31	22	6	3.8	
54	H-17	・	・	下呂石	33	32	8	8.2	
55	I-16	III	3278	チャート	40	21	5	5.2	

打製石斧

No.	出土区	層位	遺物番号	石材	大きさ mm 長さ	幅	厚み	重量 (g)	基部形態	分類 平面	断面	欠損部位	自然面	挿図
1	D-16	III	542	凝灰岩	(45)	50	14	(41)	1	2	A	b	○	
2	E-9	II	3388	緑色片岩	(49)	(45)	13	(43)	2	・	・	d	○	
3	E-9	III	3515	凝灰岩	(36)	(58)	(14)	(32)	・	2	B	b		
4	E-9	III	3517	凝灰岩	(117)	50	19	(139)	1	3	B	c	○	
5	E-9	III	3573	凝灰岩	(106)	52	24	(152)	1	・	・	a		
6	E-9	III	3633	凝灰岩	(102)	(49)	36	(202)	1	・	・	a	○	
7	E-9	III	3638	凝灰岩	(64)	62	16	(93)	1	2	B	b	○	
8	E-10	II	2890	凝灰岩	141	55	23	238	3	3	A	・	○	78
9	E-10	III	3578	凝灰岩	(88)	52	22	(106)	1	・	・	a	○	
10	E-10	III	3632	凝灰岩	(54)	53	17	(64)	1	3	B	b	○	
11	E-11	III	5337	凝灰岩	(75)	42	14	(59)	1	2	B	b	○	
12	E-11	III	5787	凝灰岩	(124)	(75)	32	(331)	3	・	・	a	○	
13	E-11	III	5789	凝灰岩	(75)	(58)	24	(124)	3	・	B	d	○	
14	E-12	II	4858	緑色片岩	(83)	46	16	(83)	1	・	・	d	○	
15	E-12	III	5812	凝灰岩	(116)	61	23	(250)	3	2	A	c	○	77
16	E-13	III	6385	緑色片岩	175	51	26	336	1	1	A	・	○	67
17	E-13	・	・	緑色片岩	(44)	37	17	(37)	1	・	・	a	○	
18	F-8	II	3746	緑色片岩	(69)	54	13	(65)	3	3	B	b		
19	F-9	III	3565	凝灰岩	(85)	51	19	(84)	3	3	A	c	○	
20	F-9	III	3858	緑色片岩	(55)	63	9	(45)	3	3	A	d	○	
21	F-9	III	3905	凝灰岩	(53)	59	8	(33)	・	・	・	d	○	
22	F-9	III	4158	凝灰岩	(142)	58	21	(221)	3	2	B	c	○	
23	F-9	III	4237	凝灰岩	110	46	22	113	3	2	A	・	○	
24	F-9	III	4630	凝灰岩	116	60	25	175	3	・	・	d	○	
25	F-10	II	3291	凝灰岩	127	46	23	200	1	・	・	a	○	
26	F-10	III	3552	凝灰岩	(119)	65	33	(310)	1	2	A	b	○	
27	F-10	III	3554	凝灰岩	(113)	52	19	(195)	2	3	B	c	○	73
28	F-10	III	3776	凝灰岩	(103)	49	17	(117)	1	・	・	d	○	
29	F-10	III	3873	凝灰岩	(95)	53	21	(104)	1	3	A	c	○	
30	F-10	III	3874	凝灰岩	88	43	14	67	1	2	B	・	○	
31	F-10	III	3875	凝灰岩	142	67	27	319	3	2	B	・	○	76
32	F-10	III	3881	凝灰岩	(81)	45	18	(84)	3	・	・	a	○	
33	F-10	III	4135	凝灰岩	(78)	46	11	(62)	1	1	B	c	○	
34	F-10	III	4188	凝灰岩	121	46	16	113	1	3	B	・	○	71
35	F-10	III	4197	緑色片岩	62	50	8	34	1	2	B	・	○	
36	F-10	III	4214	凝灰岩	114	56	26	209	3	1	B	・	○	
37	F-10	III	4380	凝灰岩	(69)	52	18	(94)	1	・	・	d	○	
38	F-10	III	5010	粘板岩	(102)	53	16	(123)	1	3	A	c	○	
39	F-10	・	・	緑色片岩	46	26	11	18	・	・	・	・	・	
40	F-12	III	5783	凝灰岩	131	56	28	272	3	2	B	・	○	
41	F-13	III	5879	緑色片岩	(86)	49	15	(72)	3	・	・	a	○	
42	F-13	III	6418	凝灰岩	(91)	54	24	(144)	1	・	・	a	○	
43	F-15	IV	6728	凝灰岩	(95)	47	19	(90)	3	2	B	c	・	
44	F-16	II	24	凝灰岩	(57)	46	15	(54)	1	・	・	a	○	
45	F-16	・	・	緑色片岩	(31)	28	7	(7)	・	・	・	a	○	
46	F-17	III	5075	凝灰岩	(67)	44	21	(88)	1	・	・	a		
47	G-8	III	4101	凝灰岩	87	45	21	105	3	2	B	・	・	75
48	G-8	III	4177	凝灰岩	(60)	66	11	(55)	1	2	A	b	○	
49	G-8	III	4202	凝灰岩	(63)	51	22	(90)	・	・	・	a	○	
50	G-9	III	4093	凝灰岩	(97)	58	21	(176)	3	・	・	a	○	
51	G-9	III	4094	凝灰岩	134	65	33	316	1	・	B	・	○	

52	G-9	III	4724	結晶片岩	(92)	55	15	(86)	1	2	B	b	・	
53	G-9	III	4248	結晶片岩	107	48	16	111	3	3	B	・	○	
54	G-9	III	4295	結晶片岩	(109)	38	19	(89)	1	・	・	a	○	
55	G-9	III	4342	結晶片岩	(76)	36	26	(100)	1	2	B	b	○	
56	G-9	III	4901	緑色片岩	(59)	70	9	(39)	1	3	B	b	○	
57	G-9	III	1004	結晶片岩	(59)	43	17	(70)	1	・	・	a	○	
58	G-9	・	・	結晶片岩	(82)	63	16	(72)	1	3	A	b	○	
59	G-9	・	・	結晶片岩	(95)	42	16	(81)	1	2	B	c	○	
60	G-9	・	・	結晶片岩	(111)	66	37	(278)	3	・	・	a	○	
61	G-9	・	・	結晶片岩	(94)	61	23	(139)	3	・	・	a	○	
62	G-10	II	3273	結晶片岩	(90)	39	20	(61)	3	・	・	a	○	
63	G-10	III	3842	結晶片岩	(116)	59	26	(164)	1	2	B	c	○	
64	G-10	III	3899	結晶片岩	(91)	52	21	(114)	1	・	・	a	・	
65	G-10	・	・	緑色片岩	19	15	4	2	・	・	・	・	・	
66	G-10	・	・	結晶片岩	(112)	44	19	(130)	1	・	・	d	○	
67	G-11	IV	5347	結晶片岩	(119)	62	31	(326)	3	・	B	c	○	72
68	G-11	IV	5349	緑色片岩	(98)	41	13	(70)	1	・	・	a	○	
69	G-13	IV	6771	結晶片岩	(99)	47	18	(112)	3	3	B	c	○	
70	G-13	IV	6772	結晶片岩	(134)	34	6	(110)	・	・	・	a	○	
71	G-14	IV	6893	結晶片岩	(56)	39	20	(70)	・	・	・	a	○	
72	G-14	IV	7402	結晶片岩	(73)	46	24	(84)	1	・	・	a	○	
73	G-15	III	367	結晶片岩	(141)	(46)	7	(21)	1	2	B	b	○	
74	G-15	III	704	結晶片岩	(121)	64	40	(240)	3	・	・	a	○	
75	G-15	III	1483	結晶片岩	109	44	17	118	1	2	B	・	○	
76	G-15	III	6770	結晶片岩	(90)	33	19	(107)	3	3	A	c	○	
77	G-15	III	7361	砂岩	(99)	48	22	(139)	1	・	・	a	○	
78	G-15	・	・	緑色片岩	(145)	42	8	(119)	・	2	A	b	○	
79	G-16	III	377	結晶片岩	(61)	42	24	(59)	1	・	・	a	○	68
80	G-16	III	307	結晶片岩	(122)	57	27	(230)	3	・	・	a	○	
81	G-17	II	230	結晶片岩	(114)	59	23	(204)	1	2	B	c	○	
82	G-17	III	810	結晶片岩	(89)	42	26	(100)	1	1	B	b	○	図377接合
83	G-17	III	7420	結晶片岩	(90)	60	33	(213)	3	3	B	b	○	
84	H-5	III	4028	砂岩	153	60	22	288	1	2	B	・	○	69
85	H-7	III	4750	緑色片岩	(55)	43	15	(46)	1	・	・	a	○	
86	H-8	III	4747	砂岩	(105)	80	27	(349)	1	2	B	b	○	
87	H-8	III	4789	緑色片岩	(52)	63	13	(46)	1	3	A	b	○	
88	H-9	III	4740	緑色片岩	(50)	63	10	(32)	1	3	B	b	○	
89	H-9	III	4903	結晶片岩	144	66	29	377	1	1	B	・	○	
90	H-10	III	3756	結晶片岩	(117)	51	17	(109)	3	・	・	a	○	
91	H-10	III	4318	結晶片岩	(145)	53	16	(149)	1	3	B	b	○	
92	H-11	III	4304	緑色片岩	(39)	52	9	(22)	・	3	A	b	○	
93	H-12	III	2311	結晶片岩	(100)	37	14	(47)	1	・	・	a	○	
94	H-15	III	1187	結晶片岩	(103)	50	13	(43)	1	3	B	b	・	
95	H-15	III	1287	結晶片岩	(93)	52	29	(159)	1	・	・	a	○	
96	H-15	III	1348	結晶片岩	102	37	15	118	1	3	B	・	・	
97	H-15	III	1350	結晶片岩	(64)	53	14	(54)	1	2	B	b	○	
98	H-15	III	1351	結晶片岩	(45)	43	11	(37)	1	・	・	d	○	
99	H-15	III	1358	結晶片岩	(56)	50	19	(69)	3	・	・	d	・	
100	H-15	III	1438	結晶片岩	(78)	51	28	(124)	1	3	A	b	○	
101	H-15	III	1446	緑色片岩	(26)	42	13	(16)	・	2	B	b	○	
102	H-15	III	2191	結晶片岩	98	43	16	98	1	3	B	・	○	
103	H-15	III	2231	結晶片岩	(47)	45	16	(41)	・	2	B	b	○	
104	H-15	III	2392	結晶片岩	(62)	52	20	(82)	1	2	B	b	○	
105	H-15	III	2393	結晶片岩	(55)	39	14	(34)	3	・	・	a	・	
106	H-15	III	7379	結晶片岩	104	47	17	106	1	1	A	・	○	
107	H-15	III	7384	結晶片岩	(73)	48	20	(87)	1	2	B	b	・	
108	H-16	II	65	結晶片岩	(64)	43	19	(59)	1	・	・	a	○	
109	H-16	III	1033	結晶片岩	(110)	43	19	(139)	1	1	B	c	○	
110	H-16	III	1239	緑色片岩	(98)	65	14	(137)	2	・	・	d	○	
111	H-16	III	1390	結晶片岩	(95)	70	18	(119)	1	3	B	b	○	
112	H-16	III	1731	結晶片岩	(74)	58	16	(88)	3	・	・	d	○	
113	H-16	III	2041	結晶片岩	(100)	33	14	(25)	1	・	・	a	○	
114	H-16	III	2155	緑色片岩	(121)	42	22	(126)	1	3	A	c	○	
115	H-16	・	・	砂岩	(97)	40	24	(74)	1	・	・	a	○	
116	H-16	・	・	結晶片岩	117	49	19	134	1	3	A	・	○	
117	H-17	III	912	結晶片岩	(161)	57	24	(119)	1	2	B	b	●	
118	H-17	III	1016	結晶片岩	(171)	51	22	(165)	3	・	・	d	○	
119	H-17	III	1573	結晶片岩	(94)	70	25	(163)	1	3	B	b	○	
120	H-17	III	2014	結晶片岩	(80)	65	17	(100)	1	2	B	b	○	
121	H-17	III	4752	緑色片岩	(82)	50	13	(71)	1	・	・	a	○	
122	H-17	III	5074	結晶片岩	(87)	64	24	(162)	1	1	A	b	○	
123	I-13	III	1960	緑色片岩	102	43	14	113	1	2	B	・	○	70
124	I-13	IV	2075	結晶片岩	(79)	53	25	(126)	1	・	・	a	○	
125	I-13	IV	2076	結晶片岩	(70)	51	15	(65)	3	3	A	b	○	
126	I-14	III	1414	結晶片岩	(113)	70	23	(226)	3	・	・	a	○	
127	I-15	III	3669	緑色片岩	(65)	40	16	(47)	1	・	・	a	○	
128	I-15	III	6773	結晶片岩	(42)	(50)	24	(114)	3	・	・	a	・	
129	I-16	III	1623	結晶片岩	(94)	51	20	(100)	1	2	A	c	○	
130	I-16	III	3128	結晶片岩	119	53	28	175	1	3	B	・	○	
131	I-16	III	7154	結晶片岩	(84)	45	22	(105)	3	・	・	a	・	
132	I-16	III	7157	結晶片岩	(80)	54	26	(125)	1	・	・	a	○	
133	J-13	II	2555	緑色片岩	(60)	51	11	(50)	1	・	・	a	・	
134	J-13	III	3174	結晶片岩	(93)	59	17	(135)	1	・	・	a	○	
135	J-13	・	・	結晶片岩	(94)	64	29	(191)	1	3	B	b	○	
136	J-13	・	・	結晶片岩	(85)	58	21	(100)	1	3	B	b	○	
137	J-13	・	・	結晶片岩	(64)	42	18	(53)	1	・	・	a	・	

139	[illegible]	[illegible]	・	・	凝灰岩	(86)	57	[illegible]	(155)	3	2	B	b	○		
139	[illegible]	[illegible]	・	・	凝灰岩	(43)	51	[illegible]	(27)	1	・	・	d	・		
140	[illegible]	[illegible]	・	・	緑色片岩	(93)	48	18	(114)	1	・	・	a	○		
141	[illegible]	[illegible]	・	・	凝灰岩	150	63	29	371	1	2	B	・	○		74

凹石・敲石

No.	出土区	層位	遺物番号	石材	大きさ 長さ	大きさ 幅	大きさ 厚み	重量 (g)	凹の数 表	凹の数 側	凹の数 裏	磨り面 表	磨り面 側	磨り面 裏	分類 形態	分類 使用	打痕	挿図
1	E-9	II	3389	凝灰岩	159	76	63	771	・	・	・	1	1	1	2-B		○	
2	E-9	・	・	凝灰岩	119	67	50	442	・	・	・	1	3	1	2-B		○	
3	E-9	・	・	凝灰岩	109	91	53	693	・	・	・	1	・	1	2-B			
4	E-9	・	・	凝灰岩	150	73	40	565	・	・	・	1	・	1	2-B			
5	E-10	III	3689	凝灰岩	(66)	(52)	(38)	(133)	・	・	・	1	2	1	2-・			
6	E-10	III	3077	凝灰岩	106	74	73	820	・	1	・	1	2	1	2-A		○	90
7	E-11	III	6040	凝灰岩	93	82	43	399	1	・	・	1	・	1	2-B	イ	○	
8	E-11	III	6041	凝灰岩	99	80	45	464	2	・	2	1	・	1	2-B	イ		
9	E-11	III	6318	凝灰岩	92	64	46	335	1	・	・	1	1	1	2-B	ウ		
10	E-12	III	5688	凝灰岩	115	91	66	873	・	・	・	1	1	1	2-・		○	
11	E-12	III	5816	凝灰岩	119	59	37	305	3	・	・		1	1	2-・	イ		
12	E-12	III	5932	凝灰岩	141	77	63	666	5	1	2	1	2	1	2-B	イ	○	
13	E-12	III	6648	凝灰岩	75	69	42	281	1	・	1	1	・	1	1-B	ア	○	88
14	E-12	III	6951	凝灰岩	114	91	59	748	・	・	・	1	・	3	2-・		敲○	
15	E-12	III	7103	凝灰岩	103	74	41	380	2	2	1	1	・	1	2-B	イ		
16	E-12	III	7467	凝灰岩	115	75	51	463	・	・	・	1	・	1	2-B		○	
17	E-12	III	7661	凝灰岩	85	68	54	357	1	・	1	1	・	1	2-・			
18	E-13	IV	5469	凝灰岩	116	(75)	52	(541)	・	・	・	1	1	1	2-B			
19	E-13	III	5514	凝灰岩	105	89	45	506	1	・	・	1	・	1	2-B			
20	E-13	III	5515	凝灰岩	(82)	(80)	(53)	(358)	3	・	・	1	2	・	2-・	ウ	○	
21	E-13	III	5742	凝灰岩	(75)	(78)	(52)	(362)	・	・	・	1	・	1	2-B			
22	E-13	III	5795	凝灰岩	97	79	51	494	1	・	1	1	・	1	2-B	イ	○	
23	E-13	III	5802	凝灰岩	152	108	50	1137	1	・	・	1	・	1	2-B	ウ		
24	E-13	III	5834	凝灰岩	131	75	55	631	3	3	4	1	4	1	2-B	ウ	○	
25	E-13	III	5969	凝灰岩	(68)	(76)	(33)	(212)	1	・	・	・	1	・	2-B	イ		
26	E-13	III	6067	凝灰岩	87	78	39	338	1	・	1	1	・	1	2-B	イ		
27	E-13	III	6070	凝灰岩	103	53	33	213	2	・	1	1	・	1	2-B	イ		86
28	E-13	III	6102	凝灰岩	(60)	(58)	(48)	(217)	・	・	・	1	2	1	2-B		○	
29	E-13	III	6197	凝灰岩	100	78	44	428	・	・	・	1	・	1	2-B		○	
30	E-13	III	6211	凝灰岩	106	72	45	380	2	・	2	1	2	1	2-B	ウ		
31	E-13	III	6348	凝灰岩	105	78	52	594	2	・	2	1	4	2	2-・	ウ		
32	E-13	III	6384	凝灰岩	96	70	49	432	3	・	3	1	・	1	2-B	ウ	○	
33	E-13	III	6388	凝灰岩	106	87	54	748	1	3	・	1	1	1	2-B	イ	○	
34	E-13	III	6407	凝灰岩	166	148	53	2000	・	・	・	1	・	1	2-B			
35	E-13	III	6582	凝灰岩	89	67	44	285	3	・	・	1	3	1	2-B	ウ	○	
36	E-13	III	6814	凝灰岩	102	90	39	443	1	・	・	1	・	・	2-・	イ		
37	E-13	・	・	凝灰岩	101	88	58	660	1	・	・	1	・	・	2-B	ウ		
38	E-14	III	5162	凝灰岩	110	84	59	615	・	・	・	1	2	1	2-B		○	
39	E-16	III	643	凝灰岩	116	85	60	806	1	・	・	1	2	1	2-・	イ	○	
40	F-9	III	3860	凝灰岩	111	80	52	572	3	・	1	1	2	1	2-・	イ	○	
41	F-9	III	3949	凝灰岩	126	95	61	999	・	・	・	2	2	1	2-B		○	
42	F-9	III	4127	凝灰岩	111	87	81	734	2	1	・	1	1	1	2-B	ウ	○	
43	F-9	III	4210	凝灰岩	101	58	38	304	1	・	1	1	1	1	2-B	ウ	○	
44	F-10	III	4819	凝灰岩	128	80	47	643	・	・	・	1	・	2	2-B		○	
45	F-10	III	3620	凝灰岩	(63)	(85)	(38)	(274)	2	・	1	1	・	1	2-B	ウ	敲	
46	F-10	III	4808	凝灰岩	78	72	35	247	1	・	・	1	・	1	1-B	イ	○	
47	F-10	III	4880	凝灰岩	87	67	45	330	1	・	1	1	・	1	2-B	ウ	○敲	*
48	F-11	III	2484	凝灰岩	60	46	22	70	・	・	・	1	1	1	2-B		○	
49	F-11	III	2557	凝灰岩	111	69	55	491	1	1	・	・	1	・	2-B	イ		
50	F-11	III	2793	凝灰岩	115	52	47	468	・	・	・	1	・	・	3-D		○	*
51	F-11	III	2922	凝灰岩	57	44	41	117	・	・	・	1	3	・	2-A			
52	F-11	III	3103	凝灰岩	85	61	46	292	1	・	・	・	1	・	・-・	イ		
53	F-11	III	3296	凝灰岩	78	77	35	270	1	・	1	1	・	1	1-B	イ		
54	F-11	III	3451	凝灰岩	57	38	29	59	・	・	・	1	1	1	2-B		敲	
55	F-11	III	3454	凝灰岩	89	54	43	277	1	・	1	1	2	1	2-D	ア		
56	F-11	III	3456	凝灰岩	174	143	65	185	1	・	・	1	・	1	2-B	イ	○敲	
57	F-11	III	3598	凝灰岩	106	71	57	469	2	・	・	1	1	1	2-・	イ	○	
58	F-11	III	5494	凝灰岩	111	55	52	422	・	・	・	1	1	1	2-B		○	
59	F-11	III	6445	凝灰岩	110	71	49	497	3	・	2	1	1	1	2-・	ウ	○	
60	F-12	III	5683	凝灰岩	109	93	52	661	1	・	・	・	・	1	1-B	イ	○	
61	F-12	III	7207	凝灰岩	(106)	(75)	36	(258)	2	・	1	・	・	・	2-B	イ	○	
62	F-12	III	7445	凝灰岩	87	83	52	479	1	・	1	1	・	1	1-B	ウ	○	
63	F-13	III	2258	凝灰岩	102	96	62	814	1	・	・	1	・	1	1-B	ウ	○	
64	F-13	III	2260	凝灰岩	104	85	56	608	・	・	・	1	1	1	2-B		○	
65	F-13	III	2291	凝灰岩	82	77	58	441	・	・	・	1	1	1	1-B			
66	F-13	III	4871	凝灰岩	110	48	41	278	1	・	・	・	・	1	2-・	ウ		
67	F-13	III	5161	凝灰岩	91	81	41	444	・	・	・	1	・	・	2-B			
68	F-13	III	5343	凝灰岩	143	88	59	932	・	・	・	1	1	1	2-B			
69	F-13	III	5431	凝灰岩	127	78	52	798	・	・	・	1	2	1	2-・		○	93
70	F-13	III	5548	凝灰岩	128	88	46	660	1	・	1	1	・	1	2-B	ウ		
71	F-13	III	5559	凝灰岩	120	73	60	709	・	・	・	1	1	・	2-B			
72	F-13	III	5560	凝灰岩	104	86	62	715	1	・	・	1	4	1	2-・	ア	○	
73	F-13	III	5566	凝灰岩	81	46	32	121	・	・	・	・	・	1	2-B			
74	F-13	III	5645	凝灰岩	(72)	59	46	(226)	・	・	・	・	1	・	2-B			
75	F-13	III	5877	凝灰岩	102	89	45	440	1	・	1	1	・	1	2-B	イ		
76	F-13	III	5928	凝灰岩	(63)	57	52	212	・	・	・	1	2	・	2-B			
77	F-13	III	6286	凝灰岩	77	64	42	241	1	・	・	1	・	1	2-B	ア	○	
78	F-13	III	6307	凝灰岩	97	87	51	556	・	・	・	1	・	1	2-B		○	

79	F-13	III	6409	凝灰岩	97	77	59	546	2	3	1	1	1	1	2-B	イ		94
80	F-13	III	6441	凝灰岩	75	71	50	322	・	・	・	1	・	・	1-B			
81	F-13	III	6501	凝灰岩	96	72	43	355	・	・	・	1	1	1	2-・			
82	F-13	III	6529	凝灰岩	101	82	48	493	・	・	・	1	・	1	2-B		○	
83	F-13	III	6683	凝灰岩	110	87	54	687	・	・	・	1	2	・	2-B		○	
84	F-13	III	6858	凝灰岩	111	67	41	380	1	・	1	1	・	1	2-B	ウ	○	*
85	F-13	III	6908	凝灰岩	100	75	39	323	2	・	1	1	・	1	2-・	ウ	○焼	*
86	F-13	III	6916	凝灰岩	101	71	61	569	2	3	1	・	・	・	2-B	イ	焼	
87	F-13	III	6924	凝灰岩	89	66	42	331	1	・	・	1	1	1	2-B	ア		
88	F-13	III	6994	凝灰岩	93	83	49	500	2	3	1	1	1	1	1-B	イ		
89	F-13	III	7031	凝灰岩	103	67	45	396	1	・	1	1	・	・	2-B	ウ		
90	F-13	III	7035	凝灰岩	93	84	50	491	・	・	・	2	・	1	2-B		○	
91	F-13	III	7036	凝灰岩	100	84	51	561	1	・	1	1	・	1	2-B	ア		
92	F-13	III	7038	凝灰岩	98	79	63	570	・	・	・	1	3	1	2-B			
93	F-13	III	7041	凝灰岩	(65)	86	57	(366)	・	・	・	・	1	1	2-・			
94	F-13	III	7072	凝灰岩	116	76	47	476	2	・	1	1	・	1	2-B	ア		
95	F-13	III	7081	凝灰岩	116	78	53	581	2	・	1	2	・	・	2-B	イ	○	
96	F-13	III	7100	凝灰岩	111	70	54	619	1	・	・	1	2	1	2-B	ア		
97	F-13	III	7145	凝灰岩	84	79	39	375	・	・	・	1	・	1	1-B			
98	F-13	III	7284	凝灰岩	101	76	40	341	4	・	3	1	・	・	2-B	イ		
99	F-13	III	7296	凝灰岩	117	80	59	790	・	・	・	1	1	1	2-・		○	
100	F-13	III	7475	凝灰岩	108	94	50	546	1	・	・	1	・	1	2-B	イ		
101	F-13	III	7681	凝灰岩	97	70	57	414	2	・	1	・	2	・	2-・	ウ	○	
102	F-13	III	7682	凝灰岩	95	69	41	387	・	・	・	1	・	1	2-B		○	
103	F-14	III	5295	凝灰岩	98	82	55	538	2	・	1	1	1	1	2-B	イ	○	
104	F-14	III	5762	凝灰岩	96	80	48	414	1	・	・	1	2	・	2-B	ア	○	
105	F-14	III	6902	凝灰岩	95	53	42	269	1	・	1	1	2	・	2-B	イ		
106	F-15	III	4772	凝灰岩	107	78	57	474	2	1	2	1	・	1	2-B	ウ	○	
107	F-15	IV	7771	凝灰岩	144	91	71	1200	・	4	・	1	1	1	2-B	ア	○	
108	F-16	II	34	凝灰岩	53	49	24	73	1	・	・	・	・	・	1-B	イ		
109	F-16	IV	6736	凝灰岩	(72)	73	48	(255)	2	・	1	・	・	・	1-・	イ		
110	F-16	III	7560	凝灰岩	92	91	56	607	・	・	・	1	・	1	1-B			
111	F-16	III	7573	凝灰岩	(51)	79	57	345	・	・	・	1	・	1	2-B			
112	F-16	III	・	凝灰岩	118	110	74	1194	・	・	・	1	・	1	1-B			
113	F-17	II	40	凝灰岩	94	69	46	319	2	6	1	・	・	・	2-B	イ		
114	F-17	IV	7898	凝灰岩	110	64	49	390	2	・	・	1	・	・	2-・	イ		
115	G-9	III	4100	凝灰岩	88	78	45	391	2	・	1	・	・	・	2-B	イ	○	
116	G-9	III	4204	凝灰岩	(111)	(72)	52	(472)	2	・	・	1	・	1	・-・	イ	○	
117	G-9	III	4205	凝灰岩	105	45	46	245	・	・	・	・	・	1	2-・		○	
118	G-9	III	4558	凝灰岩	96	84	45	448	・	・	・	2	2	1	2-B		○	
119	G-9	III	4608	凝灰岩	93	77	(47)	(336)	1	・	・	1	・	・	2-・	イ		
120	G-9	III	4679	凝灰岩	96	59	59	384	・	・	・	1	1	1	2-・		○	
121	G-9	III	4754	凝灰岩	91	57	36	254	2	・	2	1	1	1	・-・	イ		
122	G-9	III	4756	凝灰岩	95	81	52	414	・	1	・	1	・	1	2-B	イ	○	
123	G-10	III	3774	凝灰岩	133	108	67	1200	1	・	・	1	2	1	2-B	イ		
124	G-11	IV	3247	凝灰岩	101	64	47	374	2	・	1	1	・	1	2-B	ア		*
125	G-11	III	3367	凝灰岩	(47)	62	29	(105)	2	・	1	1	・	1	・-・	ア		
126	G-11	III	3368	凝灰岩	(59)	77	43	(257)	1	・	1	1	・	1	・-・	ア	○	
127	G-11	III	3385	凝灰岩	102	75	46	441	2	・	1	・	・	・	2-B	イ	○	
128	G-11	III	3440	凝灰岩	65	53	43	149	・	1	・	・	・	・	2-B	ア	○	
129	G-12	III	165	凝灰岩	99	95	62	738	・	・	・	1	・	2	1-B			
130	G-12	III	166	凝灰岩	110	73	56	586	・	・	・	1	2	1	2-B		○焼	
131	G-12	III	167	凝灰岩	116	95	54	783	1	・	・	1	・	1	2-B	ア	○	
132	G-12	III	174	凝灰岩	107	65	50	388	1	・	・	・	1	2	2-・		○	
133	G-12	III	2241	凝灰岩	101	74	36	340	4	・	4	1	・	1	2-・	ア	○	
134	G-12	III	2462	凝灰岩	99	71	45	347	・	・	・	1	・	1	2-B			
135	G-12	III	2568	凝灰岩	(63)	96	43	(383)	2	・	1	1	・	1	・-B	ア	○	
136	G-12	III	2673	凝灰岩	99	81	61	583	・	・	・	1	・	1	2-・		○	
137	G-12	III	2929	凝灰岩	101	65	48	384	1	・	1	1	・	1	2-・	ウ	○	
138	G-12	III	3084	凝灰岩	82	66	57	346	1	3	・	1	2	・	2-・	ア		
139	G-12	III	4469	凝灰岩	86	63	36	243	1	・	・	1	・	1	2-B	ア	○	
140	G-12	III	4492	凝灰岩	142	67	37	470	・	・	・	・	1	1	2-B		○	
141	G-12	III	7221	凝灰岩	63	59	37	169	1	・	1	1	1	・	2-B	ア		
142	G-12	III	7750	凝灰岩	67	62	45	200	1	・	・	1	・	・	1-B	ア		
143	G-12	IV	7780	凝灰岩	114	68	48	490	2	・	・	1	・	2	2-・	ア	○	
144	G-13	III	186	凝灰岩	103	101	53	697	1	・	1	1	・	1	1-B	イ		
145	G-13	III	3238	凝灰岩	102	84	57	586	・	・	・	1	1	1	2-B			
146	G-13	III	4357	凝灰岩	105	94	45	549	・	・	・	2	・	1	2-B			
147	G-13	III	4361	凝灰岩	98	80	51	513	2	・	・	1	1	1	2-B	イ	○	
148	G-14	IV	6894	凝灰岩	(96)	(62)	(28)	(144)	1	・	・	・	・	・	2-B	ウ	○	
149	G-14	III	・	凝灰岩	70	59	41	199	1	・	・	・	・	・	2-B	ア	○焼	
150	G-15	III	374	凝灰岩	90	80	38	326	2	・	2	1	・	1	2-B	ウ	○焼	*
151	G-15	III	708	凝灰岩	106	88	46	614	1	・	2	1	・	1	2-B	ウ	○焼	*
152	G-15	III	758	凝灰岩	115	91	55	709	・	・	・	1	・	・	2-B			
153	G-16	III	343	凝灰岩	118	81	62	724	1	・	・	3	4	1	2-B	イ	○焼	
154	G-16	III	344	凝灰岩	(77)	65	48	(289)	1	・	・	1	・	・	2-B	イ	○	
155	G-16	III	385	凝灰岩	(82)	77	54	(424)	1	2	1	1	・	・	1-B	イ		
156	G-16	III	418	凝灰岩	109	(85)	49	(584)	・	・	・	1	・	1	2-B		○	
157	G-16	III	439	凝灰岩	87	60	54	310	・	・	・	1	1	1	2-B		○焼	
158	G-16	III	502	凝灰岩	72	63	34	183	・	・	・	1	1	1	2-B		○	
159	G-16	III	506	凝灰岩	(84)	73	39	(286)	1	・	1	1	・	1	・-B	ウ		
160	G-16	III	654	凝灰岩	(86)	(67)	(45)	(248)	・	・	・	1	1	1	2-B			
161	G-16	III	775	凝灰岩	100	70	40	344	2	2	2	1	・	1	2-B	イ		
162	G-16	III	5032	凝灰岩	(58)	72	38	141	2	・	・	1	・	・	2-B	ア	焼	
163	G-16	III	7326	凝灰岩	(89)	73	52	424	3	・	・	2	2	1	2-B	ア	○	
164	G-16	III	7327	凝灰岩	82	74	39	294	2	・	4	1	・	1	1-B	イ	○	87

165	G-16	III	7530	凝灰岩	88	73	45	378	1	·	1	·	·	·	2-B	ア	○	
166	G-16	IV	7590	凝灰岩	82	86	17	381	2	·	1	1	·	1	2-B	ウ	○	
167	G-17	III	472	凝灰岩	[illegible]	80	46	481	2	·	1	1	·	1	2-B	ア	○	
168	G-17	III	477	[illegible]	[illegible]	75	55	727	·	·	·	1	2	1	2-B		○	●
169	G-17	III	788	[illegible]	[illegible]	83	49	490	1	·	·	1	·	·	·-·	ア		
170	G-17	III	798	[illegible]	[illegible]	63	13	254	·	·	·	2	2	2	2-B	イ	○	*
171	G-17	III	803	凝灰岩	93	70	15	341	2	4	1	1	1	1	2-B	イ	○焼	98
172	G-17	III	941	凝灰岩	110	93	55	673	1	·	·	·	·	1	2-B	ア	○	
173	G-17	III	951	凝灰岩	100	80	49	152	·	·	·	·	·	1	2-B			
174	G-17	III	952	凝灰岩	86	50	33	200	·	·	·	1	·	1	2-B		○	
175	G-17	III	954	凝灰岩	103	80	53	182	2	·	1	1	·	·	·-B	ア		
176	G-17	III	955	凝灰岩	77	65	30	223	1	2	1	1	·	1	·-B	イ	○焼	
177	G-17	III	956	凝灰岩	122	92	11	432	2	·	·	·	1	1	·-·	イ		
178	G-17	III	5254	凝灰岩	109	100	11	511	1	·	1	1	·	1	2-B	ア	焼	
179	G-17	III	7535	凝灰岩	80	77	19	321	1	·	·	1	·	·	2-B	イ		
180	G-17	IV	7786	凝灰岩	97	71	50	432	·	·	·	1	1	·	2-B		焼	
181	G-18	II	679	砂岩	190	80	69	1400	·	·	·	·	2	·	2-·			*
182	G-18	III	1983	凝灰岩	105	94	80	977	·	·	·	·	·	1	2-·		○	
183	G-18	III	1987	凝灰岩	(101)	85	13	(418)	1	·	1	1	·	1	2-B	ア	○	
184	G-18	III	5005	凝灰岩	(53)	87	39	(210.0)	·	·	·	1	·	1	2-·		焼	
185	H-8	III	4791	凝灰岩	86	56	41	221	1	·	1	·	1	1	2-B	イ		
186	H-8	III	4792	凝灰岩	97	70	12	346	2	·	2	1	1	1	2-B	ア		
187	H-9	III	4902	凝灰岩	123	111	62	1300	·	·	·	1	1	1	2-B			
188	H-11	III	3814	凝灰岩	120	88	47	651	3	·	2	1	1	1	2-B	ウ		
189	H-11	III	3816	凝灰岩	108	85	39	422	·	·	·	2	·	1	2-B			
190	H-11	III	4010	凝灰岩	105	97	46	590	2	·	2	1	·	1	2-B	ウ	○	
191	H-11	III	4738	凝灰岩	95	60	30	277	1	4	1	1	·	1	2-B	イ	○	
192	H-12	III	6775	凝灰岩	86	66	17	347	·	·	·	1	·	1	2-B		○	
193	H-12	III	6776	凝灰岩	98	68	39	356	·	·	·	1	·	·	2-B		○	
194	H-12	III	7889	凝灰岩	127	113	54	991	·	·	·	1	·	1	2-B		焼	
195	H-14	II	1271	凝灰岩	134	87	64	1013	1	1	·	1	2	1	2-B	ウ	○	
196	H-14	IV	1798	凝灰岩	122	72	68	783	·	·	·	1	2	1	2-·			
197	H-15	II	86	凝灰岩	(83)	73	42	[illegible]	1	·	1	1	·	1	2-B	ウ	○	
198	H-15	III	1194	凝灰岩	105	75	62	686	2	·	1	1	1	1	2-B	ウ	●	
199	H-15	III	1260	凝灰岩	(74)	72	35	(174)	1	·	1	1	·	1	2-B	ウ		
200	H-15	III	1355	凝灰岩	120	88	44	616	·	·	·	1	·	1	2-B			
201	H-15	III	1447	凝灰岩	86	73	57	407	2	·	·	1	2	·	·-·	イ	○	
202	H-15	III	1517	凝灰岩	92	89	18	450	1	·	1	1	·	1	·-·	ア		
203	H-15	III	2230	凝灰岩	91	57	31	163	1	·	1	1	·	1	2-B	イ		
204	H-15	III	2853	凝灰岩	(150)	62	52	(574)	·	1	·	1	2	1	2-B	ア		
205	H-15	III	2958	凝灰岩	(76)	65	57	(345)	·	·	·	1	2	1	2-·		○	
206	H-15	III	3070	凝灰岩	96	56	45	255	1	1	1	1	1	·	2-·	ア		
207	H-15	III	3112	凝灰岩	85	64	51	244	1	3	1	·	·	·	2-B	イ	○焼	
208	H-15	III	3118	凝灰岩	74	63	33	195	2	·	1	1	·	1	2-B	ア	○	
209	H-15	III	6768	凝灰岩	82	62	36	203	1	·	·	1	·	1	2-B	イ		
210	H-15	III	6889	凝灰岩	81	78	35	298	1	1	2	1	1	1	1-B	ア	○	91
211	H-15	III	7348	凝灰岩	88	67	45	307	2	·	·	1	·	1	2-B	イ		
212	H-15	III	7352	凝灰岩	115	76	56	663	·	·	·	1	3	1	2-·		○焼	
213	H-15	II	7370	凝灰岩	141	106	71	1400	·	1	·	1	4	·	·-B	ア		
214	H-15	·	·	凝灰岩	81	36	28	114	·	·	·	·	2	·	2-·		○	
215	H-16	III	76	凝灰岩	115	93	53	695	·	·	·	1	·	·	2-·			
216	H-16	III	430	凝灰岩	103	65	44	327	1	·	1	·	2	1	2-·	イ		
217	H-16	III	2040	凝灰岩	111	73	49	519	·	·	·	1	·	1	2-B		○	
218	H-16	III	2047	凝灰岩	158	67	51	857	·	·	·	·	·	·	2-B		○	97
219	H-16	III	2065	凝灰岩	68	60	30	151	·	·	·	1	·	1	2-·		○焼	
220	H-16	III	2135	凝灰岩	112	82	(40)	(113)	·	·	·	1	·	·	2-·		○	
221	H-16	III	2165	凝灰岩	169	57	69	1072	·	·	·	1	4	1	·-·			*
222	H-16	III	2179	凝灰岩	88	62	48	315	1	·	·	·	·	1	2-B	ア	○	
223	H-16	III	2180	凝灰岩	(80)	86	41	(246)	1	·	1	1	·	·	2-B	イ	○	
224	H-16	III	2365	凝灰岩	76	66	35	180	1	·	1	1	·	1	2-B	イ	焼	
225	H-16	III	2366	凝灰岩	96	78	16	121	·	·	·	1	·	1	2-B			
226	H-16	III	2427	凝灰岩	(93)	88	47	(302)	·	1	·	1	3	1	2-B	ア	○	
227	H-16	III	[illegible]	凝灰岩	99	76	[illegible]	[illegible]	2	·	1	1	·	2	2-B	ウ		
228	H-16	III	2751	凝灰岩	(107)	[illegible]	51	(179)	·	·	·	1	·	1	2-B			
229	H-16	III	5133	凝灰岩	(131)	[illegible]	53	[illegible]	1	·	2	1	·	1	2-B	ウ	○	
230	H-16	III	7333	凝灰岩	1005	[illegible]	150	[illegible]	2	·	1	1	·	1	2-B	ア		
231	H-16	III	7339	凝灰岩	100	71	54	168	1	1	·	2	1	·	2-·	ア	○	
232	H-16	III	7340	凝灰岩	88	59	35	181	1	·	·	1	1	1	2-B	ア	○	
233	H-16	III		凝灰岩	86	80	45	303				1	·	1	·			
234	H-16	III		凝灰岩	(77)	78	55	(376)	·	·	·	1	2	1	2-B		焼	
235	H-16	III	·	凝灰岩	122	88	42	461	·	·	·	1	·	1	2-B			
236	H-16	III	·	凝灰岩	100	82	55	619	·	·	·	1	2	1	·-·			
237	H-17	III	900	凝灰岩	114	78	40	442	·	·	·	1	·	·	·-B			
238	H-17	III	905	凝灰岩	135	113	64	1002	3	·	1	1	·	1	2-B	ウ	○	
239	H-17	III	11	凝灰岩	(110)	91	(49)	(286)	1	·	·	1	·	·	2-·	ア		
240	H-17	III	1109	凝灰岩	139	91	45	750	6	5	7	1	·	1	2-B	ウ	○	92
241	H-17	III	1119	凝灰岩	117	97	50	705	·	·	·	1	·	1	2-B			
242	H-17	III	1133	凝灰岩	93	60	48	450	1	·	3	1	·	1	2-B			
243	H-17	III	1131	凝灰岩	(61)	(72)	(57)	(288)	1	·	·	1	1	·	·-B	ア		
244	H-17	III	1140	凝灰岩	112	70	45	418	3	2	2	1	1	1	2-B	イ	○焼	96
245	H-17	III	1160	凝灰岩	135	88	67	996	·	·	·	1	1	1	2-·			
246	H-17	III	1280	凝灰岩	(103)	97	44	(582)	·	·	·	1	1	1	2-B			
247	H-17	III	1582	凝灰岩	88	86	61	558	·	·	·	1	·	1	1-B		○	
248	H-17	III	1685	凝灰岩	94	87	51	545	·	·	·	1	·	1	1-B		○	
249	H-17	III	1524	凝灰岩	97	76	44	376	2	·	1	1	·	1	2-·	ア		
250	H-17	III	1834	凝灰岩	83	59	33	187	2	·	1	1	·	1	2-B	ウ		

251	H-17	III	1850	凝灰岩	(93)	73	41	(343)	1	·	·	1	1	1	2-B	ア	○		
252	H-17	III	1910	凝灰岩	97	85	48	484	2	·	1	1	·	·	2-B	ウ			
253	H-17	III	1911	凝灰岩	94	73	45	300	·	·	·	1	·	·	2-B		○		
254	H-17	III	2012	凝灰岩	92	63	53	388	1	1	1	1	·	1	2-B	ウ	○	焼	
255	H-17	III	2017	凝灰岩	101	90	44	518	·	·	·	1	·	1	1-B		○		
256	H-17	III	2092	凝灰岩	128	105	65	965	3	·	·	·	·	2	2-B	ア	焼		
257	H-17	III	2093	凝灰岩	108	51	44	262	2	·	1	·	2	·	・・・	イ			
258	H-17	IV	5094	凝灰岩	98	72	68	554	·	·	·	1	1	·	2-・				
259	H-17	IV	5136	凝灰岩	93	71	55	387	1	3	1	1	·	·	・・・	イ			
260	H-17	III	7427	砂岩	81	74	49	373	3	·	1	1	·	·	2-B	ア			
261	H-18	·	·	凝灰岩	90	80	41	355	·	·	·	·	·	1	2-B				
262	H-18	·	·	凝灰岩	92	86	49	523	1	·	1	1	·	1	2-B	ア	○		
263	I-13	III	1962	凝灰岩	75	59	38	223	·	·	·	1	1	·	・・・				
264	I-15	III	1341	凝灰岩	135	92	72	1000	1	·	·	1	·	1	2-B	イ			
265	I-15	III	1343	凝灰岩	108	74	69	619	1	·	·	1	·	·	2-B	ウ			
266	I-15	III	1344	凝灰岩	92	81	47	385	3	·	2	1	·	1	2-B	イ	○		*
267	I-15	III	1345	凝灰岩	102	88	51	591	·	·	·	1	·	1	2-B		○		
268	I-15	III	2066	凝灰岩	101	72	54	591	1	·	1	1	·	1	2-B	イ	○		
269	I-15	III	3052	凝灰岩	87	69	39	232	1	·	1	1	·	1	2-B	ア	○		
270	I-15	III	3670	凝灰岩	96	70	46	359	1	3	1	1	·	1	2-B	イ	○		
271	I-15	III	3708	凝灰岩	102	(75)	42	(441)	3	2	·	1	·	1	2-B	ア			
272	I-15	III	6773	凝灰岩	(115)	53	54	(454)	·	·	·	1	·	1	4-E				95
273	I-16	III	1625	凝灰岩	94	76	46	422	·	·	·	1	·	1	2-B		○		
274	I-16	III	2244	凝灰岩	103	85	51	685	1	·	3	1	·	1	2-B	ウ			
275	I-16	III	2875	凝灰岩	104	83	51	501	·	·	·	1	·	1	2-B		○		
276	I-16	III	3131	凝灰岩	149	107	68	1198	1	·	·	1	1	1	2-B	ア	○		
277	I-16	III	3210	凝灰岩	104	74	64	564	2	·	·	1	·	·	2-B	ウ	○		85
278	I-16	III	3335	凝灰岩	95	69	36	222	2	·	1	1	·	1	2-B	ア	○		
279	I-16	III	7156	凝灰岩	94	(85)	45	(330)	1	·	1	1	1	1	2-B	ア	○	焼	
280	I-16	III	7159	凝灰岩	[illegible]	69	41	354	·	1	·	1	·	1	2-・	イ	○		
281	I-16	III	7168	凝灰岩	凝灰岩	89	36	468	·	·	·	1	·	1	2-B				
282	I-16	III	7254	[illegible]	凝灰岩	82	43	494	1	·	1	1	·	1	2-B	ア	○		
283	J-13	IV	3172	[illegible]	凝灰岩	97	47	(247)	1	·	·	1	·	1	2-B	ア			
284	J-13	·	·	[illegible]	93	[illegible]	34	274	·	·	·	1	·	1	2-B				
285	J-15	IV	2119	凝灰岩	117	91	56	671	1	·	·	·	·	·	2-B	ウ	○		
286	J-15	IV	6891	凝灰岩	[illegible]	82	53	477	·	·	·	1	·	·	2-B	ウ	○		
287	表採		1	凝灰岩	凝灰岩	89	49	469	2	·	·	1	·	1	1-B	ア	○	焼	
288	表採		2	凝灰岩	凝灰岩	110	56	941	3	·	·	1	3	1	・-B	イ	○	焼	
289	表採		3	凝灰岩	126	77	47	619	2	·	1	1	·	1	2-B	ウ	○		
290	表採		4	凝灰岩	86	48	[illegible]	217	3	·	3	·	·	·	2-B	ア	○		69
291	表採		5	凝灰岩	94	81	[illegible]	309	1	·	1	1	·	1	2-B	ア	○		
292	表採		6	凝灰岩	109	52	45	330	·	·	·	1	3	1	2-B		○		
293	表採		7	凝灰岩	95	69	53	399	2	·	1	1	·	1	2-・	ア			
294	FD-1	III	1425	凝灰岩	91	64	48	308	1	2	1	1	1	1	2-B	イ	○		99

磨製石斧

No	出土区	層位	遺物番号	石材	大きさ 長さ	幅	厚さ	重量 (g)	分類	刃部	欠損部位	挿図
1	SK-3	·	6750	砂岩	(34)	(51)	18	(24)	2-・	片刃	b	953と接合
2	E-12	III	6063	片岩	(27)	(23)	(6)	(4)	・・・	·	e	6419と接合
3	E-13	III	4861	蛇紋岩	(58)	47	22	(95)	2-B	·	a	
4	E-13	III	5793	蛇紋岩	118	61	26	321	1-A	片刃	·	83
5	F-13	III	5641	蛇紋岩	(78)	44	23	(139)	2-・	·	d	
6	F-13	III	6419	片岩	(62)	(55)	18	(88)	2-・	平刃	b	6063と接合
7	F-17	II	16	蛇紋岩	(119)	39	28	(300)	1-B	片刃	a	81
8	G-12	III	2965	片岩	(49)	36	10	(28)	2-A	·	a	
9	G-16	III	261	片岩	(63)	32	12	(41)	1-・	·	d	81
10	G-16	III	270	片岩	(88)	46	21	(146)	2-A	·	a	79
11	G-16	III	332	蛇紋岩	(89)	60	34	(236)	2-・	·	d	
12	G-17	III	953	砂岩	(57)	(61)	30	(178)	2-・	·	d	82
13	G-17	III	1700	砂岩	93	(62)	20	(290)	2-A	·	a	953と接合
14	G-18	III	306	蛇紋岩	(67)	41	21	(99)	2-B	·	a	80
15	H-16	III	1791	蛇紋岩	(75)	32	19	69	2-A	·	a	
16	H-17	III	1082	蛇紋岩	(52)	(43)	(22)	16	・-・	·	e	953と接合

石皿

No	出土区	層位	遺物番号	石材	大きさ 長さ	幅	厚さ	重量 (g)	磨痕	挿図
1	F-12	III	5680	凝灰岩	376	306	110	1540	●	103
2	F-14	III	4683	凝灰岩	320	312	114	1470	○	
3	F-15	III	4650	凝灰岩	325	245	128	1475	○	
4	G-13	III	4405	凝灰岩	404	292	97	1820	○	102
5	G-16	IV	1821	凝灰岩	294	237	109	1370	○	103
6	H-16	III	4994	凝灰岩	201	(89)	75	1850	○	101
7	H-14	II	1268	凝灰岩	188	164	65	2900	○	100
8	[illegible]	III	·	凝灰岩	386	302	104	1860	○	105

凹石・磨石

No	出土区	層	遺物番号	石材	大きさ 長さ	幅	厚さ	重量 (g)	凹の数 表	裏	側面	磨り面 表	裏	側面	分類 形態	使用	打痕	挿図
1	E-9	II	3389	凝灰岩	159	76	63	771	·	·	·	1	1	1	2-B		○	
2	E-9	·	·	凝灰岩	119	67	50	442	·	·	·	1	1	1	2-B		○	
3	E-9	·	·	凝灰岩	91	53	693		·	·	·	1	·	1	2-B			
4	E-9	·	·	凝灰岩	73	40	565		·	·	·	1	·	1	2-B			
5	E-10	III	3689	[illegible]	(52)	(38)	(133)		·	·	·	1	2	1	2-・			
6	E-10	III	3077	[illegible]	74	73	820		·	1	·	1	2	1	2-A		○	90
7	E-11	III	6680	[illegible]	[illegible]	82	43	399	1	·	·	1	·	1	2-B	イ	○	

6	E-11	III	6041	凝灰岩	99	80	45	464	2	·	2	1	·	1	2-B	イ		
9	E-11	III	6348	凝灰岩	92	64	46	335	1	·	·	1	1	1	2-B	ウ		
10	E-12	III	5600	凝灰岩	115	91	66	873	·	·	·	1	1	1	2-·		○	
11	E-12	III	5816	凝灰岩	110	59	37	305	3	·	·		1	1	2-·	イ		
12	E-12	III	5932	凝灰岩	141	77	63	666	5	1	2	1	2	1	2-B	イ	○	
13	E-12	III	6548	凝灰岩	75	69	42	281	1	·	1	1	·	1	1-B	ア	○	88
14	E-12	III	6951	凝灰岩	116	91	59	748	·	·	·	1	·	3	2-·		焼○	
15	E-12	III	7103	凝灰岩	103	74	41	380	2	2	1	1	·	3	2-B	イ		
16	E-12	III	7467	凝灰岩	115	75	51	462	·	·	·	1	·	1	2-B		○	
17	E-12	III	7661	凝灰岩	85	68	53	357	1	·	1	1	·	1	2-·			
18	E-13	III	5409	凝灰岩	116	(75)	52	(341)	·	·	·	1	1	1	2-B			
19	E-13	III	5514	凝灰岩	103	89	40	506	1	·	·	1	·	1	2-B			
20	E-13	III	5515	凝灰岩	(82)	(80)	(52)	(358)	2	·	·	1	2	·	2-·	ウ	○	
21	E-13	III	5742	凝灰岩	(75)	(78)	(50)	(362)	·	·	·	1	·	1	2-B			
22	E-13	III	5795	凝灰岩	97	79	61	494	1	·	1	1	·	1	2-B	イ	○	
23	E-13	III	5803	凝灰岩	[illegible]	108	50	113[illegible]	1	·	·	1	·	1	2-B	ウ		
24	E-13	III	5834	凝灰岩	[illegible]	75	55	[illegible]	3	3	4	1	4	1	2-B	ウ	○	
25	E-13	III	5902	凝灰岩	(83)	(76)	(33)	(212)	1	·	·	·	1	·	1-B	イ		
26	E-13	III	6067	凝灰岩	[illegible]	78	39	330	1	·	1	1	·	1	2-B	イ		
27	E-13	III	6170	凝灰岩	103	83	33	213	2	·	1	1	·	1	2-B	イ		86
28	E-13	III	6192	凝灰岩	(60)	(58)	(48)	(121[illegible])	·	·	·	1	2	1	2-B		○	
29	E-13	III	6197	凝灰岩	100	78	44	428	·	·	·	1	·	1	2-B		○	
30	E-13	III	6211	凝灰岩	106	72	45	380	2	·	2	1	2	1	2-B	ウ		
31	E-13	III	6348	凝灰岩	105	78	52	394	2	·	2	1	1	2	2-·	ウ		
32	E-13	III	6384	凝灰岩	96	70	19	432	3	·	2	1	·	1	2-B	ウ	○	
33	E-13	III	6388	凝灰岩	106	87	54	748	1	3	·	1	1	1	2-B	イ	○	
34	E-13	III	6407	凝灰岩	166	148	53	2000	·	·	·	1	·	1	2-B			
35	E-13	III	6582	凝灰岩	89	67	44	285	3	·	·	1	3	1	2-B	ウ	○	
36	E-13	III	6814	凝灰岩	102	90	39	413	1	·	·	1	·	·	2-·	イ		
37	E-13	·	·	凝灰岩	101	88	58	659	1	·	·	1	·	·	2-B	ウ		
38	E-14	III	5162	凝灰岩	110	83	59	615	·	·	·	1	2	1	2-B		○	
39	E-16	III	613	凝灰岩	116	85	50	695	3	·	·	1	2	1	2-·	イ	○	
40	F-9	III	3860	凝灰岩	111	80	37	577	2	·	1	1	2	1	2-·	イ	○	
41	F-9	III	3949	凝灰岩	126	95	61	779	·	·	·	2	2	1	2-B		○	
42	F-9	III	4127	凝灰岩	111	87	81	754	2	1	·	1	1	1	2-B	ウ	○	
43	F-9	III	4210	凝灰岩	101	58	28	301	1	·	1	1	1	1	2-B	ウ	○	
44	F-10	III	4829	凝灰岩	120	80	47	643	·	·	·	1	·	2	2-B		○	
45	F-10	III	3620	凝灰岩	(63)	(85)	(38)	(274)	2	·	1	1	·	1	2-B	ウ	焼	
46	F-10	III	4808	凝灰岩	78	72	35	247	1	·	·	1	·	1	1-B	イ	○	
47	F-10	III	4840	凝灰岩	87	67	45	330	1	·	1	1	·	1	2-B	ウ	○	焼
48	F-11	III	2484	凝灰岩	60	46	22	70	·	·	·	1	1	1	2-B		○	
49	F-11	III	2557	凝灰岩	111	62	55	491	1	1	·	·	1	·	2-B	イ		
50	F-11	III	2793	凝灰岩	115	52	5287	468	·	·	·	1	·	·	3-D		○	
51	F-11	III	2922	凝灰岩	57	14	41	117	·	·	·	1	3	·	2-A			
52	F-11	III	3103	凝灰岩	85	61	16	292	1	·	·	·	1	·	·	イ		
53	F-11	III	3296	凝灰岩	78	77	35	270	1	·	1	1	·	1	1-B	イ		
54	F-11	III	3451	凝灰岩	57	35	26	52	·	·	·	1	1	1	2-B		焼	
55	F-11	III	3451	凝灰岩	89	54	43	277	1	·	1	1	2	1	2-D	ア		
56	F-11	III	3456	凝灰岩	174	143	75	185	1	·	·	1	·	1	2-B	イ	○	焼
57	F-11	III	3[illegible]	凝灰岩	116	71	67	469	2	·	·	1	1	1	2-·	イ	○	
58	F-11	III	3491	凝灰岩	111	55	52	42[illegible]	·	·	·	1	1	1	2-B		○	
59	F-11	III	3[illegible]	凝灰岩	110	71	49	497	3	·	2	1	1	1	2-·	ウ	○	
60	F-12	III	5683	凝灰岩	109	93	52	6[illegible]	1	·	·	·	1	1	1-B	イ	○	
61	F-12	III	7207	凝灰岩	(106)	(75)	36	(2[illegible])	2	·	1	·	·	·	2-B	イ	○	
62	F-12	III	7445	凝灰岩	87	87	52	4[illegible]	1	·	1	1	·	1	1-B	ウ	○	
63	F-13	III	2758	凝灰岩	102	96	63	814	1	·	·	1	·	1	1-B	ウ	○	
64	F-13	III	2260	凝灰岩	104	85	56	608	·	·	·	1	1	1	2-B		○	
65	F-13	III	2291	凝灰岩	82	77	58	441	·	·	·	1	1	1	1-B			
66	F-13	III	1871	凝灰岩	110	48	41	278	1	·	·	·	·	1	2-·	ウ		
67	F-13	III	5161	凝灰岩	91	81	41	444	·	·	·	1	·	·	2-B			
68	F-13	III	5343	凝灰岩	(143)	88	59	982	·	·	·	1	1	1	2-B			
69	F-13	III	5431	凝灰岩	(127)	70	52	790	·	·	·	1	2	1	2-·		○	93
70	F-13	III	5548	凝灰岩	128	88	46	660	1	·	1	1	·	1	2-B	ウ		
71	F-13	III	5558	凝灰岩	130	73	60	700	·	·	·	1	·	1	2-B			
72	F-13	III	5660	凝灰岩	104	86	62	765	1	·	·	1	4	1	2-·	ア	○	
73	F-13	III	5666	凝灰岩	81	46	32	121	·	·	·	·	·	1	2-B			
74	F-13	III	5645	凝灰岩	(72)	59	46	(226)	·	·	·	1	·	·	2-B			
75	F-13	III	5877	凝灰岩	102	89	45	440	1	·	1	1	·	1	2-B	イ		
76	F-13	III	5928	凝灰岩	(63)	57	52	212	·	·	·	1	2	·	2-B			
77	F-13	III	6246	凝灰岩	77	64	42	241	1	·	·	1	·	1	2-B	ア	○	
78	F-13	III	6307	凝灰岩	97	87	41	556	·	·	·	1	·	1	2-B		○	
79	F-13	III	6109	凝灰岩	97	77	[illegible]	[illegible]	2	2	1	1	1	1	2-B	イ		94
80	F-13	III	6111	凝灰岩	75	71	50	322	·	·	·	1	·	·	1-B			
81	F-13	III	6301	凝灰岩	96	72	43	395	·	·	·	1	1	1	2-·			
82	F-13	III	6329	凝灰岩	101	82	48	193	·	·	·	1	·	1	2-B		○	
83	F-13	III	6683	凝灰岩	110	87	54	687	·	·	·	1	2	·	2-B		○	
84	F-13	III	6858	凝灰岩	111	67	41	380	1	·	1	1	·	1	2-B	ウ	○	
85	F-13	III	6908	凝灰岩	100	75	39	323	2	·	1	1	·	1	2-·	ウ	○	焼
86	F-13	III	6910	凝灰岩	111	71	91	560	3	3	1	·	·	·	2-B	イ	焼	
87	F-13	III	6924	凝灰岩	89	66	42	331	1	·	·	1	1	1	2-B	ア		
88	F-13	III	6928	凝灰岩	93	83	19	500	2	3	1	1	1	1	1-B	イ		
89	F-13	III	7031	凝灰岩	103	67	15	[illegible]	1	·	1	1	·	·	2-B	ウ		
90	F-13	III	7036	凝灰岩	93	84	50	491	·	·	·	2	·	1	2-B		○	
91	F-13	III	7036	凝灰岩	100	8[illegible]	51	561	1	·	1	1	·	1	2-B	ア		
92	F-13	III	7039	凝灰岩	98	79	2[illegible]63	570	·	·	·	1	3	1	2-B			
93	F-13	III	7041	凝灰岩	(65)	86	57	(366)	·	·	·	·	1	1	2-·			

94	F-13	III	7072	凝灰岩	116	76	47	105	2	・	1	1	・	1	2-B	ア			
95	F-13	III	7081	凝灰岩	116	78	53	591	2	・	1	2	・	・	2-B	イ	○		
96	F-13	III	7120	凝灰岩	111	70	53	519	1	・	・	1	2	1	2-B	ア			
97	F-13	III	7145	凝灰岩	84	79	39	375	・	・	・	1	・	1	1-B				
98	F-13	III	7281	凝灰岩	101	76	40 40	341	4	・	3	1	・	・	2-B	イ			
99	F-13	III	7296	凝灰岩	117	80	59	790	・	・	・	1	1	1	2-・		○		
100	F-13	III	7475	凝灰岩	108	91	50	546	1	・	・	1	・	1	2-B	イ			
101	F-13	III	7681	凝灰岩	97	70	57	414	2	・	1	・	2	・	2-・	ウ	○		
102	F-13	III	7682	凝灰岩	95	69	41	397	・	・	・	1	・	1	2-B		○		
103	F-14	III	5295	凝灰岩	90	82	55	528	2	・	1	1	1	1	2-B	イ	○		
104	F-14	III	6762	凝灰岩	95	80	48	111	1	・	1	1	2	・	2-B	ア	○		
105	F-14	III	6902	凝灰岩	95	53	42	269	1	・	1	1	2	・	2-B	イ			
106	F-15	III	4772	凝灰岩	107	78	57	474	2	1	2	1	・	1	2-B	ウ	○		
107	F-15	IV	7771	凝灰岩	141	91	71	1200	・	4	・	1	1	1	2-B	ア	○		
108	F-16	II	34	凝灰岩	53	19	24	73	1	・	・	・	・	・	1-B	イ			
109	F-16	IV	6736	凝灰岩	(72)	73	48	(255)	2	・	1	・	・	・	1-・	イ			
110	F-16	III	7560	凝灰岩	92	91	56	607	・	・	・	1	・	1	1-B				
111	F-16	III	7578	凝灰岩	(51)	79	57	315	・	・	・	1	・	1	2-B				
112	F-16	III	・	凝灰岩	118	110	74	1194	・	・	・	1	・	1	1-B				
113	F-17	II	40	凝灰岩	94	69	46	319	2	6	1	・	・	・	2-B	イ			
114	F-17	IV	7898	凝灰岩	110	61	49	490	2	・	・	1	・	・	2-・	イ			
115	G-9	III	4100	凝灰岩	80	78	45	391	2	・	1	・	・	・	2-B	イ	○		
116	G-9	III	4204	凝灰岩	(111)	(72)	92	(472)	2	・	・	1	・	1	・-・	イ	○		
117	G-9	III	4205	凝灰岩	105	65	46	215	・	・	・	・	・	1	2-・		●		
118	G-9	III	4558	凝灰岩	95	84	45	448	・	・	・	2	2	1	2-B		●		
119	G-9	III	4608	凝灰岩	93	77	(47)	(365)	1	・	・	1	・	・	2-・	ア			
120	G-9	III	4679	凝灰岩	96	59	55	304	・	・	・	1	1	1	2-・		○		
121	G-9	III	4754	凝灰岩	91	57	36	254	2	・	2	1	1	1	・-・	ア			
122	G-9	III	4756	凝灰岩	95	81	52	111	・	1	・	1	・	1	2-B	イ	○		
123	G-10	III	3774	凝灰岩	133	108	67	1200	1	・	・	1	2	1	2-B	イ			
124	G-11	IV	3247	凝灰岩	101	64	47	374	2	・	1	1	・	1	2-B	ア			
125	G-11	III	3367	凝灰岩	147	63	29	(105)	2	・	1	1	・	1	・-・	ア			
126	G-11	III	3368	凝灰岩	(59)	77	43	(257)	1	・	1	1	・	1	・-・	ア	○		
127	G-11	III	3385	凝灰岩	102	75	46	411	2	・	1	・	・	・	2-B	イ	○		
128	G-11	III	3441	凝灰岩	65	53	43	139	・	1	・	・	・	・	2-B	ア	○		
129	G-12	III	165	凝灰岩	99	95	62	738	・	・	・	1	・	2	1-B		○	焼	
130	G-12	III	166	凝灰岩	110	78	56	586	・	・	・	1	2	1	2-B		○		
131	G-12	III	167	凝灰岩	116	95	51	783	1	・	・	1	・	1	2-B	ア	○		
132	G-12	III	174	凝灰岩	107	65	50	388	1	・	・	・	1	2	2-・		○		
133	G-12	III	2241	凝灰岩	101	74	36	340	4	・	4	1	・	1	2-・	ア	○		
134	G-12	III	2462	凝灰岩	99	71	45	347	・	・	・	1	・	1	2-B				
135	G-12	III	2[illegible]	凝灰岩	(63)	86	43	(583)	2	・	1	1	・	1	・-B	ア	○		
136	G-12	III	2673	凝灰岩	99	81	61	583	・	・	・	1	・	1	2-・		○		
137	G-12	III	2929	凝灰岩	101	65	46	334	1	・	1	1	・	1	2-・	ウ	○		
138	G-12	III	3084	凝灰岩	82	66	57	346	1	3	・	1	2	・	2-・	ア			
139	G-12	III	4300	凝灰岩	86	63	36	243	1	・	・	1	・	1	2-B	ア	○		
140	G-12	III	4492	凝灰岩	112	67	37	470	・	・	・	・	1	1	2-B		○		
141	G-12	III	[illegible]	凝灰岩	63	59	37	169	1	・	1	1	1	・	2-B	ア			
142	G-12	III	7750	凝灰岩	67	62	45	200	1	・	・	1	・	・	1-B	ア			
143	G-12	IV	7780	凝灰岩	114	68	48	490	2	・	・	1	・	2	2-・	ア	○		
144	G-13	III	186	凝灰岩	103	101	53	697	1	・	1	1	・	1	1-B	イ			
145	G-13	III	3218	凝灰岩	102	84	57	586	・	・	・	1	1	1	2-B				
146	G-13	III	4357	凝灰岩	105	91	15	549	・	・	・	2	・	1	2-B				
147	G-13	III	4361	凝灰岩	98	80	51	513	2	・	・	1	1	1	2-B	イ	○		
148	G-14	III	6894	凝灰岩	(96)	(62)	(35)	(144)	1	・	・	・	・	・	2-B	ウ	○		
149	G-14	III	・	凝灰岩	70	59	41	199	1	・	・	・	・	・	2-B	ア	○	焼	
150	G-15	III	371	凝灰岩	90	80	38	376	2	・	2	1	・	1	2-B	ウ	○	焼	
151	G-15	III	708	凝灰岩	106	88	46	614	1	・	2	1	・	1	2-B	ウ	○	焼	
152	G-15	III	758	凝灰岩	115	80	55	709	・	・	・	1	・	・	2-B				
153	G-16	III	313	凝灰岩	118	81	62	724	1	・	・	3	4	1	2-B	イ	○	焼	
154	G-16	III	314	凝灰岩	(77)	65	48	(289)	1	・	・	1	・	・	2-B	イ	○		
155	G-16	III	385	凝灰岩	凝灰岩	77	54	(424)	1	2	1	1	・	・	1-B	イ			
156	G-16	III	419	[illegible]	[illegible]	85	49	(584)	・	・	・	1	・	1	2-B		○		
157	G-16	III	439	[illegible]	[illegible]	69	50	410	・	・	・	1	1	1	2-B		○	焼	
158	G-16	III	502	凝灰岩	75	63	34	162	・	・	・	1	1	1	2-B		○		
159	G-16	III	506	凝灰岩	(84)	73	39	(208)	1	・	1	1	・	1	・-B	ウ			
160	G-16	III	654	凝灰岩	(86)	(67)	(65)	(248)	・	・	・	1	1	1	2-B				
161	G-16	III	775	凝灰岩	100	70	40	318	2	2	2	1	・	1	2-B	イ			
162	G-16	III	5032	凝灰岩	(58)	72	38	141	2	・	・	1	・	・	2-B	ア	焼		
163	G-16	III	7326	凝灰岩	(89)	73	52	424	3	・	・	2	2	1	2-B	ア	○		
164	G-16	III	7327	凝灰岩	82 82	74	39	294	2	・	4	1	・	1	1-B	イ	○		87
165	G-16	III	7530	凝灰岩	88	73	45	378	1	・	1	・	・	・	2-B	ア	○		
166	G-16	IV	7590	凝灰岩	92	86	47	380	2	・	1	1	・	1	2-B	ウ	○		
167	G-17	III	472	凝灰岩	98	80	46	481	2	・	1	1	・	1	2-B	ア	○		
168	G-17	III	677	凝灰岩	124	75	55	727	・	・	・	1	2	1	2-B		○		
169	G-17	III	788	凝灰岩	113	83	49	490	1	・	・	1	・	・	・-・	ア			
170	G-17	III	798	凝灰岩	89	63	43	254	25	・	・	2	2	2	2-B	イ	○		
171	G-17	III	803	凝灰岩	93	70	45	341	2	2	1	1	1	1	2-B	ア イ	○	焼	94
172	G-17	III	941	凝灰岩	110	93	55	673	1	・	・	・	・	1	2-B	ア	○		
173	G-17	III	951	凝灰岩	100	80	49	452	・	・	・	・	・	1	2-B				
174	G-17	III	952	凝灰岩	86	50	33	200	・	・	・	1	・	1	2-B		○		
175	G-17	III	954	凝灰岩	103	80	53	482	2	・	1	1	・	・	・-B	ア			
176	G-17	III	955	凝灰岩	77	65 65	39	223	1	2	1	1	・	1	・-B	イ	○	焼	
177	G-17	III	956	凝灰岩	122	92	41	432	2	・	・	・	1	1	・-・	イ			
178	G-17	III	5254	凝灰岩	109	100	41	516	1	・	1	1	・	1	2-B	ア	焼		
179	G-17	III	7535	凝灰岩	80	77	49	321	1	・	・	1	・	・	2-B	イ			

266	I-15	III	1344	凝灰岩	92	[illegible]	[illegible]	385	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	
267	I-15	III	1345	凝灰岩	102	[illegible]	[illegible]	594	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	
268	I-15	III	2066	凝灰岩	101	[illegible]	[illegible]	501	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	
269	I-15	III	3051	凝灰岩	87	[illegible]	[illegible]	332	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	
270	I-15	III	3670	凝灰岩	96	[illegible]	[illegible]	359	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	
271	I-15	III	3708	凝灰岩	102	[illegible]	[illegible]	(441)	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	
272	I-15	III	6774	凝灰岩	(115)	[illegible]	[illegible]	(454)	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	95
273	I-16	III	1625	凝灰岩	94	[illegible]	[illegible]	422	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	
274	I-16	III	2244	凝灰岩	103	[illegible]	[illegible]	615	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	
275	I-16	III	2875	凝灰岩	104	[illegible]	50	501	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	
276	I-16	III	3131	凝灰岩	149	107	68	1198	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	
277	I-16	III	3230	凝灰岩	104	74	64	564	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	85
278	I-16	III	3335	凝灰岩	95	[illegible]	36	222	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	
279	I-16	III	7158	凝灰岩	94	(65)	45	(330)	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	
280	I-16	III	7159	凝灰岩	101	[illegible]	41	354	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	
281	I-16	III	7168	凝灰岩	108	[illegible]	36	468	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	
282	I-16	III	7259	凝灰岩	120	[illegible]	43	494	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	
283	J-13	IV	3172	凝灰岩	(74)	[illegible]	47	(247)	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	
284	J-13	・	・	凝灰岩	93	[illegible]	34	274	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	
285	J-15	IV	2119	凝灰岩	117	[illegible]	56	671	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	
286	J-15	IV	6891	凝灰岩	95	[illegible]	[illegible]	477	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	
287	表採		1	凝灰岩	90	[illegible]	[illegible]	469	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	
288	表採		2	凝灰岩	116	[illegible]	[illegible]	941	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	
289	表採		3	凝灰岩	126	[illegible]	[illegible]	619	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	
290	表採		4	凝灰岩	86	[illegible]	[illegible]	217	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
291	表採		5	凝灰岩	94	[illegible]	[illegible]	309	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	
292	表採		6	凝灰岩	109	[illegible]	[illegible]	330	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	
293	表採		7	凝灰岩	95	[illegible]	[illegible]	394	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	
294	FD-1	III	1425	凝灰岩	91	[illegible]	[illegible]	308	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	95

SK・SX

種　類	No.	出土区	層	遺物番号	石　材	大きさ 長さ	幅	厚み (mm)	重量 (g)	抉深 (mm)	最大値の位置	分類	欠損部位	挿　図
石鏃	1	SK-3	・	7689	黒曜石	(15)	(7)	3	(0.3)	3	尖頭	1-・	f	
石鏃	2	SK-14	・	・	黒曜石	22	11	3	0.4	4	基部	1-C	・	SB11
石鏃	3	SK-20	・	・	チャート	(20)	(10)	3	(0.5)	4	尖端	1-・	f	
石鏃	4	SK-20	・	・	黒曜石	20	13	5	1.4	・	基部	1-E	・	

種　類	No.	出土区	層	遺物番号	石　材	大きさ 長さ	幅	厚み (mm)	重量 (g)		分類 錐一基	錐部欠損	使用	挿　図
石錐	1	SK-32	・	・	チャート	(35)	19	5	2.9		2-A	○	○	SB12

種　類	No.	出土区	層	遺物番号	石　材	大きさ 長さ	幅	厚み (mm)	重量 (g)	基部形態	分類 平一断	欠損部位	自然面	挿　図
打製石斧	1	SK-20	・	・	緑色片岩	5	55	8	30.2	1	1-A	b	・	
打製石斧	2	SK-58	・	・	凝灰岩	182	46	35	22.5	3	1-B	・	○	SB15

種　類	No.	出土区	層	遺物番号	石　材	大きさ 長さ	幅	厚み (mm)	重量 (g)	刃部	分類 平一断	欠損部位		挿　図
磨製石斧	1	SK-3	・	6750	砂岩	(34)	(51)	18	(24)	○刃	2-・	b		接合可

凹石・磨石

種　類	No.	出土区	層	遺物番号	石　材	大きさ 長さ	幅	厚み (mm)	重量 (g)	凹の数 表	側面	裏	分類	挿　図
磨石	1	SK-3	III	7599	凝灰岩	116	78	65	728	・	・	・	2-E	
磨石	2	SK-3	III	7688	凝灰岩	(45)	54	53	(228)	・	・	・	4-E	I 15III6774
凹石	3	SK-14	III	・	凝灰岩	118	88	47	598	1	・	・	2-E	
凹石	4	SK-20	III	・	凝灰岩	89	64	49	451	6	4	4	3-D	SB14
凹石	5	SK-21	III	・	凝灰岩	86	65	29	174	2	・	・	2-B	
凹石	6	SK-24	III	7605	凝灰岩	98	75	57	492	2	2	2	2-E	
凹石	7	SK-24	III	7606	凝灰岩	110	73	49	591	2	2	2	2-B	
凹石	8	SK-24	III	7607	凝灰岩	95	71	38	323	1	・	・	2-B	
磨石	9	SK-27	III	・	凝灰岩	(63)	(77)	53	(298)	・	・	・	2-B	
磨石	10	SK-27	III	・	凝灰岩	129	105	47	799	・	・	・	・-E	
凹石	11	SK-39	III	・	凝灰岩	95	91	54	577	3	・	・	1-B	
磨石	12	SK-43	III	・	凝灰岩	87	77	41	329	・	・	・	1-B	
磨石	13	SK-46	III	・	凝灰岩	126	91	58	774	・	・	・	2-B	
凹石	14	SK-46	III	・	凝灰岩	194	183	80	3500	2	・	・	2-B	
磨石	15	SK-48	III	・	凝灰岩	(51)	(39)	(54)	(159)	・	・	・	2-B	

種　類	No.	出土区	層	遺物番号	石　材	大きさ 長さ	幅	厚み (mm)	重量 (g)	挿　図
UF	1	SK-32	・	・	チャート	18	9	5	1.2	
RF	1	SK-11	・	・	チャート	38	23	6	5.8	
RF	2	SX-1	・	・	チャート	15	26	5	2.0	

SB 1

種　類	No.	出土区	層	遺物番号	石　材	大きさ 長さ	幅	厚み (mm)	重量 (g)	挿　図
UF	1	SB 1	・	5077	チャート	20	32	11	7.3	10
UF	2	SB 1	・	5087	チャート	22	27	6		
UF	3	SB 1	・	5023	チャート	23	14	2		

SB2

種類	No	出土区	層	遺物番号	石材	大きさ 長さ	幅	厚み	重量(g)	挿図
UF	1	SB-2	・	5203	チャート					6
コア	2	SB-2	・	・	チャート					18

SB3

種類	No	出土区	層	遺物番号	石材	大きさ 長さ	幅	厚み	重量(g)	稜深(mm)	最大幅の位置	寸法	交換部位	挿図
石鏃	1	SB-3	III	5413	チャート	(20)	(11)	4	(0.5)	6	基部	1-B	b	
石鏃	2	SB-3	III	5414	チャート	(17)	(12)	3	(0.6)	7	基部	1-B	b	
石鏃	3	SB-3	III	5518	下呂石	18	12	3	(0.4)	6	基部	1-B	b	18
石鏃	4	SB-3	III	5537	黒曜石	(18)	(9)	4	(0.5)	5	尖端	1-B	c	
石鏃	5	SB-3	III	5623	チャート	20	15	4	1.1	5	基部	1-B	・	20
石鏃	6	SB-3	III	6005	黒曜石	20	(11)	5	(1.0)	・	基部	1-C	f	
石鏃	7	SB-3	III	6006	黒曜石	16	12	4	0.6	・	基部	1-・	i	
石鏃	8	SB-3	III	6741	チャート	13	19	5	0.7	2	基部	3-B	・	21
石鏃	9	SB-3	III	・	黒曜石	12	13	3	0.6	・	基部	1-・	・	
石鏃	10	SB-3	III	・	黒曜石	14	11	3	0.5	・	基部	・-E	a	
石鏃	11	SB-3	III	・	チャート	12	11	4	0.5	・	尖端	1-・	d	

	No	出土区	層	遺物番号	石材	大きさ 長さ	幅	厚み	重量(g)	表	四の数 側面	裏	形態	挿図
凹石	1	SB-3	III	5608	凝灰岩	78	61	24	120	1	・		2-B	27
凹石	2	SB-3	III	5520	凝灰岩	87	74	56	439	1	・	3	2-B	
凹石	3	SB-3	III	5521	凝灰岩	85	74	53	433	2	・	3	2-B	
凹石	4	SB-3	III	5432	凝灰岩	112	96	55	807	1	1	1	2-B	

SB3

種類	No	出土区	層	遺物番号	石材	大きさ 長さ	幅	厚み	重量(g)	挿図
敲石	1	SB-3	III	74	黒曜	26	20	5	2.6	28
敲石	2	SB-3	III	6745	下呂石	31	16	6	4.7	25
ヘラ形	1	SB-3	III	・	チャート	36	20	9	5.1	24
剥片	1	SB-3	III	5628	チャート	31	2	10	9.0	
剥片	2	SB-3	III	6016	チャート	27	30	5	6.0	
RF	3	SB-3	III	・	黒曜石	(26)	10	5	(1.0)	
RF	4	SB-3	III	・	黒曜石	19	18	3	1.0	
コア	1	SB-3	III	・	黒曜石	35	34	14	6.1	26
コア	2	SB-3	III	・	黒曜石	21	24	12	4.3	

第８節　弥生土器その他

弥生土器（第63図１～13　図版24）

１は受け口状を呈する甕の口縁部片。端部には平坦面を有し、下端には棒状工具による刺突文が施文される。口縁外面には半載竹管による刺突文が認められる。わずかに残存する頸部には櫛描簾状文が認められる。２は１同様、受け口状の甕の口縁部片。端部には平坦面はなく、外面のみ刺突文が認められる。３は甕の頸部片で櫛描簾状文が認められる。簾状文は、等間隔止めである。２点は簾状文下に振幅の短い波状文がわずかに残る。４・５・６・７・８・10は櫛描きによる横線文を有す甕頸部の破片資料。ただし横線文は間隔に粗密のある多連止め簾状文の可能性も否定できない。横線文の上下には細片のため１部のみにしか波状文は確認できない。９、11の２点は横位の櫛描波状文を有す甕の胴部片。刷毛整形の後、波状文を施文している。波状文のは５本１組の単位で施文されている。12・13は底部。２点ともやや底部が突出気味である。12の外面には刷毛目、13の底部外面には木葉痕が認められる。

波状文・簾状文から本資料が中部高地に系譜をもつ弥生土器であることは明らかである。中部高地の弥生土器と比較すると次の点が指摘できる。

①簾状文に等間隔止めが認められ、口縁部が受け口状になる形態は中部高地の弥生中期（栗林式）に認められる特徴である。

②波状文及び等間隔止めにはならない甕頸部片資料などは弥生後期の特徴として指摘できる。

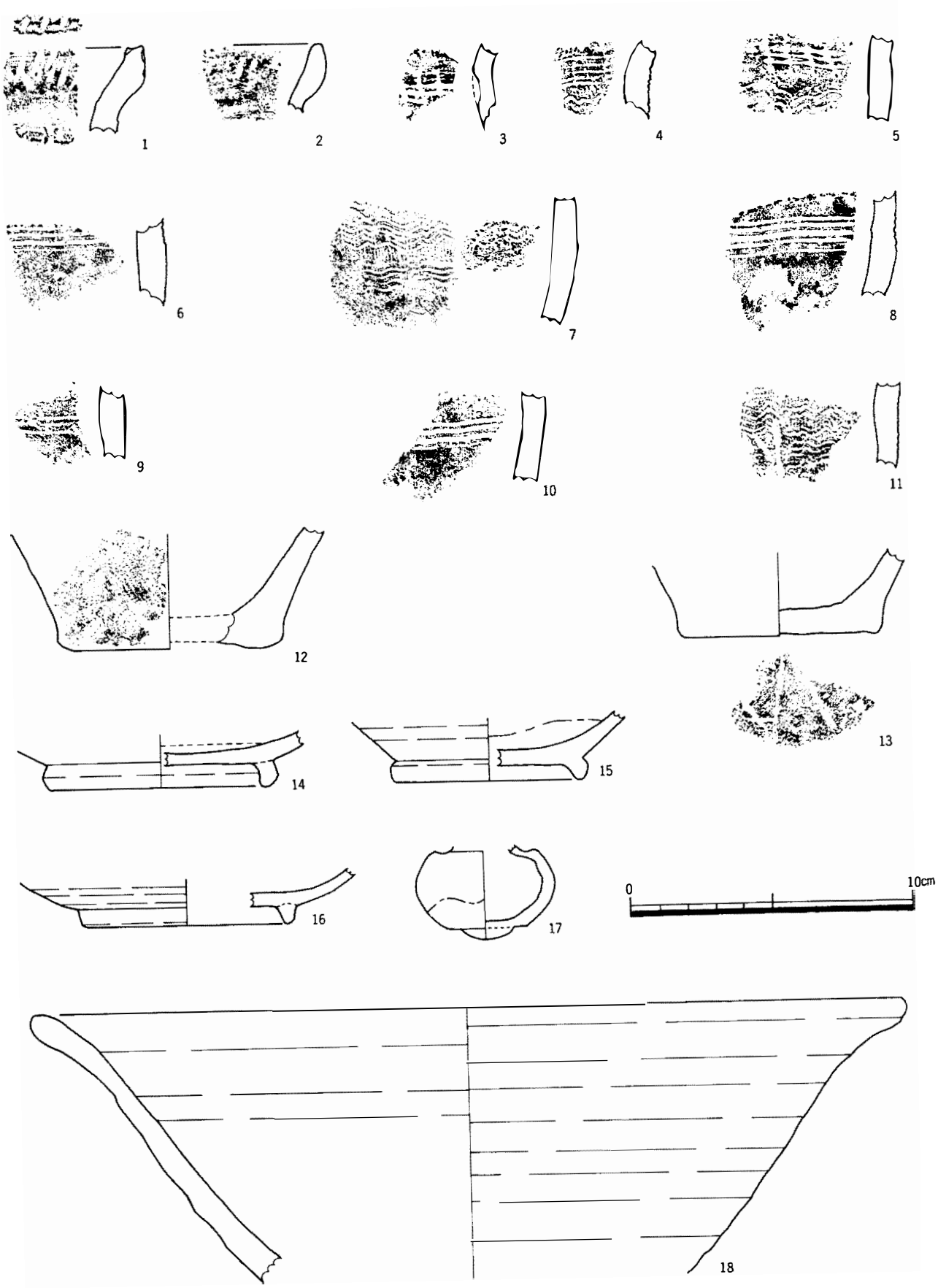
③胎土は中部高地のものとは全く異なり褐色を呈し、調整もミガキが認められず中部高地とは相違する特徴が認められる。

④受け口状の口縁端部下端に刺突を施す例は中部高地では認められず、むしろ東海地方の貝田町式に類似する可能性がある。

以上の観点から推測すると本資料の時期は弥生中期末～弥生後期初頭の百瀬式に類似する資料と考えられるが、その一方では中部高地とは異なる特徴が認められどのような系譜をもつものなのか検討する必要がある。現段階では資料が少なくその判断は不可能だが、資料の増加によって中部高地と飛騨との繋がりが解明されることが期待される。　（藤田英博）

中・近世遺物（第63図14～18　図版24）

14～16は灰釉陶器底部。高台の形態から光ケ丘段階から大原段階までが想定できる。口縁部破片も10数点出土している。17は鎌倉時代末の灰釉小壷。18は鎌倉時代初期のものとされる。



第63図　弥生土器・中近世遺物

第５章　自然科学的分析

第１節　丸山遺跡出土琥珀分析報告

(財)元興寺文化財研究所　植田直見

分析の概要

１．分析目的

丸山遺跡出土琥珀製品が、琥珀であるかどうかの確認と、産地同定を行う。

２．使用機器・原理

・フーリエ変換型赤外分光光度形（FT－IR）（日本電子㈱製 JIR－6000）

・赤外線を試料に照射することにより得られる、分子の構造に応じた固有の周波数の吸収を解析し化合物の種類を同定する。

３　分析方法・条件

・KBr 錠剤法＊

（＊KBr（臭化カルシウム）錠剤法　試料を KBr と混合、圧縮し錠剤を作成して行う分析法）

・分解能４cm^{-1}、検出器　TGS

分析結果

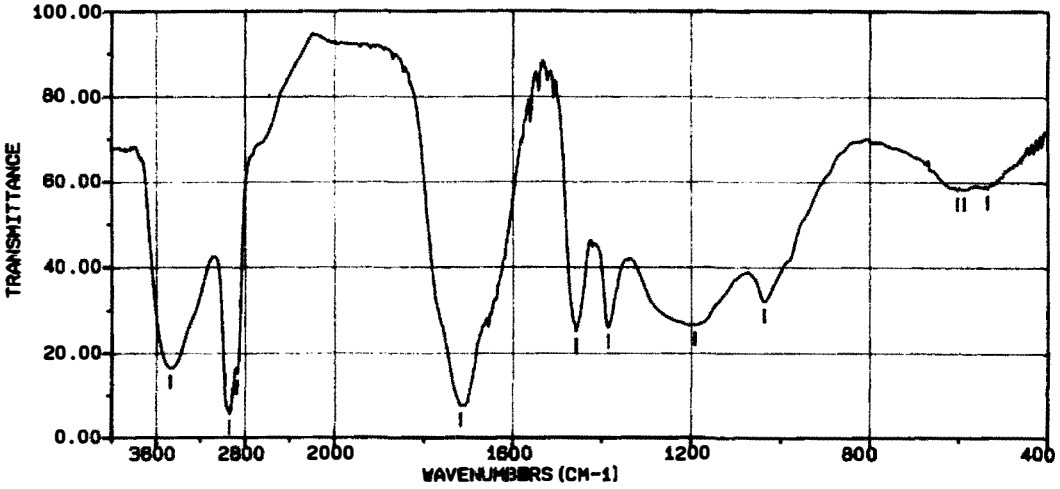
肉眼による観察では、全体的にどの部分も劣化しているが、その中でも特に劣化の顕著な部分とそうでない部分について FT－IR による分析を行った。その結果琥珀であることは確認できたが、産地同定に有効な1800～800cm^{-1}付近の吸収がかなり幅広く、顕著なピークが見られず、両者はほぼ同様なピークが見られた（１、２）。これは、肉眼観察と同様に、丸山遺跡出土琥珀が全体にかなり劣化が激しいことを示している。出土琥珀は、劣化してない部分の赤外吸収スペクトルが得られればその産地同定は可能である。しかし、劣化が激しいと、全体的に吸収はブロードになり特徴的なピークが消失し、新たに異なった位置にピークが表れることがある。そのため、産地の判明している琥珀から得られたピークとの比較が困難になる。

そこで、劣化部がより溶剤に溶けやすいとの推定より溶剤不溶部の FT－IR 分析を行った。（３）。その結果図１、２とは若干異なったピークが得られた。しかし、この結果も産地の判明している標準試料とは完全に一致しなかった。これは、この琥珀がかなり劣化が激しく構成成分のほとんどが変化しているためか標準とする主要な産地以外の少量産出地の琥珀であるか現在のところ確認は困難である。日本でも FT－IR 以外の分析法も行われているがその方法での産地の同定は今のところ出来ていない。劣化した琥珀の FT－IR 分析での同定は困難であることより、今後は FT－IR 以外の分析を試みることが必要であると考える。

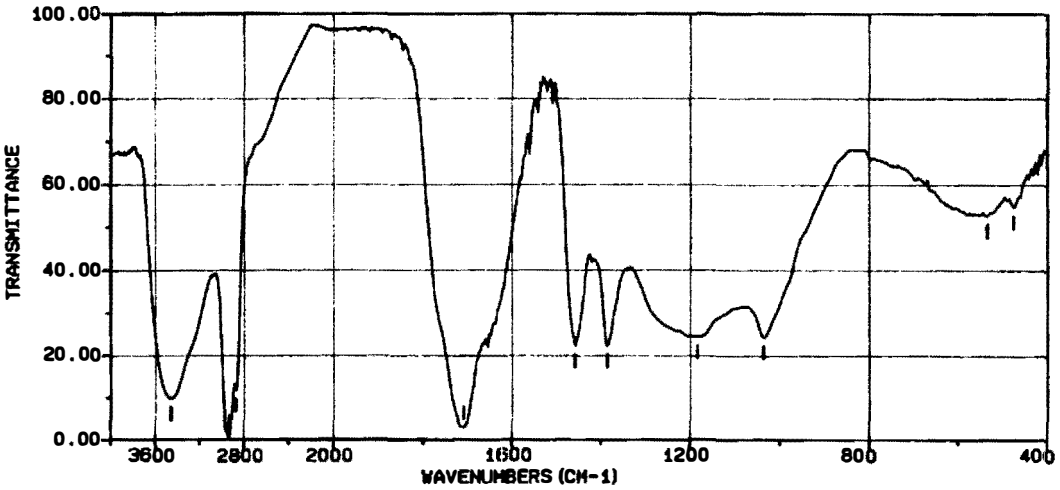
〈参考文献〉

室賀照子　1976「赤外吸収スペクトルによる琥珀の産地分析」『考古学と自然科学９』

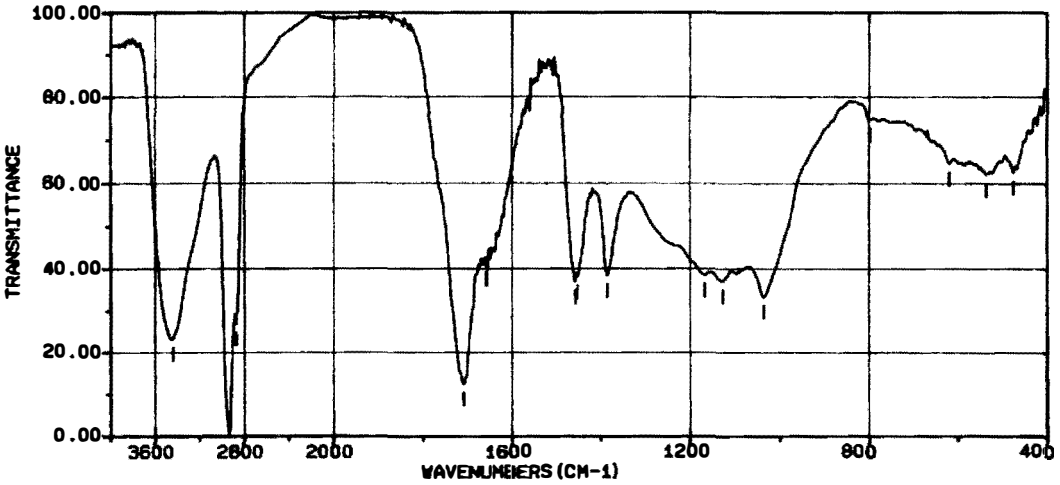
第７表　琥珀分析結果表



１．劣化部分



２．劣化部分（顕著）



３．エタノール抽出残部

第２節　丸山遺跡から出土した土壙に残存する脂肪の分析

帯広畜産大学生物資源化学科　中野益男
㈱ズコーシャ総合科学研究所　中野寛子、長田正宏

動植物を構成している主要な生体成分にタンパク質、核酸、糖質（炭水化物）および脂質（脂肪・油脂）がある。これらの生体成分は環境の変化に対して不安定で、圧力、水分などの物理的作用を受けて崩壊してゆくだけでなく、土の中に棲んでいる微生物による生物的作用によっても分解してゆく。これまで生体成分を構成している有機質が完全な状態で遺存するのは、地下水位の高い低地遺跡、泥炭遺跡、貝塚などごく限られた場所にすぎないと考えられてきた。

最近、ドイツ新石器時代後期にバター脂肪が存在していたこと[1]、古代遺跡から出土した約２千年前のトウモロコシ種子[2]、約５千年前のハーゼルナッツ種子[3]に残存する脂肪の脂肪酸は安定した状態に保持されていることがわかった。このように脂肪は微量ながら比較的安定した状態で千年・万年という長い年月を経過しても変化しないで遺存することが判明した[4]。

脂質は有機溶媒に溶けて、水に溶けない成分を指している。脂質はさらに構造的な違いによって誘導脂質、単純脂質および複合脂質に大別される。これらの脂質を構成している主要なクラス（種）が脂肪酸であり、その種類、含量ともに脂質中では最も多い。その脂肪酸には炭素の鎖がまっすぐに延びた飽和型と鎖の途中に二重結合をもつ不飽和型がある。動物は炭素数の多い飽和型の脂肪酸、植物は不飽和型の脂肪酸を多く持つというように、動植物は種ごとに固有の脂肪酸を持っている。ステロールについても、動物性のものはコレステロール、植物性のものはシトステロール、微生物はエルゴステロールというように動植物に固有の特徴がある。従って、出土遺物の脂質の種類およびそれらを構成している脂肪酸組成と現生動植物のそれとを比較することによって、目に見える形では遺存しない原始古代の動植物を判定することが可能となる。

このような出土遺構・遺物に残存する脂肪を分析する方法を「残存脂肪分析法」という。この「残存脂肪分析法」を用いて丸山遺跡から出土した土壙の性格を解明しようとした。

１．土壌試料

岐阜県大野郡丹生川村に所在する丸山遺跡はおよそ縄文時代中期初頭のものと推定されている。この遺跡の土壌SK-22内外から土壌試料を採取し分析した。試料No.１を土壙の底部中央部、No.２を土壙の外で数ｍ離れた地点から、それぞれ採取した。

２．残存脂肪の抽出

土壌試料743と939ｇに３倍量のクロロホルム―メタノール（２：１）混液を加え、超音波浴槽中で30分間処理し残存脂肪を抽出した。処理液を濾過後、残渣に再度クロロホルム―メタノール混液を加え、再び30分間超音波処理をする。この操作をさらに２回繰り返して残存脂肪を抽出した。得られた全抽出溶媒に１％塩化バリウムを全抽出溶媒の４分の１容量加え、クロロホルム層と水層に分配し、下層のクロロホルム層を濃縮して残存脂肪を分離した。

残存脂肪の抽出量を第8表に示す。抽出率は試料No.1が0.0029%、No.2が0.0019%、平均0.0024%であった。この値は全国各地の遺跡から出土した土壌、石器、土器等の試料の平均抽出率0.0010～0.0100%の範囲内のものではあるが、低めであった。しかし、土壙内外の残存脂肪の抽出率を比較すると土壙試料No.1の方が、土壙外の試料No.2よりも若干高かった。

第8表　土壌試料の残存脂肪抽出量

試料No.	試料名		湿重量(g)	全脂質(mg)	抽出率(%)
1	SK-22	底部中央部	742.9	21.5	0.0029
2	〃	周辺部	938.9	18.3	0.0019

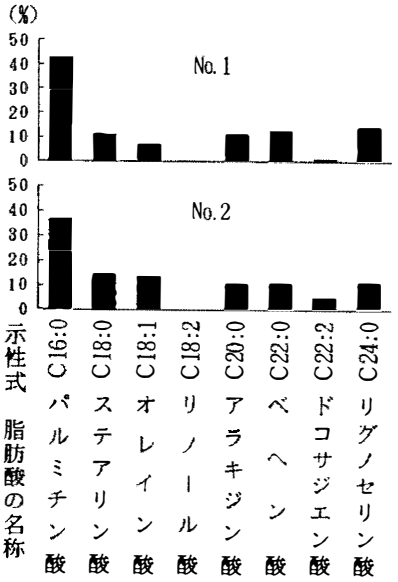
残存脂肪をケイ酸薄層クロマトグラフィーで分析した結果、脂肪は単純脂質で構成されていた。このうち遊離脂肪酸が最も多く、次いでグリセロールと脂肪酸の結合したトリアシルグリセロール（トリグリセリド)、ステロールエステル、ステロールの順に多く、微量の長鎖炭化水素も存在していた。

3．残存脂肪の脂肪酸組成

分離した残存脂肪の遊離脂肪酸とトリアシルグリセロールに5%メタノール性塩酸を加え、125℃封管中で2時間分解し、メタノール分解によって生成した脂肪酸メチルエステルを含む画分をクロロホルムで分離し、さらにジアゾメタンで遊離脂肪酸を完全にメチルエステル化してから、ヘキサン－エチルエーテル－酢酸（80：30：1）またはヘキサン－エーテル（85：15）を展開溶媒とするケイ酸薄層クロマトグラフィーで精製後、ガスクロマトグラフィーで分析した[5]。

残存脂肪の脂肪酸組成を第9表に示す。残存脂肪から8種類の脂肪酸を検出した。このうちパルミチン酸（C16：0)、ステアリン酸（C18：0)、オレイン酸（C18：1)、リノール酸（C18：2)、アラキジン酸（C20：0)、ベヘン酸（C22：0)、リグノセリン酸（C24：0）の7種類の脂肪酸をガスクロマトグラフィー－質量分析により同定した。

試料中の脂肪酸組成パターンを見ると、2試料がほぼ同一の組成パターンを示していた。このうち炭素数18までの中級脂肪酸は、主要な脂肪酸がパルミチン酸で、次いでステアリン酸、オレイン酸の順に多かった。一般に考古遺物にはパルミチン酸が多く含まれている。これは長い年月の間にオレイン酸、リノール酸といった不飽和脂肪酸の一部が分解し、パルミチン酸を生成するためで、主として植物遺体の土壌化に伴う腐植物から来ていると推定される。ステアリン酸は動物体脂肪や植物の根に比較的多く分布している。オレイン酸の分布割合の高いものとしては、動物性脂肪と植物性脂肪の両方が考えられ、植物性脂肪は特に根、茎、種子に多く分布するが、動物性脂肪の方が分布割合は高い。リノール酸は主として植物種子・葉に多く分布する。



第9表　試料中に残存する脂肪の脂肪酸組成

一方、高等動物、特に高等動物の臓器、脳、神経組織、血液、胎盤に特徴的にみられる炭素数20以上のアラキジン酸、ベヘン酸、リグノセリン酸などの高級脂肪酸はそれら3つの合計含有率が試料No.1で約37%、No.2で約31%であった。通常の遺跡出土土壌中でのアラキジン酸、ベヘン酸、リグノセリン酸の高級脂肪酸3つ

の合計含有率は約4～10%であるから、2試料中での高級脂肪酸含有量は多かった。高級脂肪酸含有量が多い場合としては、試料中に高等動物の血液、脳、神経組織、臓器等の特殊な部分が含まれている場合と、植物の種子・葉などの植物体の表面を覆うワックスの構成分が含まれている場合とがある。高級脂肪酸が動物、植物のどちらに由来するかはコレステロールの分布割合によって決めることができる。概して、動物に由来する場合はコレステロール含有量が多く、植物に由来する場合はコレステロール含有量が少ない。

以上、丸山遺跡の試料中にはパルミチン酸が主要な脂肪酸として含まれており、高級脂肪酸も多いことがわかった。

4．残存脂肪のステロール組成

残存脂肪のステロールをヘキサン―エチルエーテル―酢酸（80：30：1）を展開溶媒とするケイ酸薄層クロマトグラフィーで分離・精製後、ピリジン―無水酢酸（1：1）を窒素気流下で反応させてアセテート誘導体にする。得られた誘導体をもう一度同じ展開溶媒で精製してから、ガスクロマトグラフィーにより分析した。残存脂肪の主なステロール組成を第10表に示す。残存脂肪から21～25種類のステロールを検出した。このうちコプロスタノール、コレステロール、エルゴステロール、カンペステロール、スチグマステロール、シトステロールなど8種類のステロールをガスクロマトグラフィー―質量分析により同定した。

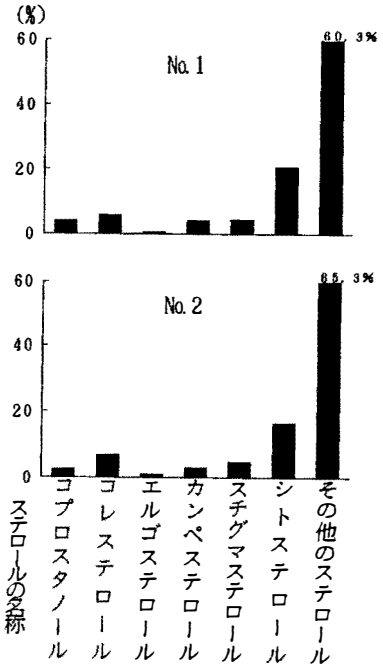
試料中のステロール組成をみると、動物由来のコレステロールは試料No.1に約6%、No.2に約7%分布していた。通常一般的な植物腐植土中にはコレステロールは2～6%分布している。従って、2試料中のコレステロール含有量は通常の遺跡出土土壌中の植物腐植土並みであった。

植物由来のシトステロールは試料No.1に約21%、No.2に約16%分布していた。通常の遺跡出土土壌中にはシトステロールは30～40%、もしくはそれ以上に分布している。従って、2試料中のシトステロール含有量は通常の遺跡出土土壌の植物腐植土中でよりも少なめであった。

クリ、クルミ等の堅果植物由来のカンペステロール、スチグマステロールは、カンペステロールが試料No.1に約4%、No.2に約3%、スチグマステロールがNo.1に約4%、No.2に約5%分布していた。通常の遺跡出土土壌中にはカンペステロール、スチグマステロールは1～10%分布している。従って、試料中に含まれているカンペステロール、スチグマステロール含有量は通常の遺跡出土土壌中の植物腐植土並みであった。

微生物由来のエルゴステロールは2試料中に1%前後分布していた。この程度の量は土壌微生物の存在による結果と考えられる。

哺乳動物の腸もしくは糞便中に特異的に分布するコプロスタノールは、試料No.1に約4%、No.2に約3%分布していた。コプロスタノールは通常の植物腐植土壌中には分布していないが、1%程度の量は検出されることがある。また、コプロスタノール



第10表　試料中に残存する脂肪のステロール組成

はその分布により試料中での哺乳動物の存在を確認することができる他に、コプロスタノールが10％以上含まれていると、試料中に残存している脂肪の動物種や性別、また遺体の配置状況などが特定できる場合があるが[6]、今回は含まれていても約４％以下のため、それらの判定はできなかった。しかし、コプロスタノールがわずかではあるが含まれているということは、試料中に哺乳動物由来の脂肪が残存している可能性が若干あることを示唆している。

一般に動物遺体の存在を示唆するコレステロールとシトステロールの分布比の指標値は土壙で0.6以上[7]、土器・石器・石製品で0.8～23.5をとる[8,9]。試料中のコレステロールとシトステロールの分布比を表２に示す。表からわかるように、分布比は試料No.１が0.28、No.２が0.42であった。従って、分布比から見る限りでは、２試料中には動物遺体または動物由来の脂肪が残存している可能性が殆どない。

以上、丸山遺跡の試料中に含まれている各種ステロール類は、すべて通常の遺跡出土土壌中の植物腐植土並みか少なめであることがわかった。コレステロールとシトステロールの分布比も２試料ともに0.6以下で、試料中に動物遺体または動物由来の脂肪が殆ど残存していないことを示唆していた。このことは試料中に哺乳動物の腸もしくは糞便由来のコプロスタノールがわずかではあるが残存しており、試料中に哺乳動物由来の脂肪が残存している可能性が若干あるということと一致しない。コレステロール含有量を考えると、脂肪酸分析で多く含まれていた高級脂肪酸は植物体の表面を覆うワックスの構成分由来のものである可能性が高い。このことは、残存する脂肪が植物腐植土に由来するものが多く、動物脂肪に由来するものがごく微量であることを示している。

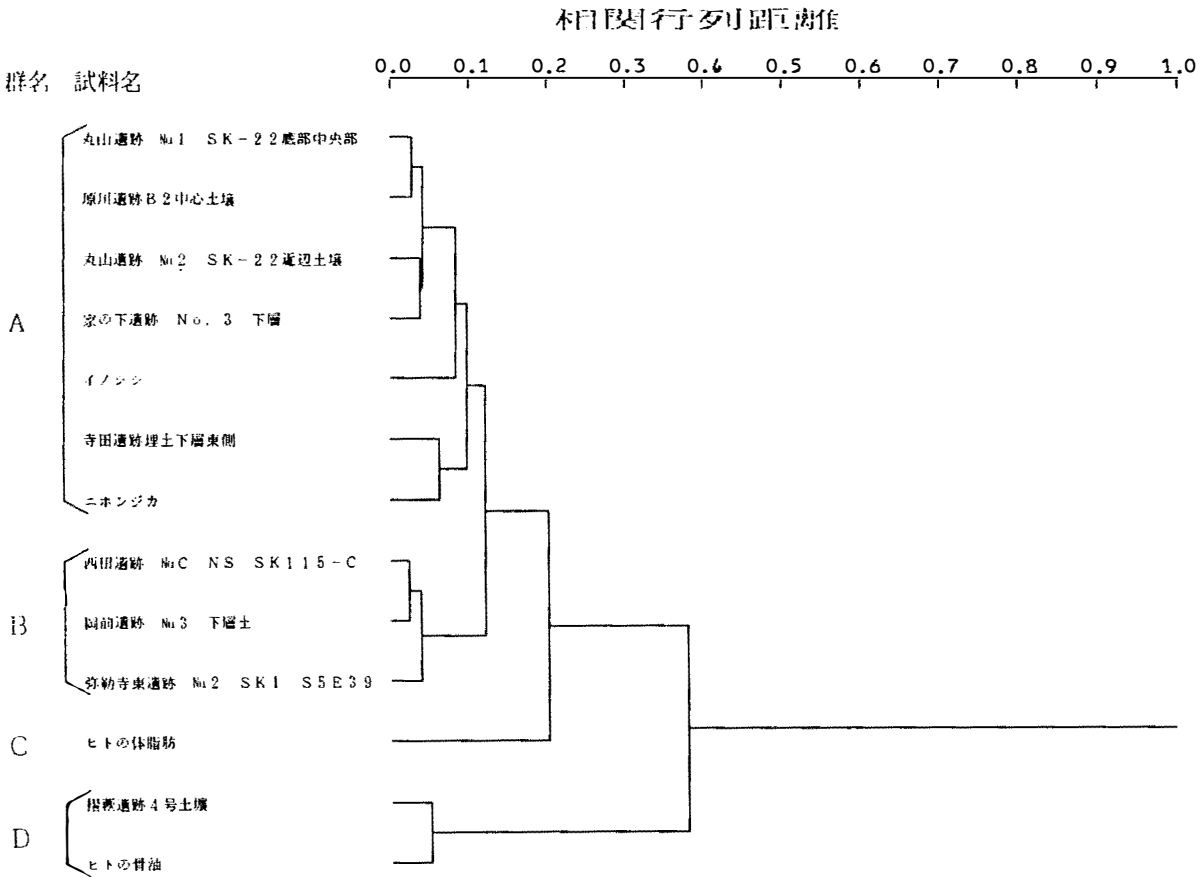
５．脂肪酸組成の数理解析

残存脂肪の脂肪酸組成をパターン化し、重回帰分析により各試料間の相関係数を求め、この相関係数を基礎にしてクラスター分析を行って各試料の類似度を調べた。同時に同じ岐阜県内の遺跡で出土土壙に残存する脂肪はヒト遺体を直接埋葬したことに関わる遺跡の試料やヒトの体脂肪試料と類似していると判定した家の下遺跡[10]、西田遺跡[11]、出土した埋甕に残存する脂肪はヒト遺体を直接埋葬したことに関わる遺跡の試料やヒトの体脂肪、もしくはヒトの胎盤試料と類似していると判定した岡前遺跡[12]、出土した土壙に残存する脂肪は、ヒト遺体を直接埋葬したことに関わる遺跡の試料やヒトの体脂肪試料と類似していると判定した弥勒寺東遺跡[13]、出土土器を幼児埋葬用甕棺と判定した静岡県原川遺跡[14]、出土土壙を土壙墓と判定した兵庫県寺田遺跡[15]、ヒトの体脂肪、出土土壙を再葬墓と判定した宮城県摺萩遺跡[16]、ヒトの骨油、イノシシ、ニホンジカのような動物試料など、各種遺跡試料や現生動物試料などに残存する脂肪酸との類似度も比較した。予めデータベースの脂肪酸組成と試料中のそれとでクラスター分析を行い、その中から類似度の高い試料を選び出し、再びクラスター分析によりパターン間距離にして表したのが第11表である。

表からわかるように、丸山遺跡の２試料は原川遺跡、家の下遺跡、寺田遺跡の試料やイノシシ、ニホンジカのような動物試料と共に相関行列距離0.1以内でＡ群を形成し、よく類

第11表　試料中に分布するコレステロールとシトステロールの割合

試料No.	コレステロール(%)	シトステロール(%)	コレステロール／シトステロール
1	5.77	20.73	0.28
2	6.90	16.43	0.42



第64図　試料中に残存する脂肪の脂肪酸組成樹状構造図

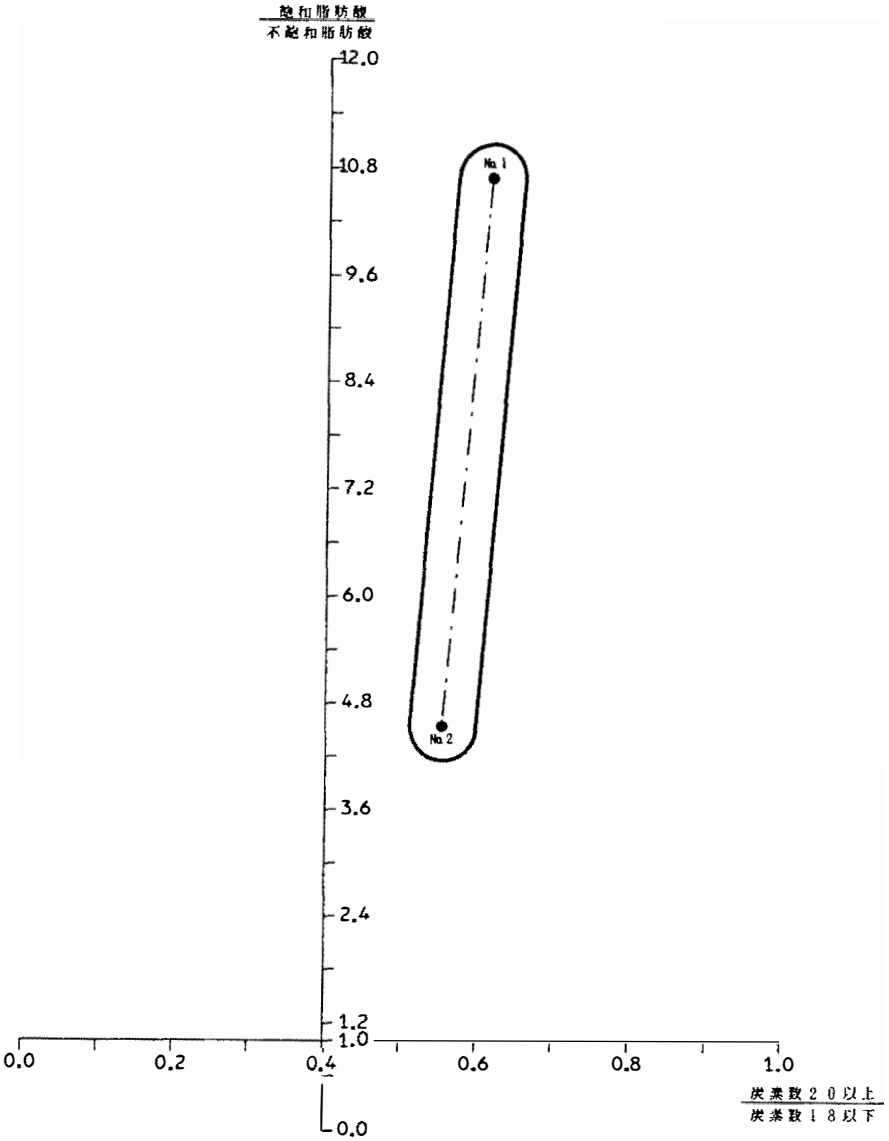
似していた。他の対照試料はB－D群を形成した。これらの群のうちA群とB群は相関行列距離0.15以内の所にあり、互いに類似していた。C群もA、B群と樹状図全体からすれば同一の系統樹に属していた。

以上、丸山遺跡の2試料中に残存する脂肪はヒト遺体を直接埋葬したことに関わる遺跡やヒトの体脂肪試料、またイノシシ、ニホンジカのような動物試料の脂肪と類似していることがわかった。

6．脂肪酸組成による種特異性相関

残存脂肪の脂肪酸組成から種を特定するために、中級脂肪酸（炭素数16のパルミチン酸から炭素数18のステアリン酸、オレイン酸、リノール酸、リノレン酸まで）と高級脂肪酸（炭素数20のアラキジン酸以上）との比をX軸に、飽和脂肪酸と不飽和脂肪酸との比をY軸にとり種特異性相関を求めた。この比例配分により第1象限の原点から離れた位置に高等動物の血液、脳、神経組織、臓器等に由来する脂肪、第1象限から第2象限の原点から離れた位置にヒト胎盤、第2象限の原点から離れた位置に高等動物の体脂肪、骨油に由来する脂肪がそれぞれ分布する。第2象限から第3象限にかけての原点付近に植物と微生物、原点から離れた位置に植物腐植、第3象限から第4象限にかけての原点から離れた位置に海産動物に由来する脂肪が分布する。

土壌試料の残存脂肪から求めた相関図を第64図に示す。図からわかるように、2試料は第1象限内の原点から離れたY軸寄りの所に分布した。この分布位置は通常は試料中に残存する脂肪が高等動物の血液、脳、神経組織、胎盤、臓器等の特殊な部分に由来することを示唆しているが、今回は炭素数



第65図　試料中に残存する脂肪の脂肪酸組成による種特異性相関

20以上の高級脂肪酸が多かったためにそのような位置に分布したと考えられる。

以上、丸山遺跡の試料中に残存する脂肪は通常は高等動物の血液、脳、神経組織、胎盤、臓器等の特殊な部分に由来する傾向のものであるが、今回は植物体の表面を覆うワックスの構成分である高級脂肪酸が多かったためにそのような傾向を示すことがわかった。

７．総括

丸山遺跡から出土した土壙の性格を判定するために、土壙内外の土壌試料の残存脂肪分析を行った。残存する脂肪の脂肪酸分析、ステロール分析、脂肪酸組成の分布に基づく数理解析の結果、土壙SK-22に残存する脂肪は、その脂肪量は少ないがヒト遺体を直接埋葬したことに関わる遺跡の試料やヒトの体脂肪試料、またイノシシ、ニホンジカのような動物試料の脂肪と類似していることがわかった。土壙外の対照試料も土壙内の試料とほぼ同じ傾向を示した。これはこの土壙が周辺一帯の植物腐植土中の脂肪の影響を強く受けていて、残存する動物脂肪がごく微量であるためと考えられる。精確な判定

には土壙内の試料採取地点を多くする必要がある。

参考文献

(1) R. C. A. Rottlander and H. Schlichtherle:「Food identification of samples from archaeological sites」,『Archaeo Physika』, 10巻, 1979, pp260.

(2) D. A. Priestley, W. C. Galinat and A. C. Leopold:「Preservation of polyunsaturated fatty acid in ancient Anasazi maize seed」,『Nature』, 292巻, 1981, pp146.

(3) R. C. A. Rottländer and H. Schlichtherle:「Analyse frühgeschichtlicher Gefäβ-inhalte」,『Naturwissenschaften』, 70巻, 1983, pp33.

(4) 中野益男：「残存脂肪分析の現状」、『歴史公論』、第10巻(6)、1984、pp124。

(5) M. Nakano and W. Fischer:「The Glycolipids of Lactobacillus casei DSM 20021」,『Hoppe-Seyler's Z. Physiol. Chem』, 358巻, 1977, pp1439.

(6) 中野益男：「残留脂肪酸による古代復元」、『新しい研究法は考古学になにをもたらしたか』、田中琢、佐原　眞編、クバプロ、1995、pp148。

(7) 中野益男、伊賀　啓、根岸　孝、安本教傳、畑　宏明、矢吹俊男、佐原　眞、田中　琢：「古代遺跡に残存する脂質の分析」、『脂質生化学研究』、第26巻、1984、pp40。

(8) 中野益男：「真脇遺跡出土土器に残存する動物油脂」、『真脇遺跡―農村基盤総合整備事業能都東地区真脇工区に係わる発掘調査報告書』、能都町教育委員会・真脇遺跡発掘調査団、1986、pp401。

(9) 中野益男、根岸　孝、長田正宏、福島道広、中野寛子：「ヘロカルウス遺跡の石器製品に残存する脂肪の分析」、『ヘロカルウス遺跡』、北海道文化財研究所調査報告書、第3集、1987、pp191。

(10) 中野寛子、明瀬雅子、長田正宏、中野益男：「家の下遺跡の土壙に残存する脂肪の分析」、『未発表』、岐阜県吉城郡宮川村教育委員会。

(11) 中野益男、中野寛子、長田正宏：「西田遺跡から出土した土壙に残存する脂肪の分析」、『未発表』、㈶岐阜県文化財保護センター。

(12) 中野益男、中野寛子、長田正宏：「岡前遺跡から出土した土器に残存する脂肪の分析」、『未発表』、㈶岐阜県文化財保護センター。

(13) 中野益男、中野寛子、長田正宏：「弥勒寺東遺跡から出土した土壙に残存する脂肪の分析」、『未発表』、岐阜県関市教育委員会。

(14) 中野益男、幅口　剛、福島道広、中野寛子、長田正宏：「原川遺跡の土器棺に残存する脂肪の分析」、『原川遺跡Ⅰ―昭和62年度袋井バイパス（掛川地区）埋蔵文化財発掘調査報告書』、第17集、㈶静岡県埋蔵文化財調査研究所、1988、pp79。

(15) 中野益男、中野寛子、福島道広、長田正宏：「寺田遺跡土壙墓状遺構に残存する脂肪の分析」、『未発表』、兵庫県芦屋市教育委員会。

(16) 中野益男、福島道広、中野寛子、長田正宏：「摺萩遺跡の遺構に残存する脂肪の分析」、『未発表』、宮城県教育委員会。

第６章　まとめ（丸山遺跡の縄文時代中期初頭の土器について）

丸山遺跡は、五味原遺跡群の他の遺跡ではほとんど検出されていない縄文時代中期初頭の遺構・遺物が検出されたということで特出される。丸山遺跡で検出された縄文時代中期初頭の土器は、第４章遺物で述べたように北陸、東海、関東、西日本にそれぞれ主体を置く土器によって構成される。このように各地域の土器が混在する様相は他の遺跡でも見られ、飛騨地方においては上宝村上灘下野切遺跡においても似たような現象がうかがえる。（岐阜県史資料編原始古代）

また、若干ではあるが前期末に位置付けられると考えられる浮線文系の土器片の存在から特に北陸系の土器に関しては前期末からの一連の影響を考えることができる。

北陸系の中期初頭に位置付けられる土器は新保式土器で斜格子目文、撚糸押圧、連続爪形文などの文様を指標とする。当遺跡ではこれに該当するものは少数である。第31図13・14がこれに当てはまるのではないかと考える。これに続く土器は新崎式であり、当遺跡ではこの時期の土器が主体を占めると思われる。木目状撚糸を施すものを新崎式に近いものと考え、縦の羽状縄文を施すものを新崎式の中段階、斜縄文のものを新段階とする見解に沿うと当遺跡のものは新崎式の古い段階のものから新段階のものまで見られる。また、胴部の文様展開で言えば第25図 SK25出土の土器のように文様を４分割するものやB字形文を配すものが見られることなどからも同様のことが言える。

新崎式が厳密な意味では中期初頭に位置付けられていないことからすれば丸山遺跡の北陸系土器については中期前半とするのが正確なのかもしれない。しかし、後述するように関東系の土器や西日本系土器との関連から中期初頭の言葉を使用した。

II群６類の縄文のみで施文される土器のうち、キャリパー形のものやバケツ状に口縁が開く器形のものは羽状縄文や斜縄文の様相から上記北陸系の土器とつながるものと考える。

西日本系土器は薄手で独特の目の粗い縄文を施すことから他の土器と区別しやすい。連続爪形文や貝殻の押圧、口縁内面に縄文を施すことや酒杯状の突起などを指標とし、器形はキャリパー形が多い。船元１式と考えられる。（鷹島式については厳密な意味において鷹島式の定義全てに適応するものがないことからここでは船元１式とした）。

II群６類の中には口縁内面に縄文を施す粗製土器が含まれる。西日本的手法を受け継いだものと考えたいがこの手法に時期幅があることから船元１式段階のものとは厳密には言えないかもしれない。

東海系土器は飛騨地方では半起線上の連続爪形文や三角印刻、楔形文などの文様手法などから五領ケ台式と見られてきた時期があるが比較的薄手で焼成堅緻の胎土を持つ土器は雲母を多量に含み赤褐色の胎土の五領ケ台式土器と区別され北裏Ｃ１式土器であることが明らかになっている。当遺跡出土のものは貼付隆帯上に密に連続爪形文を刻み縄文を伴わないものと、三角刺突・玉抱き三叉文を持ち縄文を施すものがある。器形は頸部から開いて立ち上がる波状口縁で胴部はやや膨らむものが多い。

関東系土器は金雲母を多量に含む赤褐色胎土のものを五領ケ台式としたが不明なものも若干ある。

北陸・東海・関東・西日本のそれぞれの土器の併行関係については３号住居跡の出土状況などから北陸の新崎式段階に東海系の北裏Ｃ１式や五領ケ台式や西日本系の船元１式が並行すると考えられるが、不勉強のため詳細なる区別ができなかったことと検出状況の十分な検討が力不足のためできな

かったため厳密な併行関係を示すことができなかった。今後の研究に期待したい。　　（伊藤秀雄）

引用・参考文献

青木　修　1991　『二股貝塚』知多市教育委員会

麻生　優　1998　『日本における洞穴遺跡の構造論的研究』

石川埋蔵文化財センター　1986　『鹿島町徳前C遺跡調査報告（Ⅰ・Ⅱ）』

石川埋蔵文化財センター　1997　『能美丘陵東遺跡群Ⅱ』

磯部幸男　1984　「塩屋遺跡出土の縄文土器」『知多古文化研究』1

今村啓爾　1985　「五領ケ台式土器の編年」『東京大学文学部考古学研究室研究紀要』4

印旛郡市文化財センター　1994　『千葉県四街道市木戸先遺跡』

大江　命　1958　『上宝の先史時代』

柿崎町教育員会　1960　『鍋屋町遺跡』

加藤三千雄ほか　1986　『真脇遺跡』能登町教育委員会・真脇遺跡発掘調査団

加藤三千雄　1997「北陸における縄文時代前期末葉土器群の展開」『石川考古学会会誌第40号」

金森昭憲　1991　「入海貝塚の入海式土器」『人類学博物館紀要』14　南山大学人類学部博物館

神村　透　1997　『大岩橋』長野県木曽郡王滝村教育委員会・木曽郡町村会

上宝村教育員会　1988　『本郷中学校保管の縄文土器・石器』

岐阜県文化財保護センター1991　『門坂シズマ遺跡』

小島俊彰　1974　「北陸の縄文時代中期の編年」『大境』富山考古学会誌5

財団法人長野県史刊行会　1988　『長野県史』考古資料編

田中彰・吉朝則富　1992　『江名子糠塚・無手無冠農場遺跡発掘調査報告書』高山市教育委員会

谷口和人　1993　「底部」『荒城神社遺跡』岐阜県文化財保護センター

　同　　1995　「底部」『岡前遺跡』岐阜県文化財保護センター

　同　　1997　「早期～前期初頭の土器」「底部」『西田遺跡』岐阜県文化財保護センター

知多古文化研究会　1997　『南知多町の考古学資料』

坪井清足　1956　『石山貝塚』平安学園考古学クラブ

増子康真　1972　「八ツ崎Ⅰ式土器をめぐって」『古代人』42

増子康真　1980　『岐阜県八百津町南森遺跡発掘調査報告書』八百津町教育員会

増子康真　1995　『飛騨と考古学』飛騨考古学会

八尾町教育委員会　1985　『長山遺跡』

山下勝年　1989　「いわゆる石山式土器の再検討」『知多古文化研究』5

　同　　1990　「東海西部地域における縄文時代早期中葉の土器群」『知多古文化研究』6

　同　　1993　「粕畑式・上ノ山式・入海0式の再検討」『知多古文化研究』7

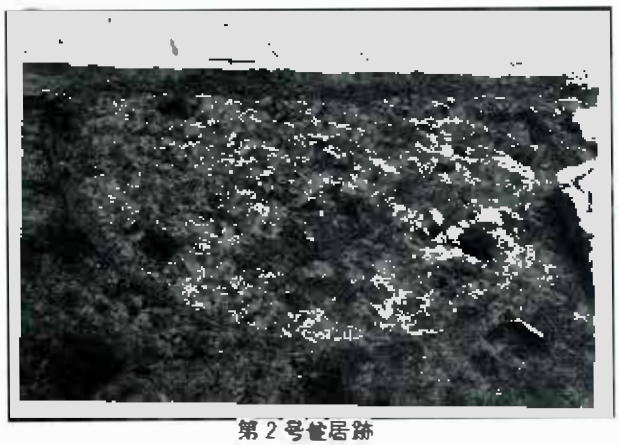
図　　版

図版 1

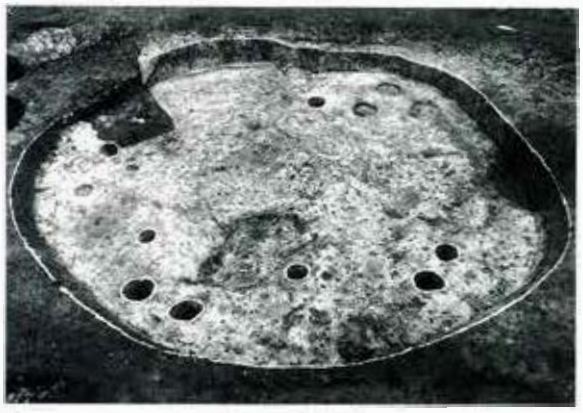
丸山遺跡遠景

土坑群発掘状況

第 1 号住居跡



第 2 号住居跡



第 3 号住居跡

SK25

硬玉出土状況

SK22

1

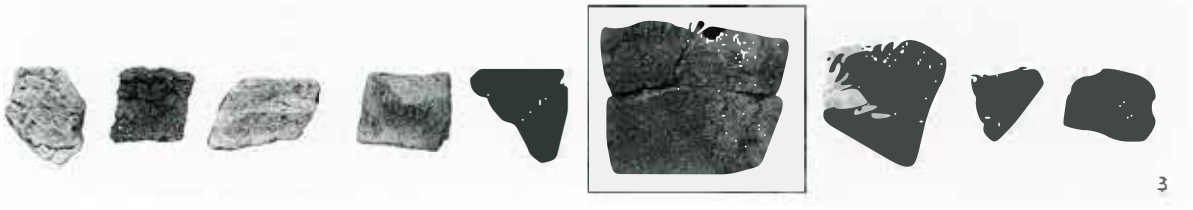
2

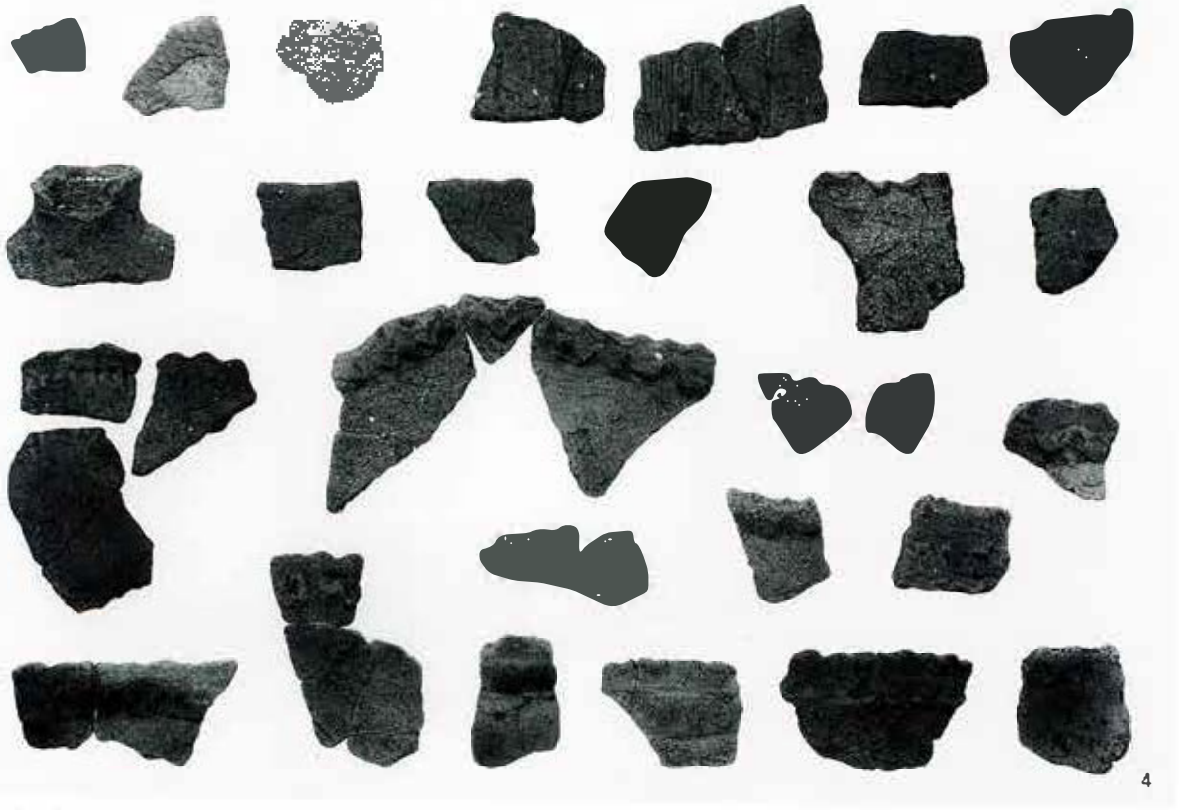
3

4

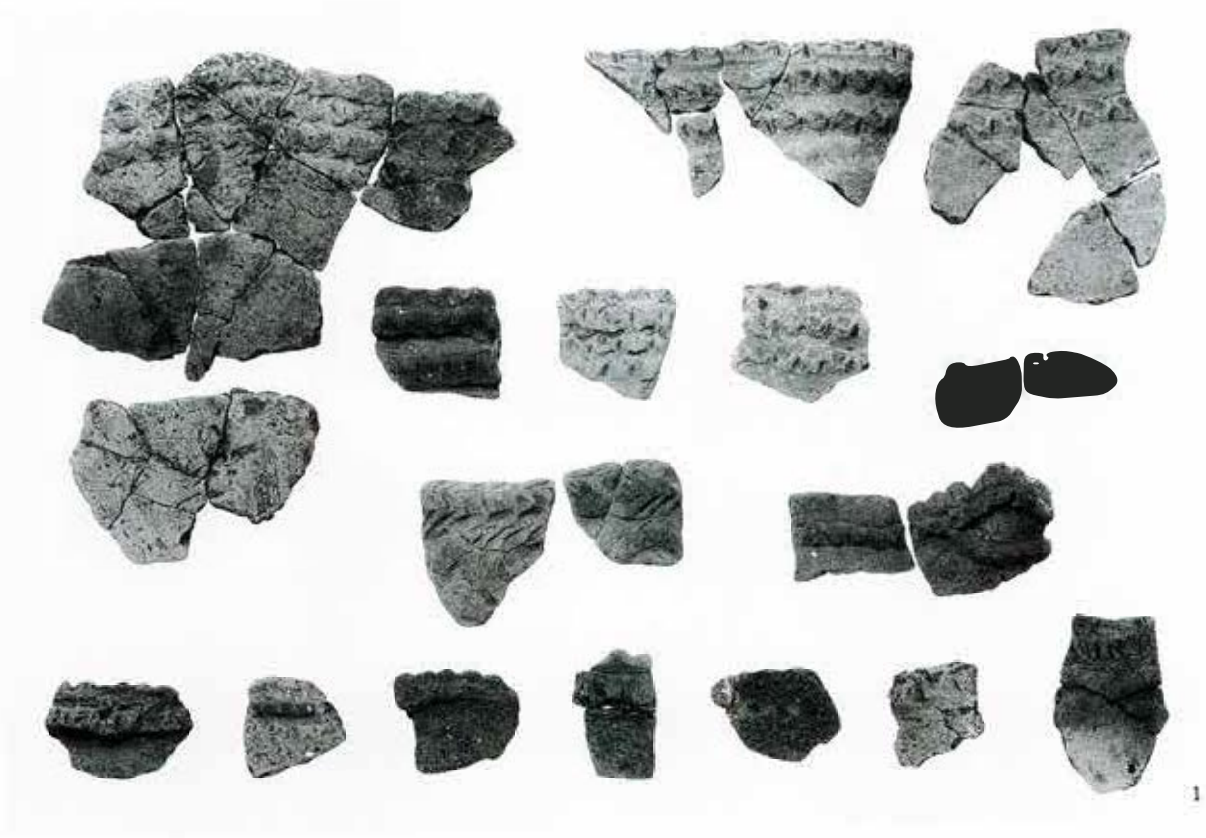
1．遺物包含層出土の縄文土器Ⅰ群4b類　　2．遺物包含層出土の縄文土器Ⅰ群5b類
3．　〃　4e類　　4．　〃　5c

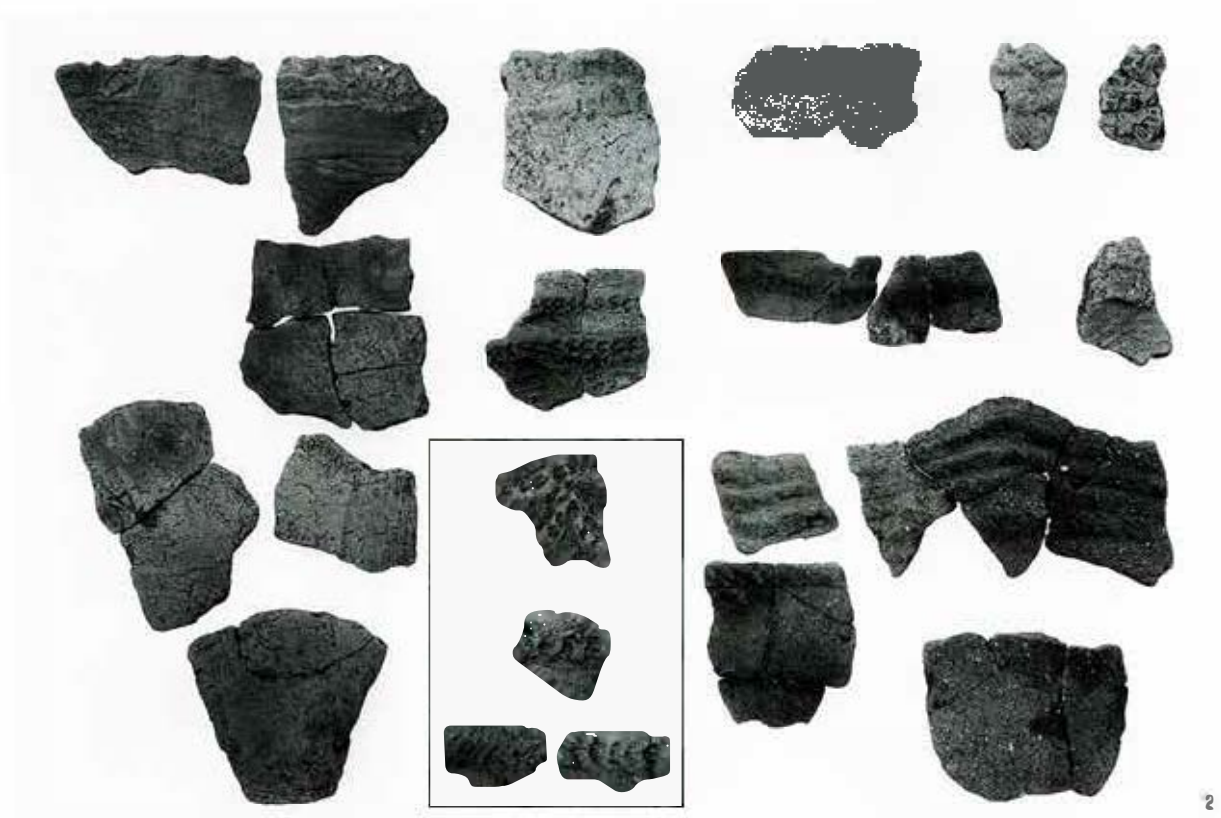
図版3





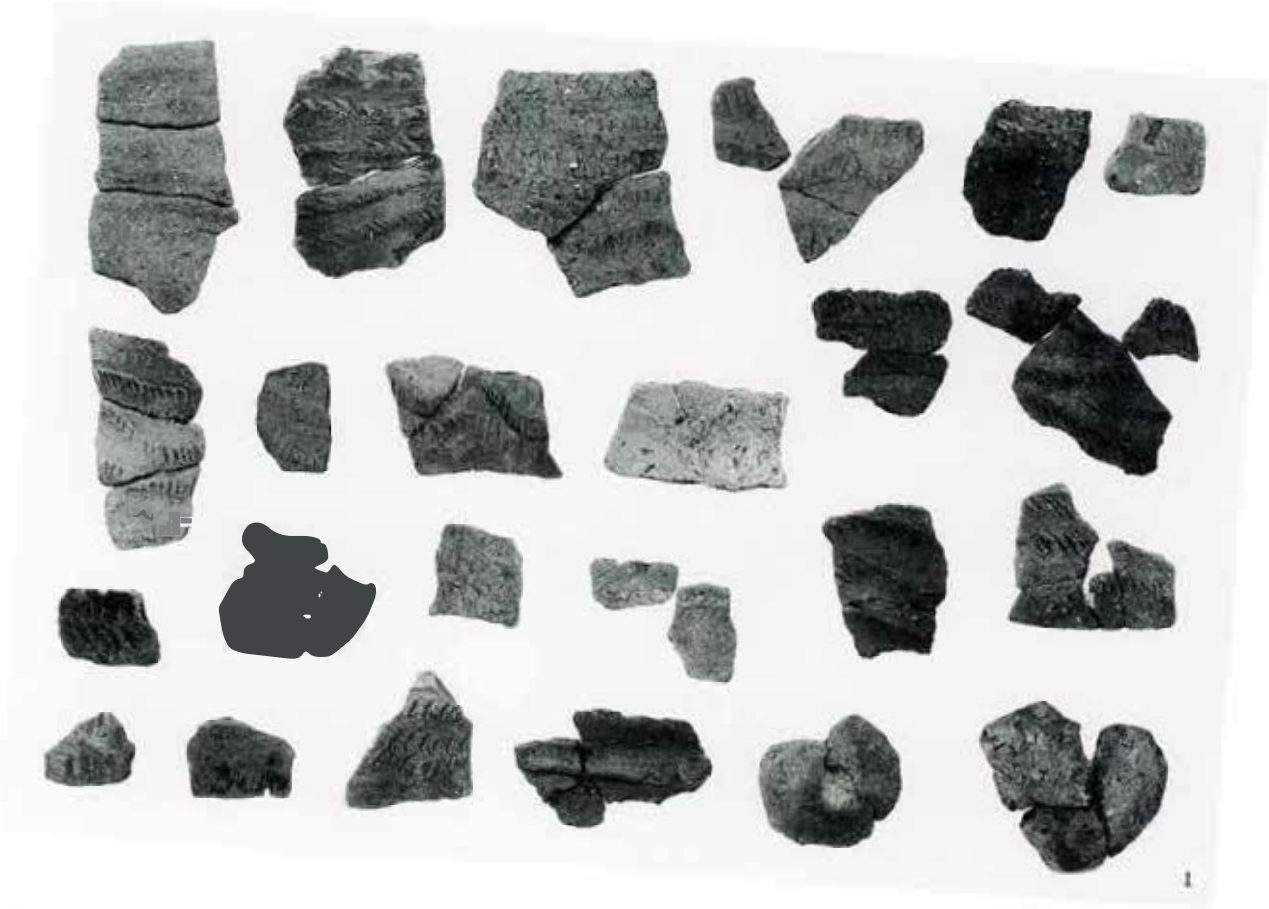
1．遺物包含層出土の縄文土器Ⅰ群5C類　　2．遺物包含層出土の縄文土器Ⅰ群5C類
3．1号住居跡出土の縄文土器Ⅰ群　　4．遺物包含層出土の縄文土器Ⅰ群

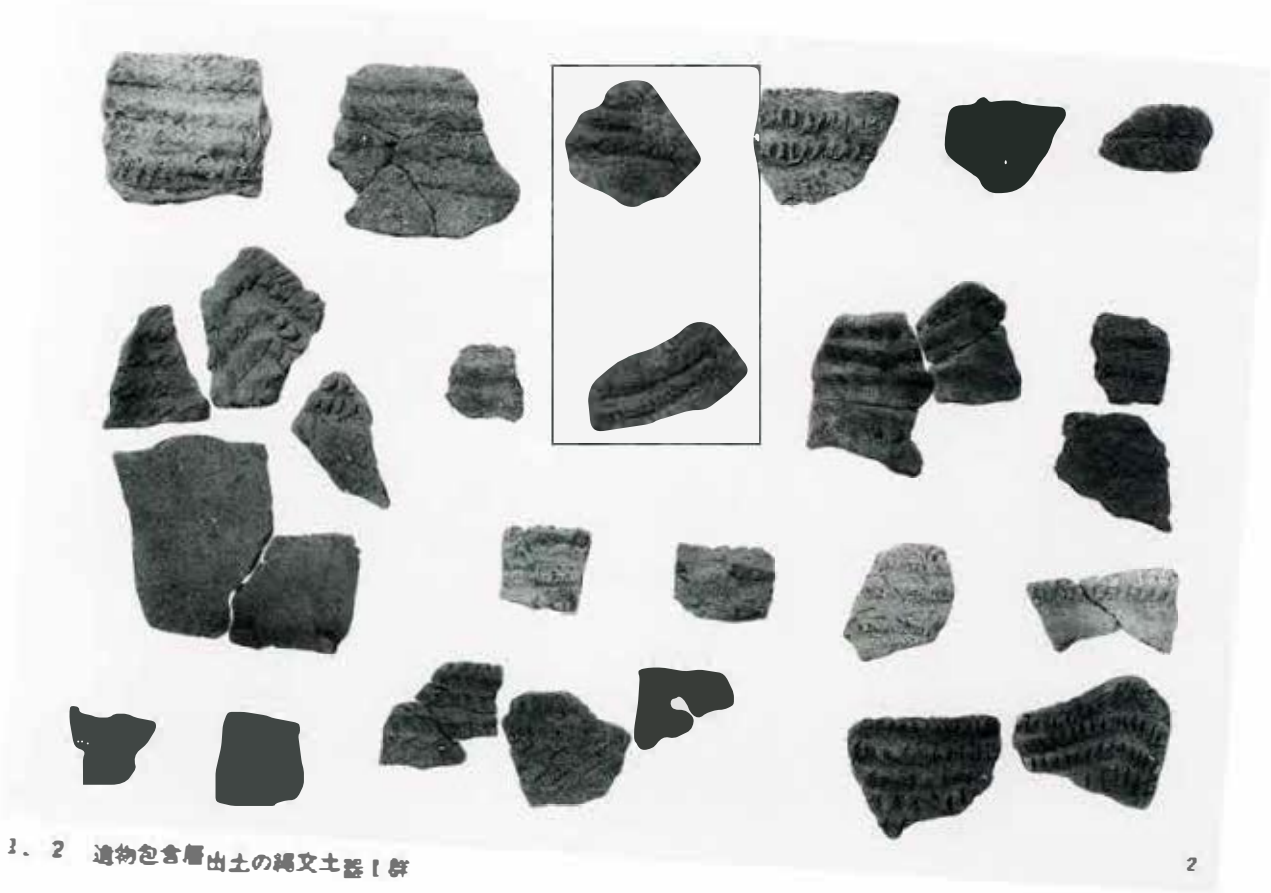




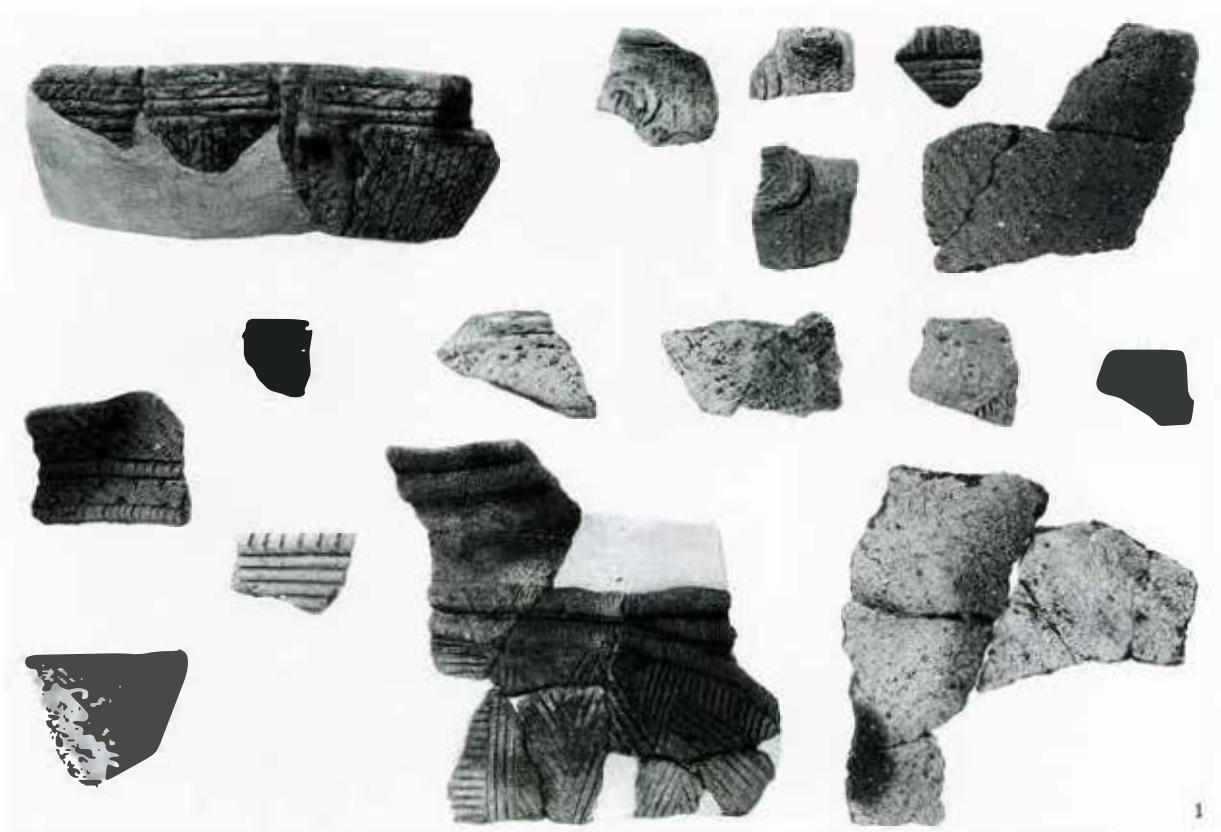
1、2　遺物包含層出土の縄文土器1群

図版5



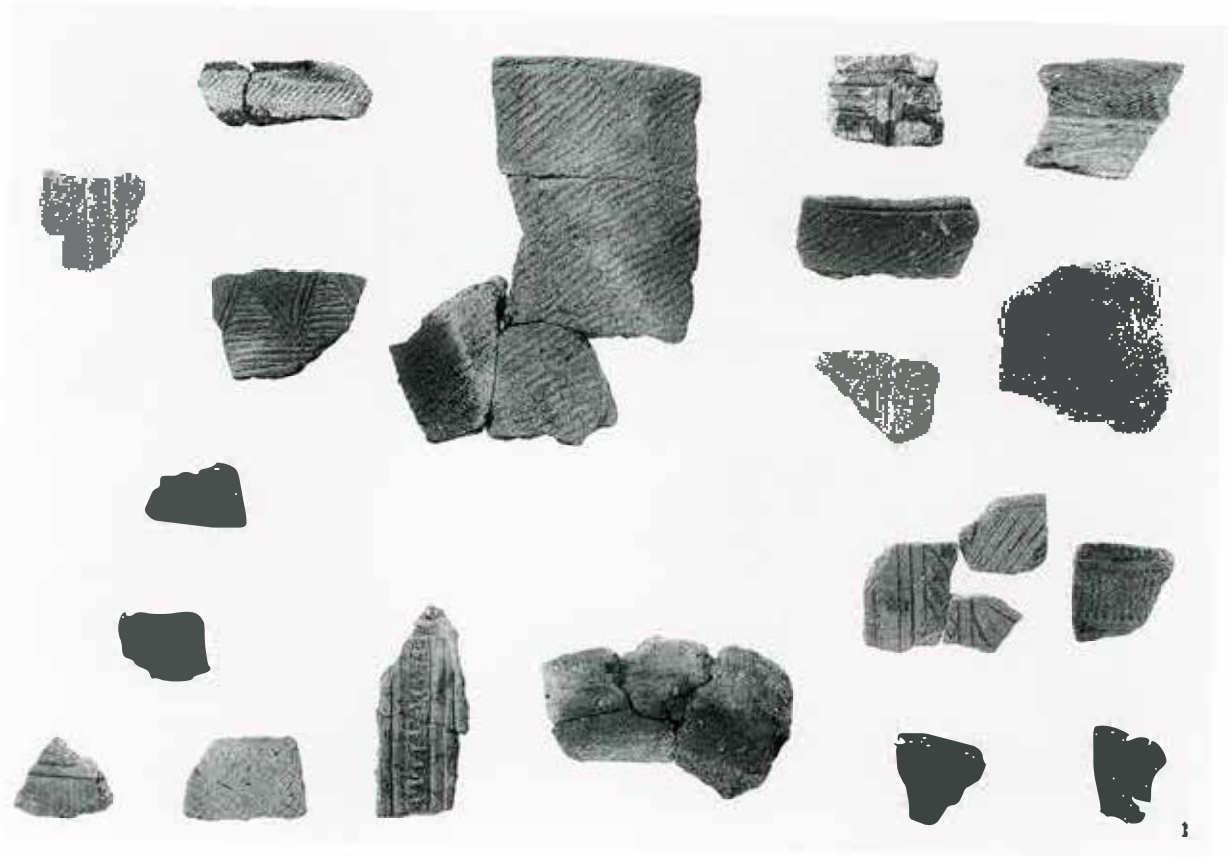


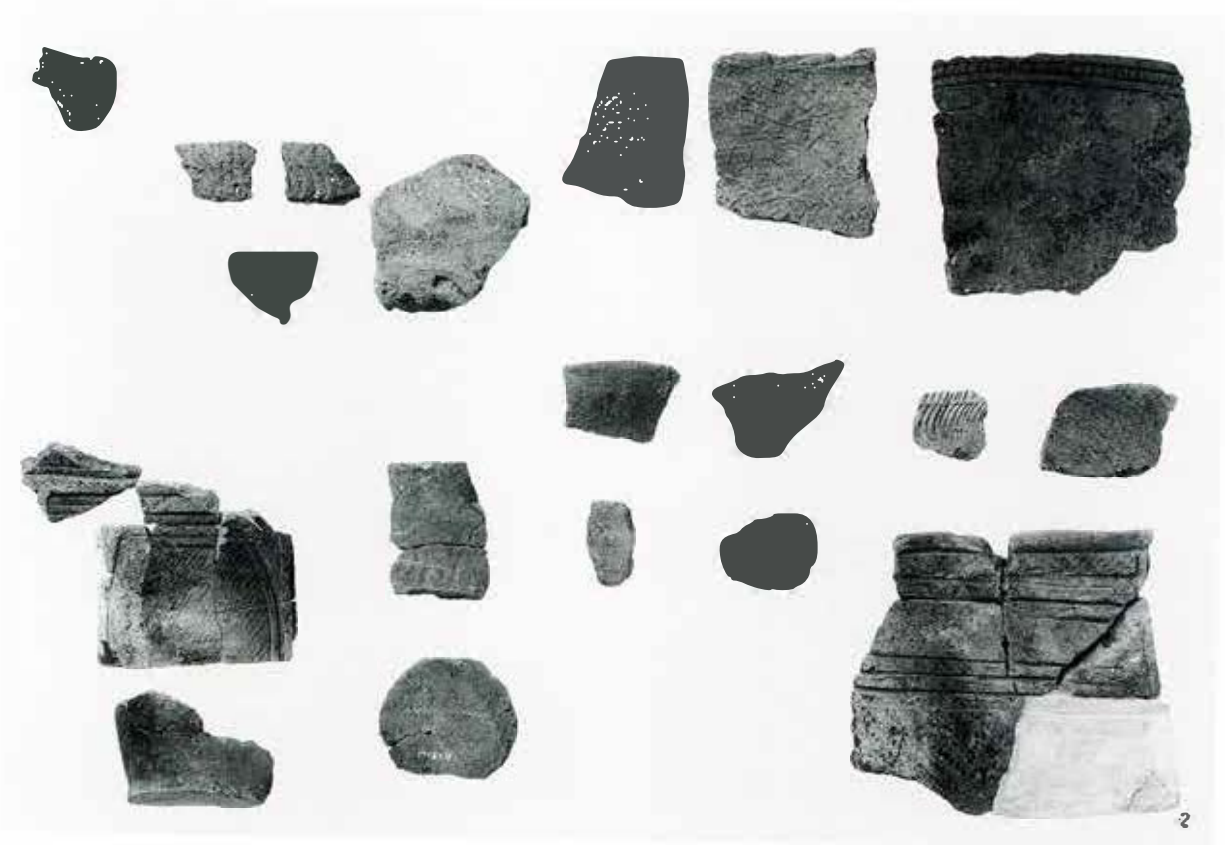
1、2　遺物包含層出土の縄文土器（鉢）



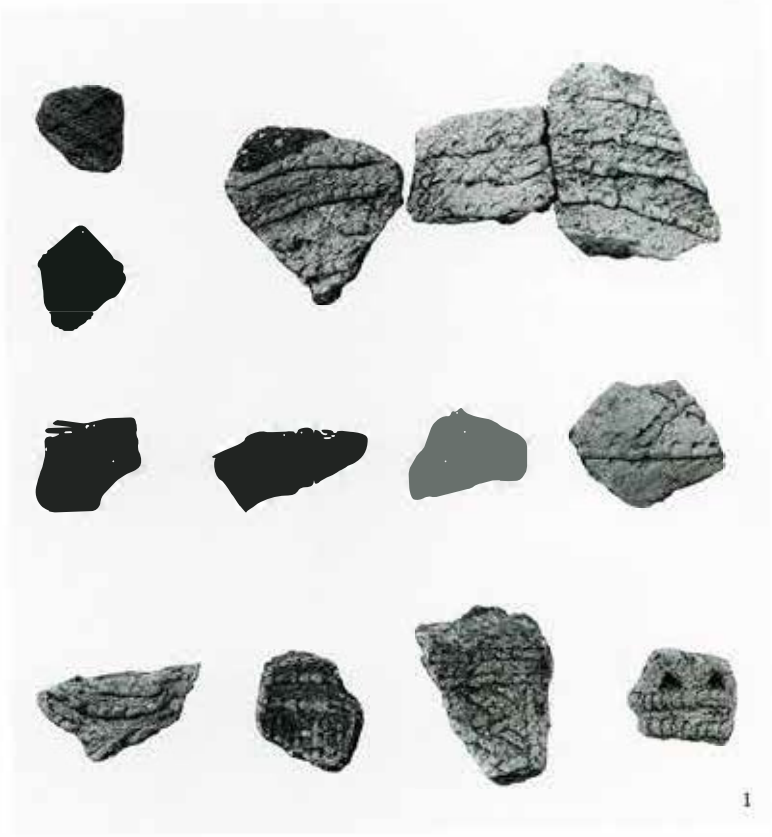
1．2号住居跡・3号住居跡出土の縄文土器　　2．3　SK25出土の縄文土器（2方向より）

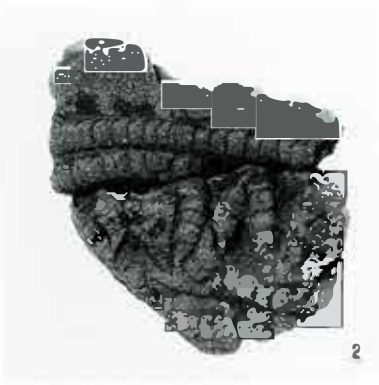
図版7

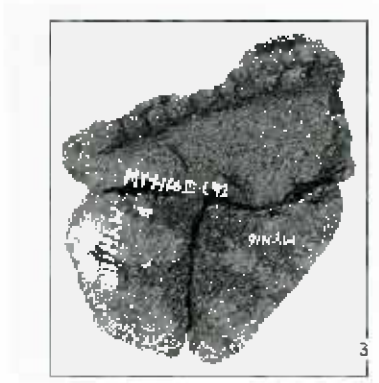


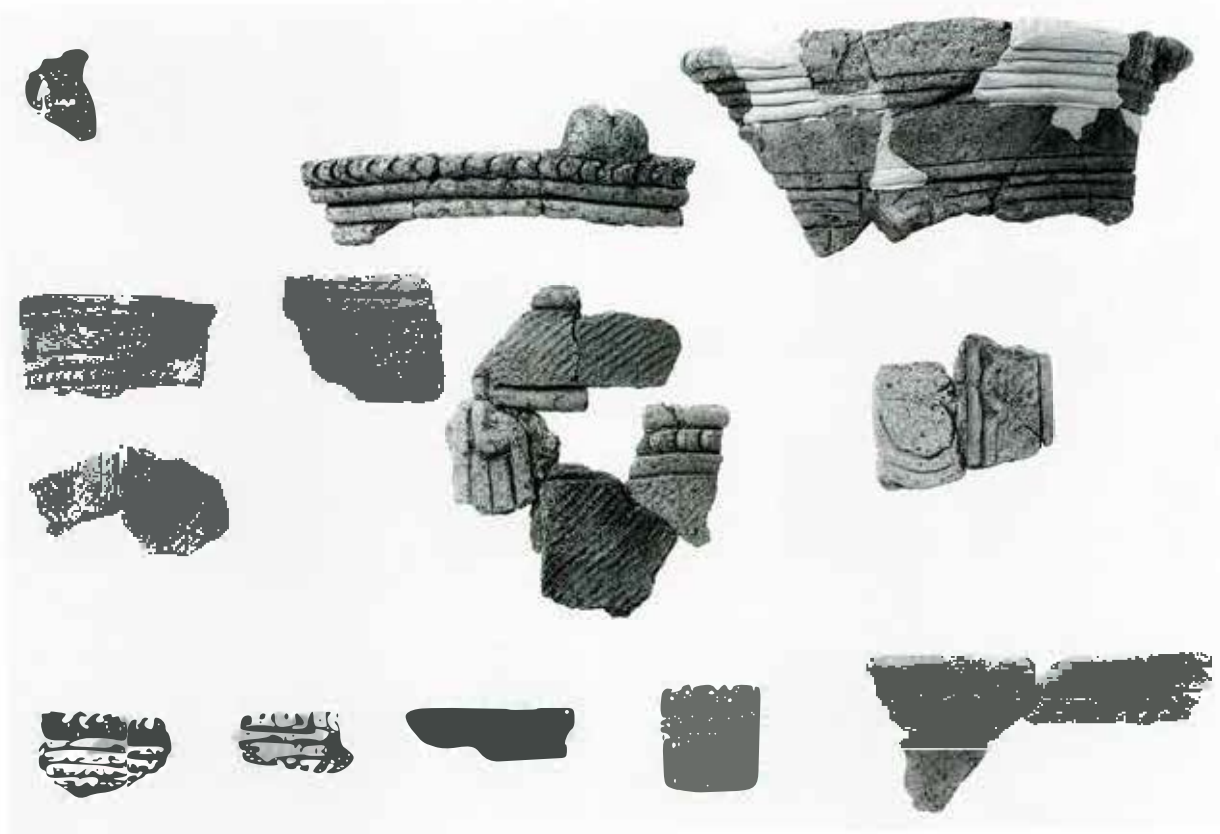


1，2　土坑出土の縄文土器









1．遺物包含層出土の縄文土器Ⅱ群1類　　2．3　遺物包含層出土の縄文土器Ⅱ群1類（2表、3裏）
4．　　〃　　Ⅱ群2類

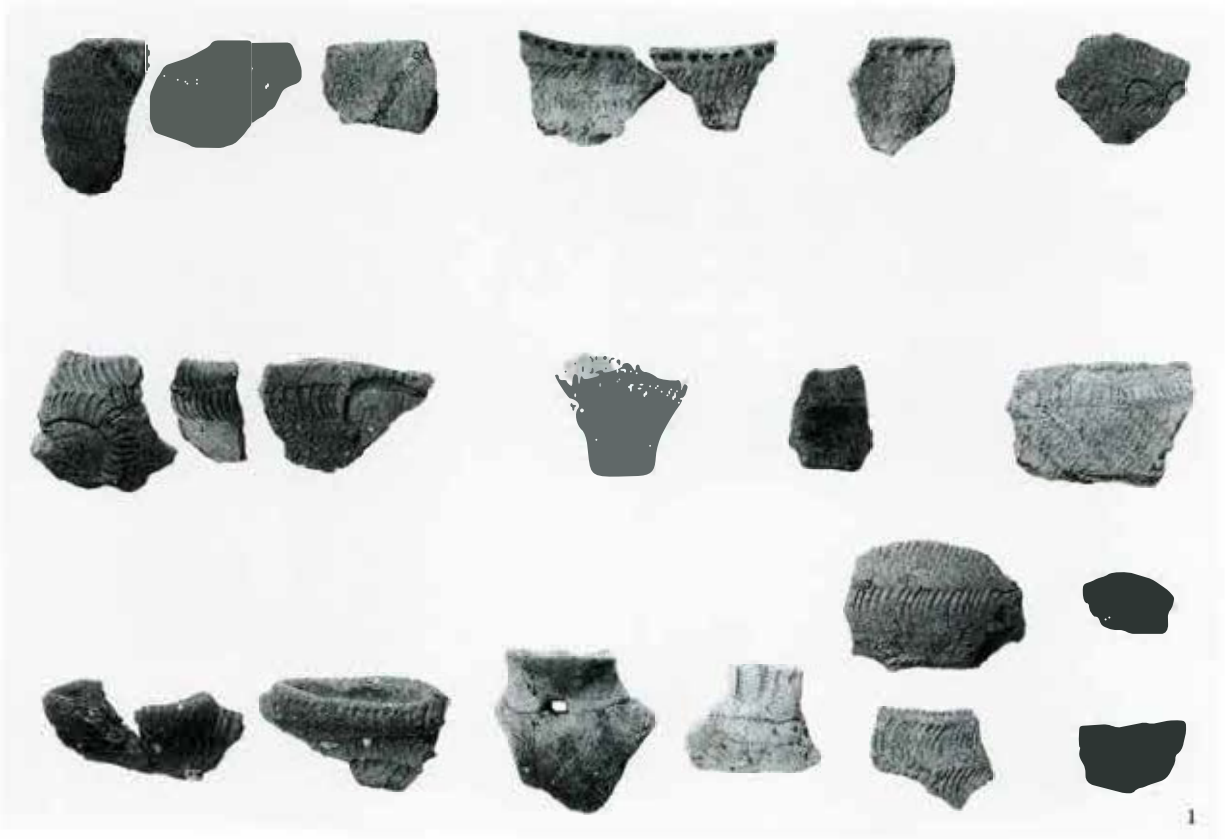
図版9

1．2　遺物包含層出土の縄文土器II群2類

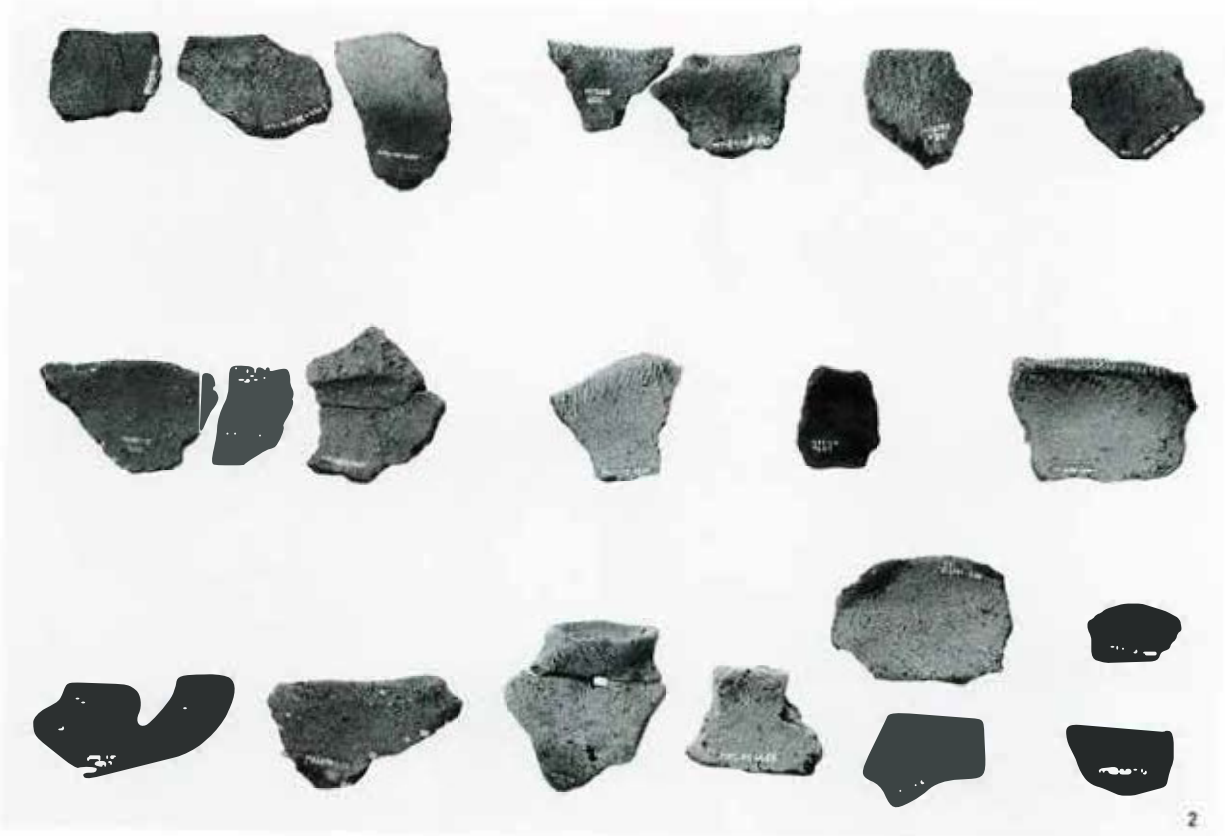
1、2　遺物包含層出土の縄文土器11群2類

図版11

1．遺物包含層出土の縄文土器II群2類　　2．遺物包含層出土の縄文土器II群3類
3、4　　〃　　II群3類（3表、4裏）



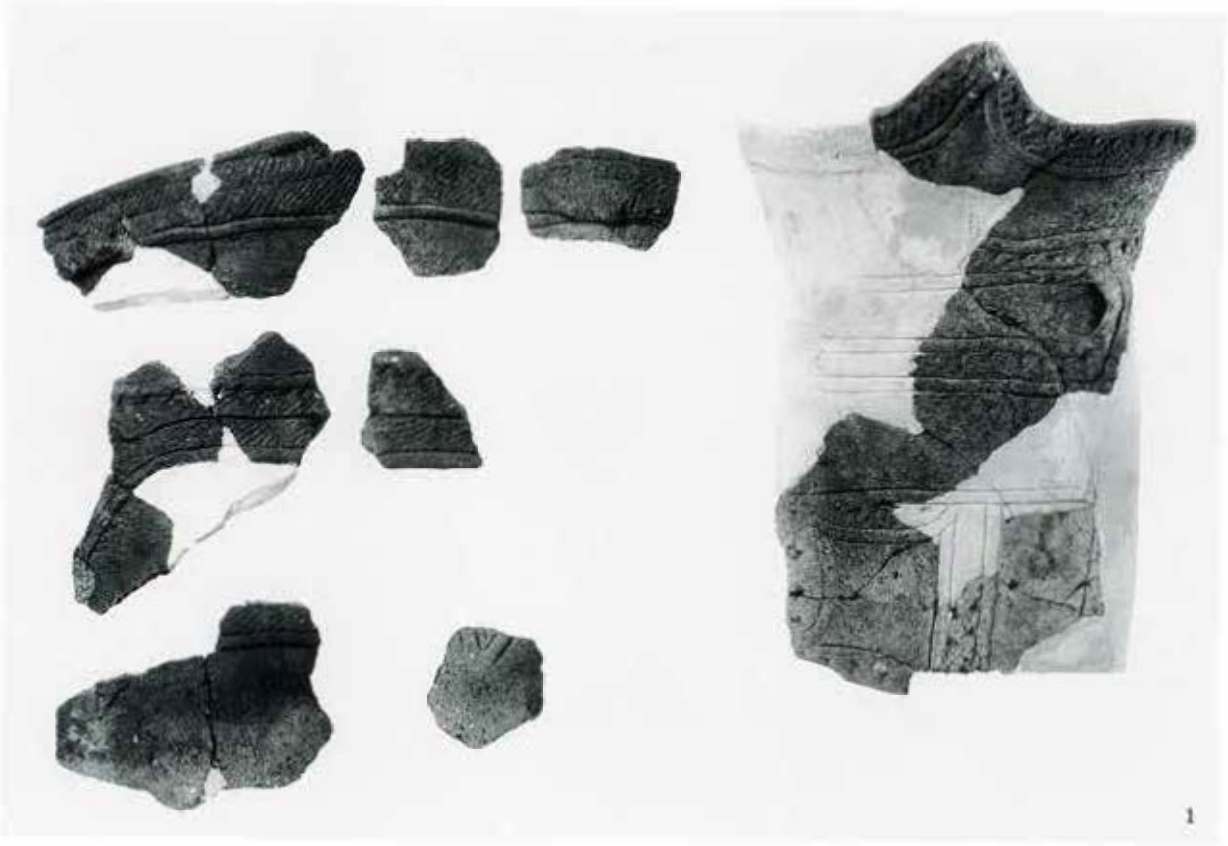
1

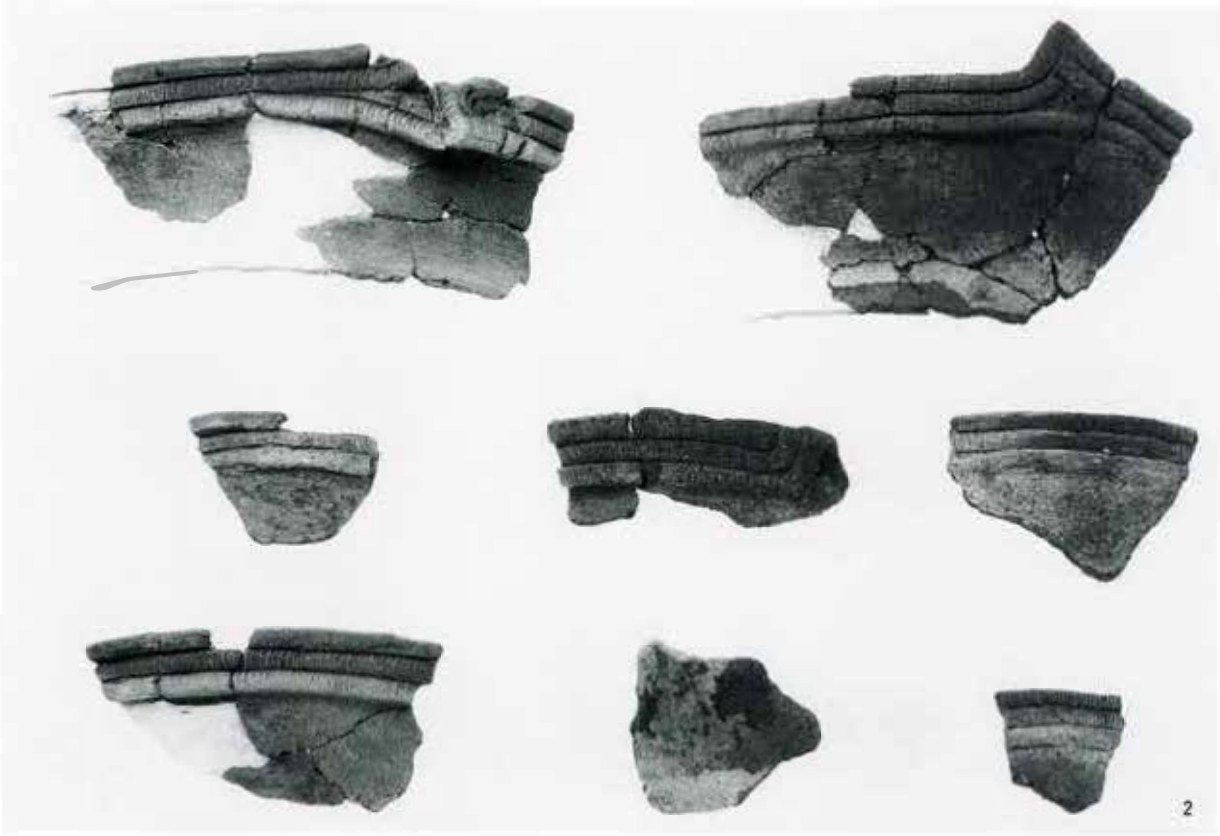


2

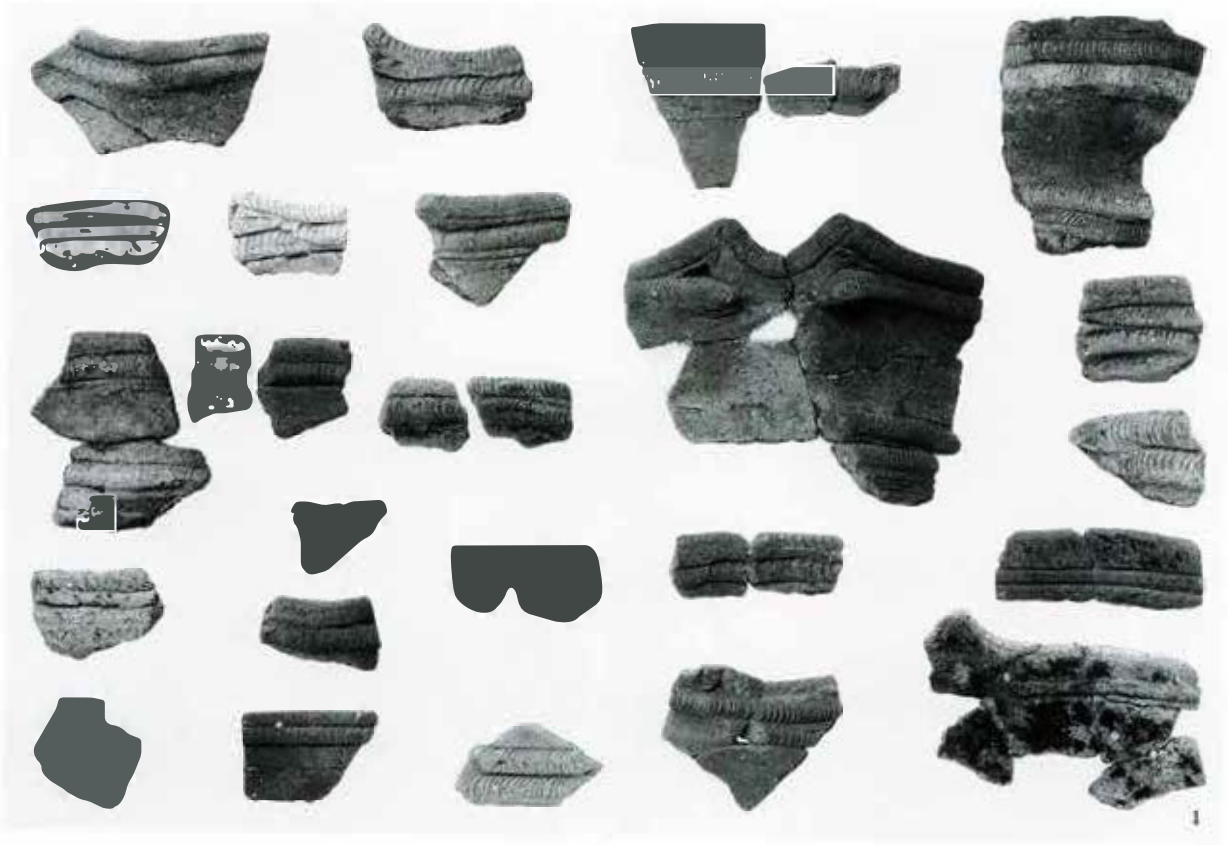
1．2　遺物包含層出土の縄文土器II群3類（1表、2裏）

図版13



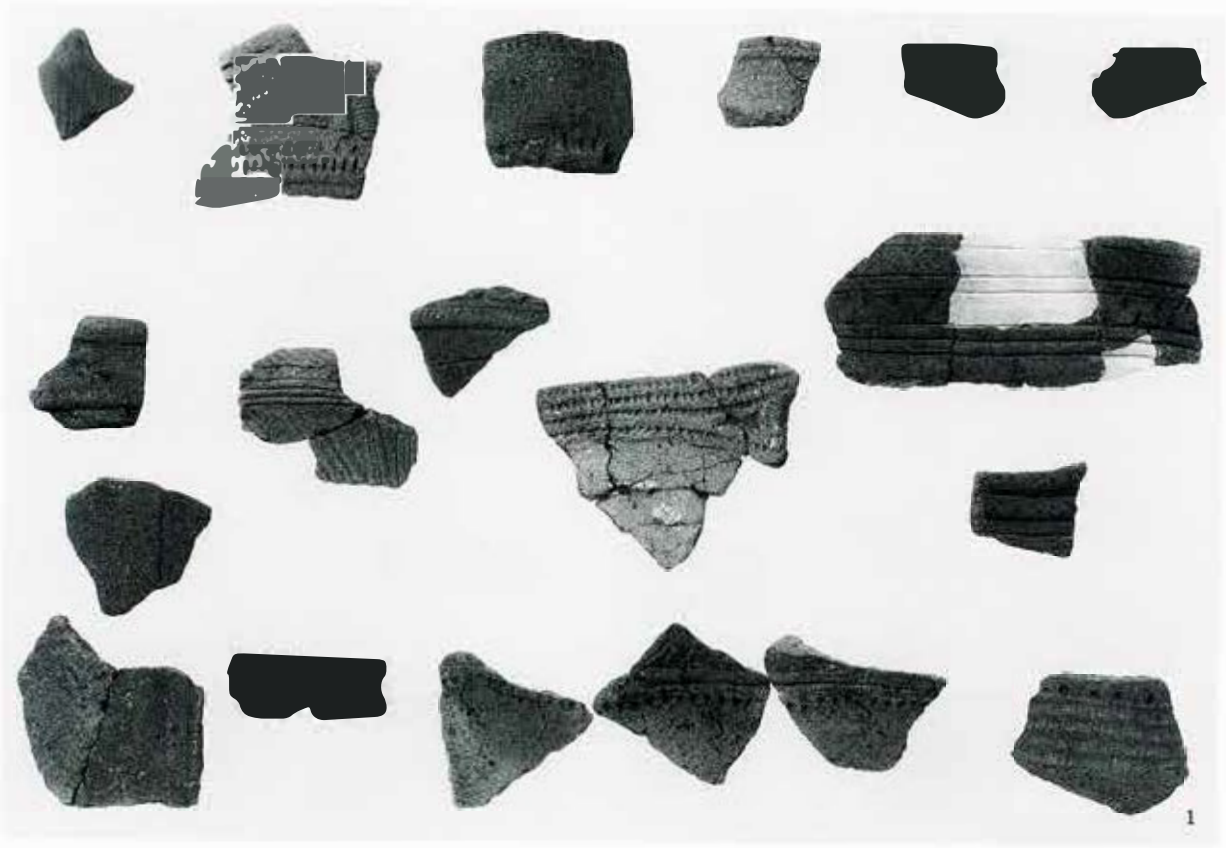


1．2　遺物包含層出土の縄文土器川群4類



1．2　遺物包含層出土の縄文土器II群4類

図版15



1，2　遺物包含層出土の縄文土器11群5類

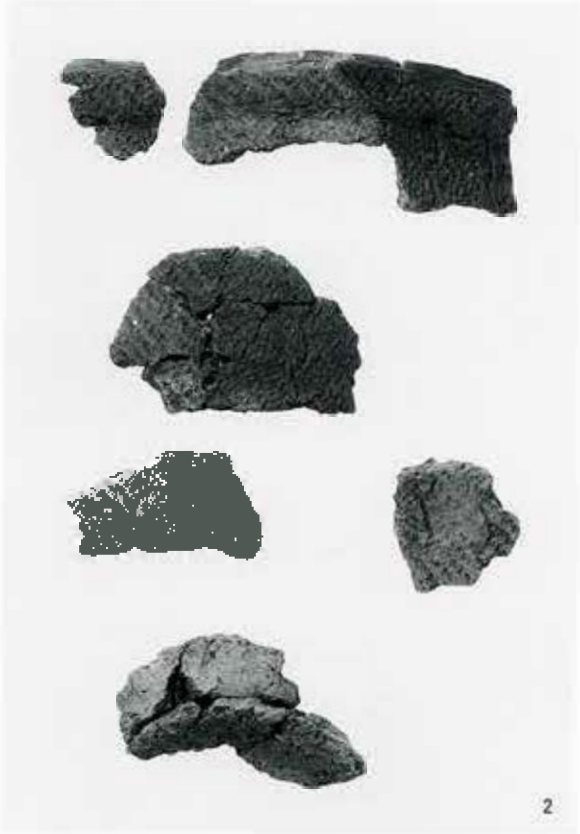
1

2

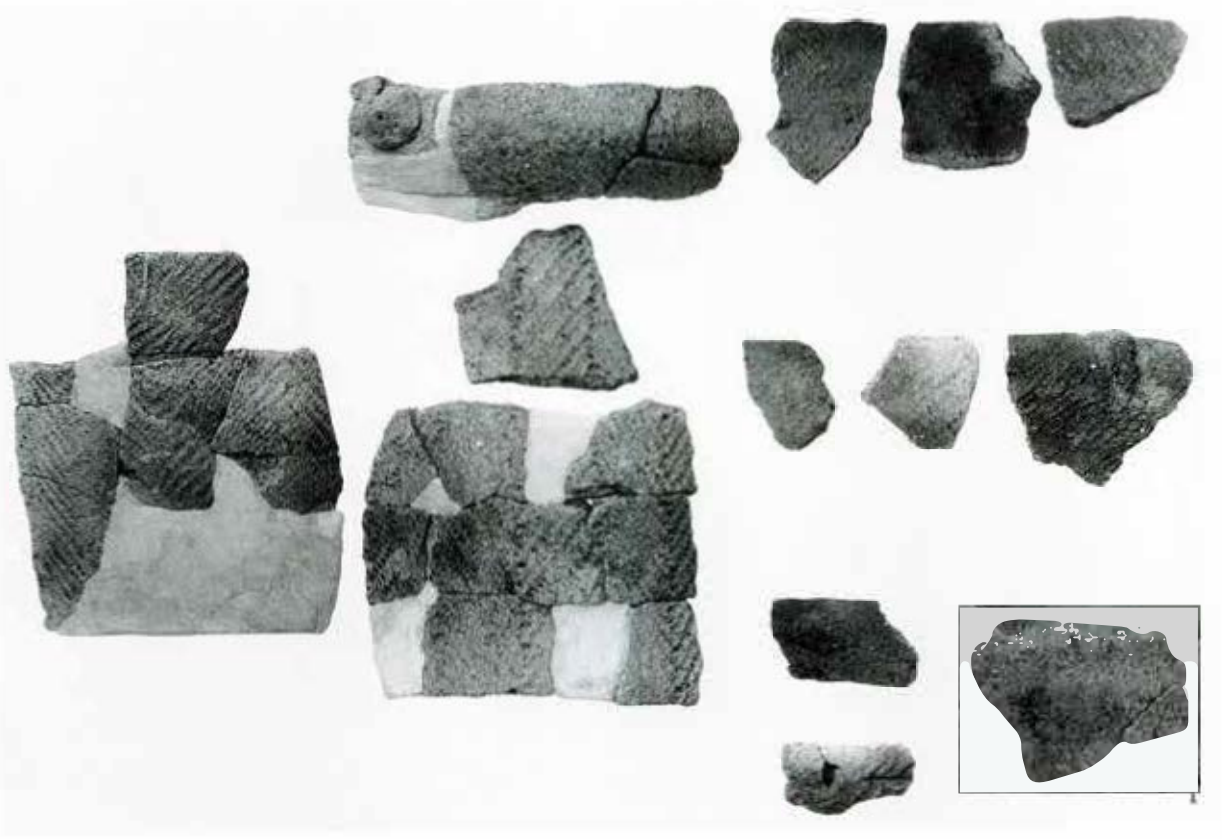
3

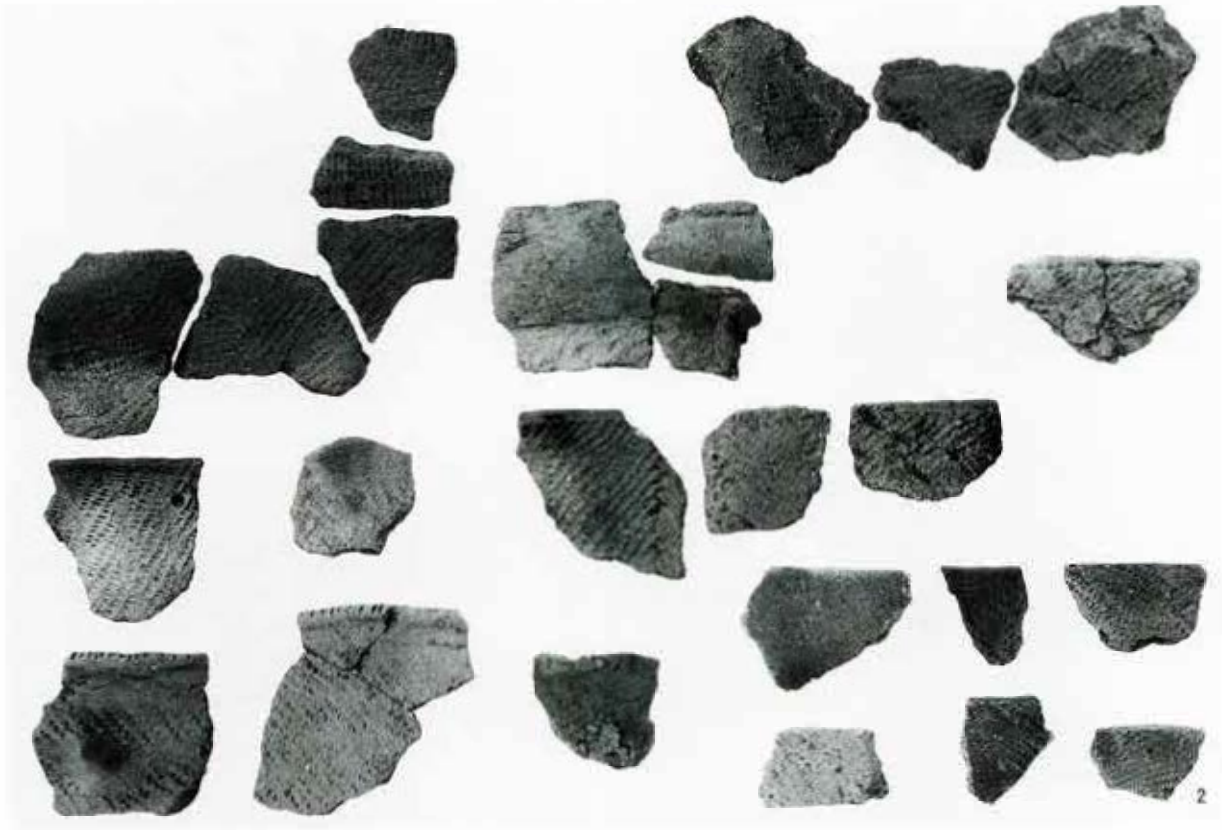
1．2　遺物包含層出土の縄文土器11群5類　　3．遺物包含層出土の縄文土器口群6類

図版17



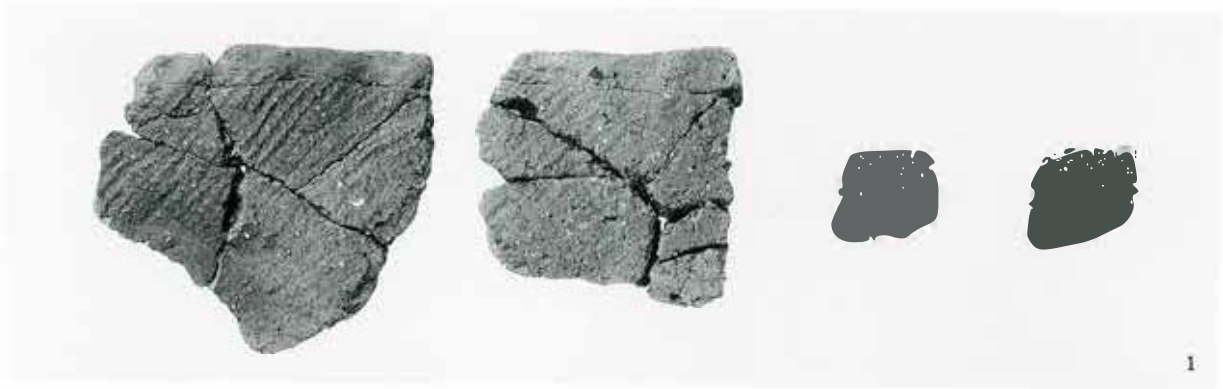
1，2，3　遺物包含層出土の縄文土器II群6類

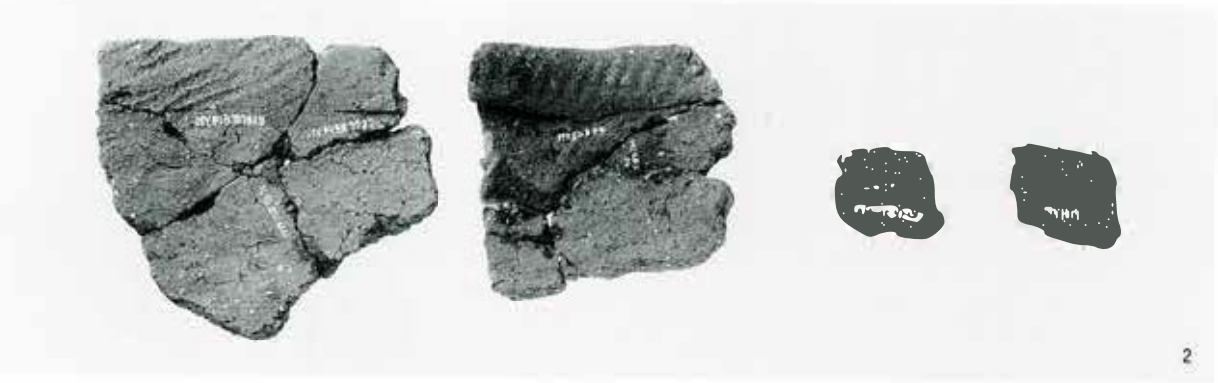


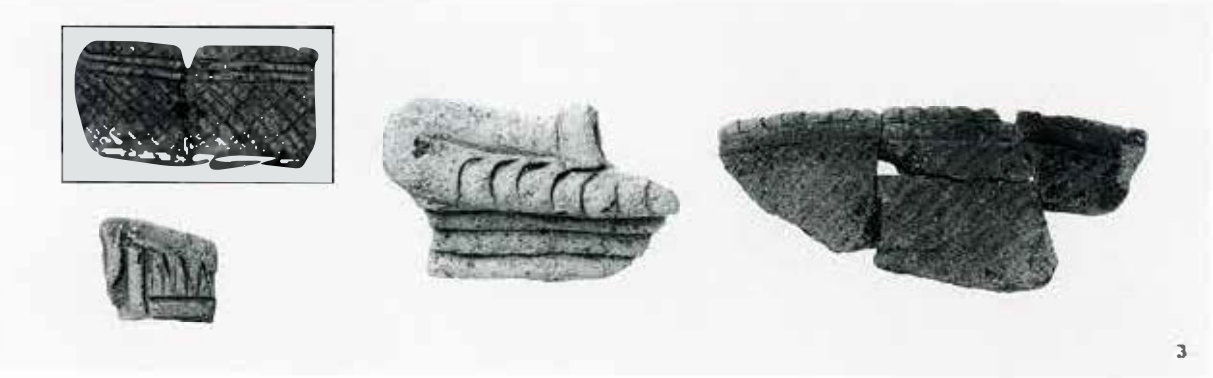


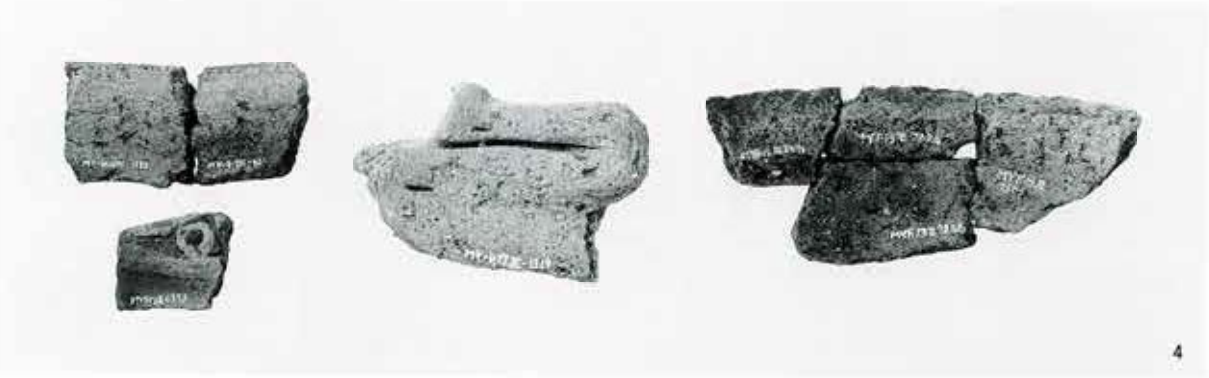
1、2　遺物包含層出土の縄文土器II群6類

図版19

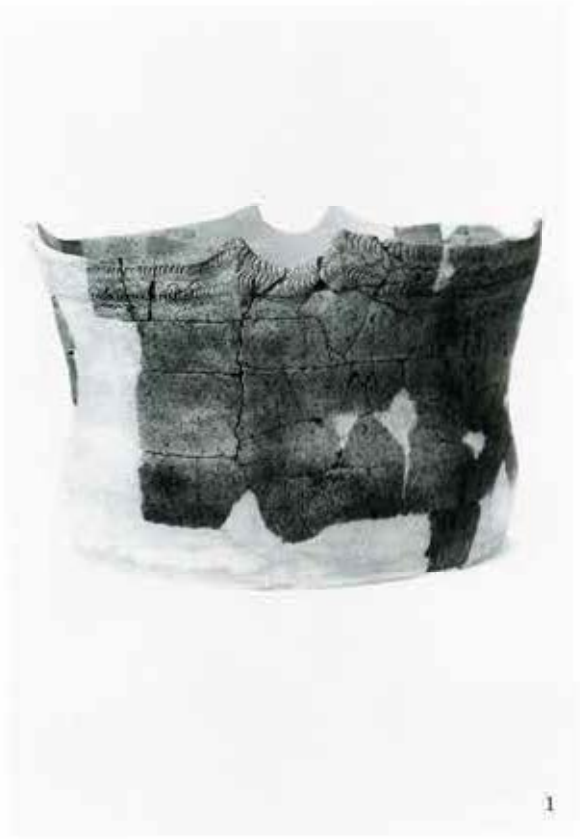




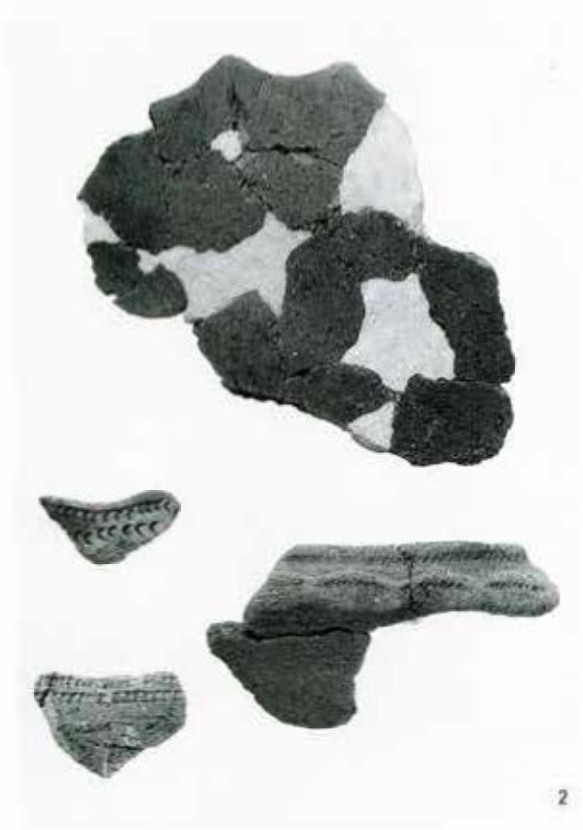




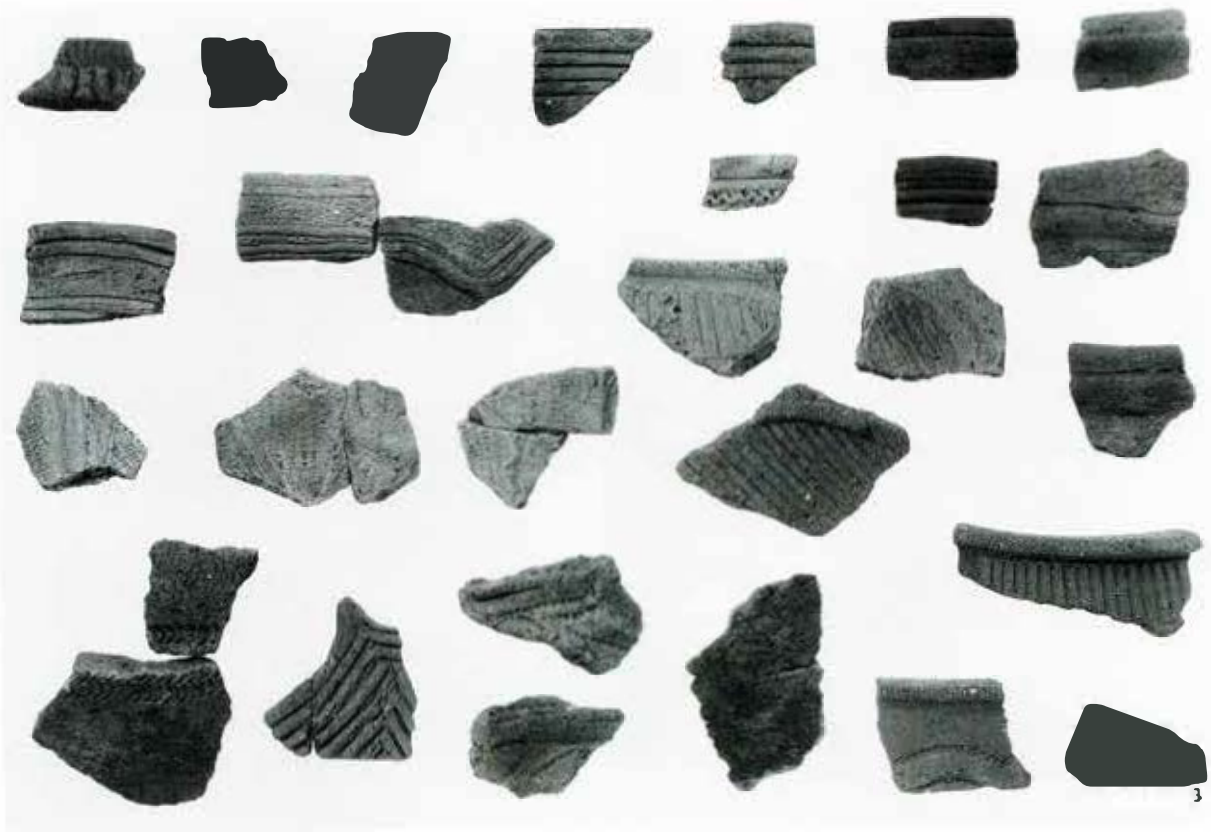
1．2　遺物包含層出土の縄文土器II群6類（1表、2裏）　3．4　遺物包含層出土の縄文土器（3表、4裏）



1



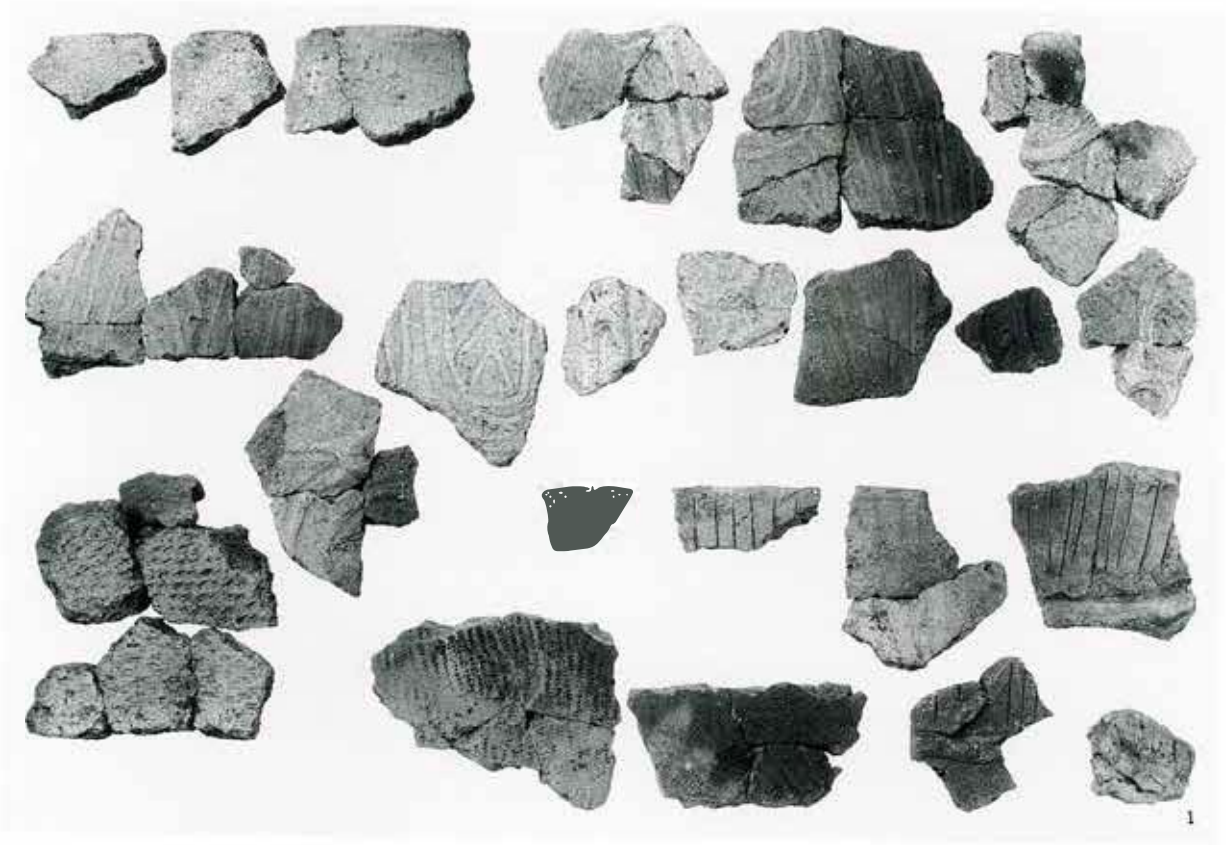
2

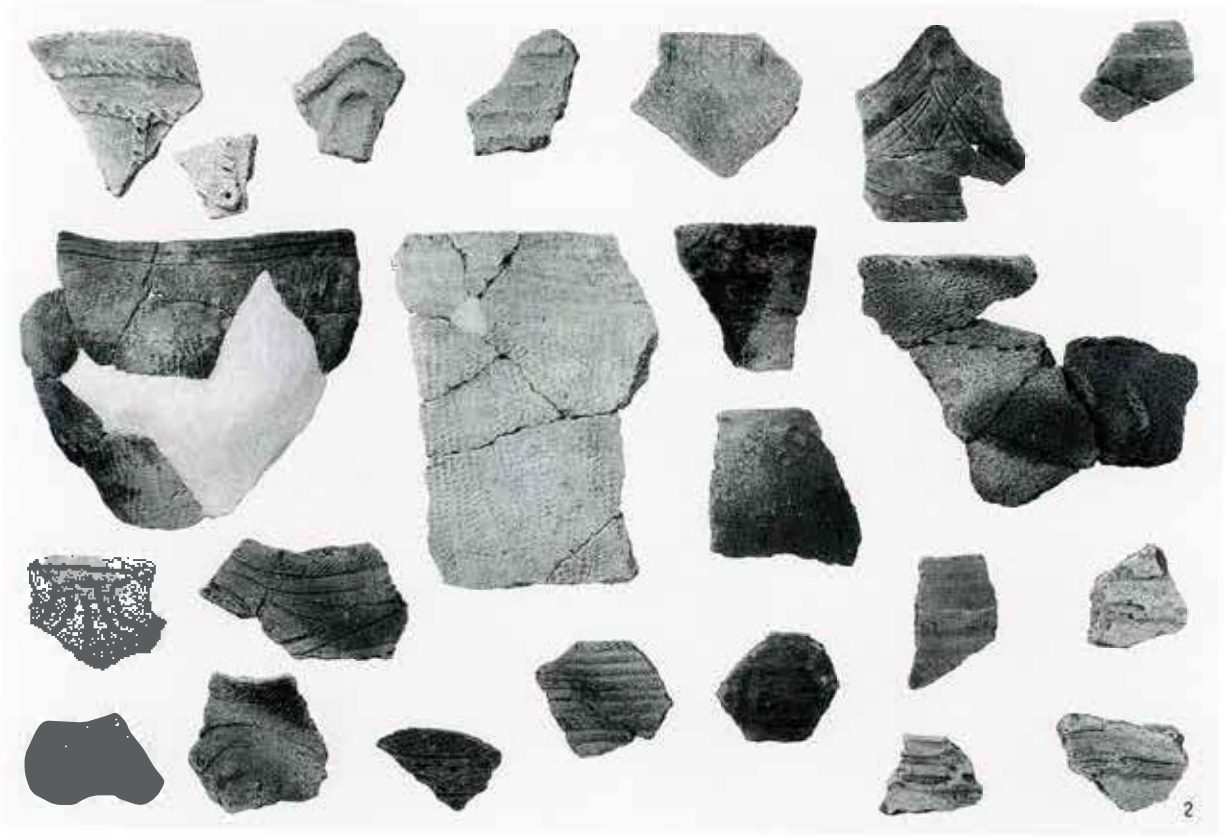


3

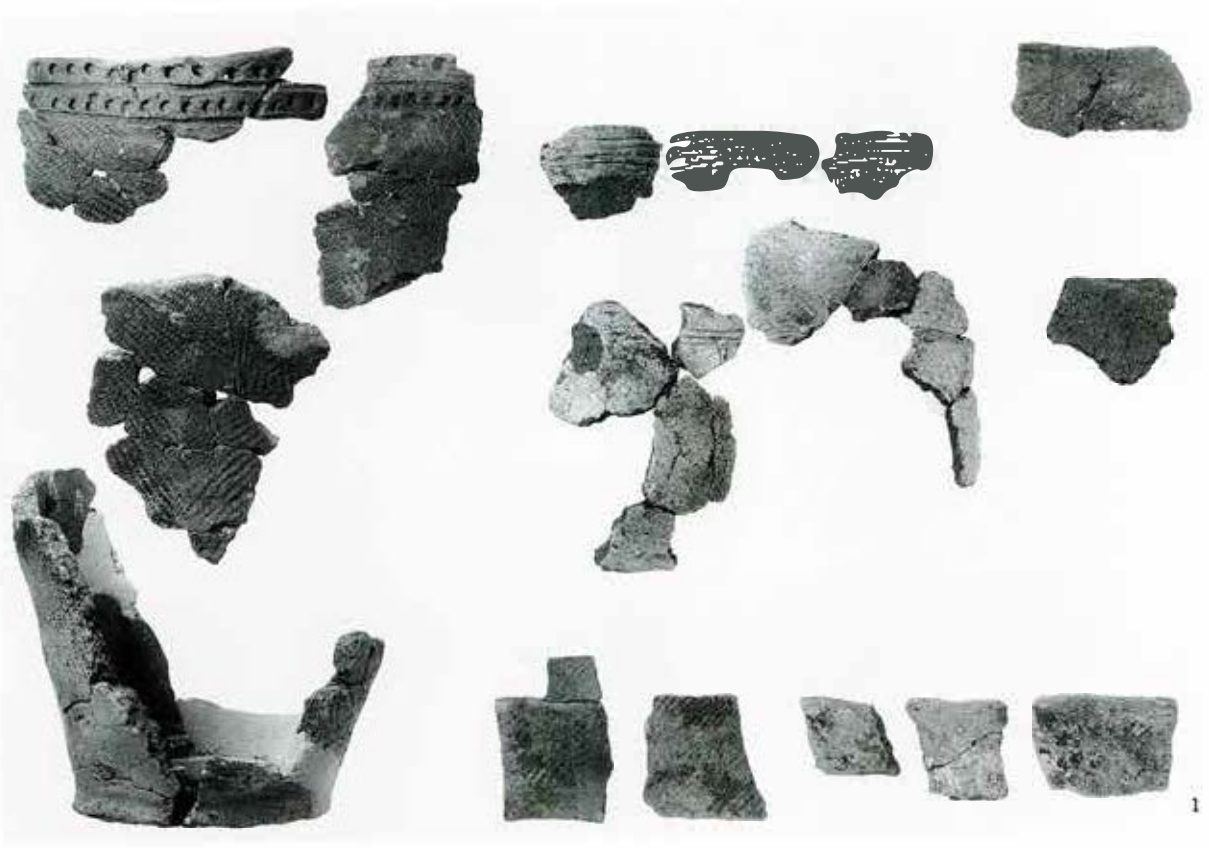
1、2、3　遺物包含層出土の縄文土器（第3・7類）

図版21





1．遺物包含層出土の縄文土器II群
2．　　〃　　III群



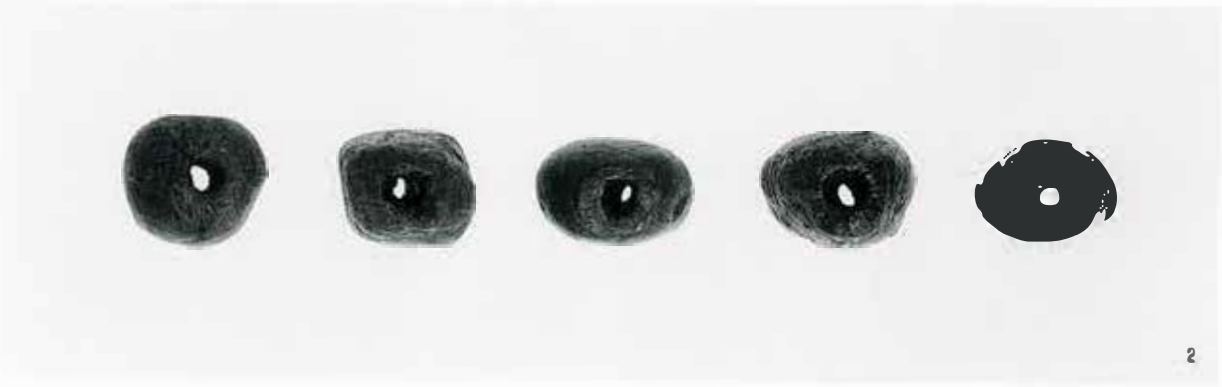
1

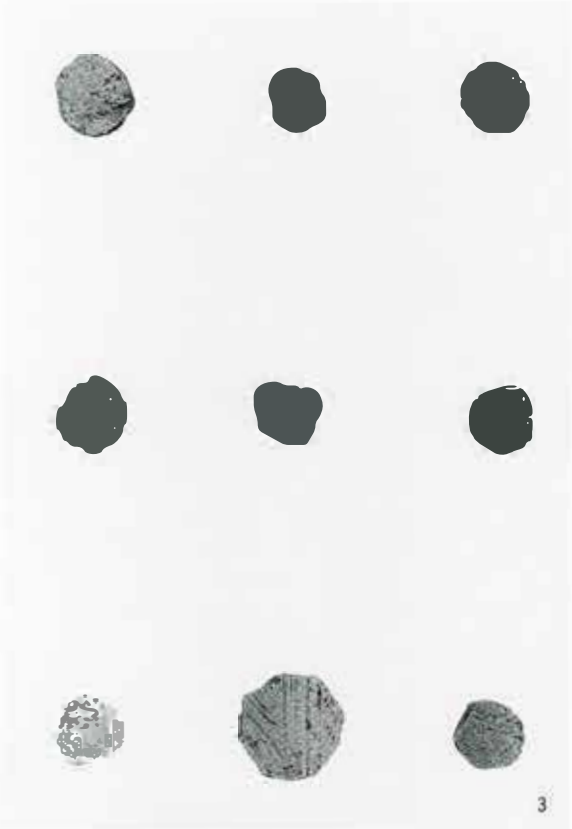
2

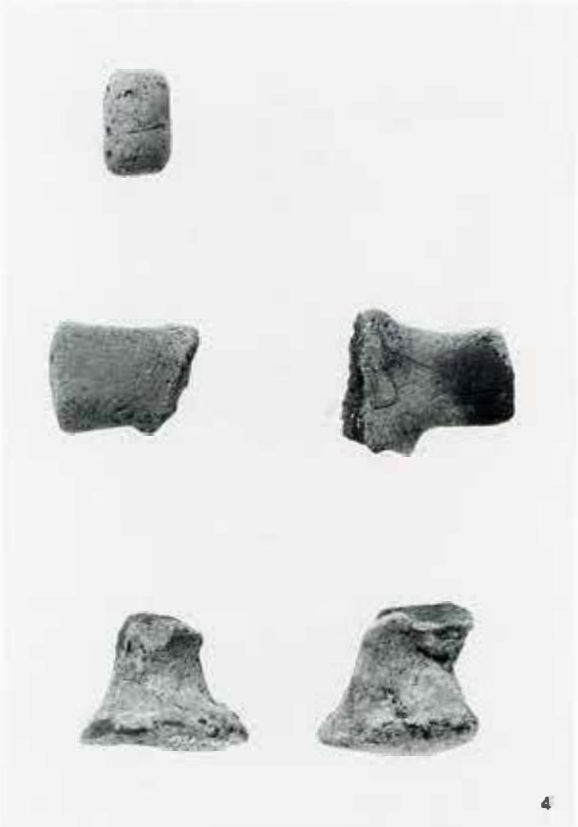
3

2．遺物包含層出土の縄文土器Ⅲ群　　1．3　遺物包含層出土の縄文土器Ⅳ群

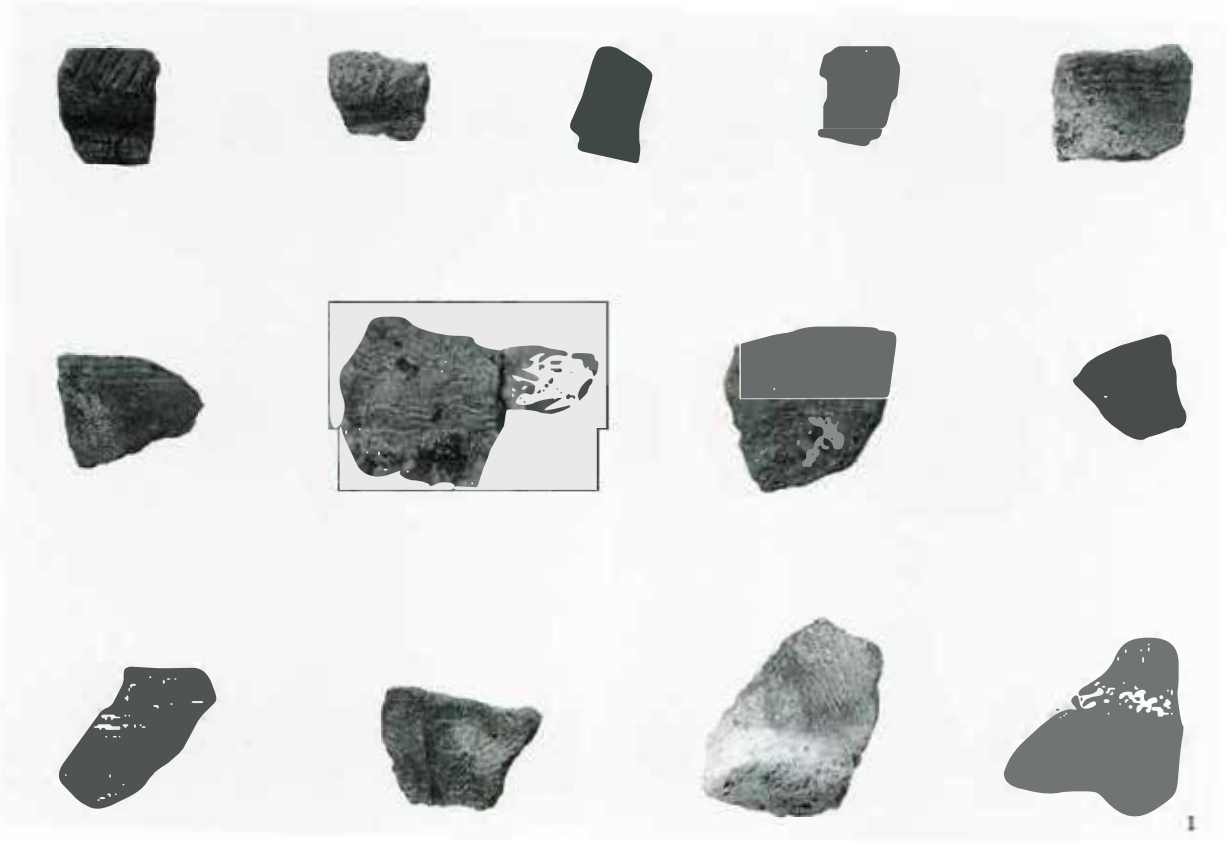
図版23



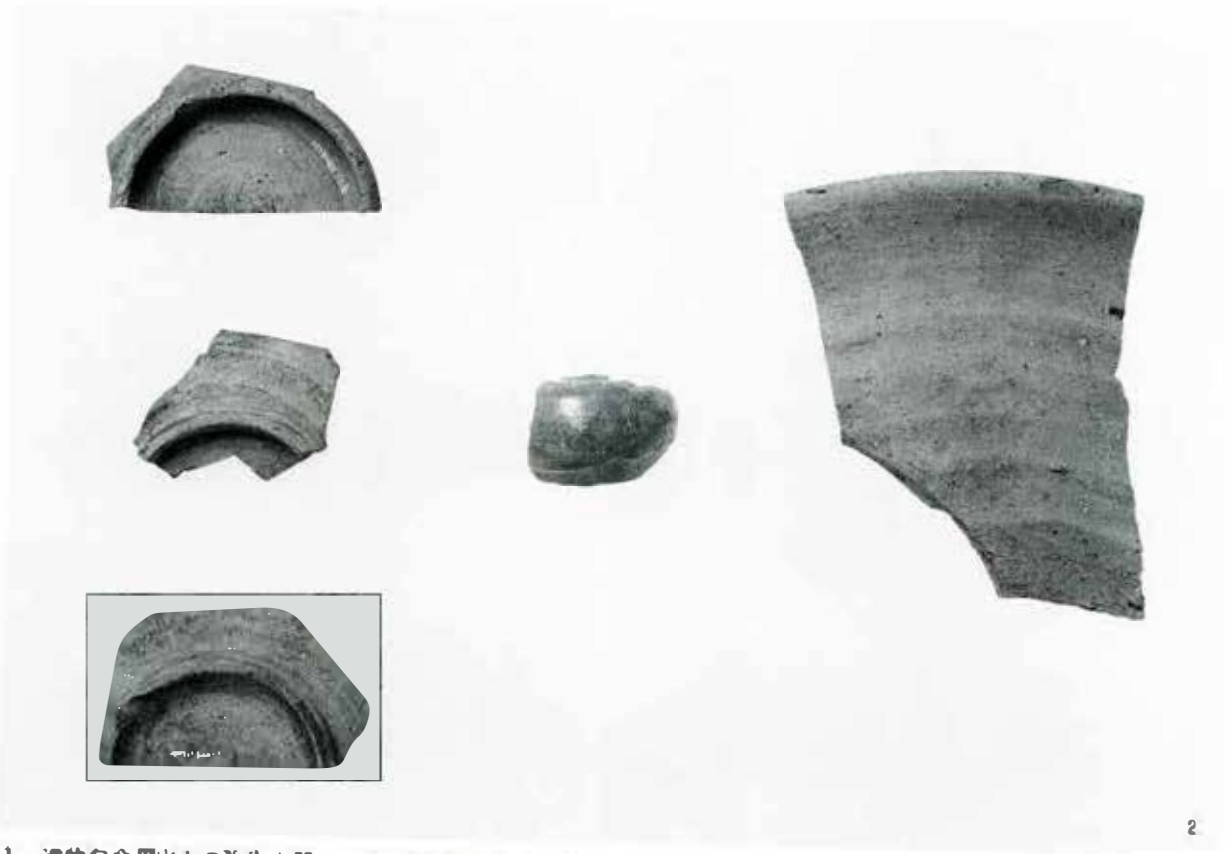




1．2　SK22出土の琥珀玉製品　　3．遺物包含層出土の土製品（土器片利用の円盤）
4．遺物包含層出土の土製品・土偶



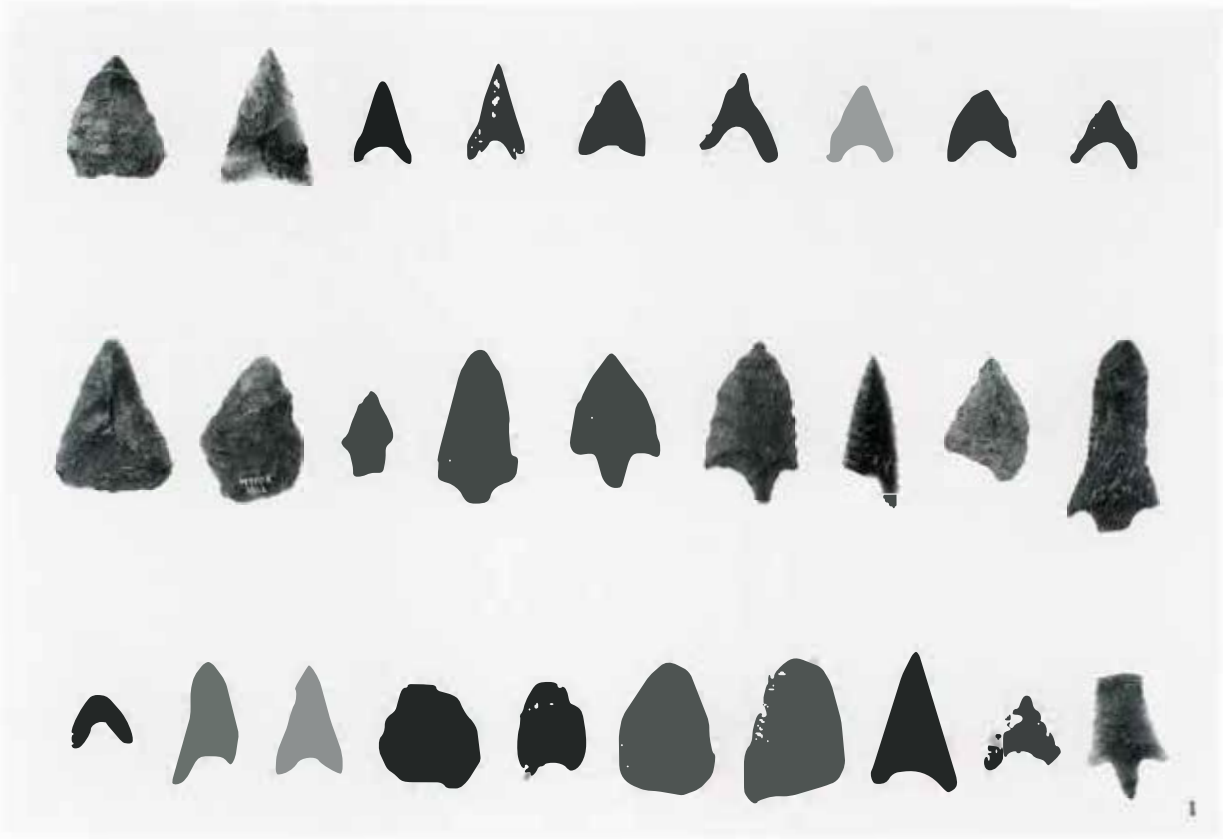
1

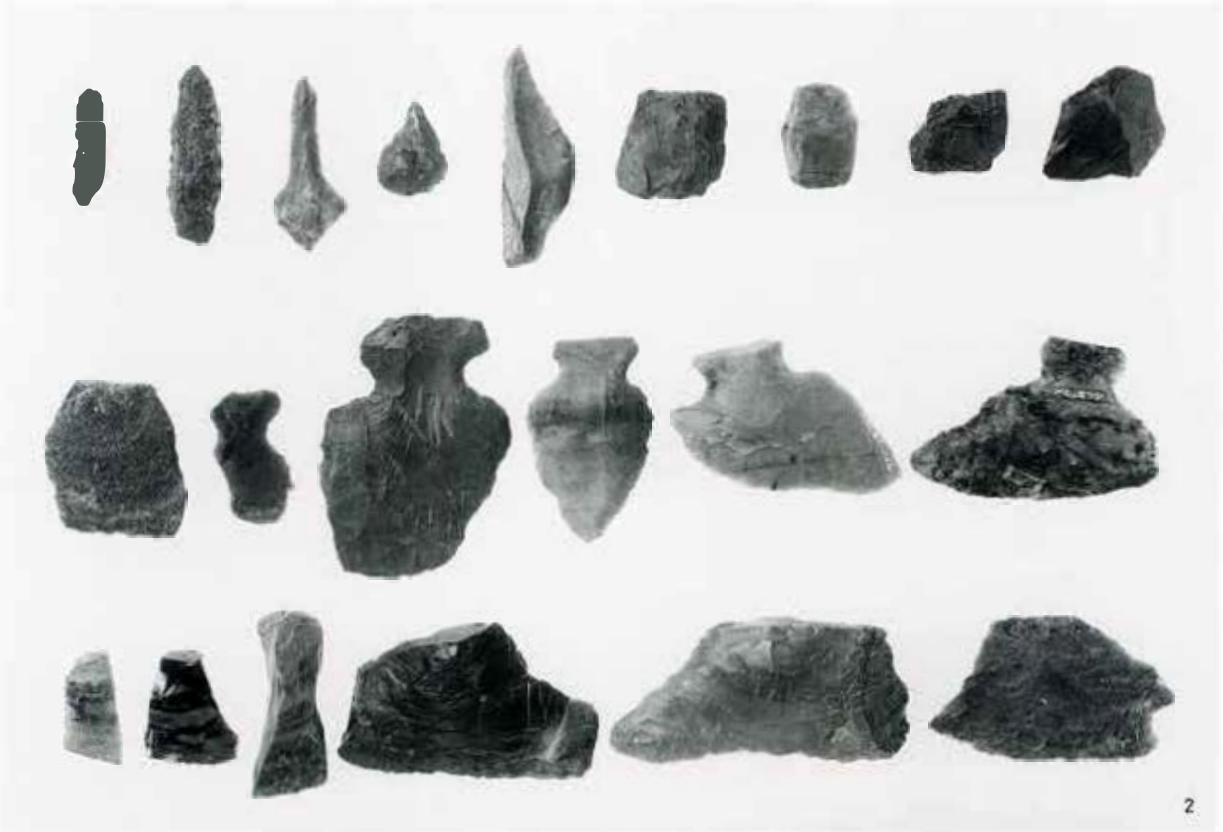


2

1．遺物包含層出土の弥生土器　2．遺物包含層出土の中近世陶器類

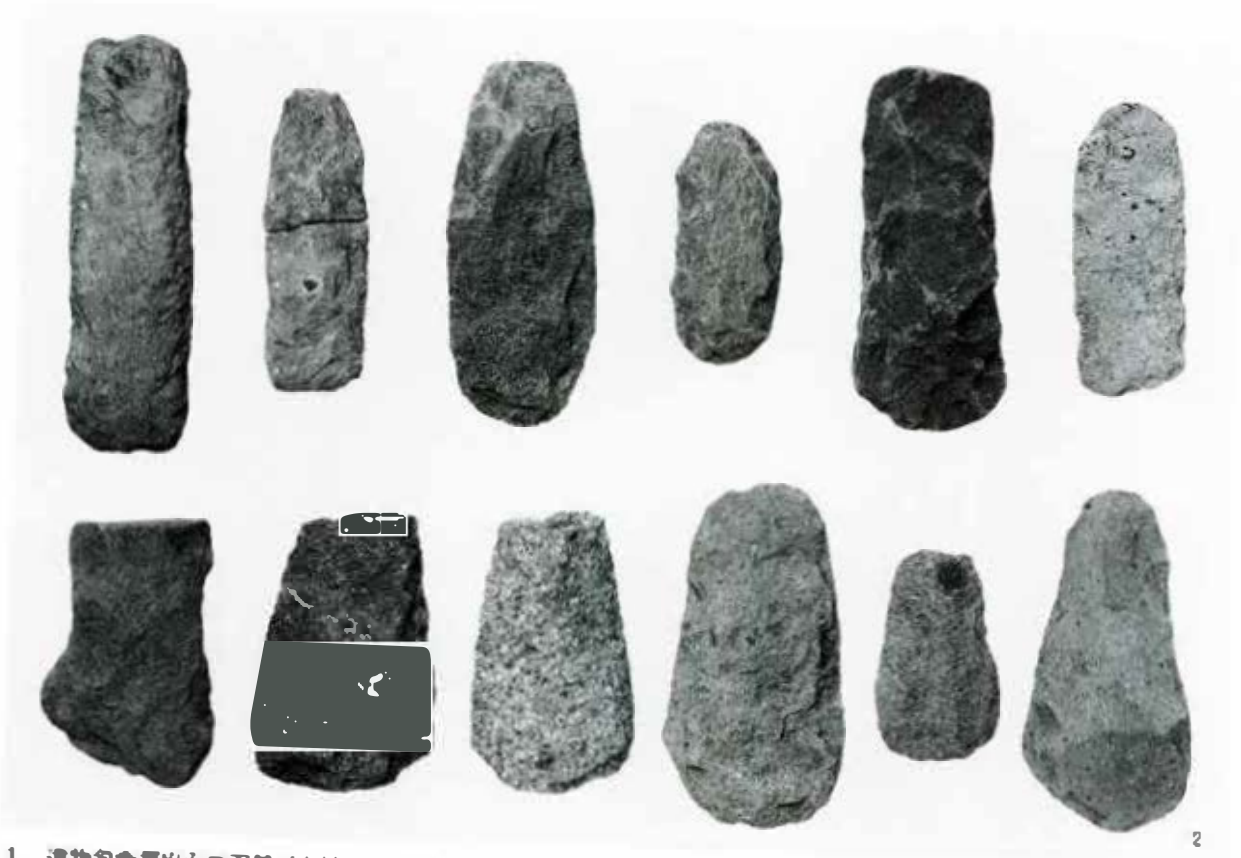
図版25





1．遺物包含層出土の石器（石鏃）　2．遺物包含層出土の石器（石錐・両種石器・挟入石器・石匙・ヘラ形石器・削器）

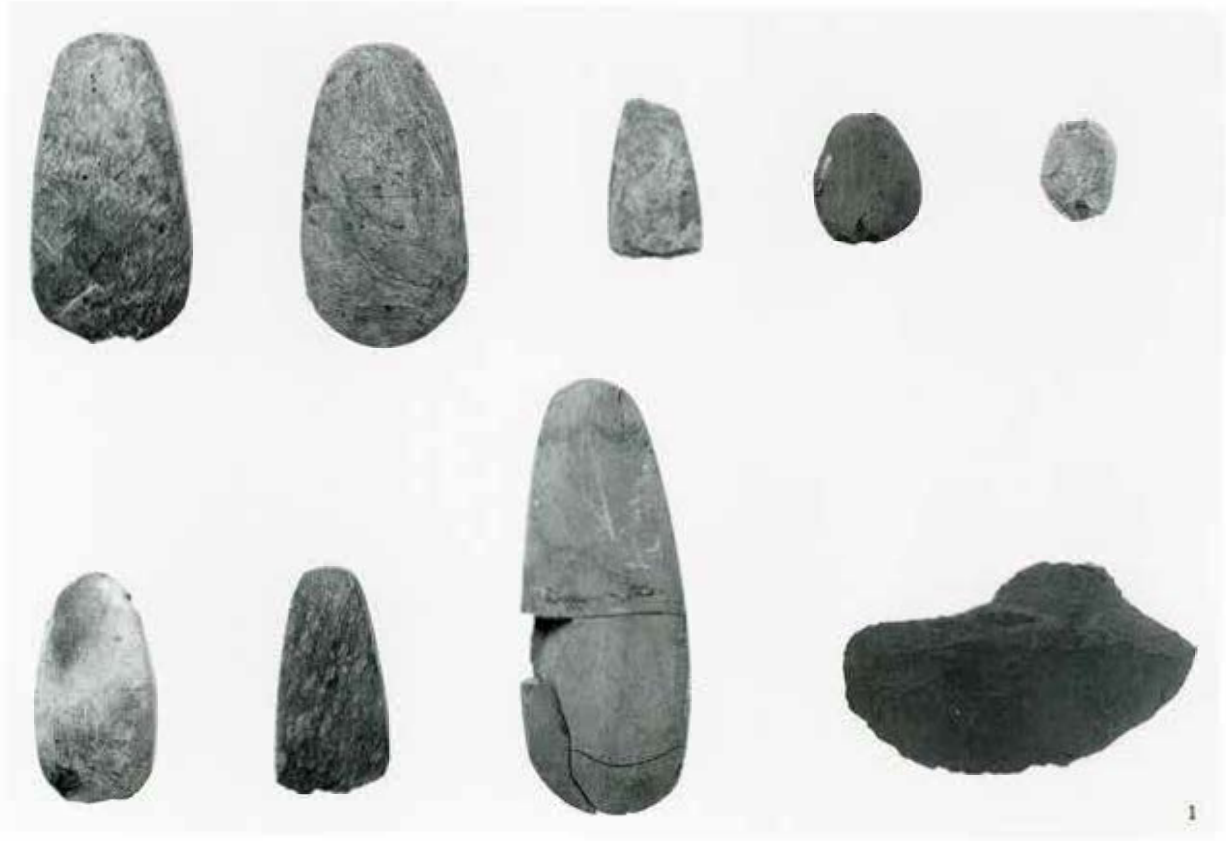
1

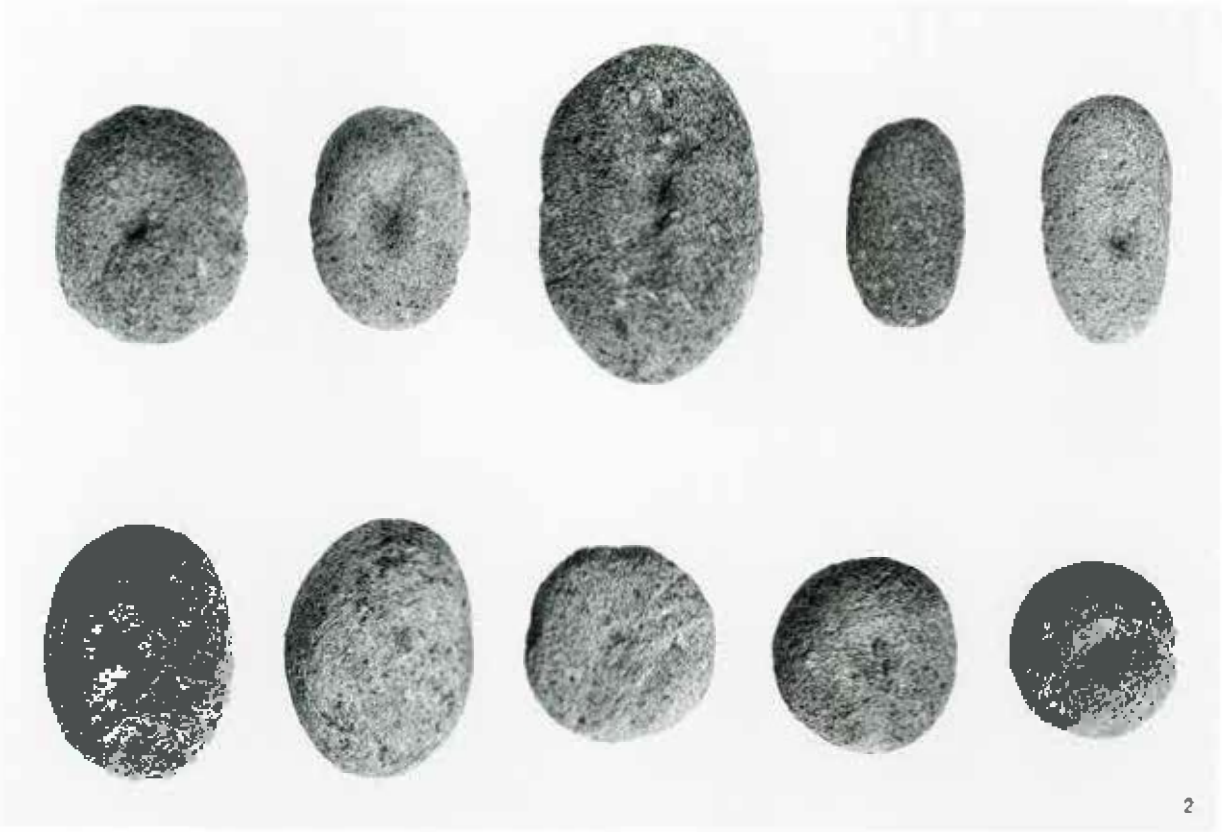


2

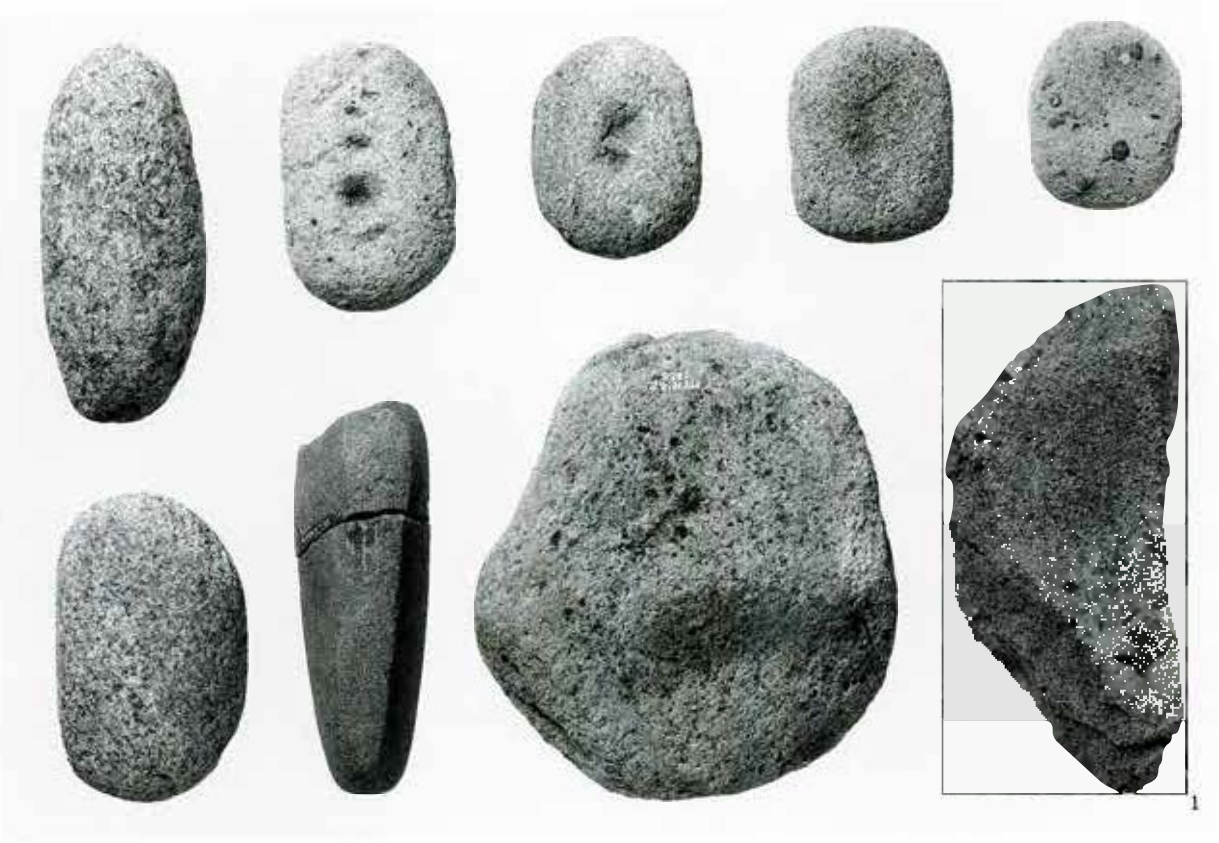
1. 遺物包含層出土の石器（有溝石製品・掻器・UF・RF・コア）
2. 〃　（打製石斧）

図版27



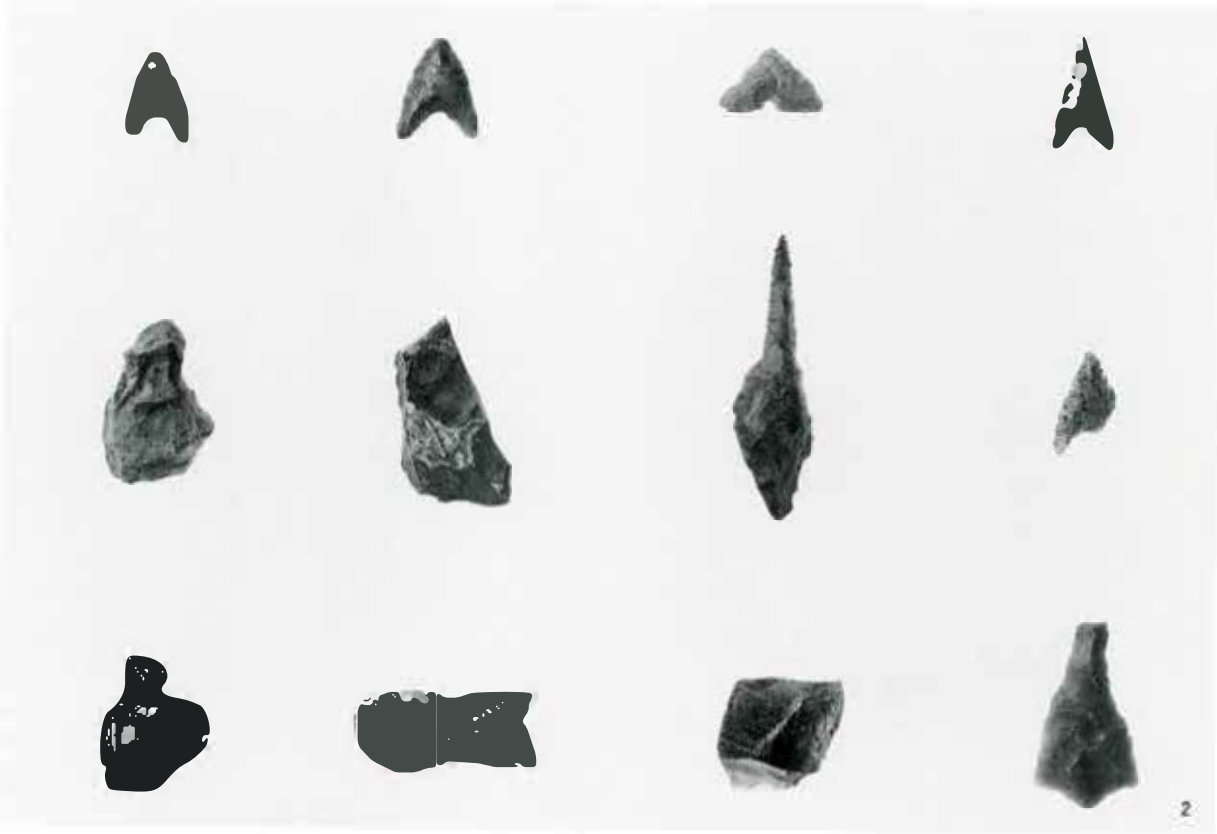


1．遺物包含層出土の石器（磨製石斧・石鏃・横刃型石器）
2．　　〃　　（磨石・凹石）



1. 遺物包含層出土の石器（凹石・石皿）
2.　　〃　　（石皿）

図版29



1．遺物包含層出土の石器（石皿）　2．遺構出土の石器

報告書抄録

ふりがな	まるやまいせき
書名	丸山遺跡
副書名	丹生川ダム水没地区（五味原遺跡群）埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	第4集
シリーズ名	岐阜県文化財保護センター調査報告書
シリーズ番号	第45集
編著者名	伊藤秀雄　上出巳吉　谷口和人　野村宗作　藤田英博　岩田　修 吉田奈緒子　中野益男　中野寛子　長田正宏　横田直見
編集機関	財団法人岐阜県文化財保護センター
所在地	〒500-8708　岐阜県岐阜市司町1（岐阜総合庁舎内）TEL 058-(264)-1111(814)
発行年月日	西暦1998年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在名	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間 調査面積	調査原因
まるやまいせき 丸山遺跡	ぎふけんおおのぐん 岐阜県大野郡 にゅうかわむらにゅうかわ 丹生川村丹生川	21601	08761	36° 12′ 57″	137° 22′ 38″	19960430 ～ 19961112 2,500m²	丹生川ダム建設事業に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
丸山遺跡	集落	縄文	竪穴住居跡3軒 土坑群	縄文土器 石器 琥珀玉製品	縄文時代中期初頭のまとまった土器群が出土した。 墓と推定される土坑から琥珀玉製品が出土した。

岐阜県文化財保護センター調査報告書　第45集

丸　山　遺　跡

丹生川ダム水没地区（五味原遺跡群）
埋蔵文化財発掘調査報告書　第4集

1998年3月25日　印刷
1998年3月31日　刊行

編集・発行　財団法人 岐阜県文化財保護センター
岐阜県岐阜市司町1（岐阜総合庁舎内）
印　　刷　西濃印刷株式会社